

事業報告書

2019年度

(2019年4月1日～2020年3月31日)

学校法人 慈恵大学

目 次

以下の各目次をクリックすると、該当ページへ移動することが可能です。

I. 学校法人慈恵大学	
1. 慈恵大学行動憲章	2
2. 慈恵大学行動規範	2
建学の精神・病院の理念・病院の基本方針	3
3. 慈恵大学の沿革	4
4. 設置する学校・学部・学科等	4
5. 2019年度事業報告	5
1) 事業概要	5
事業計画に対する実施結果一覧	7
3年間の目標値および実績値	34
2) 主な建設工事	37
6. 2019年度決算	40
7. 関連当事者との取引状況	47
8. 学校法人慈恵大学の体制	49
1) 学校法人慈恵大学	49
2) 東京慈恵会医科大学	49
3) 看護専門学校	49
9. 組 織 図	50
10. 理 事 会	51
11. 評 議 員 会	56
12. 監 査 室	56
II. 東京慈恵会医科大学	
1. 教授、その他の人事	60
1) 2019年3月31日退任教授	60
2) 新任教授	60
3) 客員教授	61
4) 特任教授	61
5) 臨床専任教授	62
6) 叙位・叙勲	62
7) 訃 報	62
2. 教職員数	63
1) 教員数（医学科・看護学科）	63
2) 研修医数	63
3) 職員数（看護師を含む）	63
4) 看護師数	63
3. 教 育	64
1) 医学部医学科学生数など	64
2) 医学部看護学科学生数など	64
3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）	65
4) 大学院学生数（看護学専攻博士前期課程）	65
5) 大学院学生数（看護学専攻博士後期課程）	65

6) 大学および大学院の現況	65
(1) 医学科	65
(2) 看護学科	69
(3) 大学院	71
7) 看護専門学校の状態	72
看護専門学校学生数	72
(1) 慈恵看護専門学校	72
(2) 慈恵第三看護専門学校	73
(3) 慈恵柏看護専門学校	74
8) 卒後臨床研修	75
9) 生涯学習センター	77
4. 研究	78
1) 教育研究助成委員会など	78
2) 総合医科学研究センター	79
5. 診療	81
1) 病院概況	81
(1) 本院	81
(2) 葛飾医療センター	87
(3) 第三病院	92
(4) 柏病院	97
(5) 総合健診・予防医学センター	100
(6) 病床数および外来患者数	101
2) 派遣・関連病院関係	101
(1) 大学協力病院	101
(2) 教室等関連病院	102
(3) 特殊派遣機関	104
(4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）	104
6. 学術情報センター	105
7. 教育センター	110
8. 臨床研究支援センター	114
9. その他	117
1) 成医会	117
2) 各種行事	118
3) 印刷物等の発行	118

[付]

1. 中期事業計画（2019年～2021年度）・2020年度事業計画	121
------------------------------------	-----

I . 学校法人慈惠大学

1. 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。

全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

2. 慈恵大学 行動規範

(目的)

第1条 慈恵大学（以下「大学」という）が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係（患者関係含む）に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

ならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。

また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不透明、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案（告発）窓口にて提案することができる。

2. 提案者（告発者）については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則 1. 本規範は、平成21年4月1日から実施する。

2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

【建学の精神】

「病気を診ずして病人を診よ」

私達は病気の治療のみではなく、病者の不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんのための真の医療をめざします。

また、病者の痛みに共感することができる「医の心」を持つ医師と「看護の心」を持つ看護師を養成します。

【大学の使命】

建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づき、医師・看護師の育成、医学・看護学研究の振興、医療の実践を通して人類の健康と福祉に貢献することが本学の使命である。

【病院の理念】

「病気を診ずして病人を診よ」の教えに基づき、質の高い医療を実践し、医療人を育成することにより、社会に貢献し、患者さんや家族から信頼される病院をめざす。

【病院の基本方針】

1. 患者さんや家族が満足する良質な医療を実践する。
2. 先進医療の開発・導入など、日々、医療水準の向上に努める。
3. 優れた技能を身につけ、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成する。
4. 地域社会と連携し、きめ細かな医療サービスを提供する。
5. 全職員が誇りをもって働ける職場づくりを実践する。

3. 学校法人慈恵大学の沿革

年月	学校法人・学校・学部・学科・課程等の新增設等
明治14年5月	成医会講習所を開設した
明治23年1月	成医会講習所を成医学校に改める
明治24年9月	成医学校を改め、東京慈恵医院医学校となる
明治36年6月	専門学校令により私立東京慈恵医院医学専門学校となる
明治41年5月	東京慈恵会が設立され東京慈恵会医院医学専門学校と改称した
大正10年10月	財団法人東京慈恵会医科大学を設置した
大正10年10月	大学予科を新設した
大正11年2月	東京病院（開設：明治24年2月）を附属病院とした
大正14年3月	東京慈恵会医院医学専門学校自然廃校とした
昭和19年4月	東京慈恵会医科大学附属医学専門部を開設した
昭和19年4月	中川堤診療所（入手：昭和18年）を総合病院とし、東京慈恵会医科大学附属青砥分院（現：葛飾医療センター）を開設した
昭和25年11月	東京慈恵会医科大学附属第三分院（現：附属第三病院）を開設した
昭和26年3月	大学予科を閉校した
昭和26年3月	財団法人東京慈恵会医科大学は、学校法人慈恵大学に変更。同法人が東京慈恵会医科大学を経営する
昭和27年3月	附属医学専門部を閉校した
昭和27年4月	学制改革により医学専門課程をもつ新制大学として発足した
昭和31年4月	大学院医学研究科を開設した
昭和35年4月	医学科（入学定員80名）を調布市国領町に開設し、6年制の一貫教育を開始した
昭和39年4月	医学科の入学定員を100名とした
昭和46年4月	慈恵第三高等看護学院（現：慈恵第三看護専門学校）を開設した
昭和50年4月	医学科の入学定員を120名とした
昭和50年4月	慈恵青戸高等看護学院（現：慈恵青戸看護専門学校）を開設した
昭和62年4月	東京慈恵会医科大学附属柏病院を開設した
昭和62年4月	慈恵柏看護専門学校を開設した
平成4年4月	医学部看護学科（定員：30名）を調布市国領町に開設し、4年制の一貫教育を開始した
平成4年4月	医学科の入学定員を100名とした
平成14年4月	慈恵医大晴海トリートメントクリニックを開設した
平成19年4月	看護学科の入学定員を40名とした
平成21年4月	医学科の入学定員を105名とした
平成21年4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程（定員：10名）を開設した
平成22年3月	慈恵青戸看護専門学校を閉校した
平成23年4月	医学科の入学定員を110名とした
平成24年1月	附属青戸病院を葛飾医療センターと改称した
平成25年4月	看護学科の入学定員を60名とした
平成30年4月	港区立がん在宅緩和ケアセンターの指定管理者となった。
平成31年4月	東京慈恵会医科大学大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程（定員：3名）を開設し、教育を開始した
令和2年1月	附属病院新外来棟及び母子医療センターを開設した

4. 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
東京慈恵会医科大学	昭和31年4月	大学院医学研究科博士課程	
	平成21年4月	大学院医学研究科看護学専攻博士前期課程	
	平成31年4月	大学院医学研究科看護学専攻博士後期課程	
	昭和27年4月	医学部医学科	
	平成4年4月	医学部看護学科	
慈恵青戸看護専門学校	昭和50年4月	3年課程	平成22年3月閉校
慈恵第三看護専門学校	昭和46年4月	3年課程	
慈恵柏看護専門学校	昭和62年4月	3年課程	

5. 2019年度 事業報告

理事長 栗原 敏

1) 2019年度の事業概要

2019年度事業計画の実施報告書を発刊することになった。2019年度から向こう3年間の中期事業計画を立て、それを踏まえて各年度の事業計画を立てることになったので、中期事業計画の初年度の事業実施報告書となる。

次のような大学の使命が使命策定委員会で決まり、2020年4月から適用されることになった。“建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づき、医師、看護師の育成、医学、看護学研究の振興、医療の実践を通して人類の健康と福祉に貢献することが本学の使命である”。

学校法人慈恵大学としての大事業である、西新橋キャンパス再整備計画を実施し、新外来棟とN棟の母子医療センターが、2020年1月4日に一斉オープンした。それに先立ち、救急部は、12月27日に中央棟1階に移転した。開院を期に広報に努めた。新外来棟とN棟は順調に稼働していたが、中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症の世界的拡大に伴い、本学でも対応を迫られることになり、Team COVID-19を立ち上げ、その後、COVID-19感染対策本部を設置した。本院では、積極的に患者を受け入れる体制を構築したが、すでに入院していた患者が新型コロナウイルス感染者で、接触した医療者、患者が感染し、院内の感染拡大の防止に取り組んだ。また、外部から院内へのウイルスの持ち込み防止策を強化した結果、現時点で感染はコントロールできしており、5月連休明けより初診外来の受付を段階的に再開することとした。

一方、新型コロナウイルス感染対策により一部診療を制限したことなどから、2019年度末から、外来患者数、入院患者数、手術件数が激減し、医業は不振となったが、それまでの医業は順調だったので、2019年度全体としての医療収支は良好であった。医療収支に対する、新型コロナウイルス感染症の影響は2020年度の決算に反映されることになる。

管理・運営関連では、財務の安定化を図るために、今後、15年間の投資計画を検討し資金的な裏付けを確認するとともに、経費抑制活動における高額医療機器の一括購入や保守点検の包括契約により経費削減成果を上げた。次年度は新型コロナウイルス感染症の影響を含めた財務管理が求められる。

災害対策関連では、大震災が懸念されており、より高度な防災機能の構築に向けて、災害対応体制の整備を図ったが、次年度も引き続き災害対応の強化が求められる。

コンプライアンス関連では、大学のコンプライアンス徹底の一環として、学内監査を強化して教学監査を行った。私立学校法の改正によって、今後、監事の権限がより一層強化されることになる。

人的資源管理では、新外来棟とN棟のオープンに伴い、必要な人員を確保することができた。今後、人材育成と適正人員数を検討することが必要となる。また、働き方改革に取り組み、有給休暇の取得を推進し、変形労働時間の活用を検討することになった。

教育は、松藤学長・柳澤副学長を中心に、医学科と看護学科が協働して本学の使命を策定した。両学科ともに、本学の建学の精神と使命を基盤として、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを定めて改革に取り組んだ。入試改革には高大接続を見据えて取り組み、本学の特色ある教育を受験生に説明し、受験者獲得に注力した。

また、両学科とも国内外の大学間の交流を推進した。国際交流は新たな交流先と協定を結び推進した。国内では、鹿児島大学に続いて宮崎大学と包括的連携協定を締結した。シンポジウムなどの交流計画があったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって一部中止されたものがあり、今後の国際交流を考える必要がある。

教育現場では遠隔授業が行われるようになり、会議もweb会議が導入されて行われるようになった。今後、一層、推進されるものと思われる。

看護学専攻博士前期・後期課程も、学科と同様に、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを定めて、教育と研究活動が行われた。学科生と大学院生の交流が行わ

れ、大学院への誘致を図った。

看護専門学校は、入試の改善による受験生獲得に積極的に取り組んだ。

看護学科、看護専門学校は共に看護師国家試験で優秀な成績を残すことができ、教育の成果の一つと考えられる。

研究は大学の重要な柱であるが、ブランディング事業、研究事業は、目標に沿って成果を上げることが出来た。今年度も引き続き、研究倫理教育の推進、研究不正の防止に取り組んだ。外部競争的研究資金の獲得も増えてきたが、プレアワードとの連携を改善することが今後必要となる。URAが発足して3年が経過し、研究費の申請が増え研究費獲得が増えた。また、知的財産獲得件数が増加した。新たな治療戦略として、Cell Processing Facility (CPF) の設置に向けて準備を進めた。

教育、研究と並んで重要な医療の改善に、井田病院長を中心に取り組んだ。医療安全の推進、感染対策は本学の基本的な取り組みであるが、セミナー、研修会への参加を義務づけて、意識改革を推進した。年度末になり、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、感染症対策に重点的に取り組んだ。

新外来棟とN棟は順調にオープンしたが、感染症対策を強化し、診療を抑制しなくてはならなくなったことは、年度初めには予想できないことであった。今後、病院機能の正常化を目指して、段階的に機能の改善を図ることが求められる。

以上のように、本年度の主要な事業計画は概ね実践されたものと考えられる。

2019年度 事業計画に対する実施結果一覧

1-1. 教育 医学科	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
1) ディプロマポリシー (diploma policy (DP)) の確立	
<p>(1) 医科大学としての使命の明文化について、看護学科と協力して検討する。</p> <p>(2) DP (ディプロマポリシー) の表現の見直しを検討する。</p>	<p>(1) 本学の使命については、使命策定委員会を設置して検討を図り次の通り策定し2020年4月から適用する。 建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づき、医師、看護師の育成、医学、看護学研究の振興、医療の実践を通して人類の健康と福祉に貢献することが本学の使命である。</p> <p>(2) DP (ディプロマポリシー) の表現の見直しについては、卒業時コンピテンス・コンピテンシー、医学科達成指針、到達目標との整合性を含めて検討したが、成案には至らなかった。</p>
2) カリキュラムポリシー (curriculum policy (CP)) に沿った教育改善	
<p>(1) 教学関連委員会体制の再整備を検討する。</p> <p>(2) カリキュラムポリシーの見直しを検討する。</p> <p>(3) 学修成果に整合性を持つ評価について議論する。</p> <p>(4) 臨床実習における学生のEBM(Evidence-based Medicine)実践の向上を図る。</p> <p>(5) 臨床実習におけるカルテ記載の環境を整備する。</p> <p>(6) 学外地域医療臨床実習の診療科・施設を検討する。</p> <p>(7) 海外施設との臨床実習の国際交流を検討する。</p> <p>(8) 共用試験化を踏まえたPost-CC OSCEを検討し、実施する。</p> <p>(9) 卒業生カリキュラム評価アンケートを分析する。</p>	<p>(1) 医学教育分野別評価基準をもとに教学体制の役割を明確化した委員会構成を構築した。</p> <p>(2) アウトカム基盤型教育検討ワーキンググループを設置し、1～4年生前期までのカリキュラム見直しについて検討を進めてきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、3月に予定していた成果報告会が中止となり、次年度の継続課題とした。</p> <p>(3) 卒業時コンピテンス・コンピテンシーに沿った学修成果の評価に関する調査を教員に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。次年度以降に実施する予定である。</p> <p>(4) 臨床実習における学生のEBM (Evidence-based Medicine) 実践の向上を目的として、臨床系教員を対象に1月にFD (Faculty Development) を実施した。</p> <p>(5) 学生カルテシステムを附属4病院で5月から稼働させ、臨床実習に使用している。</p> <p>(6) 教育病院である町田市民病院での診療科(小児科)の臨床実習を次年度から行う予定とした。また、宮崎大学との包括協定を締結し、次年度より学外施設として臨床実習の相互受入れを実施し、教育交流を推進していく。</p> <p>(7) 海外施設については、協定校を4施設(香港大学、クイーンズランド大学(豪州)、メイヨークリニック(米国)、ウィーン医科大学(オーストリア))追加し、国際交流を広げた。</p> <p>(8) 共用試験実施評価機構が主催するPost-CC OSCE全国トライアルに参画し、機構課題3課題を含む全12課題の試験を滞りなく実施した。</p> <p>(9) 卒業生カリキュラム評価アンケートを実施し、結果を分析した。</p>
3) アドミッションポリシー (admission policy (AP)) に沿った入学者選抜	
<p>(1) 国内外先進大学への教員派遣やデータ収集を行う。</p> <p>(2) 英語の外部試験結果のデータ収集を行う。</p> <p>(3) 高大接続改革で求められる入試改革と本学の入試について検証する。</p>	<p>(1) 国内外先進大学への教員派遣は実施されなかったが、ホームページ等を通じて情報収集を行った。次年度以降も検討する。</p> <p>(2) 出願者より任意で提出された英語の外部試験結果をデータ化した。次年度以降は、国の情勢を見ながら活用を検討する。</p> <p>(3) 高大接続改革に関する情報は絶えず注視し、本学の入試のあり方について検証を行った。</p>

1-1. 教育 医学科	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
4) 教育の質保証	
<p>(1) 教育プログラム評価体制を強化する。</p> <p>(2) 教育IR (Institutional Research) に関するデータ管理のファイルサーバ環境を整備する。</p> <p>(3) 学生の学修に関する情報を一元的に利用できるプラットフォームを作る。</p> <p>(4) 学事課事務業務効率化のために情報システムの活用を検討する。</p> <p>(5) 学生の自習施設の整備を推進する。</p> <p>(6) 国領校の再整備計画を検討する。</p> <p>(7) 図書館（西新橋）に、自己学習・グループ学習に対応できるような机、椅子の配置を検討する。</p> <p>(8) FD (Faculty Development) ・SD (Staff Development) を企画し、実施する。</p> <p>(9) 各委員会におけるPDCAサイクル機能を確認する。</p>	<p>(1) 教学委員会下部委員会として教育プログラム評価委員会を新設し、体制強化を図った。</p> <p>(2) 教育IR (Institutional Research) データ管理ファイルサーバを整備して、学生実習、教員評価などの情報を蓄積した。今後も継続的に実施していく。</p> <p>(3) 大学ホームページ上に、「授業・休講・補講」ボタンをつくり、学生の学修に関する情報として、webmail、e-ラーニングなどの情報を公開した。</p> <p>(4) 一部の授業にデジタルペーパーを利用した評価を導入し、評価表のペーパーレス化と評価集計作業の省力化を実現した。今後は対象拡大を図っていく。また、出席管理システムに証明書発行機能を追加し、システムから在学証明書、成績証明書等を発行できるようにした。</p> <p>(5) 解剖棟4階に学生ラウンジを新設し、学生の自習・休憩場所等の施設整備を図った。</p> <p>(6) 国領校5号館と6号館の耐震診断を踏まえた再整備計画を検討した。</p> <p>(7) 図書館（西新橋校）の1階閲覧室をグループ学習、2階閲覧室を個人学習のスペースに区分した。さらに、1階閲覧室をグループ学習の場として活用するための什器の設置を計画し、1階閲覧室の一部に、視聴覚資料を個人で利用するための機器の設置準備も進めた。</p> <p>(8) 教学委員会下部委員会としてFD・SD委員会を新設し、FD・SDを企画・実施した。</p> <p>(9) 教学委員会下部委員会の11委員会の規程策定および見直しを図り、各委員会にてPDCAサイクルの実施を推進していくこととした。</p>
5) 社会連携・社会貢献	
<p>(1) 学外実習指導者FD、意見交換会を企画する。</p> <p>(2) 教育病院臨床実習指導医への出張FD、意見交換を実施する。</p> <p>(3) 市民ボランティアの協力による学生教育を検討し、実践する。</p> <p>(4) 大学間協定締結大学などの連携教育活動を検討する。</p> <p>(5) 港区教育委員会と連携し小中学校へ出張授業を行う。</p> <p>(6) アウトリーチ活動推進委員会を中心に中高校生への公開講義を企画し実施する。</p> <p>(7) 学生の学習に有効な標本の修復、解説作成を進める。</p>	<p>(1) 福祉体験実習、地域子育て支援体験実習、家庭医実習などの学外実習指導者を対象とした医学教育者のための研修・交流会(FD)を6月に実施し、カリキュラムや学生実習についての意見交換を行った。</p> <p>(2) 教育病院臨床実習指導医が参加する拡大臨床実習会議を11月に開催し、クリニカルクラークシップの実習指導、学生支援についてのディスカッションを行った。</p> <p>(3) 市民ボランティアの協力による学生教育は医療総論I、III、IV演習、基本的臨床技能実習などの授業として実施された。</p> <p>(4) 昨年度、鹿児島大学と包括連携協定を締結し、今年度、第1回合同シンポジウムを開催した。今後、宮崎大学を加え、3校の連携を推進していく。</p> <p>(5) 港区教育委員会と連携し小学校へ出張授業を4回実施した。</p> <p>(6) 中高校生への公開講義ひらめきときめきサイエンスを7月に実施した。</p> <p>(7) 液浸標本40点以上について、汚損部分を修復し、標本の解説を作成した（肺標本33点、樋口卵巢コレクション7点）。</p>

1-2. 教育 看護学科	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
1) ディプロマポリシー (diploma policy (DP)) の確立	
<p>DPに位置づけたすべての科目について学生の授業評価、および教員の授業振り返りによって双方向の授業評価を行うと同時に教学委員会、カリキュラム委員会でDPの保証を確認するためにDPのモニタリングを行い、教育内容の点検・改善を図る。</p>	<p>新規科目の内容確認、各科目間の連動の確認や検討を行い、DPの検討と評価を推進した。DPに位置づけた科目について、学生の授業評価と教員の授業の振り返りを行い、内容は公表した。また、7月の教学委員会・学生委員会・カリキュラム委員会合同FD・SD会議において、各学年クラス委員・学生委員会と学生からの要望について意見交換を行った。その際、分野別評価項目に合わせた意見聴取を行い、学生カリキュラム評価、学生のDP達成度 (e-ポートフォリオシステム) 調査を行った。さらに、教員によるカリキュラム評価の調査票を作成した。来年に向けて、調査内容の検討を進め、来年度早々に実施することとした。2017年度改正新カリキュラム、2019年度改正新カリキュラムの運用推進と、e-ポートフォリオシステムを有効に活用し、関連委員会・各領域と協働し、カリキュラム推進におけるPDCAサイクルを推進するために、教育内容の質の保証について検討した。</p>
2) カリキュラムポリシー (curriculum policy (CP)) に沿った教育改善	
<p>(1) 2017年度から開始した新カリキュラムおよび2019年度開始の新カリキュラムの効果的実施を推進する。具体的には、カリキュラム・ルーブリックに即したモニタリング、評価である。カリキュラム委員会モニタリングチームと各領域が、共通科目、領域担当科目について責任を持って授業実施、評価を行う。実施および評価内容は、カリキュラム委員会がとりまとめ、確認する。また、新カリキュラム評価として、学生・卒業生・教員による自己評価と客観評価方法を推進する。</p> <p>(2) 国際交流に関する規程・内規の整備、英語教育の改善に関して新部門責任者との話し合い、シンガポール国立大学との学生交流の開始に当たり内容の検討、国立台湾大学との学生交流に関する協定の締結、KCLとの5年間協定の更新に関して内容を検討する。</p> <p>(3) 情報収集を行い、DPの妥当性をモニタリングする。</p> <p>(4) 在校生・卒業生におけるDP達成度評価システムを構築する。(達成度指標の確定、評価計画の策定)</p>	<p>(1) DP達成のために、DPモニタリングチーム、ワーキンググループ、各担当から出された提案内容について検討した。DP1モニタリングでは総合演習I-IVの効果的実施検討を行った。科目責任者会議を実施し、科目内容の確認や推進上の課題を共有し、必要な改善を検討実施した。DP2 DP3モニタリングでは看護過程IIIを中心にI・IIと連動して検討し、シラバスに修正を加えるとともに、展開方法・記録用紙について見直しを推進した。DP5 DP6モニタリングでは、倫理的姿勢について倫理的感受性尺度を用いて2~4年生を対象に調査を推進した。DP4 DP7モニタリングでは、地域医療連携能力とメンバーシップ・リーダーシップを涵養するための次年度新科目について検討した。DP8モニタリングでは、国際的視野の獲得を促進するために、涵養する科目の内容の検討、海外協定校との学生交流の充実を図る活動を行った。12月に、カリキュラム委員会・FD委員会共催で「拡大カリキュラム情報交換会」を行い、各領域・担当者から、カリキュラム改正の運営について発表し、学生も含め意見交換を行い、PDCAサイクルを推進した。また、年間を通じて、DPおよびカリキュラム・ルーブリックと授業内容が合致しているか、継続してシラバス確認を行うとともに、カリキュラム・ツリー上の科目配置の見直し、カリキュラム上、DPを保証する科目配置の点検を継続した。</p> <p>(2) 7月にシンガポール国立大学の看護学生2名が本学科で1週間の研修を行った。9月23日~10月11日に本学科4年生2名が英国セント・トーマス病院で実習を行い、10月27日~11月22日にKing's College Londonの学生2名が附属第三病院、附属病院(本院)で実習を行った。3月に予定されていた米国ポートランド看護研修およびシンガポール国立大学での看護研修は新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止となった。国立台湾大学と本学科の間で10月に看護学生の交流に関するMoAが締結された。King's College Londonと本学の間で2月に新しいMoAが締結された。</p> <p>(3) カリキュラムルーブリックを枠組みとしたDP学年別、卒業時、カリキュラムアンケート、卒業達成度評価方法として、雇用者アンケート・卒業生アンケートを実施し検討した。</p> <p>(4) 在校生については、新カリキュラム評価については、7月の教学委員会・学生部委員会・カリキュラム委員会合同FD・SD会議において、各学年クラス委員への分野別評価項目に合わせた意見聴取を行った。また、学生カリキュラム評価、学生のDP達成度 (e-ポートフォリオシステム) 調査を行った。さらに、教員によるカリキュラム評価の調査票を作成した。卒業生については、雇用者アンケート、ホームカミングデーの際にDP達成評価についてアンケートを実施し検討した。</p>

1-2. 教育 看護学科	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
3) アドミッションポリシー (admission policy (AP)) に沿った入学者選抜	
<p>(1) ディプロマポリシーとアドミッションポリシーの連動に矛盾が無いか、見直しを行い、修正する。</p> <p>(2) 修正したアドミッションポリシーに基づく試験科目設定の見直しを行い、さらに、一次試験・二次試験の方法、合格者決定方法を検討、決定する。決定した方法を推進するための実施マニュアルを策定し、入学試験を正確かつ安全に実施する。また、2021年度入学試験を見据えた入試方法として決定した英語外部試験導入、指定校推薦制度の実施準備を推進する。</p> <p>(3) 受験生・入学生・保護者からの意見を情報収集するためのアンケートや座談会、面談時の情報収集を計画し、実施する。また、受験生応援サイト、大学ホームページにおける情報内容を点検し、修正、あるいは情報発信する。発信内容を慎重に検討し、安全かつ効果的な情報を発信できるようにする。オープンキャンパスやフェアブル祭など代表的な大学行事において、効果的な情報発信を行う。</p>	<p>(1) ディプロマポリシーと連動したアドミッションポリシーを作成し、承認を得た。</p> <p>(2) 作成したアドミッションポリシーに基づく試験科目内容、方法の見直しを行った。特に、二次試験における評価方法を検討・修正し、精練させた。また、合格者決定方法についても検討し、必要な修正を行った。その結果、アドミッションポリシーに即した入学生の選考を行うことができた。さらに、アドミッションポリシーにより即した入学生の安定的な獲得を目指して実施する「指定校推薦制度」対象校を決定し、募集要項を作成した。英語外部試験利用に向けても、募集要項を決定した。決定後も、新しい情報に沿って、換算基準を見直すなど、検討を継続している。</p> <p>(3) 受験生・入学生・保護者からの意見を収集するためのアンケートや座談会、面談による情報収集を実施した。それらの内容を反映させて受験生応援サイトをリニューアルした。また、受験生応援サイト、大学ホームページにおける情報内容を点検し、修正、あるいは情報発信した。発信内容を慎重に検討し、安全かつ効果的な情報を発信する仕組みが安定して機能した。オープンキャンパスやフェアブル祭など代表的な大学行事においては、在校生、卒業生の協力を得ながら効果的な情報発信を行った。</p>

1-2. 教育 看護学科	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
4) 教育の質保証	
<p>(1) 看護教育分野別評価の目的、方法などを教職員で共有するとともに、受審に向けた組織体制を整える。看護教育分野別評価に関する情報を収集するとともに準備を始める。</p> <p>(2) 看護学科教育IRの目的と役割を明確にして担当者を決定し、早期に実働を始める。</p> <p>(3) 看護の教育力に関するFD研修を実施する。</p> <p>(4) 研究に関する大学院FDを企画する。</p> <p>(5) 各委員会組織と連携し、教員の組織力へのコミットメントに対する周知を行い、看護学科としての過去のFD企画内容から今後のFD企画の方針と計画への変遷を明確にする。</p> <p>(6) 学生の授業評価、定期試験、到達度評価などをもとに科目・授業内容に対する改善を図る。</p> <p>(7) 各教員の目標管理（教育力・研究力・組織へのコミットメント力）を定期的に行う。</p> <p>(8) 大学生生活全般に関する状況把握と学生生活・部活動・人間関係などに対する悩みを抱えている学生に対して、学年担当・学生生活アドバイザー・教学委員会と連携し、状況把握と個別的な支援を行う。 健康面への支援では、健康管理・感染症の予防を実施するとともに、健康面の問題が生じた場合には、保健担当教員・感染制御室・第三病院救急部とも連携し迅速に対応する。学生のメンタル面への対応をスクールカウンセラー・学生相談室と連携して支援するとともに、教員を対象としたメンタル研修を企画し、教員の学生支援に対する教育力を高める。大学生生活全般について看護学科保護者会との連携を図り学生を支援する。</p> <p>(9) 学生委員会・進路就職委員会と連携し進路に対する支援を行う。「学生に関する情報交換会」を教学委員会と共同で開催するとともに、看護学科保護者会との連携を強め学生を支援する。看護学科保護者会と同窓会支部との連携を図り、在校生から卒業生に対してキャリア支援を行う。</p> <p>(10) 学生国家試験委員会と連携し、国家試験受験に主体的に取り組めるよう支援する。早期から学生の国家試験に対する意識向上を図るために、3年生国家試験対策委員を設置し活動を支援する。保健師国家試験支援として、地域看護学教員と密に連携して支援する。</p>	<p>(1) 4月に看護学科IR推進委員会を立ち上げた。看護学科の教育・研究・社会貢献活動などに係る事項についてデータの収集・分析・公表などを活動内容とする内規を作成した。看護教育分野別評価に関する情報収集を行い、日本看護学教育評価機構の評価基準（案）に基づき、必要なデータを収集した。また今まで行っていなかった雇用户・卒業生アンケートなどを実施、分析した。</p> <p>(2) 看護学科の教育、研究、社会貢献に関する諸情報を収集、分析し、教育の向上に活用することを目的に、看護学科IR委員会を立ち上げた。現在、データの収集、分析を進めている。</p> <p>(3) 7月に臨地実習委員会と共催の「実習指導におけるヒヤリハット場面の教材化の課題と方策の検討」のFDを行い、その結果をもとに次年度の臨地実習における学生のリスク管理のための教育方策を統一することとなった。 12月にはカリキュラム委員会と共催の「拡大カリキュラム情報交換会」を実施し、DPに基づくカリキュラムおよび改訂カリキュラムにおける各領域および担当科目の授業内容・新科目の運用状況について情報交換できた。</p> <p>(4) 9月に「質的研究におけるシステマティックレビューの方法」としてFDを企画した。</p> <p>(5) 各委員会組織と連携し、教員の組織力へのコミットメントに対する周知を行うことができた。看護学科としての過去5年間のFD企画内容から今後のFD企画の課題が明らかになり、中長期的な方針を立てる必要性があることがわかった。</p> <p>(6) 学生の授業評価、定期試験、到達度評価などをもとに科目・授業内容に対する改善のために科目担当教員は改善計画を作成し、その内容を公開した。</p> <p>(7) 各教員の目標管理（教育力・研究力・組織へのコミットメント力）を定期的に行うことができた。次年度からBSCワーキンググループからの項目をさらに追加し、評価していくことが明確となった。</p> <p>(8) 学生支援について、健康面では4月のインフルエンザ感染症の拡大に対し、「看護学科国領キャンパスにおける感染性疾患が発生した場合の対応」「感染症発生時の報告ルート」の整備を行い、保健委員の役割を明確にし、学生に周知を行った。これらは、次年度のオリエンテーションガイドブックに掲載し、感染症の拡大防止策を講じた。メンタル面の支援では、アドバイザーや個々の教員で対応しているが、学生相談室を利用する学生は今年度はいなかった。教学委員会と学生委員会の連携による対応は重要であり、情報共有しながら今後も支援していく。保護者会からの部活動についての情報は医学科と共有し、キャプテン会議を通じて指導をした。</p> <p>(9) 6月に看護学科保護者会第一回総会が行われた。同窓会看護学科支部の支援を受けつつ、保護者会が設立された。教学委員会・学生委員会と連携して開催した「学生に関する情報交換会」では、学生の生活と学修を支援するために、保護者との意見交換を深めた。</p> <p>(10) 今年度の看護師・保健師国家試験は全員合格を達成できた。今年度より3年生の看護師国家試験低学年模試に加え保健師の低学年模試も学生の希望で開始した。また、3年の看護師国家試験低学年模試費用は保護者会の支援を得て、大学とともに費用負担の支援を行った。</p>

1-2. 教育 看護学科	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
5) 社会連携・社会貢献	
<p>地域連携看護学実践研究センターを中心として、調布市近郊大学プラットフォーム活動の推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 2019年度に設置した「ニーズ・リソースマッチンググループ」により、第三病院職員に対するニーズ調査を行った。 (2) これまでの「みんなの学び場」「みんなの保健室」「みんなの活動」部門を支えつなげる「ニーズ・リソースマッチンググループ」と「広報グループ」を組織化し、効果的な運営を図ることとした。広報グループはホームページの立ち上げと活用の基盤づくりに取り組むほか、JANPセンターの旗・幟の作成を行った。 (3) 調布市大学プラットフォーム活動として、近郊の大学との連携を図り、共催での公開講座を開催した。

1-3. 教育 医学研究科医学系専攻博士課程	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
1) ディプロマポリシー (diploma policy (DP)) の確立	
(1) 大学の使命、CP、AP、社会のニーズを踏まえDPの点検、見直しを行う。	(1) 今年度は現在の学位論文審査制度に沿ったDPについて検討し、改定を行った。
2) カリキュラムポリシー (curriculum policy (CP)) に沿った教育改善	
(1) 若手教員を対象とした研究倫理FDを実施する。 (2) 大学院カリキュラムの見直しを図る。 (3) 英語教育・教材のさらなる充実を検討する。	(1) 研究支援課および研究倫理推進センターと連携して若手教員を対象とした「研究倫理に関する講習会」を実施した。 (2) 国立がん研究センターを会場とし、連携大学院教授の参加が可能となるような「連携大学院生による研究発表会」の開催を検討して実施した。 第1回「連携大学院生による研究発表会」は多数の大学院生およびがん研究に携わる教員が参加し盛況であった。 (3) 英語教育および教材については継続して検討していくこととした。
3) アドミッションポリシー (admission policy (AP)) に沿った入学者選抜	
(1) 試験内容の見直しを検討する。	(1) 近年の大学院志願者の属性について調査を行い、今後のカリキュラムや大学院制度設計の参考とした。今年度の検討結果を基に試験内容に関する見直しを継続して行うこととした。
4) 教育の質保証	
(1) 大学院IR (Institutional Research) 機能の検討を行う。	(1) 大学院IR (Institutional Research) の一環として進路調査票の導入および修了時アンケートを実施した。アンケート分析結果を参考として大学院委員会にて検討を継続していく。
5) 社会連携・社会貢献	
(1) 産官学連携による大学院教育の充実を図り、大学院教育内容の公開講義などを検討する。 (2) リカレント教育について検討する。	(1) 連携大学院教授を座長補佐役として「大学院生研究発表会」を開催した。また、連携大学院教授が一同に集まる「連携大学院生による研究発表会」を国立がん研究センター内で開催した。次年度も継続開催に向けて準備を進めることとした。 (2) リカレント教育については継続して検討していくこととした。

1-4. 教育 医学研究科看護学専攻博士前期課程・後期課程	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
1) ディプロマポリシー (diploma policy (DP)) の確立	
<p>(1) 博士前期DP5 (国際的視野から看護を考える能力)、博士後期DP3 (国際的・学際的に協働し活躍する能力)を涵養するために「教育質転換プロジェクト」を申請し、実施する。</p> <p>(2) TA (Teaching Assistant)・RA (Research Assistant) 制度を設ける。</p>	<p>(1) 9月14日“大学院生と教員による国際学会における成果発表会”を開催した。大学院生4名と教員2名が発表を行った。3月27日、28日に予定されていた教育質的転換プロジェクト“看護学教育の国際化に向けて”は新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止となった。</p> <p>(2) TA (Teaching Assistant)・RA (Research Assistant) 制度の運営内規を検討し、制度を確立し、TAは2019年10月より運用開始、RAは2020年4月より運用を開始予定である。</p>
2) カリキュラムポリシー (curriculum policy (CP)) に沿った教育改善	
<p>(1) 看護学科と看護学専攻を一体的に運営できるITなどの整備を図る。</p> <p>(2) 看護学科学生と看護学専攻学生との交流の機会を設ける。</p> <p>(3) 授業評価を行い改善する。</p> <p>(4) がん看護学の専門看護師教育課程の完成年度に当たり評価を行う。</p>	<p>(1) テレビ会議システムが稼働して会議等でも使用されるようになった。</p> <p>(2) 看護学科学生が大学院説明会や研究計画発表会に出席でき、大学院生も学科の研究計画発表会に出席し、貴重な助言ができていた。</p> <p>(3) 大学院と学科の授業のあり方については、基本的には学科の運営(特に教育)が優先されることを確認した。</p> <p>(4) 在学生、修了生の教育評価に関するアンケートの継続実施を行った。なお、1人受講生の場合には実施していなかったが次年度からは実施する。</p>
3) アドミッションポリシー (admission policy (AP)) に沿った入学者選抜	
<p>(1) 入試委員会を中心に博士後期課程の入学試験のシステムを整備する。</p> <p>(2) アドミッションポリシーに沿った指標項目を検討する。</p> <p>(3) 看護学科学生および保護者へ広報する。</p> <p>(4) 本学附属病院看護職へ広報する。</p> <p>(5) 看護系学会にて本学看護学専攻を広報する。</p>	<p>(1) 看護学で博士号を取得する前提として、狭い専門領域だけでなく幅広い看護学の知識が要請されることから、専門領域の問題と看護学の共通問題の2問を出題した。</p> <p>(2) アドミッションポリシーに基づいた面接評価表を作成し、面接委員が明確に受験生の能力を評価し、本学に相応しい人物であるかどうかを判断できるようにした。</p> <p>(3) (4) (5) 医学研究科看護学専攻の教育・研究について広く社会に広報するとともに、入学希望者に対する総合的な広報活動を行うことを目的として大学院として広報委員会を設置し活動を開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4学会に大学院への誘いを送付した。 ・大学院説明会を看護学専攻大講義室で開催した。 ・広告媒体の検討と経費について検討を行い、学生募集において特段の問題がないとの判断で従来通りの広報活動を行っていくことを確認した。

1-4. 教育 医学研究科看護学専攻博士前期課程・後期課程	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
4) 教育の質保証	
<p>(1) 外部評価に備えて、自己点検評価委員会は自己点検評価を行う。</p> <p>(2) 看護学教育評価基準（大学院評価項目）にあわせた内部評価を行う。</p> <p>(3) FD委員会を中心に授業の学生評価および教員評価を行い大学院委員会で検討し教育課程の改善に取り組むPDCAサイクルを実施し記録する。</p> <p>(4) 学生・修了生の教育評価に関するアンケート調査を蓄積し分析する。</p> <p>(5) 教員は、修士論文を学会発表し学術誌に論文掲載となるように支援し、学事課は、学会発表および論文掲載状況を把握し蓄積する。</p> <p>(6) 博士前期課程および博士後期課程学生の学位取得を支援する。</p> <p>(7) がん看護専門看護師、急性・重症患者専門看護師、在宅看護専門看護師の資格取得を支援する。</p>	<p>(1) 2018年度看護学専攻としての自己点検評価を行い承認を得た。</p> <p>(2) 看護学専攻博士前期・後期課程に対する履行情況報告とともに自己点検評価のための準備を行った。</p> <p>(3) 授業評価に基づくPDCAサイクルの確立を図った。</p> <p>(4) 在学生、修了生の教育評価に関するアンケートの継続実施を行った。なお、1人受講生の場合には実施していなかったが次年度から実施する。</p> <p>(5) 修了生の学会ならびに学術誌への発表については情報入手方法の確立を図った。 ・9月14日にFD講義を行った。 講演テーマ「質的研究におけるシステムティックレビューの方法」 講師 兵庫医療大学 教授 今野 理恵 殿 日時 2019年9月14日（土）13:00-16:00 今年度から大学院FDは看護学科との共催ではなくなったが、教員のFDとして有意義な内容であった今回の講演については、音声データを学科教員に情報提供した。 ・学生のスムーズな研究計画審査のために新たに作成した研究計画審査システム（「研究計画書提出前チェックリスト」と「履修モデル」を含む）の説明会を開催した。 ・学生の研究計画審査を適切に実施するために、研究テーマや方法を変更し再度研究発表会を行う場合は公開制とし、次年度からは、研究計画審査委員会に学生・指導教員がオブザーバーとして出席し、審議内容を聴くことができるようにし、委員会の許可を得て発言することもできるように改善する。 ・指導教員は、大学院生が修士論文を学会発表できるよう、学術誌に論文掲載となるように支援し、学事課は指導教授より学会発表および論文掲載状況を把握し蓄積しつつある。</p> <p>(6) 博士前期課程および博士後期課程学生の学位取得は継続的に支援できている。</p> <p>(7) がん看護専門看護師、急性・重症患者専門看護師は、前者は2018年度修了生2名、後者は2017年度修了生1名が合格した。</p>

1-4. 教育 医学研究科看護学専攻博士前期課程・後期課程	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
5) 社会連携・社会貢献	
<p>(1) 公開ゼミ・授業・講演会・セミナーなどを行う。</p> <p>(2) 臨床の研究支援を行う。</p> <p>(3) ういケアみなど（港区立がん在宅緩和ケア支援センター）と連携する。</p>	<p>(1) 公開ゼミ・授業・講演会・セミナーについては、授業のうち国際学術コミュニケーション論を、学内公開授業とし、看護学科教員、大学院生の全員に周知し、参加希望者を募った。その結果、約10名の参加希望者が得られた。</p> <p>(2) 今年度より従来の看護研究会と研究相談会を看護学専攻が主管する臨床研究支援委員会とした。附属病院（本院）・葛飾医療センター・第三病院・柏病院・慈恵第三看護専門学校・慈恵柏看護専門学校および公益社団法人東京慈恵会 慈恵看護専門学校の看護研究を支援することを目的として活動を開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果公表のための慈恵看護研究会開催（3月）により、慈恵看護の質向上に寄与した。3月15日（日）の慈恵看護研究会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止し、口演15題・示説14題の発表ともに紙上発表の形式に変更した。 ・臨床看護師の研究能力向上を目指し、リサーチクエスチョンと研究デザイン（7月）、事例研究（9月）、プレゼンテーション・抄録の書き方（12月）についての看護研究学習会（セミナー）を開催した。 ・附属4病院看護師を対象とした看護研究相談会を7月ならびに9月に大学院修士課程で開催した。また、新たに柏病院に出張し相談を行った。 ・臨床看護師の実践能力向上に向け、慈恵看護研究会と連携して講演会企画を支援した。 <p>(3) ういケアみなど（港区立がん在宅緩和ケア支援センター）と連携を目指して情報収集した。その結果、がん早期教育の講義、医療人の育成、ボランティア派遣に対するニーズがあり、次年度より、具体的な活動を開始するための連携を強化する。</p>

1-5. 教育 看護専門学校	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
1) 教育理念に基づく教育課程編成と教育の改善	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 改正カリキュラムに関する方針を理解し、カリキュラム編成委員会を発足、改訂作業スケジュールを策定、始動させる。 (2) 慈恵の独自性を明確化する。 (3) 看護を学ばせる場を検討し、実習場所の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) (2) 各校でカリキュラム改正に向けて、現行カリキュラムの評価について特に専門分野の領域別看護学を中心に評価と課題を明らかにするための検討を開始した。慈恵で看護を学ぶ意義を確認し、それらをカリキュラムに反映できるようした。 (3) 現行の実習場所に加え、より多くの、また多様な施設などで学べるようにした。また、カリキュラム改正趣旨を踏まえた実習場所、機会の拡大を検討した。
2) 教育の質保証	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義、実習の授業アンケート結果を担当者にフィードバックし、授業改善に努める。 (2) 単位未履修者を可能な限り低減し、所定年次で卒業できるようにする。 (3) 国家試験合格100%に向け、受験対策を充実させる。 (4) 希望の就職、進学先に進めるよう支援する。 (5) 学生個々の状況に応じた進路選択を支援する。 (6) 看護基礎教育に関心が持てる臨床看護師を推薦し、教員研修受講につなげる。 (7) 教員自身が自己研鑽するとともに、研修機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業（講義・実習）アンケートは、授業終了後速やかに実施し、担当講師へフィードバックできるようにした。学生の意見を参考にして、授業方法や学習環境の改善につなげた。 (2) 未履修者を一人でも減らせるよう指導を行った。 (3) 国家試験全員合格に向け、個別・集団指導を行った。 (4) (5) 学生が自分で就職あるいは進学先を決定して進めるように指導をした。 (6) 慈恵大学各附属病院で臨地実習指導にあたる看護師の推薦を求めたが、受講を希望する人材の発掘に至らなかった。 (7) 教員は、学会、研修会、臨床研修などを通して、自己研鑽の機会を持った。学会等参加後は伝達講習を行い学びの共有機会を作った。
3) アドミッションポリシー（admission policy (AP)）に基づく質の高い意欲ある入学性の確保	
<ul style="list-style-type: none"> (1) アドミッションポリシーを明文化し、広報の仕方について検討する。 (2) 高校指定校のうち、どの学校との連携を強化するか検討する。 (3) オープンキャンパス・学校見学会・業者主催による説明会の機会の他、見学相談希望者は積極的に受け入れて対応する。 (4) ホームページ掲載内容の検討と、情報更新のタイミングなど臨機に対応できるよう関係部門と検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各校でAPの検討を行った。 (2) 高校指定校の精選を行い、教員と事務による高校訪問を実施し連携強化に努めた。 (3) 志願者を一人でも多く確保し受験につなげるため、希望者の見学説明希望に柔軟に対応した。 (4) ホームページを活用した情報発信は少しずつ整いつつある。
4) 地域・社会貢献	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 地域で実践されている事業に関する情報を捉え、学生が参加する機会をつくる。 (2) 病院主催の大規模災害訓練、医療安全関連活動に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) (2) 地域で開催される健康関連事業、防災事業は授業の一環として参加できるようにした。

2. 研究	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
1) 先進的且つ特色のある研究の推進	
(1) 研究計画に沿って研究を実施し、5年計画の3年目の中間評価を行い社会に向けて発信する。 (2) 研究実績の評価、検証を実施し、大型研究費の獲得支援を行う。	(1) 事業の成果はブランディング、研究ともに順調にあがっていることから、目標についておおむね達成できたと考える。 (2) URA プレアワード担当者が研究実績を分析評価したが、大型研究費の獲得までは至らなかった。
2) 透明性・公正性・中立性の高い研究の推進	
(1) 「理解度・浸透度調査」の結果分析に基づく、本学の実情にマッチした実効性の高い倫理教育を実施する。 (2) 「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく体制整備と自己評価チェック項目を着実に遂行する。 (3) 「研究活動における不正行為への対応に関するガイドライン」に基づく取組状況に係わるチェック項目を着実に遂行する。 (4) 剽窃・盗用チェックツールの案内、説明会を実施する。	(1) 本学の実情にマッチした実効性の高い倫理教育の一環として、新任助教を対象とした倫理教育を行い、若手教員の倫理観の涵養につとめた。 (2) 公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づき、研究支援体制の整備と自己チェック項目について漏れなく対応することができた。 (3) 研究活動における不正行為の対応に関するガイドラインに基づき、研究不正防止の取り組みを着実に実行することができた。 (4) 大学院共通カリキュラム「医の倫理」(6月29日)にて、剽窃・盗用チェックツールTuritinの概要説明を実施した。
3) 外部競争的資金の活用と獲得推進	
(1) 外部競争的資金の活用 ① 研究奨励費、戦略的重点配分研究費採択者の競争的研究費獲得状況を評価・検証し、外部競争的研究資金の獲得につなげる。 ② 女性研究者が継続的に研究を行える研究活動支援体制を整備する。 (2) 外部競争的資金の獲得推進 ① 研究費獲得支援のための説明会を開催する。 ② 競争的研究費の公募などに関する情報をURA ニュースとして発信して研究者へ情報を提供する。 ③ 科学研究費補助金等に関する応募申請書の記載マニュアルを作成し学内研究者に周知する。	(1) 外部競争的資金の活用 ① 研究奨励費、戦略的重点配分研究費採択者の競争的研究費獲得状況を把握することはできていたが、外部競争的研究資金獲得のため、プレアワードとの連携が図れていなかった。 ② 学内研究費の女性研究者キャリア支援研究費を新設し、女性研究者が継続的に研究を行える体制を整備した。 (2) 外部競争的資金の獲得推進 ① 科研費獲得支援としては各講座への出前授業、外部講師による講演会などを開催している。また、分院での相談会も開催し新橋地区に限定せず幅広く対応した。 ② 民間財団の公募は教授会議ごとにイントラネットへの公開、および希望者へのメール配信を行った。AMEDの公募情報については情報入手の都度希望者および教授へ配信した。また、民間財団については年間スケジュールを作成(研究助成、渡航支援、看護領域)をイントラネットに公開、および希望者へのメール配信を行った。 ③ マニュアルではないが外部講師の公演を録画しe-ラーニングの受講も可能とし、学内研究者へのサービス充実を図った。

2. 研究	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
4) 戦略的研究推進体制の構築	
<p>(1) 研究アドミニストレーション部門設置後2年間の実績を評価・検証し、今後の戦略的研究推進対策を策定し実践する。</p> <p>(2) 総合医科学研究センター各部門における運営計画（2018年～2020年）を着実に実施し、PDCAサイクルによる連動性のある目標管理を行う。</p> <p>(3) 新外来棟に新設する、CPF（セル・プロセッシング・ファシリティ）施設の設置準備を遅滞なく進める。</p> <p>(4) 新たな研究推進体制を検討し、学内の合意を得る。</p> <p>(5) 医学論文書きかた講習会を開催する。論文数の集計により本学の研究活動の特徴を分析する。</p> <p>(6) 学会発表の奨励、支援を行う。写真撮影、ポスタープリント作成などを補助し、発表資料の作成を支援する。</p>	<p>(1) URAが発足して3年が経過した。科研費採択率も緩やかな上昇傾向にある。また、知財戦略としては知的財産獲得件数も上昇した。次年度以降は知財の活用に向けライセンスアウト活動にも力を入れていきたい。 知的財産登録査定件数は以下のとおり。 2018年度国内特許2件、2019年度海外特許6件、国内意匠1件、国内実用新案1件であり着実に件数は伸びている。</p> <p>(2) 総合医科学研究センター各部門における運営計画の3年計画の最終年にあたる次年度につながるPDCAサイクルによる目標管理を行うことができた。</p> <p>(3) CPF（セル・プロセッシング・ファシリティ）施設の設置準備を遅滞なく進めることができた。</p> <p>(4) 次年度より研究支援課を大学事務部研究推進課に組織変更し、研究者に対して一貫通貫の支援体制を整備することで学内の合意を得た。</p> <p>(5) 医学論文書きかた講習会を5月に4回開催した。論文数の集計については、集計結果の提示にとどまり、研究活動の特徴の分析には至らなかった。8月に引用データベースScopusが導入されたので、引用状況も考慮した分析が可能となると思われる。</p> <p>(6) 学会発表の支援として、ポスタープリント628件（11,693枚）、ビデオ編集72件（502.5時間）、35mmスライドのデジタル化1件（70枚）を実施したほか、学内建物の写真を提供した。</p>
5) 学内・学外の研究連携推進	
<p>(1) 各講座を支援し、学内共同研究を企画推進する。</p> <p>(2) 本学の新たな発明制度を確立し、運用する。</p>	<p>(1) 再生医療の共同研究を推進するため、再生医学・iPS細胞研究会を開催、最先端のAI研究の情報収集と学内外の連携を目的に、慈恵医大AI研究会を開催した。また、学内再生医療の共同研究を加速させるため、2020年7月開設するCPFの準備を進めた。</p> <p>(2) 産学官連携としては受託研究・共同研究・試料提供契約（MTA）・秘密保持契約（NDA）などがあげられるが、学内ひな型を改定し、大学が有利となるような内容（成果物の持ち分は均等あるいは成果に応じた按分）に改定した。 また、契約件数も増加傾向にあり、2016年度は共同研究・受託研究の合計は24件であったが、2018年度は55件、2019年度は63件であった（2017年度は特異的な年度であり比較対象とならない）。</p>

3-1. 医療 附属病院（本院）	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
1) 医療の質の向上	
<p>(1) 診療機能</p> <p>① 特定機能病院としての機能を充実させるため、新承認要件を中心に体制整備を進め、診療情報共有改善を推進しながら安定運営を図る。</p> <p>② 常に最新情報を収集し、患者ニーズに対応した先進医療、再生医療などの新規申請・実施を推進する。</p> <p>③ ゆるやかなセンター化構想を含めた診療ユニットの在り方を検討する。</p> <p>④ がんゲノム医療を推進する。</p> <p>⑤ クリニカルパスの整備を推進する。</p> <p>⑥ 医師事務支援室の業務を拡充し、医師の労働生産性向上を図る。</p> <p>(2) 医療提供サービス</p> <p>① EBM (Etiquette-Based Medicine) を通じて教職員の品格・資質の向上を図るとともに、専門職間の協働を基本としたチーム医療を実践し、患者さん指向の医療を提供する。</p> <p>② 診療情報を評価するシステムを構築し、定期的に臨床指標の実績公表など情報公開を推進する。</p> <p>③ インフォームド・コンセントの徹底を図る。</p> <p>④ 国際医療支援室を開設し、国際化のニーズに応じた患者受け入れ体制を整備する。</p> <p>(3) 教育・研修</p> <p>① CPCによる症例検討や鏡視下手術トレーニングなどの技術認定を推進する。</p> <p>② 認定看護師等を充足させる。</p> <p>③ 医療安全、保険診療および個人情報等の研修にe-ラーニングを導入する。</p> <p>④ 患者対応のスキルアップを図り、患者満足度を向上させる。</p> <p>(4) 医療施設</p> <p>① ICT技術を活用した医療の効率化を推進する。</p> <p>② 施設・設備の効率的な維持管理と計画的な整備、機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。</p> <p>(5) 新橋健診センター</p> <p>① 新規健診および、婦人科検診項目の充実を図る。</p> <p>② センターに携わる医師・看護師・診療放射線技師・臨床検査技師・事務員などに対して、知識の共有により質の向上を図る。</p> <p>③ N棟移転後の受診者の増加を図る。</p>	<p>(1) 診療機能</p> <p>① 特定機能病院の新承認要件の各項目を中心に体制整備を行い、安定運営を図ることができた。</p> <p>② 関係法令の改正に対応し、申請・実施に向けて診療科を支援し、先進医療、再生医療などの推進を行った。</p> <p>③ ゆるやかなセンター化構想を含めた診療ユニットの在り方を見直し、ゆるやかなセンター化に係る標榜基準を策定した。本基準に則り、各センター、クリニック、専門外来等の標榜の整理を実施し、新外来棟の開院に合わせて変更を行った。また、各科診療枠の見直しを行い、診療ユニットの効率的な運用体制を構築した。</p> <p>④ がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム検査の実施に伴う体制を確立した。</p> <p>⑤ クリニカルパスのバリエーションをより細かく原因精査するために、アウトカム評価の標準的な指標 (BOM) の導入を検討した。これにより、次年度システム改修へとつなげることができた。</p> <p>⑥ 医師事務支援室の業務を拡充し、医師の事務作業を軽減することができた。</p> <p>(2) 医療提供サービス</p> <p>① EBM (Etiquette-Based Medicine) の取り組みとして年4回の挨拶週間を実施し、患者さんへの挨拶および教職員の身だしなみチェックを行った。また、教職員向けのマナー向上に係る掲示を行い教職員の品格・資質の向上に努めた。</p> <p>② DPC係数に係る指標の実績公表は実施したが、診療情報を評価する新たなシステム構築については継続検討課題とした。</p> <p>③ 各種同意書について、インフォームド・コンセントの徹底に資するよう見直しを図った。</p> <p>④ 国際医療支援室を開設し、医療通訳端末の導入や仲介業者の拡大、各種帳票、案内冊子等の翻訳作業を進め、患者受け入れ体制の整備を進めた。</p> <p>(3) 教育・研修</p> <p>① CPCによる症例検討や鏡視下手術トレーニングを計画的に実施し、技術認定を推進した。</p> <p>② がん看護専門看護師を2名が取得し、充足を図った。</p> <p>③ 医療安全の研修について、e-ラーニングを導入した。</p> <p>④ 患者対応のスキルアップのため、部署全体でセルフチェック等に取り組んだ。</p> <p>(4) 医療施設</p> <p>① モバイル呼び出しシステムの活用やペーパーブックによるレセプト審査の試験導入など、診療全般での効率化に向けて、ICT技術の活用を推進した。</p> <p>② 新外来棟、N棟が開院し、施設・設備および機器、備品の更新を図った。引き続き効率的な管理ならびに今後の投資計画等の作成を進めていく。</p> <p>(5) 新橋健診センター</p> <p>① 婦人科検診の新規項目として乳腺超音波検査を導入し、充実を図った。</p> <p>② 新規で導入する検査およびワクチンなどについて、課内での勉強会を実施し、情報共有による質の向上を図った。</p> <p>③ 2019年1月の移転後より大腸内視鏡検査を開始するなど、内視鏡検査の実施人数の増加を図った。</p>

3-1. 医療 附属病院（本院）	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
2) 医療安全・感染対策の推進	
<p>(1) 医療安全</p> <p>① 医師事務支援室と協働し患者が実施した検査結果未読率を減少させる。</p> <p>② 形骸化しない4病院医療安全会議、ラウンドによる相互評価を継続する。</p> <p>③ TeamSTEPPSエッセンシャル、アドバンストコースの教職員受講を促す。</p> <p>④ 医療安全ラウンド（3回/部署/年）による現場スタッフの安全に対する意識の向上を図る。</p> <p>⑤ 多様な職種状況に応じた研修の企画、参加状況把握による研修未参加人数ゼロを目指す。</p> <p>(2) 感染対策</p> <p>① 病棟ICTミーティングの継続実施により、現場主体の耐性菌対策・抗菌薬適正使用、医療関連感染症対策を強化する。</p> <p>② 抗菌薬適正使用支援ラウンドの継続実施で抗菌薬適正使用を推進し患者予後の改善に寄与する。</p> <p>③ 清掃業者の清掃手技の監視活動を実施する。</p> <p>④ 持ち込み感染症に対する現場シミュレーションを実施する。</p> <p>⑤ 附属4病院統一の教職員抗体価管理システムを確立する。</p>	<p>(1) 医療安全</p> <p>① 診療部会議にて配布している検査結果未読一覧での未読率は、1.4%（2019年度1月末時点）と前年に比べ0.8ポイント減少した。</p> <p>② 4病院医療安全会議および相互ラウンドにて活発な意見交換が実施された。また今年度途中よりセーフティマネジメント委員会の議事録の共有を各機関で開始した。</p> <p>③ TeamSTEPPSエッセンシャルコースとアドバンストコースを各3回開催した（新型コロナウイルス感染拡大防止のため2月以降は中止）。参加者数はエッセンシャルコース176名、アドバンストコース133名であった。</p> <p>④ 医療安全管理者を中心としたラウンドは年間3回実施した。フィードバックを実施しているが、その後の改善状況に関する見直しは十分に行っていない。</p> <p>⑤ 常勤教職員規程回数到達率は、96.3%であった。各医局単位で開催する研修を9部署で開催。医師・看護師・薬剤師を対象にした医薬品安全使用セミナー（参加者：336名）および看護部対象の出張セミナー（参加者：227名）を全部署で開催した。</p> <p>(2) 感染対策</p> <p>① 病棟ICTミーティングを継続的に実施し、現場主体の耐性菌対策・抗菌薬適正使用、医療関連感染症対策を強化した。</p> <p>② 抗菌薬適正使用支援ラウンドの継続実施により、抗菌薬適正使用を推進し、患者の予後改善に寄与した。</p> <p>③ 清掃業者の清掃手技の監視活動を実施し、適切な手技の維持向上に努めた。</p> <p>④ 持ち込み感染症に対する現場シミュレーションを実施した。</p> <p>⑤ 附属4病院統一の教職員抗体価管理システムを導入した。</p>
3) 地域医療連携の推進	
<p>(1) 前方連携</p> <p>① 登録医制度の拡大を図る。</p> <p>② 地域連携システムの活用による医療情報の共有体制の構築に向け、web予約利用数の増加を図る。</p> <p>(2) 後方連携</p> <p>① 地域の医療・介護事業者の開拓と連携強化に向け、訪問や交流機会へ積極的に参画する。</p> <p>② 病院間連携を強化し、相互利益に資する患者受入れの仕組みを構築する。</p>	<p>(1) 前方連携</p> <p>① 登録医制度について、新規の登録は60件あり、合計574件に拡大した。新規開業医の登録依頼があり新たな紹介元医療機関となり、紹介の増加につながっている。</p> <p>② web予約は、利用施設を21施設拡大、予約件数も2,577件と前年度比55件増加し、紹介予約全体の増加につながった。</p> <p>(2) 後方連携</p> <p>① 夏季セミナー・医療連携フォーラムや働く人の健康支援研究会などにより顔の見える医療連携のための交流機会を設けた。また港区事業の地域包括ケア研修会への参画のほか、地域の医療・介護事業者への訪問を実施し、交流促進を図った。</p> <p>② 慈恵4病院間の連携強化を図るために課題調査を実施した。また後方連携医療機関への院長訪問の実施、さらに新たに1施設と連携協定を締結した。</p>

3-1. 医療 附属病院（本院）	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
4) 収支構造の確立	
<p>(1) 医業収支目標の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各診療部で設定した患者数などの目標値を予算に反映させ、経営意識を醸成させる。 ② 診療報酬制度の中で最大限の効果が得られる施設基準、病床稼働により運営する。 ③ 診療行為の適正な請求を検証する。 ④ 晴海トリートメントクリニックでは、固定経費率が高く、経費削減が難しい状況において、減収傾向にある医療収入・健診収入を引き上げる方策を検討実践する。特に中央区で実施している各種健診に参画する。 <p>(2) 医療経費の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コストマネジメント・プロジェクトでの計画を実行し、医療材料物流の効率的運用と経費削減活動の強化を図る。 ② 医薬品の適正使用ならびに後発医薬品の採用を促進する。 ③ 共同購入の推進、購入価格の見直し、不動態在庫の削減、配置在庫の適正化に努める。 ④ 省エネおよび委託費の適正化に努める。 	<p>(1) 医業収支目標の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 診療部長面談において、実績値と予算値の差異分析を行い、経営意識の醸成が図られ、目標達成ができた。 ② 施設基準は随時点検を行い、取得可能な届出は随時行うとともに、午前退院午後入院を推進し効果的な病床運営を行うことができた。 ③ 個別指導対策も兼ねて、指摘事項を中心として、適正な請求・診療録記載点検を実施できた。 ④ 中央区各種健診では、特定健診等301名・子宮がん検診247名・乳がん検診239名と前年実績を上回った。健診の新規契約企業・団体も1,000名規模を含めて4件獲得できた。 <p>(2) 医療経費の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コストマネジメント・プロジェクトでの計画管理を継続し、医療材料物流の効率的運用と経費削減活動の強化のためのSPDや共同購入について効果を検証した。 ② 医薬品の使用状況をモニタリングし、適正使用を推進した。後発医薬品の採用を促進したことにより、後発医薬品使用体制加算2を維持することができた。 ③ 共同購入の推進、購入価格の見直し、不動態在庫の削減、配置在庫の適正化に努めた。 ④ 新外来棟における新規設備導入により省エネを増進した。
5) その他の取組み（特色のある取組みなど）	
<p>(1) 新外来棟・N棟</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新外来棟・N棟について準備を進め、2020年1月に開院する。 ② 質の高い医療を提供するため多職種、診療科の専門性を活かしたチーム医療体制の強化を図る。 ③ 総合周産期母子医療センター指定を目指す。 ④ 救急受入れ時の円滑な院外、院内連携を機能させる。 ⑤ 外来棟・N棟に適応するBCPの改訂版を策定する。自治体および医師会、地域医療機関と連携し、災害時医療の強化に貢献する。 <p>(2) 港区立がん在宅緩和ケア支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ① セミナーなどの開催イベントの種類や開催数を拡大し、施設の知名度と認知度を上げ、相談件数やイベント参加者数の増加を目指す。 ② 医療・福祉・地域包括関連施設の訪問を拡大し、連携の強化と向上を目指す。 	<p>(1) 新外来棟・N棟</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新外来棟・N棟については、2020年1月に順調に開院を迎えることができた。 ② 入退院支援室や手術ケアセンターの新設による入院、術前の支援体制を充実することにより、多職種、診療科の専門性を活かしたチーム医療体制の強化を図ることができた。 ③ 総合周産期母子医療センター指定に向けての準備作業を進めることができた。 ④ 救急部・総合診療部を1Cブロックに集約し、相互連携の強化や救急受入れ時の円滑な院外、院内連携を機能させることができた。 ⑤ 新外来棟・N棟に適応するBCPの改訂版を策定した。新外来棟の1階に災害時対応の各種設備を整えることにより、地域連携に資する体制を整備した。 <p>(2) 港区立がん在宅緩和ケア支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 相談業務とセミナー、講演会等の開催について <ul style="list-style-type: none"> ・がん相談件数は面談と電話により実施し、面談件数が前年度より増加した。 ・その他アピアランス相談や両立支援個別相談のほか、各種セミナーは、全体を通じて前年度より利用者が増加した。 ・広報物の配付や訪問、区内の小中学校などの共同企画などを行ったことにより、港区内における施設の認知度や親しみやすさが向上した。 ② 医療・福祉・地域包括ケアシステム関連の施設訪問を積極的に行い、特に新規で港区の芝歯科医師会、麻布・赤坂歯科医師会、薬剤師会への訪問や、区民講演会の講師派遣依頼など連携の強化を図ることができた。

3-2. 医療 葛飾医療センター	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
1) 医療の質の向上	
<p>(1) 診療機能</p> <p>① 近隣医療機関からの救急・紹介患者は、原則としてすべて受け入れる体制を構築する。</p> <p>② 血管内治療室の増設に伴い、2室の安定的かつ効率的な稼働を推進する。</p> <p>③ がん治療の重点化として、手術・化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療を推進し、がん診療連携拠点病院の申請に向け検討する。</p> <p>(2) 医療提供サービス</p> <p>① 患者満足度調査を実施して患者ニーズを的確に把握し、サービスの向上を推進する。</p> <p>② 外来診察待ち時間の短縮に向けた対策について検討・立案し実施する。</p> <p>③ 退院支援者と医療スタッフがともにアドバンス・ケア・プランニング（ACP）についての理解を深め、院内において実践する。</p> <p>(3) 教育・研修 チーム医療を推進するための人材育成を推進する。</p> <p>(4) 医療施設 施設・設備の効率的な維持管理、機器・備品の効率的な管理および計画的な購入を実施する。</p>	<p>(1) 診療機能</p> <p>① 救急患者受入れに関する基本方針の策定、救急要請に対する対応窓口の集約化、各診療科救急当番医一覧表の作成・運用により、「断らない救急」体制の具現化を図った。</p> <p>② 各診療科との詳細なスケジュール調整により、血管内治療室2室の予定枠設定・配分を行い、効率的な稼働の推進、実施件数の増加、治療時間の適正化につながった。</p> <p>③ がん診療連携拠点病院の指定要件および東京都内の設置要綱や認定病院の分布を確認し、当院の現況と申請の可否について継続検討を行っている。</p> <p>(2) 医療提供サービス</p> <p>① 外来ブロックにおいて、インターコミュニケーションシステム（相互通信機器）を活用し、看護師と事務員の連携によるトリアージナースの運用を拡大した。また、待合スペースでの看護師のタイムリーな声掛けにより、患者に安心感を与えるなど、満足度の向上を図った。</p> <p>② 各診療科ごとに初診担当医の配置や病棟担当医との応援体制などの対策を講じ、待ち時間の短縮を実現した。また、中待合への呼び込みの徹底や、待合ディスプレイへの診察進行状況などの表示により、待ち時間を感じさせない工夫を実施した。</p> <p>③ 外来スタッフ18名がアドバンス・ケア・プランニング（ACP）に係わる研修会に参加した。地域の医療スタッフとの研修会は、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）をテーマに3回実施し、基盤作りを行った。</p> <p>(3) 教育・研修 認知症看護認定看護師を中心に、認知症ケアチーム活動を開始した。また、栄養サポートチーム（NST）研修に看護師1名が参加した。</p> <p>(4) 医療施設 施設・設備の効率的な保全計画を立て、委託常駐設備管理員と連携の上、計画的な管理および整備に努めた。</p>

3-2. 医療 葛飾医療センター	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
2) 医療安全・感染対策の推進	
<p>(1) 医療安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 診療情報共有改善ワーキングを中心とし、関係各科と協働し、検査結果の未読を解消する。 ② 附属4病院会議により安全情報の共有を行うとともに、相互ラウンドによる評価を継続する。 ③ 各部署のTeamSTEPPS活動目標の設定と実践により、チーム医療の強化を推進する。 ④ 患者の状態悪化に迅速に対応できる仕組みの構築と運用を支援する。 ⑤ 研修の企画、開催方法を検討し、研修受講率100%を目指す。 <p>(2) 感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各部署の諸問題に適応した部署別講習会、お互いの気付きの発信により、現場主体の耐性菌対策・抗菌薬適正使用、医療関連感染症対策を強化する。 ② 抗菌薬適正使用支援ラウンドの継続実施で抗菌薬適正使用を推進し患者予後の改善に寄与する。 ③ 清掃スタッフの清掃手技の監視活動を実施する。 ④ 内視鏡ファイバースコープ管理の強化を図る。 ⑤ 委託会社社員、中途採用者を含めた教職員抗体価管理システムを確立する。 	<p>(1) 医療安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 放射線、内視鏡、病理検査結果報告書の未確認状況を各診療部長宛に配付し、報告書確認を徹底するなど、検査結果報告書の未読解消に努めた。 ② 附属4病院会議では、4病院での警鐘事例などの情報共有がされ、安全対策に活かすことができた。また、相互ラウンドを例年通り実施し、厳しい視点での指摘などにより、改善につなげることができた。 ③ 各部署で設定したTeamSTEPPS活動目標について、7月から9月まで実践し、優秀な取り組みを発表する報告会を開催した。結果、各部門での実施内容を共有することができ、チーム医療の強化が推進された。 ④ 看護師による活動を基本として、RRS (Rapid Response System) を構築し運用を開始した。 ⑤ 毎月、基礎研修 (STEP1) と感染対策研修 (Aコース) を同時開催し、受講率向上に努めた。また、2月中旬以降は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、研修会を中止として各部署にDVDを配付し、研修未受講者ゼロにする取り組みを実施した。 <p>(2) 感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 今年度は従来の集合教育に加えて、各現場単位での教育をリンクナースを中心に展開した。各部署の問題に適応した課題を抽出し、シミュレーションを組み込んだ研修を企画することで、より実践に近い教育が実施できた。 ② 薬剤耐性菌の新規検出者は昨年度より微増しているが、低い水準で推移している。また、抗菌薬適正使用ラウンド、薬剤師の介入による不要な広域抗菌薬使用者については、早期な段階でのアラートを行い、適正使用に努めた。感染制御チーム (ICT) の介入により、血培2セット率・TDM介入率も100%に近い状況を維持できていることは高く評価できる。 ③ 委託清掃スタッフに向けて、個別で年度6回の教育の機会を提供した。現場での手技確認については、ヒアリングとインスペクションを実施し、全体的なレベルアップを図った。 ④ 内視鏡ファイバースコープ管理の強化については、薬剤耐性菌検出時の検査管理を重視し、管理強化を図った。 ⑤ 抗体価管理システムについては、委託会社社員を含めて測定およびワクチン接種まで実施することができた。
3) 地域医療連携の推進	
<p>(1) 前方連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療機関訪問ならびに広報活動などを推進し、連携登録医制度の拡充を図る。 ② 紹介元医療機関との信頼関係構築に向け、医師返書率の向上を図る。 <p>(2) 後方連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療機関との連携強化に向け、訪問ならびに交流機会などに積極的に参画する。 ② 病院ネットワークなどを活用した退院支援と逆紹介の適正化を推進する。 	<p>(1) 前方連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 診療部長など、医師の同伴による医療機関訪問を45施設実施した。また、随時新たな広報活動を推進することで、連携登録医制度の拡充を図った。 ② 診療科への定期的な督促ならびに院内周知の徹底により、医師返書率は94.5%と向上した。 <p>(2) 後方連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 後方支援病院 (回復期リハビリテーション、慢性期、後方支援施設など) への訪問計画を立案したが、訪問時期に新型コロナウイルス感染症の影響が重なるなど、拡充を図ることができなかった。 ② 南葛飾 (NK) ネットワーク協議会を活用し、空床情報システムを構築した。

3-2. 医療 葛飾医療センター	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
4) 収支構造の確立	
<p>(1) 医業収支目標の達成</p> <p>① 病院運営会議にて収支状況についての分析を定期的に行い、診療部会議にタイムリーに報告し増収と経費節減に向けた施策について検討・実施する。</p> <p>② 診療報酬請求の精度を高め、現行の低査定率を維持するとともに、請求漏れを防止する。</p> <p>③ 患者圏の調査・分析などからマーケティング活動を実践する。</p> <p>(2) 医療経費の適正化</p> <p>① SPD委託会社の附属4病院統一化に伴うベンチマークなどにより、医療経費の縮減に努める。</p> <p>② 医薬品の適正使用ならびに後発医薬品の採用を促進する。</p>	<p>(1) 医業収支目標の達成</p> <p>① 経営指標をモニタリングし、運営会議および診療部会議で収支状況などの分析報告を定期的に行った。また、四半期ごとに診療科別診療実績を各診療部長に提示し、診療部長面談などを活用して、今年度の増収項目について働きかけを行い、成果を得ることができた。</p> <p>② 査定状況を分析し、関係委員会にて診療科へ直接フィードバックするとともに、査定の多い薬剤は処方制限を設けるなどの対策を講じ、低査定率を維持した。</p> <p>③ 患者圏調査を行い、周辺地域の人口変化や医療機関の分布をもとに当院の患者層の分析を行った。</p> <p>(2) 医療経費の適正化</p> <p>① SPD委託会社の附属4病院統一化に伴うベンチマークの効果により、医療経費の縮減に努め成果が得られた。</p> <p>② 処方カレンダーシステムの導入および入院中止処方の再利用可否の判別を行い、病棟からの返却薬を縮減した。また、処方オーダー時の処方量上限チェックシステムとB型肝炎再活性化予防システムの構築、抗生物質や抗真菌剤、抗悪性腫瘍剤などの処方日数（投与期間）の上限値設定を行い、医薬品の適正使用と安全性を確保することができた。後発医薬品は15品目の切替を行い、後発医薬品数量割合は80%越えを堅持している。</p>
5) その他の取組み（特色のある取組みなど）	
<p>(1) コンプライアンス・ガバナンス強化</p> <p>① 次回の病院機能評価受審に向けた組織をあらためて設置し、改善事項などについて確認・検証していく。</p> <p>(2) 災害対策</p> <p>① 区や地域との防災訓練に参加し、地域支援・連携体制を強化する。</p> <p>② DMAT機能維持訓練（研修）へ積極的に参加する。</p> <p>(3) エネルギーの消費削減</p> <p>① 東京都温室効果ガス排出総量削減率（東京都削減目標）について、2019年度は排出基準量に対し13%削減（東京都条例）を達成する。</p> <p>② 夏季のピーク電力調整カットの基準値をクリアし、光熱費の節減を図る。</p>	<p>(1) コンプライアンス・ガバナンス強化</p> <p>① 病院機能評価受審に向けて事務局を立ち上げ、中間自己評価である「期中の確認」を各部門に確認し作成することができた。また、「期中の確認」を通して、前回の病院機能評価における課題事項が少しずつ改善されている状況を確認することができた。</p> <p>(2) 災害対策</p> <p>① 近隣自治会の防災訓練に参加し、地域の防災意識の向上に寄与することができた。さらに、「葛飾区災害拠点病院連携会議」および腎臓・高血圧内科が中心となって活動している「東京都区部災害時透析医療ネットワーク」へも積極的に参加し、地域支援・連携体制を強化した。</p> <p>② 首都直下地震を想定した「政府訓練」にDMAT隊を派遣した。また、台風15号および台風19号の発生に伴い、東京都からのDMAT派遣要請を受け、救急部医師を千葉県、福島県にそれぞれ派遣した。</p> <p>(3) エネルギーの消費削減</p> <p>① 東京都温室効果ガス排出総量削減率（東京都削減目標：13%削減）について、今年度は排出基準量に対し22%の削減を達成することができた。</p> <p>② 夏季のピーク電力調整カットは基準値をクリアし、光熱費の節減に成果が得られた。</p>

3-3. 医療 第三病院	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
1) 医療の質の向上	
<p>(1) 救急応需の連絡体制を点検し搬送連絡時間短縮策を講じる。特に休日夜間帯の強化を図る。</p> <p>(2) 安全かつ効率的に手術室を運用し、年間手術件数6,000件の達成ならびに緊急手術の対応を整備する。使用しない各科手術枠を事前把握し、60%以上の稼働率を維持する。</p> <p>(3) 「地域がん診療連携拠点病院」の認定を視野に北多摩南部医療圏における拠点病院との連携・相乗効果を創出する。</p> <p>(4) 狛江市による認知症初期集中支援チームをサポートする。</p> <p>(5) ホームページの充実等により相談体制を強化することで医療提供サービスを充実させる。</p> <p>(6) 院内外の講演会、勉強会実施を院内外へ広報し、総合診療専門医採用に向けた活動を活発化させることで、総合医療研修センター機能を充実させる。</p>	<p>(1) 救急搬送数は3,900件（前年比+110件）となった。しかしながら、ウォークイン患者数については減少しているため、抜本的な救急医療体制改善を目的に救急医療改善対策ワーキンググループを発足させ検討を開始した。</p> <p>(2) 手術件数は5,804件（前年比-324件）となった。手術枠については稼働の低い診療科枠の見直しを行い、手術件数減ではあるが、稼働率59%と昨年度同等の稼働率を維持している。</p> <p>(3) 東京都がん診療連携拠点病院の設置要綱の一部改正により、基準が地域がん並みに引き上げられたため、病院として必要な人員を配置した。北多摩南部4病院連絡会では「就労支援」を共通テーマに、当院からはがん相談員が発表を行い、より良い患者サポートについて意見交換した。今年度の北多摩南部・北部の病院相互評価は、会議形式を初めて採択し、公立昭和病院にて一堂に会し、「口腔ケアの充実」を共通テーマにPDCAの取り組みを発表、互いに評価を行った。</p> <p>(4) 今年度初めての試みとして夜間相談会を年3回開催、狛江市の委託により「家族介護者の困りごと調査」を脳神経内科、脳神経外科、精神神経科協力のもと行った。高齢者の介護や介護していた家族のためのリフレッシュ講座を年1回開催、近隣の医療関係者・狛江市関係者・教職員参加の認知症研究会を年2回開催した。</p> <p>(5) 半期ごとに、ホームページを最新の情報に更新した。</p> <p>(6) 第4回総合診療セミナーでは専攻医1年目からキャリアを積んだ医師にいたるまで、幅広い世代からの講演を企画し、大変実りあるディスカッションが行われた。卒業キャリアについて多角的な可能性を考えられる場となり、医学生にも「総合診療」という選択肢を提供することができた。</p>
2) 医療安全・感染対策の推進	
<p>(1) TeamSTEPPS研修の継続と内容の充実を図る。</p> <p>(2) 医療安全・感染対策研修会の受講者向上を図り、安全で安心な医療を提供する。</p> <p>(3) 患者情報の共有の促進により適正な治療が提供できるようにする。</p> <p>(4) 手指衛生指数の15以上を維持する。</p>	<p>(1) TeamSTEPPS研修はエッセンシャルコース2回、アドバンスドコースを3回実施し、計124名が受講した。新型コロナウイルスの影響でエッセンシャルコース1回が中止となった。</p> <p>(2) 医療安全・感染対策研修会の受講率は、医療安全については2回以上の出席が93.6%で目標の80%以上は達成した。また研修内容も基礎研修3種、選択研修20種と多岐に渡った。しかし感染対策研修会は89.7%と課題が残った。</p> <p>(3) 患者情報の共有の促進については、2019年2月より開始し、未読・既読状況を診療部会議で報告している、既読率は70%を超えている。</p> <p>(4) 手指衛生指数の15以上を維持することに関しては今年度18.7と目標に達しているが、今後も更に継続ができるようにする。</p>
3) 地域医療連携の推進	
<p>(1) 地域連携システムの活用により、紹介率の向上を図る。紹介件数の多い医療機関に対しweb予約システム導入を働きかけることや、導入済みでありながらweb予約件数の少ない医療機関へ訪問しご意見を伺うなど問題点の洗い出しと対策実行により、利用件数の増加を図る。</p> <p>(2) 後方連携においては、近隣医療機関訪問により対象医療機関の拡充を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介患者報告書未発行の患者リストを作成、診療部長宛に通知し、未発行数の減少、紹介元への逆紹介の推進を図り、紹介患者数増加に努めた。 ・患者数の減少している診療科に対し減少の理由や今後の方策についてアンケートを実施し患者数増加に努めた。 ・新たに、申請のあった13名の会員を第三病院登録医として認定し前方連携医療機関増加を図った。 ・整形外科の紹介件数が多い医療機関でweb予約を実施していない医療機関に訪問する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により訪問が延期となった。 ・後方連携病院へ訪問し各病院の特色をリストアップし、拡充を図った。

3-3. 医療 第三病院	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
4) 収支構造の確立	
<p>(1) 2019年度に設定した医療収入、医療収支予算を達成する。</p> <p>(2) DPCデータやデータウェアハウスなどから得られた情報を分析し、医療経費（医療経費率32.0%）の適正化を図る。</p>	<p>(1) 予算に対し、99.3%と未達成となった。手術件数の未達、入外患者数の未達が大きな要因である。</p> <p>(2) DPCデータやデータウェアハウスを活用し、各診療科の分析などを行った。それを院長面談時にフィードバックすることや運営会議における経営戦略会議に活用し、増収に向け取り組んだ。その結果、予算達成はできなかったが、前年比102.4%の増収となった。なお、経費率は33.4%であった。また、外来常備薬品を、定数配置管理方式（薬品の品目、配置数）、電子カルテを用いた「定数配置薬請求表」による請求法導入により、定められた薬品が定数範囲で適正に管理される体制を整備した。</p>
5) その他の取組み（特色のある取組みなど）	
<p>(1) 共感と思いやりに基づく医療(Empathy Based Medicine)の推進 外部講師を招いて教職員研修年2回、院長からのメッセージとして行動目標を院内報、イントラ、メールで各4回配信周知、医師転入時に行動目標の書面を配付など、教職員への浸透に努める。</p> <p>(2) 新病院建設プロジェクト 新病院リニューアル準備委員会を中心に上部組織であるプロジェクト会議にて承認を得ながら基本計画、基本設計を構築する。(設計事務所の選択)</p> <p>(3) 災害拠点病院としての機能強化 BCP改定、災害時救護所訓練等各種訓練を実施する。それに伴うマニュアルを作成する。</p>	<p>(1) 教職員研修（年3回実施） 第1回：アンガーマネジメント研修：9月24日 第2回：医療システムのヒューマンエラー対策研修：12月16日 第3回：医療現場における5S活動研修：2月19日 ・院内報（年4回発行）：6月29日、9月30日、12月25日、3月25日 ・共感と思いやりに基づく医療の推進ポスターリニューアル：6月20日</p> <p>(2) 2019年11月14日に設計事務所選定プレゼンテーションを実施し、最優秀交渉権者が山下設計に決定、12月1日に契約を締結した。新第三病院建設プロジェクト統括委員会・プロジェクト委員会より各種ワーキンググループ・スモールワーキンググループを整備し、組織体制を整えた。2020年8月を目途に基本計画策定作業を進めている。</p> <p>(3) BCPおよび大規模災害対策マニュアルについて、大幅な改定を実施した。また、訓練においては、6月19日、2月21日に消火避難訓練を、12月15日に緊急医療救護所設置訓練、9月7日に大規模地震時医療活動訓練、その他EMIS講習会5回、安否確認訓練1回を実施した。</p>

3-4. 医療 柏病院	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
1) 医療の質の向上	
<p>(1) 診療機能</p> <p>① 中央手術室の稼働率を維持しながら、緊急手術の受け入れ体制を整備する。手術室ストップの低減対策、外来手術センター利用促進、土曜日手術の実施を推進する。</p> <p>② ICUの効率的運用（適正稼働）対策と集中治療体制の整備を図る。</p> <p>③ 一般病棟での重症患者の対応力を向上する。</p> <p>④ チーム医療に有効であり、患者参画を促すクリニカルパスを作成し活用する。</p> <p>⑤ 大学病院として、先進医療をはじめ、新たな診断・治療・医療技術の実施体制を整備する。また、治験と臨床研究を適切に実施するため、審査・実施体制の整備と院内周知を徹底する。</p> <p>(2) 医療提供サービス</p> <p>① 患者サービスを向上するため、アメニティの改善、外来待ち時間の短縮、分散会計の導入などを検討、実施する。</p> <p>② 広報を充実し、病院機能情報をわかりやすく提供するため、ホームページの改善、地域医療機関への情報提供を実施する。</p> <p>(3) 教育・研修</p> <p>① 医療安全をはじめとする研修内容の充実と各部門で実施している各種勉強会を病院としてサポートする。</p> <p>② 医療者として、患者視点での接遇マナーを実践し、言葉使いや身だしなみを整えるため、指導や相互チェックを行う。</p> <p>③ 個人情報や診療情報の取扱いに関する問題点や危険性を周知し、事故や漏洩を防止する。</p> <p>④ 適正な保険診療を実施するため、講習会などを開催し、あわせて実践的な教育を実施する。</p> <p>(4) 医療施設</p> <p>① 個室・2人床室等の病棟改修、放射線治療装置（リニアック）の更新、CT増設を遅滞なく実施する。</p> <p>② 第二次将来構想検討委員会を再開し、中長期的な整備計画を立案する。</p>	<p>(1) 診療機能</p> <p>① 関連部署と協働して手術室ストップ理由を分類した。また、外来手術センターの利用促進のため手術枠の見直しを行った。</p> <p>② ICU、CCU、HCUのそれぞれの機能の活用と連携を図り、効率的な運用を進めた。また、治療方針（退室等）の決定時間の徹底、ICU専任医師の配置、早期離床・リハビリテーション開始、ICU専任医師の権限変更などにより、円滑なICU運営につなげた。</p> <p>③ 一般病棟では、昼間帯のうちにICUからの退出患者を事前把握し準備を行う体制を構築した。また、ネイザルハイフロー呼吸療法対応可能部署を増加した。CCO、RRSのコンサルトを積極的に実施し、病棟の安全性向上を図ることができた。</p> <p>④ 医療者用クリニカルパスと患者用クリニカルパスを併せて作成し運用することをルールとし、クリニカルパスの新規作成や内容の見直しを行った。新たに「大腿骨近位部骨折術後転院クリニカルパス」を開始した。患者参画を促すため、PFMと連携し、活用を図った。</p> <p>⑤ 臨床研究実施確認委員会（2回/月）、治験管理委員会（1回/月）により審査の徹底を継続した。先進医療については、新たに「眼科・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」が承認となり、運用を開始した。</p> <p>(2) 医療提供サービス</p> <p>① 外来の検査説明を患者支援センター（S1）での実施から、事務員が各外来で実施する運用に変更した。また、トランシーバーを活用し混雑時に流動的に人員を配置することで待ち時間短縮につなげた。</p> <p>② 73施設の連携登録医療機関を追加登録し、あわせて、2人主治医制についてホームページに掲載した。また、先進医療、被災地支援など随時最新情報をホームページに掲載し情報提供を行った。</p> <p>(3) 教育・研修</p> <p>① 各種研修会、勉強会を病院としてバックアップした。</p> <p>② 医師の身だしなみチェックを実施、診療科別に評価した。</p> <p>③ 個人情報問題発生事例について発生の原因、メカニズムを分析し、今後の発生防止策について、発生部署へフィードバックした。院内研修会を実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響で見合わせとなった。</p> <p>④ 本院（附属病院）医療保険指導室室長による保険診療講習会を開催した（1月28日）。</p> <p>(4) 医療施設</p> <p>① 個室・2人床室等の病棟改修、放射線治療装置（リニアック）の更新、CT増設を予定通り実施した。</p> <p>② 臨床工学部と循環器血管撮影室の移転および手術室2室の増室計画を策定した。</p>

3-4. 医療 柏病院	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
2) 医療安全・感染対策の推進	
<p>(1) 医療安全</p> <p>① 関連部門、部署との協働により、診療情報の共有について推進を図る。</p> <p>a. 検査結果未読リストの活用による未読件数を削減する。</p> <p>b. 患者に対する検査結果（画像診断・病理・内視鏡）を交付する。</p> <p>② チーム医療の強化と質の向上を推進する。</p> <p>a. 患者・家族への「説明と同意」の質の向上、患者の状況にあわせた合併症率の記載を増加する。</p> <p>b. TeamSTEPPSエッセンシャルコースの継続と、活用事例の報告を行う。</p> <p>c. 侵襲性のある医療行為時のブリーフィング、タイムアウト実践事例を増加する。</p> <p>d. 教職員一人一人が患者安全のための行動に結びつく研修を企画し実践する。</p> <p>e. RRS、CCOの推進による患者の急変兆候の早期発見と早期介入、およびスタットコール事例を減少させる。</p> <p>(2) 感染対策</p> <p>① 研修会の開催、ICTラウンド、リンクナース活動運営などにより、基本的な感染対策の教育、評価を行う。</p> <p>② 抗菌薬適正使用支援チームとして積極的な介入を行い、抗菌薬の使用量を減少させる。</p> <p>③ 医療関連感染サーベイランスを継続し、評価、改善策を実践する。</p> <p>④ 血液体液曝露事例を分析し改善策を実施する。</p> <p>⑤ 教職員の抗体価、ワクチン接種日が記載された個人カードを作成し配布する。</p>	<p>(1) 医療安全</p> <p>① 画像診断・病理検査結果の既読管理および患者交付用の検査レポート出力の運用開始に主眼を置き、検討を行った。交付用レポートの出力については、当面の間は内視鏡検査・病理検査（細胞診）のみ交付を行うこととなり、2020年1月より開始した。結果を説明することは医療者の責任であり、患者との情報共有であることを啓蒙し続ける。</p> <p>② 手術や治療、処置を実施するにあたり、患者固有のリスクを加味した説明を開始した。TeamSTEPPSの考え方は、事例検討や研修会等を学びの場として継続して実践した。医療安全に関する研修会は、開催時間や内容の工夫をしながら実施した。NEWS2スコア、RRS発令基準を使用しながら、患者の変化を早期に察知し対応するためのCCOの運用が定着してきた。導入後、スタットコール事例件数の減少、中でも心肺停止での院内急変事例が減少傾向である。</p> <p>(2) 感染対策</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症の発生により1月以降の研修が中止となっており、現在DVD視聴とレポート提出により受講を進めている。</p> <p>② 抗菌薬適正使用支援チームでの活動を通し、カルバペネム系抗菌薬のAUDは前年度（2018）比較で、37.6/月から36.1/月へ、注射抗菌薬全体でのAUDは241/月から234/月へ使用量を減少させることができた。</p> <p>③ 各サーベイランスの評価、分析は不十分であった。改善策を検討する。</p> <p>④ 粘膜汚染は減少したが、針刺し件数は増加した。特に手術室での事例が大きく増加した。</p> <p>⑤ 他の附属病院からの転入者の抗体価不明が散見しており当院で検査、ワクチン接種を実施した。</p>
3) 地域医療連携の推進	
<p>(1) 前方連携</p> <p>① 地域医療支援病院会議を定期的に開催し、地域での情報共有を図る。</p> <p>② ホームページや広報誌などを用いて、当院の診療機能についての積極的な情報提供を推進する。</p> <p>③ web予約の拡大やFAX予約の簡便化を図り、他医療機関に対するサービスを向上させる。</p> <p>(2) 後方連携</p> <p>① 病院訪問をより積極的に行い、後方支援病院の新規獲得を促進する。</p> <p>② 連携登録医の情報をホームページにリンクするなど、逆紹介を行いやすい環境を構築し、2人主治医制を推進する。</p> <p>③ 地域包括ケアシステムを推進するため、積極的に地域の会議に出席し、近隣の医師会、行政との連携を強化する。</p> <p>④ 緩和ケアパス・がん地域連携パスを活用し、地域での連携を推進する。</p>	<p>(1) 前方連携</p> <p>① 地域医療支援病院運営委員会を定期的に開催した。当院の災害拠点病院としての活動等、地域での活動内容の報告などを行った。</p> <p>② ホームページや広報誌などを用いて、2人主治医制や連携登録医療機関制度の紹介等地域連携の取り組み、当院の診療機能について情報提供を行った。連携登録医療機関のホームページ掲載は73医療機関を新規掲載した。</p> <p>③ web予約システムの新規導入医療機関を9つ増やした。またFAX予約の患者に対する直接通知を開始した。</p> <p>(2) 後方連携</p> <p>① MSW・救急科医師等による病院訪問をより積極的に行い、後方支援病院の連携強化を図った。</p> <p>② 連携登録医療機関のホームページ掲載と2人主治医制のポスターを作成した。</p> <p>③ 地域包括ケアシステムを推進するため、柏市地域連携セミナーへ積極的に参加した。柏市主催の「地域包括ケアシステム研修会」を柏病院内で開催した。</p> <p>④ がん地域連携パスの活用を継続し、前年度実績21件から67件に増加した。新たに口腔ケアパスを開始した。</p>

3-4. 医療 柏病院	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
4) 収支構造の確立	
<p>(1) 医療収支</p> <p>① 医業収支目標の達成</p> <p>a. 各診療科の患者数・収益状況などを適時把握、分析し、迅速な対応が可能な情報共有・改善推進体制を構築する。</p> <p>b. 医事分析ソフト（ヒラソル）を活用した原価計算を行い、医療収支・費用対効果についての理解を進める。</p> <p>c. DPC データを活用し、疾病構造や診療内容の分析を行うとともに、DPCに対応したクリニカルパスの作成を推進する。</p> <p>d. 看護職員夜間配置加算や急性期看護補助体制加算の取得に向け、適正人員の把握と重点配置を検討する。</p> <p>② 医療経費の適正化</p> <p>a. 薬品や材料の使用状況と医療収入を適時確認し、無駄の排除とともに確実な保険請求につなげる。</p> <p>b. 共同購入の推進、購入価格の見直し、不動態在庫の削減、配置在庫の適正化を行う。</p>	<p>(1) 医療収支</p> <p>① 医業収支目標の達成</p> <p>a. 各診療科の患者数・収益状況を毎月報告するなど、迅速な情報提供を行い共有・改善推進体制を構築した。</p> <p>b. 後発医薬品使用体制加算について、医事分析ソフト（ヒラソル）を活用し、医療収支・費用対効果を調査し計画的に変更を行った。</p> <p>c. DPC 調査データを分析し、診療パターンおよび頻度について評価した。当該情報をもとに診療科にクリニカルパス適用の有無を調査した。</p> <p>d. 1病棟の夜勤看護師を4名とするよう配置転換等を実施した。1フロアで1名の配置増員は実施できたが、夜間配置加算のレベルアップはできなかった。</p> <p>② 医療経費の適正化</p> <p>a. 薬品や材料の使用状況と医療収入を定期的に確認し、疾病単位の使用と比較し無駄の排除とともに確実な保険請求につなげるよう努めた。</p> <p>b. 医材・物流ワーキンググループで共同購入品への切替えを実施し、不動態在庫については各診療科に使用有無の確認を行い削減に努めた。 次年度は医療経費率低減が重要な課題となるため、さらに各診療科、関連部署と検討する。</p>
5) その他の取組み（特色のある取組みなど）	
<p>(1) プロジェクト</p> <p>① 第二次将来構想検討委員会を再開し、手術室効率化とICU改革、循環器血管撮影室（3階）、血管撮影室（1階）について検討する。</p> <p>② 一般病床の重症度を検証し、重症病床（ICUなど）との効率的な連携を図る。</p> <p>③ 外来患者の対応プロセスを検証し、患者待ち時間の短縮と医師の業務負担の軽減を実現する。</p> <p>④ 診療センター化構想を検討する。</p> <p>(2) 災害対策・支援 BCP（事業継続計画）の改定とDMAT（災害派遣医療チーム）体制の整備、およびラビッドレスポンスカーの導入を検討する。</p> <p>(3) その他</p> <p>① 医師事務支援業務を積極的に拡大する。</p> <p>② 省エネルギー支援業務を導入し、光熱水費を低減する。</p>	<p>(1) プロジェクト</p> <p>① 診療情報室と臨床工学部の移転・血管撮影室の整備計画・手術室の増室計画スモールワーキンググループを設置した。2020年度以降の運用開始に向け検討している。未解決となるICUと血管撮影室（1階）については、今後の検討課題とした。</p> <p>② 一般病床の重症度を検証し、CCO、RRSを活用、併せて重症病床との連携を図った。</p> <p>③ 外来の検査説明を患者支援センターから外来診療スペースで実施する運用に変更し、患者の動線短縮、診療のスピード向上につなげた。</p> <p>④ 診療センター化構想については、病床を集約化することを重点に進めた。</p> <p>(2) 行政機関、他医療機関も参加した院内大規模災害訓練を実施した。災害拠点病院としての今後の課題について確認した。また、関東地方を直撃した台風発生時、DMATチームを派遣し、被災病院からの患者搬送などの対応を行った。 BCPは内容の充実化の更新版を策定中である。 ラビッドレスポンスカーは、対応する医療スタッフの配置など、通常の院内診療体制との両立について検討を要するため、引き続き検討することとした。</p> <p>(3) その他</p> <p>① 医師事務支援業務については、診療科医師にアンケート調査を実施しニーズを確認した。次年度以降業務拡大の検討を進める。</p> <p>② 省エネルギーについては、業務支援会社からの当初提案内容に齟齬があり、現実的な方策が示されなかったため実施できなかった。</p>

4. 管理・運営	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
1) 人的資源管理	
<p>(1) 中長期的な展望を視野に入れた計画的な採用を行い、良質な人材を確保する。また、新外来棟、N棟オープンに向け各職種の要員計画を立案し、適正数を採用、配置する。あわせて、研修制度を強化し、持続的な発展を担う人材の育成を行う。</p> <p>(2) 過去の労働生産性向上活動における各部門の成果、改善手法を広く共有、自部署の活動に活かす取り組みや部署を超えた連携強化を図る取り組みを推進することで、大学全体の労働生産性向上に貢献する。</p> <p>(3) ハラスメント対策を構築し職場環境の整備を行う。</p> <p>(4) 福利厚生の実施を図るために教職員の健康維持・増進、施設整備および互助会事業の充実を図り、教職員のモチベーションの向上につなげる。</p> <p>(5) 法人と各附属病院と連携を図りながら、現状調査・分析結果などの情報を共有しながら職場の実状にあわせて働き方改革を推進していく。</p>	<p>(1) 新外来棟、N棟オープンに向け必要な人員は確保できた。運用に応じた適正数については、引き続き検証が必要である。また、研修については、新人研修や階層別研修の見直しを行った。今後は選抜研修や管理職研修の見直しを行っていく。</p> <p>(2) 過去の労働生産性向上活動の成果や改善手法については、委員会を通じて共有することができた。部署を超えた取り組みは一部では行えたが、さらなる推進強化を行い、大学全体の労働生産性向上につなげていく。</p> <p>(3) ハラスメント防止規程の整備を行った。次年度はハラスメント研修を実施する。監督職、管理職には定期的に研修を行うことが重要となる。また、若年層の世代にも視点を変えて別に研修を行う必要がある。</p> <p>(4) 福利厚生の実施を図るため、契約保養施設33か所の契約継続を行い健康維持・増進に努めた。現在の制度を維持するため、扶養認定外家族への補助を今年度より対象外とした。大学の支出抑制を行いつつ福利厚生サービスの低下にならないよう調整を行った。前年度より利用者が増加したものの支出を抑制することができた。保養施設の利用者からの声として満足したとの意見が多く寄せられたのは良かった点である。また、互助会人間ドック利用補助対象施設について、晴海トリートメントクリニックを追加することとなり、新橋健診センターと合わせて利便性が向上した。</p> <p>(5) 各部署の現状に合わせ、有給休暇の取得推進に取り組んだ。今後は変形労働時間の活用も推進し、さらなる働き方改革を推進していく。</p>
2) 財務の安定化	
<p>(1) 計画的な財務管理</p> <p>① 前年度決算ならびに将来の投資計画を踏まえ長期資金計画を見直す。</p> <p>② 前年度決算結果を予算と執行額の乖離を中心に点検し、次年度予算の精度を向上させる。</p> <p>(2) 経費抑制活動の推進</p> <p>高額診療機器の附属4病院一括購入、医療材料の附属4病院共同購入および標準化の推進、診療機器保守契約の包括契約などにより医療経費を抑制する。</p>	<p>(1) 計画的な財務管理</p> <p>① 夏季常任理事会で今後15年間の投資計画を検討し、資金的な裏付けを確認した。</p> <p>② 2020年度予算作成に際しては、2018年度決算、2019年度予算および決算見込の点検を行った。</p> <p>(2) 経費抑制活動の推進</p> <p>高額診療機器については4機関一括購入により、一次見積5億500万円に対して1,120万円の削減となった。消費増税が確定していなかったため予算を8%で計上していたこともあり削減額は目標より減少した。医療機器の保守契約については、包括契約による削減額が約2,000万円、それ以外に新外来棟更新予定機器の設置までの期間における現行機器の保守契約を見直した結果、合計5,300万円の大幅な削減となった。医療材料についてはSPD統一効果および4機関共同購入により約2,500万円の削減となる見込みである。</p>

4. 管理・運営	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
3) 社会的な信頼向上	
<p>(1) コンプライアンスの徹底</p> <p>① 監事の活動を監査室が積極的に支援する。</p> <p>② モニタリングやリスクアプローチ監査を導入し、効率よい内部監査を行う。</p> <p>(2) ガバナンス関連 寄附行為ならびに関連規程類の検証を行い、法人運営の効率化と改善を図る。</p> <p>(3) 災害対応体制整備 N棟ならびに新外来棟に適應する災害対策・災害対策訓練・マニュアル類の整備と周知を図る。</p>	<p>(1) コンプライアンスの徹底</p> <p>① 今年度より、教学監査を監事監査の対象としたため、教学監査（医学科、看護学科）実施計画を策定し、計画通りに実施した。初年度は特に「入学試験、学生の満足度」について重点的な監査を実施した。また、新任監事に対しては、監事および監査関連規程類を使用しながらの情報交換の場を複数回設け、積極支援に努めた。</p> <p>② 公的研究費モニタリング（期中監査）の一環として、消耗品の現物確認を新規に実施し、内部監査の拡充を図った。</p> <p>(2) ガバナンス関連 寄附行為ならびに関連規程類の検証を行い、法人運営の効率化と改善を図ったが、次年度も引き続き実施し改善を図る。</p> <p>(3) 災害対応体制整備 N棟ならびに新外来棟のオープンに伴い、災害対策・災害対策訓練・マニュアル類の整備と周知を図った。次年度も引き続き整備と周知を実施していく。</p>
4) 広報戦略	
<p>(1) 本学の事業計画、先進的医療および研究内容などをステイクホルダーにあわせ、戦略的な情報発信を展開する。</p> <p>① 西新橋キャンパス再整備計画（新外来棟・小児・周産期医療センター開設（2020年1月））に向けた戦略的広報を推進する。</p> <p>② 附属病院（本院）ホームページリニューアルを完成させ、本院以外のホームページ改定に向けた準備を進める。</p> <p>③ 慈恵大学の統一したイメージを確立するため、大学の視覚表現（VI＝ビジュアル・アイデンティティ＝ロゴマーク・シンボルマークなど）の構築をサポートし、本学のブランディング戦略を強化する。</p> <p>(2) 学術リポジトリを通して、本学の研究成果を公開し、研究活動の認知度を向上する。</p> <p>(3) 教育・研究年報や英文研究年報の発行により、本学の教育・研究業績を公表する。</p> <p>(4) 本学の歴史に関する情報をインターネットや院内掲示で公開する。</p> <p>(5) 史料室所蔵資料のデジタル化を進め、オンライン版史料室作成を計画する。</p>	<p>(1) 西新橋再整備プロジェクト広報ワーキンググループにおいて、新外来棟・母子医療センター（N棟）開設に係る広報活動を展開した。①患者向けリーフレット制作・配布②病棟告知パネル制作・掲示③デジタルサイネージ、病室TVでのPRコンテンツ放映④医療情報誌「頼れるドクター」制作⑤港区役所封筒広告制作⑥産経新聞紙面広告掲載⑦駅看板・バス広告制作⑧新橋ファロシティビジョン放映コンテンツ更新⑨プロモーション動画制作⑩港区芝地区地域情報誌記事制作⑪敷地外外構名称誘導サイン改修⑫慈恵オリジナルカラー販促リーフレット制作など計画的広報を実施することで、再整備計画の周知が図られた。なお、VI（ビジュアル・アイデンティティ）については、新病院施設建築に伴う広報活動において、新たな慈恵の誕生を印象づけるロゴ「JIKEI 2020 REBORN」を作成し、各種広報媒体に利活用することによってイメージ戦略を展開した。12月28日に本院ホームページをリニューアル公開した。新サイトでは①デザインの全面刷新（スマートフォン等のデバイス対応）②コンテンツの全面見直し（先進的な医療情報を発信する新コンテンツや慈恵の医療を分かりやすく表現したブランド訴求コンテンツ追加）③新機能の導入（病状・病名から最適な外来を案内する検索機能追加）を行うことで、本学のブランドイメージ確立の浸透ツール機能が大幅に向上し、各ステイクホルダーとのコミュニケーション強化が図られた。</p> <p>(2) 学術リポジトリに、大学発行誌（Jikeikai Medical Journal/東京慈恵会医科大学雑誌）掲載記事（1件）、教育・研究年報2018年版掲載報告（80件）、英文研究年報2018年版掲載報告（80件）、学位論文（165件）を登録し、教育・研究業績を公表した。</p> <p>(3) 教育・研究年報と英文研究年報の2018年版を12月に発行し、その後、両年報の内容を学術リポジトリに登録し、インターネット公開した。</p> <p>(4) 本学の歴史に関する情報のインターネットへの新規公開はなかった。院内掲示・配布物に関しては、N棟掲示物の案について管理課と意見交換をしたほか、「学祖・高木兼寛先生生誕170年記念講演会（6月3日）」の冊子、教員・医師、職員の各種研修資料に掲載する歴史に関する情報を提供した。</p> <p>(5) 史料室所蔵の卒業アルバム2冊（昭和25年（1950）、大正7年（1918））をデジタル化した。オンライン版史料室の作成に関しては、ホームページ上での史料室案内にとどまり、継続課題である。</p>

4. 管理・運営	
2019年度主要事業計画	2019年度 実施結果
5) 情報管理システム	
<p>本年度は既に一部の部署で運用しているデジタルペーパーシステムの導入拡大を行う。拡大範囲は「問診票」（電子カルテ）、「医学科共用試験」（試験）、「歯科レセプト審査」（医事）を予定しており、電子化によるスキャン作業や試験結果のデータ入力不要などの運用簡素化を図る。また、附属病院・第三病院においては、スキャン文書を原本とすべく「タイムスタンプシステム」の導入を行い、「同意書」などの原紙廃棄を含め管理方法の見直しを図る。</p> <p>バックアップシステムについては、今年度附属病院を対象として上半期（9月末）までに導入・運用を開始し、例年11月に実施される「港区災害医療合同訓練」において、システム障害を想定した運用訓練を実施する。システム稼働状況可視化については、メーカーとともに仕様検討・開発を進め、年度末までの導入を目指す。</p>	<p>各種書類の電子化に向けてデジタルペーパーを用いた「医学科共用試験」および「歯科レセプト審査」の電子化を実施した。実施により、従前行っていた記載内容の転記やデータ入力作業、また帳票の印刷作業などが削減され業務省力化に寄与した。なお、「問診票」は試験運用を開始したものの、新外来棟・N棟開院作業により一旦中断とした。</p> <p>用紙による原本管理方法の変更に向けて附属病院、第三病院において「タイムスタンプシステム」の運用を開始した。運用開始に伴い、スキャン文書を原本とすることから、新たに策定した規程に従い、保存期間超過文書については順次廃棄することとしている。</p> <p>病院情報システムの大規模障害を想定して、院外データセンターに退避している各種診療データの参照確認を「港区災害医療合同訓練」に併せて実施した。参照状況は良好であり、他3機関への導入準備を進めることとしている。</p> <p>システム稼働状況については電子カルテ・医事会計システムなど主要システムでの可視化を実装した。</p>
6) 施設設備	
<p>(1) 西新橋キャンパス全体を視野に入れた建築計画策定</p> <p>① 新外来棟の施工を遅滞なく進め、新外来棟・北棟（N棟）・中央棟1階救急部を同時オープンする。</p> <p>② 中央棟・E棟等既存棟の改修工事を2020年1月より着工する。</p> <p>③ 新大学本館（仮称）建築計画を作成する。</p> <p>(2) 4病院長会議、マスタープラン懇談会を通じて教育、研究、医療、管理・運営に関する将来の事業計画を確認する。</p>	<p>(1) 西新橋キャンパス全体を視野に入れた建築計画策定</p> <p>① 救急部は中央棟1階へ2019年12月27日（金）に移転し、新外来棟・N棟は2020年1月4日（土）に計画通りオープンした。</p> <p>② 中央棟・E棟等既存棟は2020年1月4日（土）より改修工事に着手した。</p> <p>③ 新大学本館計画地であるABC棟の使用計画検討のための情報を整理した。</p> <p>(2) 国領キャンパスにおける医学科・看護学科の将来の教育の在り方を踏まえ、国領キャンパス全体のローリング計画に着手した。</p>
7) 事業方針	
<p>(1) マスタープラン 第三病院リニューアルの基本構想、基本計画および国領校舎の建築計画に伴う構想などを策定する。</p> <p>(2) 事業計画の推進 2019年度における各機関が設定した事業計画およびKPI（Key Performance Indicator）について、BSCや各部署の業務目標との連動性を検証し、設定した年度事業計画が達成できるよう支援する。</p>	<p>(1) マスタープラン 第三病院リニューアル構想が認可され、12月から設計事務所とコンサルタント会社による基本計画の策定に着手した。同時に、医学科・看護学科などを含めた国領キャンパス全体のローリング計画を設計事務所が担当することとなり、現在、ヒアリングを行いながら、2020年8月までには完成予定となっている。</p> <p>(2) 事業計画の推進</p> <p>① KPI56項目に対して目標達成が37項目となり達成率66.1%となる。</p> <p>② 85部門のBSCのKPIの達成状況を検証するまでには至らなかった。</p>

中期事業計画主要指標 3年間の目標値および実績値 (初年度、第2年度、第3年度)

教育に関する目標指標	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
連携大学数	学事課	目標値	27	28	29	1-1.5)
		実績値	29			
医学科志願者数	学事課	目標値	2,100	2,100	2,100	1-1.3)
		実績値	1,963			
看護学科志願者数	学事課	目標値	500	500	500	1-2.3)
		実績値	402			
医師国家試験合格率(医学科総計)	学事課	目標値	100.0	100.0	100.0	1-1.4)
		実績値	94.6			
医師国家試験合格率(医学科新卒)	学事課	目標値	100.0	100.0	100.0	1-1.4)
		実績値	95.4			
看護師国家試験合格率(看護学科)	学事課	目標値	100.0	100.0	100.0	1-2.4)
		実績値	100.0			
保健師国家試験合格率(看護学科)	学事課	目標値	100.0	100.0	100.0	1-2.4)
		実績値	100.0			
慈恵看護専門学校志願者数	看護専門学校	目標値	280名以上	280名以上	280名以上	1-5.3)
		実績値	214名			
第三看護専門学校志願者数	看護専門学校	目標値	150名以上	150名以上	150名以上	1-5.3)
		実績値	134名			
柏看護専門学校志願者数	看護専門学校	目標値	180名以上	180名以上	180名以上	1-5.3)
		実績値	166名			
看護師国家試験合格率(慈恵看護専門学校)	看護専門学校	目標値	100.0	100.0	100.0	1-5.3)
		実績値	98.9			
看護師国家試験合格率(第三看護専門学校)	看護専門学校	目標値	100.0	100.0	100.0	1-5.3)
		実績値	100.0			
看護師国家試験合格率(柏看護専門学校)	看護専門学校	目標値	100.0	100.0	100.0	1-5.3)
		実績値	100.0			
附属4病院への就職者率(慈恵看護専門学校)	看護専門学校	目標値	90.0	90.0	90.0	1-5.3)
		実績値	94.7			
附属4病院への就職者率(第三看護専門学校)	看護専門学校	目標値	90.0	90.0	90.0	1-5.3)
		実績値	88.9			
附属4病院への就職者率(柏看護専門学校)	看護専門学校	目標値	90.0	90.0	90.0	1-5.3)
		実績値	97.2			
大学院生数	学事課	目標値	153	153	153	1.3)
		実績値	161			
学位授与数	学事課	目標値	60	60	60	1.4)
		実績値	82			
レジデント応募者数	教員・医師人事室	目標値	160	180	180	1.3)
		実績値	154			
レジデント採用数	教員・医師人事室	目標値	150	150	150	1.3)
		実績値	146			
医師臨床研修マッチングにおける定員充足率	教員・医師人事室	目標値	70.0	80.0	90.0	1.3)
		実績値	85.0			
e-ラーニング実施数	教育センター	目標値	420	425	425	1.2)
		実績値	482			

教育に関する目標指標	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
シミュレーション教育施設利用数	教育センター	目標値	895	895	900	1.2)
		実績値	854			
公開講座開催数 (一般市民および地域医療者を対象)	教育センター	目標値	25	25	25	1.5)
		実績値	25			
オープンキャンパス、見学会等参加者総数 (慈恵看護専門学校)	看護専門学校	目標値	1,000名以上	1,000名以上	1,000名以上	1-5.3)
		実績値	910名			
オープンキャンパス、見学会等参加者総数 (第三看護専門学校)	看護専門学校	目標値	500名以上	500名以上	500名以上	1-5.3)
		実績値	606名			
オープンキャンパス、見学会等参加者総数 (柏看護専門学校)	看護専門学校	目標値	850名以上	850名以上	850名以上	1-5.3)
		実績値	1,134名			
研究に関する目標指標	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
文部科学省科学研究費補助金採択件数	研究支援課	目標値	170	175	180	2.3)
		実績値	184			
文部科学省科学研究費補助金採択率	研究支援課	目標値	20.0	23.0	25.0	2.3)
		実績値	27.0			
論文発表数	学術情報センター	目標値	1,447稿	1,447稿	1,447稿	2.4)
		実績値	1,501稿			
日本医療研究開発機構研究費(AMED) 代表採択件数	研究支援課	目標値	9	10	11	2.1)
		実績値	10			
産学官連携による受託研究・共同研究数	研究支援課	目標値	50	55	60	2.5)
		実績値	64			
大型プロジェクト研究事業件数	研究支援課	目標値	1	1	2	2.2)
		実績値	0			
医療に関する目標指標(附属病院(本院))	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
紹介率(保険法)	附属病院(本院)	目標値	72.0	73.0	75.0	3-1.3)
		実績値	74.2			
逆紹介率(保険法)	附属病院(本院)	目標値	52.0	53.0	55.0	3-1.3)
		実績値	51.3			
手術件数	附属病院(本院)	目標値	14,300	14,500	14,700	3-1.1)
		実績値	14,847			
救急搬送数	附属病院(本院)	目標値	7,300	7,350	7,400	3-1.1)
		実績値	6,411			
医療に関する目標指標(葛飾医療センター)	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
紹介率(保険法)	葛飾医療センター	目標値	70.0	71.0	72.0	3-2.3)
		実績値	70.0			
逆紹介率(保険法)	葛飾医療センター	目標値	30.0	31.0	32.0	3-2.3)
		実績値	30.5			
手術件数	葛飾医療センター	目標値	4,900	4,950	5,000	3-2.1)
		実績値	5,475			
救急搬送数	葛飾医療センター	目標値	3,500	3,550	3,600	3-2.1)
		実績値	3,199			

医療に関する目標指標（第三病院）	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
紹介率（保険法）	第三病院	目標値	65.0	65.0	65.0	3-3.3)
		実績値	67.9			
逆紹介率（保険法）	第三病院	目標値	40.0	40.0	40.0	3-3.3)
		実績値	46.5			
手術件数	第三病院	目標値	6,000	6,000	6,000	3-3.1)
		実績値	5,804			
救急搬送数	第三病院	目標値	3,600	3,600	3,800	3-3.1)
		実績値	3,900			
医療に関する目標指標（柏病院）	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
紹介率（保険法）	柏病院	目標値	76.0	76.5	77.0	3-4.3)
		実績値	84.1			
逆紹介率（保険法）	柏病院	目標値	58.5	59.0	59.5	3-4.3)
		実績値	66.4			
手術件数	柏病院	目標値	8,000	8,000	8,000	3-4.1)
		実績値	8,646			
救急搬送数	柏病院	目標値	4,900	4,900	4,900	3-4.1)
		実績値	5,151			
3次救急搬送件数	柏病院	目標値	1,000	1,050	1,100	3-4.1)
		実績値	1,031			
管理・運営に関する目標指標	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
教職員アンケートにおける満足度	人事課	目標値	50.0	52.0	55.0	4.1)
		実績値	45.3			
教員・医師の退職者数	教員・医師人事室	目標値	130	130	130	4.1)
		実績値	136			
看護要員確保率	ナース就職支援室 (人事課)	目標値	100.0	100.0	100.0	4.1)
		実績値	100.0			
看護師離職率（附属4病院）	人事課	目標値	12.5	11.5	10.5	4.1)
		実績値	13.7			
経常費補助金の獲得額	研究支援課	目標値	34.7億	34.7億	34.7億	4.2)
		実績値	33.1億			
収支差額予算達成率	経理課	目標値	100.0	100.0	100.0	4.2)
		実績値	158.8			

2) 2019年度の主な建設工事

1. 法人事務局

① 愛宕マークビル大学管理室増設工事	2019年4月完了
② 高木会館地下1階松寿庵(蕎麦店)改修工事	2019年5月完了
③ 大学管理棟屋上、塔屋及びブルーバルコニー防水改修工事	2019年7月完了
④ 愛宕マークビル屋上及び塔屋屋根防水改修工事	2019年8月完了
⑤ 大学管理棟機械式駐車場横モーター交換工事	2019年9月完了
⑥ 大学管理棟空調機中央監視装置更新工事	2019年9月完了
⑦ 大学管理棟消防用設備点検に伴う工事	2019年10月完了
⑧ 大学管理棟・愛宕マークビル電気設備更新工事	2020年1月完了
⑨ 大学1号館機械式駐車装置整備工事	2020年3月完了
⑩ 高木2号館自動火災報知設備更新工事(1期/2期)	2020年3月完了
⑪ 大学管理棟自火報設備更新工事	2020年3月完了
⑫ 大学1号館機械式駐車場空車残数表示板工事	2020年3月完了
⑬ 大学管理棟特定建築物定期調査に伴う工事	2020年3月完了
⑭ 愛宕マークビル天井埋込全熱交換器更新工事	2020年3月完了

2. 西新橋校

① 大学1号館講堂(3階)照明設備更新工事	2019年5月完了
② 大学1号館屋上階排気洗浄塔設備(臭気スクラバー)整備工事	2019年5月完了
③ 大学1号館空調設備制御用電子式指示調節器交換工事	2019年7月完了
④ 2号館1階講堂環境改善工事	2019年8月完了
⑤ 大学1号館コージェネレーション設備(COG発電機) プレート式熱交換器交換・タンク洗浄工事	2019年9月完了
⑥ 大学1号館小型貫流蒸気ボイラー1~3号機点検整備工事	2019年9月完了
⑦ 大学1号館排水処理設備整備工事	2019年9月完了
⑧ 高木会館図書館環境整備工事	2019年9月完了
⑨ 高木会館外壁補修整備工事	2019年9月完了
⑩ 2019年度ボイラーおよび第一種圧力容器性能検査受検に伴う整備工事	2019年10月完了
⑪ 大学1号館貯湯槽(THW1-1・THW2-2)蒸気コイル交換工事	2019年11月完了
⑫ 大学1号館コージェネレーション設備(COG発電機) パッケージ搭載盤モニター(1号機)交換工事	2019年12月完了
⑬ 大学1号館コージェネレーション設備(COG発電機)分解整備工事	2020年3月完了
⑭ 消防設備点検に伴う工事	2020年3月完了
⑮ 大学1号館冷媒空調設備更新工事:第1期/全3期	2020年3月完了
⑯ 大学1号館熱源機械室ほか窒素ガス消火設備修繕工事	2020年3月完了
⑰ 大学後棟(解剖学棟)顕微鏡実習室プロジェクター機器更新工事	2020年3月完了

3. 本院

① 特別高圧変電設備P2, P3系統気密ガスケット交換工事および P3系統整備工事	2019年6月完了
② 中央棟機械室内汚水貯留槽(PD-2)曝気ポンプ2号機(PB-2) 交換工事	2019年6月完了
③ 病棟個室室内空調機更新工事並びに内装改修工事(中央棟28室) 4期/全4期	2019年7月完了
④ 中央棟熱源機械室冷却水ポンプ2台更新および1台増設工事	2019年7月完了
⑤ 中央棟・E棟個室病室トイレウォシュレット交換および 尿瓶洗浄器撤去工事	2019年7月完了

⑥	中央棟外気処理空気調和機用送風機等整備工事	2019年7月完了
⑦	中央棟中央監視室照明制御盤交換工事	2019年8月完了
⑧	中央棟ナースステーション作業コーナー空調機(14台)更新工事	2019年8月完了
⑨	中央棟屋上階換気設備(病室トイレ・ユニットバス用)交換工事	2019年9月完了
⑩	2019年度ボイラーおよび第一種圧力容器性能検査受検に伴う整備工事	2019年9月完了
⑪	中央棟手術室保冷库(計15台)更新工事	2019年9月完了
⑫	中央棟各機械室送風機(12台)整備工事	2019年9月完了
⑬	中央棟ボイラー設備PH中和装置整備工事	2019年9月完了
⑭	中央棟・E棟ナースステーション手洗器(計45台)排水管内洗浄工事	2019年10月完了
⑮	中央棟8階会議室1,2 仕切り用パーテーション更新工事	2019年10月完了
⑯	自動ドア装置保守点検業務における不具合箇所整備工事【病院部門】	2019年10月完了
⑰	E棟中央監視室特別高圧変電設備監視システム設備交換工事	2019年11月完了
⑱	中央棟個室香水残臭に伴う是正工事(1)	2019年11月完了
⑲	中央棟1階新救急部改修に係る情報端末整備工事	2019年12月完了
⑳	中央棟非常発電機用重油タンク液面計盤レベル計(OT-1・OT-3)交換工事	2019年12月完了
㉑	N棟病棟生体情報モニタ導入に伴う付帯施設工事	2019年12月完了
㉒	E棟機械室吸収式冷凍機分解整備工事	2020年1月完了
㉓	2019年度医療ガス供給設備整備工事	2020年2月完了
㉔	中央棟業務用空調機更新工事【第4期/全4期】	2020年2月完了
㉕	A B C棟・画像診断部用・E棟・F棟発電機設備整備工事	2020年2月完了
㉖	中央棟機械室空調機ドレン排水設備修繕工事	2020年2月完了
㉗	E棟機械室温水1次ポンプ修繕工事	2020年2月完了
㉘	中央棟汚水貯留槽(PD-2)曝気ポンプ2号機(PB-2)交換工事	2020年2月完了
㉙	中央棟栄養部冷凍機(計6台)更新工事	2020年2月完了
㉚	中央棟中央監視室空調監視装置他更新工事[第1期/全2期]	2020年2月完了
㉛	E棟機械室吸収式冷凍機RH-2分解整備工事	2020年3月完了
㉜	E棟非常放送設備更新工事	2020年3月完了
㉝	E棟患者用立体駐車装置整備工事	2020年3月完了
㉞	E棟電気室特高監視装置UPS用バッテリー交換工事	2020年3月完了
㉟	中央棟機械室汚水排水ポンプ(PD-1-1)交換工事	2020年3月完了
㊱	中央棟ボイラー室3号ボイラー用給水ポンプPBS-3-2交換工事	2020年3月完了
㊲	A棟電気室内非常用発電機始動用蓄電池交換工事	2020年3月完了
㊳	中央棟麻酔科控室移転に伴う電話・LAN整備工事	2020年3月完了
㊴	中央棟アイソトープ病棟床面「鉛遮蔽体(鉄板)」設置工事	2020年3月完了
㊵	中央棟個室香水残臭に伴う是正工事(2)	2020年3月完了
㊶	中央棟発電機設備整備工事[第2期/全4期]	2020年3月完了
㊷	E棟自動火災報知設備更新工事	継続中
㊸	N棟エレベーター用電源改修工事	継続中
㊹	中央棟多床室および重症室(個室)空調機更新工事ならびに吸収式冷温水機修繕工事	継続中

4. 西新橋キャンパス再整備計画

①	新外来棟・N棟共用部トイレハンドドライヤー設置工事	2019年8月完了
②	新外来棟エネルギーマネジメントシステム(ガスコージェネレーションシステム)工事	2019年10月完了
③	2019年度新外来棟消火器設置工事	2019年10月完了

- | | |
|---|------------|
| ④ 新外来棟「無線LAN (Wi-Fi)」設置工事 | 2019年11月完了 |
| ⑤ 新外来棟竣工に伴う弱電設備盛替工事 | 2019年11月完了 |
| ⑥ 新外来棟竣工に伴う学内ネットワーク構築工事 | 2020年1月完了 |
| ⑦ 西新橋キャンパス再整備計画に伴う既存棟
(ABC棟・E棟・中央棟・高木会館) サイン修正工事 | 2020年1月完了 |
| ⑧ 新外来棟竣工およびN棟病棟運用開始に伴う電話設備構築工事 | 2020年2月完了 |
| ⑨ 新外来棟竣工に伴う弱電設備 (LAN、内線電話設備他)
盛替え新設工事 | 2020年2月完了 |
| ⑩ 新外来棟・中央棟他機能拡充整備工事 | 継続中 |
| ⑪ 新外来棟6階細胞加工施設 (JIKEI-CPF) 新築工事 | 継続中 |

5. 西新橋校 (第三病院法医解剖室)

- | | |
|---------------------------|-----------|
| ① 第三病院3号館法医解剖室CT設置に伴う付帯工事 | 2019年8月完了 |
|---------------------------|-----------|

6. 西新橋校 (柏キャンパス医学研究棟)

- | | |
|---------------------------------|------------|
| ① 柏キャンパス医学研究棟各所空調設備用フィルター交換工事 | 2019年12月完了 |
| ② 柏キャンパス医学研究棟加湿設備復旧工事 (第2期/全3期) | 2020年3月完了 |

7. 柏病院

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 柏病院手術室他改修計画に伴う設計業務 | 継続中 |
|----------------------|-----|

6. 令和元年度決算

1、はじめに

令和元年度は、既存の債務返済と、西新橋キャンパス再整備を含めた投資計画に必要な資金を賄える決算を目指して運営されましたが、良好な医療収入の伸びと、各機関の経営効率化努力により、基本金組入前当年度収支差額（利益）は予算を上回る結果となりました。

2、資金収支計算書

施設・設備関係支出は 206 億円でした。内容は、建設仮勘定（新外来棟建設資金支払いが主）87 億円、医療器械 78 億円、教具（システム投資）22 億円、建物 16 億円でした。この他有価証券に 59 億円投資しました。

固定資産投資金額が大きく、次年度繰越金は 463 億円と前年度末比で 103 億円減少しました。現金・預金・有価証券の合計残高は 773 億円となり前年度末比 43 億円減少にとどまりました。

3、事業活動収支計算書

収入の部は、医療収入の増加等により予算を 18 億円上回る 1,112 億円となりました。支出の部は、1,073 億円で予算を 4 億円上回りましたが、要因は医療経費が予算を 14 億円上回った為です。この結果、基本金組入前当年度収支差額（利益）は 39 億円となり、予算を達成することができました。

4、貸借対照表

純資産の部の増加 39 億円は当年度の利益です。この利益の内 29 億円は借入金と長期未払金（リース、割賦の支払）の外部負債の返済に充当されましたが、未払金の増加等があり負債の部・純資産の部の合計では 100 億円の資金余剰が生まれました。

固定資産の部では、新外来棟竣工に伴い建設仮勘定が建物に振り替わり、建物との合計で 64 億円増加しました。医療器械は新外来棟・N棟用の機器を中心に 60 億円増加し、教具も第三病院の電子カルテ更新と新外来棟の病院システム投資により 13 億円増加しました。これらの支出を賄う為に現金・預金を 102 億円取り崩しました。

尚、貯蔵品の 7 億円増加は、薬品と医療材料の増加が要因です。

純資産の部の合計は 1,557 億円で、自己資金比率は 68.9%となりました。

5、決算開示方法について

平成 16 年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。

以上

令和元年度資金収支計算書

自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日

(単位：円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	42,141,714,091	学生生徒納付金収入	3,134,027,520
教育研究経費支出	53,923,906,529	手数料収入	149,134,100
教育研究費支出	14,002,248,439	寄付金収入	1,074,601,105
医療経費支出	39,921,658,090	補助金収入	3,855,926,464
管理経費支出	3,796,260,092	国庫補助金	3,606,084,524
		地方公共団体補助金	249,441,940
		その他の補助金	400,000
		事業収入	101,347,850,476
		医療収入	100,508,330,058
		受託事業収入	839,520,418
借入金等支払利息支出	195,926,177	受取利息・配当金収入	267,841,473
		資産売却収入	0
借入金等返済支出	6,602,570,000	雑収入	1,324,315,366
施設関係支出	10,221,734,540	借入金収入	3,900,000,000
設備関係支出	10,380,029,843	前受金収入	915,974,068
資産運用支出	5,900,350,000		
その他支出	17,960,899,093	その他の収入	17,421,225,760
資金支出調整勘定	△ 25,417,805,675	資金収入調整勘定	△ 17,926,093,979
期末未払金	△ 25,417,805,675	期末未収入金	△ 17,324,449,857
		前期末前受金	△ 601,644,122
次年度繰越支払資金	46,328,320,094	前年度繰越支払資金	56,569,102,431
支出の部合計	172,033,904,784	収入の部合計	172,033,904,784

令和2年6月文部科学省へ提出

令和元年度事業活動収支計算書

自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日

(単位 円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
教育活動支出		教育活動収入	
人件費	42,645,873,765	学生生徒納付金	3,134,027,520
教育研究経費	59,787,700,343	手数料	149,134,100
教育研究経費	18,733,536,053	寄付金	968,201,105
医療経費	41,054,164,290	経常費等補助金	3,660,150,464
管理経費	4,518,302,314	事業収入	101,347,850,476
		医療収入	100,508,330,058
		受託事業収入	839,520,418
徴収不能額等	57,863,109	雑収入	1,325,318,307
徴収不能引当金繰入額	50,545,847	(徴収不能引当金戻入額)	1,002,941
教育活動支出計	107,009,739,531	教育活動収入計	110,584,681,972
		教育活動収支差額	3,574,942,441
教育活動外支出		教育活動外収入	
借入金等利息	195,926,177	その他の受取利息・配当金	267,841,473
教育活動外支出計	195,926,177	教育活動外収入計	267,841,473
		教育活動外収支差額	71,915,296
		経常収支差額	3,646,857,737
特別支出		特別収入	
資産処分差額	88,653,118	資産売却差額	0
その他の特別支出	0	その他の特別収入	326,773,705
過年度修正額		施設設備寄付金	106,400,000
		現物寄付	24,597,705
		施設設備補助金	195,776,000
		過年度修正額	0
特別支出計	88,653,118	特別収入計	326,773,705
		特別収支差額	238,120,587
基本金組入前当年度収支差額	3,884,978,324	基本金組入額合計	△ 16,691,755,688
		当年度収支差額	△ 12,806,777,364
		前年度繰越収支差額	△ 37,883,494,318
		基本金取崩額	0
		翌年度繰越収支差額	△ 50,690,271,682

(参考)

事業活動支出計	107,294,318,826	事業活動収入計	111,179,297,150
---------	-----------------	---------	-----------------

令和2年6月文部科学省へ提出

令和元年度貸借対照表

令和2年3月31日

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	156,088,713,821	141,956,318,498	14,132,395,323
有形固定資産	127,369,411,037	113,778,607,089	13,590,803,948
土地	6,731,341,407	6,731,341,407	0
建物	94,171,761,812	78,114,853,500	16,056,908,312
構築物	359,730,942	398,535,999	△ 38,805,057
教育研究用機器備品	20,784,917,963	13,515,524,592	7,269,393,371
管理用機器備品	1,768,734,448	1,802,082,571	△ 33,348,123
図書	2,869,956,277	2,900,225,932	△ 30,269,655
車両	0	0	0
建設仮勘定	659,806,280	10,292,881,180	△ 9,633,074,900
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
退職給与引当特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
その他の固定資産	27,119,302,784	26,577,711,409	541,591,375
施設利用権	427,580,012	421,448,012	6,132,000
有価証券	25,942,477,220	25,042,127,220	900,350,000
長期貸付金	339,392,241	373,605,179	△ 34,212,938
ソフトウェア	409,853,311	740,530,998	△ 330,677,687
流動資産	69,860,141,228	73,942,921,954	△ 4,082,780,726
現金預金	46,328,320,094	56,569,102,431	△ 10,240,782,337
未収入金	17,168,093,064	16,764,905,674	403,187,390
貯蔵品	1,170,346,968	478,600,295	691,746,673
有価証券	5,000,000,000	0	5,000,000,000
仮払金	193,381,102	130,313,554	63,067,548
資産の部合計	225,948,855,049	215,899,240,452	10,049,614,597

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	41,653,459,064	40,269,408,079	1,384,050,985
長期借入金	19,703,400,000	18,603,970,000	1,099,430,000
長期未払金	2,082,894,289	2,302,432,978	△ 219,538,689
退職給与引当金	19,867,164,775	19,363,005,101	504,159,674
流動負債	28,549,146,424	23,768,561,136	4,780,585,288
短期借入金	1,900,570,000	5,702,570,000	△ 3,802,000,000
未払金	25,300,174,329	17,017,913,802	8,282,260,527
前受金	915,974,068	601,644,122	314,329,946
預り金	430,938,027	445,143,212	△ 14,205,185
保証金	1,490,000	1,290,000	200,000
負債の部 合計	70,202,605,488	64,037,969,215	6,164,636,273

純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
基本金	206,436,521,243	189,744,765,555	16,691,755,688
第1号基本金	198,582,448,376	182,121,242,087	16,461,206,289
第4号基本金	7,854,072,867	7,623,523,468	230,549,399
翌年度繰越収支差額	△ 50,690,271,682	△ 37,883,494,318	△ 12,806,777,364
繰越収支差額	50,690,271,682	37,883,494,318	12,806,777,364
純資産の部合計	155,746,249,561	151,861,271,237	3,884,978,324
負債及び純資産の部合計	225,948,855,049	215,899,240,452	10,049,614,597

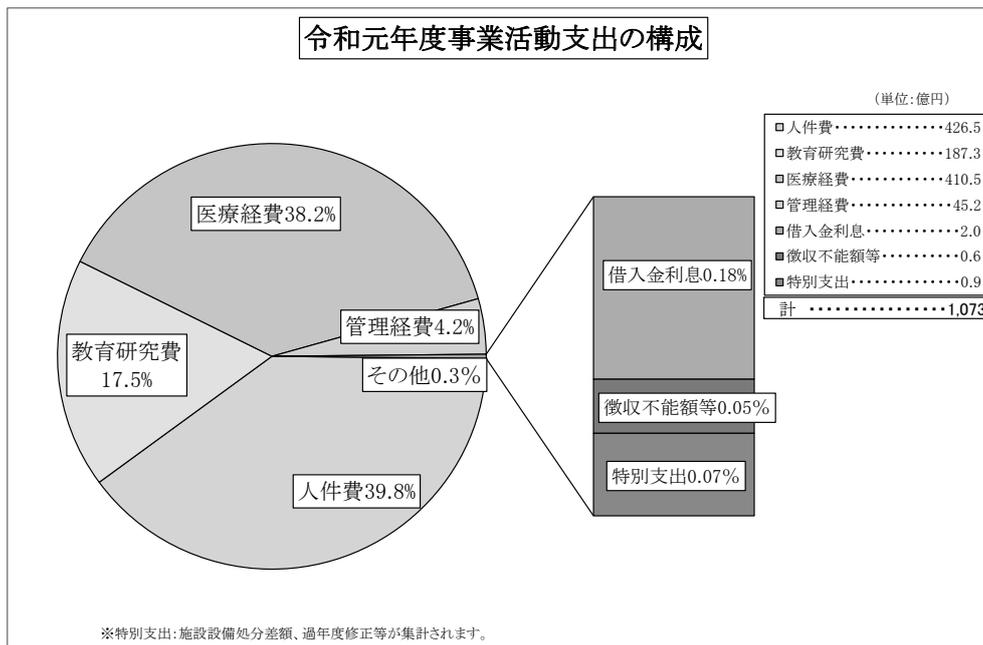
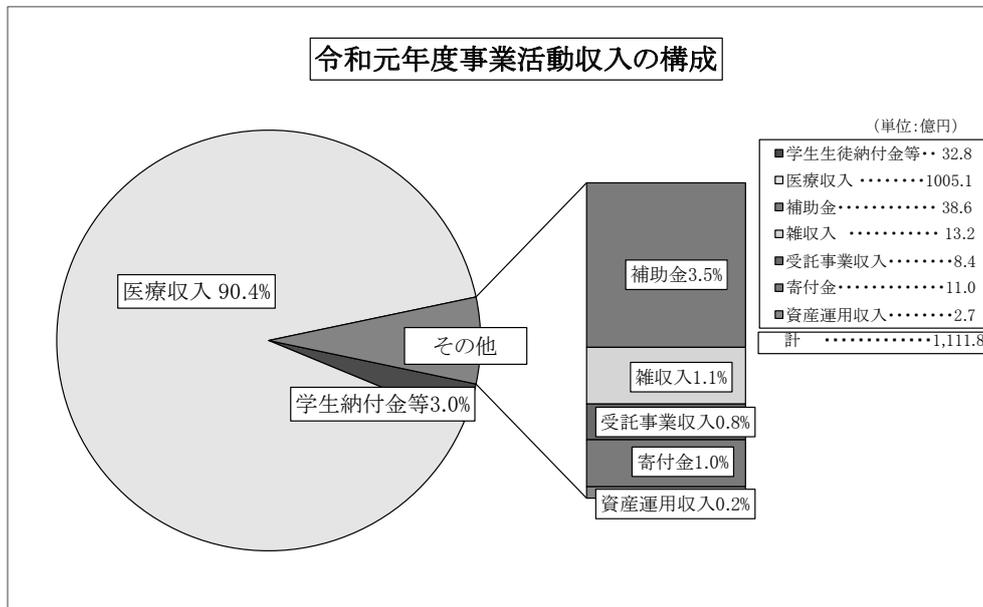
令和2年6月文部科学省へ提出

主要な財務指標の推移

事業活動収支関係財務比率(単位:%)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
①事業活動支出比率 (事業活動支出/事業活動収入)	94.6%	95.0%	96.8%	95.7%	96.5%
②学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/経常収入)	3.1%	3.1%	3.1%	2.9%	2.8%
③寄付金比率 (寄付金/事業活動収入)	0.9%	0.9%	0.8%	0.8%	1.0%
④補助金比率 (補助金/事業活動収入)	3.8%	3.8%	3.4%	3.6%	3.3%
⑤医療収入比率 (医療収入/経常収入)	90.2%	90.4%	90.5%	90.5%	90.7%
⑥人件費比率 (人件費/経常収入)	40.4%	40.6%	39.5%	38.8%	38.5%
⑦教育研究経費比率 (教育研究経費/経常収入)	49.8%	50.4%	51.7%	52.7%	53.9%
⑧事業活動収支差額比率 (100%-事業活動支出比率)	5.4%	5.0%	3.2%	4.3%	3.5%

貸借対照表関係財務比率(単位:%)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
⑨流動比率 (流動資産/流動負債)	419.8%	414.0%	348.2%	311.1%	244.7%
⑩固定比率 (固定資産/自己資金)	84.7%	92.1%	99.3%	93.5%	100.2%
⑪固定長期適合率 (固定資産/(自己資金+固定負債))	67.6%	69.1%	75.7%	73.9%	79.1%
⑫負債比率 (総負債/自己資金)	38.0%	46.4%	44.0%	42.2%	45.1%
⑬自己資金比率 (自己資金/総資産)	72.5%	68.3%	69.5%	70.3%	68.9%

*自己資金=基本金+翌年度繰越収支差額、経常収入=教育活動収入+教育活動外収入



財 産 目 録

令和 2 年 3 月 31 日

I. 資産総額	225,948,855,049 円
内 基本財産	161,088,713,821 円
内 運用財産	64,860,141,228 円
内 収益事業用財産	0 円
II. 負債総額	70,202,605,488 円
III. 正味財産	155,746,249,561 円

学校法人 慈恵大学

科 目	数 量	金 額(円)
一、基本財産		161,088,713,821
1. 土地	152,429.21m ²	6,731,341,407
(1)校地	55,393.10m ²	3,534,677,050
(2)その他	97,036.11m ²	3,196,664,357
2. 建物	347,049.92m ²	94,171,761,812
(1)法人本部	484.78m ²	281,966,865
(2)一般校舎	73,502.95m ²	17,554,463,238
(3)図書館	3,882.20m ²	65,677,057
(4)講堂	1,824.27m ²	628,342,734
(5)その他	267,355.72m ²	75,641,311,918
3. 図書	354,646冊	2,869,956,277
4. 教具、校具、備品	10,850件	22,553,652,411
5. 有価証券		30,942,477,220
6. その他		3,819,524,694
二、運用財産		64,860,141,228
1. 現金、預金		46,328,320,094
2. 未収入金		17,168,093,064
3. その他		1,363,728,070
資産総額		225,948,855,049
三、固定負債		41,653,459,064
1. 長期借入金		19,703,400,000
2. 退職給与引当金		19,867,164,775
3. 長期未払金		2,082,894,289
四、流動負債		28,549,146,424
1. 短期借入金		1,900,570,000
2. 未払金		25,300,174,329
3. 前受金		915,974,068
4. 保証金		1,490,000
5. その他		430,938,027
負債総額		70,202,605,488
正味財産(資産総額-負債総額)		155,746,249,561

上記の通り相違ありません。

令和 2年 5月 21日

監 事 岡島 進一郎



監 事 西岡 清一郎



監査報告書

令和2年5月21日

学校法人 慈恵大学
理事会 御中
評議員会 御中

学校法人 慈恵大学

監事 岡島進一郎 

監事 西岡清一郎 

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人慈恵大学寄附行為第15条の定めに基づき、令和1年度（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）の学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査を行いました。その結果について以下の通り報告いたします。

1. 監査方法の概要

- (1) 業務並びに理事の執行状況の監査については、理事会及び評議員会に出席して理事から業務の報告を聴取し、また、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。出資会社については、取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて当該出資会社から事業の報告を受け説明を求めました。
- (2) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査を実施し、計算書類の正確性を検討しました。また、会計監査人から計算書類に関する説明及び報告を受け、検討を加えました。加えて、当学校法人の出資会社である株式会社慈恵実業の計算書類に対する監査の説明及び報告（子会社である慈恵ファシリティサービス株式会社並びに慈恵メディカルサービス株式会社の株式に対する評価、両社との取引及び両社に対する債権債務に関する報告を含む）を同社の監査人から受け、検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 学校法人（含む、出資会社）の業務、財産の状況、理事の業務執行の状況に関して、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。
- (2) 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表並びに財産目録は会計帳簿の記載と合致し、学校法人慈恵大学の令和2年3月31日現在の財産状況及び同日を持って終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。

以上

7. 関連当事者との取引状況

関連当事者との取引の内容は、次の通りである。

(単位:円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人	公益社団法人東京慈恵会(注1)	東京都港区	—	看護師養成事業、医学研究事業	—	4名	卒業生の大半を大学の附属病院に受け入れている	会費の支払(注2)	159,000,000	—	—

取引条件および取引条件の決定方針等

(注1)当学校法人の役員及び教員が公益社団法人東京慈恵会の役員の33.3%を占めている。

(注2)公益社団法人東京慈恵会への会費の支払については、同法人の財政状況等を勘案し金額を決定している。

名称	株式会社 慈恵実業
事業内容	物品販売・斡旋・仲介、慈恵大学内の理容・美容・食堂施設の管理 保険代理業・リース業・労働者派遣・請負業務など
出資金	30,000,000円 60,000株
学校法人の出資状況	30,000,000円 60,000株
出資の状況	昭和51年2月28日 30,000,000円 60,000株

当期中に学校法人が受け入れた配当金及び寄附金の金額並びに学校法人との資金、取引の状況	当該会社からの受入額				
	寄附金	59,720,753			
	駐車場等賃借料	93,852,060			
	手数料他	28,594,203			
	出向者人件費受入分	113,025,960			
	合計	295,192,976			
	当該会社への支払額				
	消耗雑品購入	16,795,462,249			
	賃借料他	150,182,708			
	合計	16,945,644,957			
	(単位:円)				
		期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高
	当該会社への出資金等	30,000,000	0	0	30,000,000
	当該会社への未払金	3,232,642,567	3,232,642,567	3,555,471,044	3,555,471,044
当該会社からの未収入金	46,035	59,411	46,035	59,411	
保証債務	当該会社への保証債務は一切ない。				

関連当事者との取引の内容は、次の通りである。

(単位:円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人 (注3)	慈恵ファシリティサービス株式会社	東京都港区	3,000万円	建物等の清掃・管理業務、病院内医療廃棄物並びに一般廃棄物の取扱、病院等整備業務・病院等搬送業務	—	1名	本学並びに附属病院の清掃、整備、搬送、管理業務を委託	清掃、管理費等の支払(注4)	1,343,911,716	未払金	79,150,642
								出向者人件費等受入収入	133,306,822	未収入金	0

(注3) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注4) 慈恵ファシリティサービス(株)への清掃、管理費等の支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

(単位:円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人 (注5)	慈恵メディカルサービス株式会社	東京都港区	2,500万円	医科器械及び附属品計量器の販売、医療材料・消耗品等の販売	—	—	医科器械・医療消耗品等を購入	医科器械・医療消耗品等の支払(注6)	7,439,091,685	未払金	1,231,362,933
								賃借料等受入収入	25,514,080	未収入金	1,863,136

(注5) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注6) 慈恵メディカルサービス(株)への支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

8. 学校法人慈恵大学の体制（2019. 4. 1）

1) 学校法人慈恵大学

① 役員の概要

	定員数	理事	15人以上16人以内	現員数	16人
		監事	2人以上3人以内	現員数	2人
		顧問	3人以上7人以内	現員数	5人
理事	長	栗原 敏			
学	長	松藤 千弥			
専務	理事	谷口 郁夫			
理	事	井田 博幸、吉田 和彦、中村 敬、秋葉 直志			
		丸毛 啓史、柳澤 裕之、浅野 晃司、山本 裕康			
		高橋 則子、加藤 一人、高橋紀久雄、穎川 一信、前田 新造			
監	事	岡島進一郎、西岡清一郎			
常勤	顧問	梅澤 祐二			
顧	問	岡村 哲夫、小森 亮、佐々木正峰、二川 一男			

② 評議員の概要 評議員の定員は40人以上42人以内であり、現員数は41人である。

評議員	会議長	赤羽 清彬			
評	議	員	松藤 千弥、井田 博幸、吉田 和彦、中村 敬、秋葉 直志、 浅野 晃司、本郷 賢一、中野 匡、石川 智久、山田 恭輔、 安保 雅博、猿田 雅之、柳澤 裕之、岡野 孝、竹森 重、 岡部 正隆、北 素子、上間ゆき子、加藤 一人、五味 美春、 玉上 淳子、小澤かおり、伊藤 敬夫、峰 隆志、相馬 陽一、 菊地 讓、川久保 孝、高橋紀久雄、穎川 一信、相澤 義則、 江本 秀斗、武石 昌則、高塚 洋二、村岡 伸一、赤羽 清彬、 大政 良二、高木 公寛、徳川 恒孝、梅溪 通明、栗原 敏、 谷口 郁夫		

2) 東京慈恵会医科大学

学	長	松藤 千弥			
副学	長	橋本 和弘、柳澤 裕之、大橋 十也			
医学科	長	竹森 重			
看護学科	長	北 素子			
大学院医学研究科	長	松藤 千弥			
附属病院	長	井田 博幸	副院長	山本 裕康、瀧浪 将典、中野 匡 小島 博己、安保 雅博、小澤かおり	
葛飾医療センター病院	長	吉田 和彦	副院長	児島 章、根本 昌実、飯田 誠	
第三病院	長	中村 敬	副院長	古田 希、岡本 友好 芝田 貴裕、平本 淳	
柏病院	長	秋葉 直志	副院長	貞岡 俊一、長谷川 讓 吉田 博、西脇 嘉一	
学術情報センター	長	南沢 享			
生涯学習センター	長	安保 雅博			
教育センター	長	福島 統			
臨床研究支援センター	長	敷島 敬悟			
総合医科学研究センター	長	大橋 十也			

3) 看護専門学校

慈恵第三看護専門学校	長	岡 尚省
慈恵柏看護専門学校	長	勿滑谷和孝
[慈恵看護専門学校]	長	羽野 寛

10. 理事会

定例理事会の開催状況（2019年4月1日～2020年3月31日）

議 事 内 容	
<p>2019年4月25日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 学校法人慈恵大学組織図</p> <p>(2) 職員数報告</p> <p>(3) 看護職員採用状況及び看護学科、看護専門学校卒業生の状況</p> <p>(4) 平成30年度中に制定・改定された規程について</p> <p>(5) 外部資金の獲得について</p> <p>(6) 資産運用状況報告</p> <p>(7) 中央棟建築借入金の借り換えに係る件</p> <p>(8) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 2019年度附属病院の目標について</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 内部監査結果報告</p> <p>2) 高木兼寛先生生誕170年記念講演会（仮称）の開催について</p> <p>3) 評議員会の日程について</p> <p>(1) 2019年5月30日（木）午後5時 （定例理事会は15時開始） 平成30年度決算，平成30年度事業報告 他</p>
<p>2019年5月30日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 平成30年度決算</p> <p>3) 夏期賞与資金借入れについて</p> <p>4) 学校法人運営調査に関する対応について</p> <p>5) 懲戒について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成30年度事業報告並びに中期目標・中期計画実施報告</p> <p>(2) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 高木兼寛先生生誕170年記念事業</p> <p>(1) 高木兼寛先生生誕170年記念行事</p> <p>(2) 学祖・高木兼寛先生生誕170年記念講演会 日時：6月4日（火）午後5時30分～ 場所：2号館講堂 （4病院テレビ会議システム利用）</p> <p>2) 評議員会の開催予定について 日時：5月30日（木）午後5時～ 2号館B会議室</p> <p>3) 大学役員退任者への感謝状授与 高橋紀久雄 理事</p>

議 事 内 容

<p>2019年 6 月 27 日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 新役員報告</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 中央棟建築借入金の借換えに係る件</p> <p>4) 懲戒について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 5 月評議員会報告</p> <p>(2) 労働組合との交渉結果について</p> <p>(3) 宮崎県穆佐小学校児童招待の件</p> <p>(4) 宮崎県特別大使受入れの件</p> <p>(5) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 大学役員のホームページ公開について</p> <p>2) 平成 30 年度事業報告書</p> <p>3) 学祖・高木兼寛先生生誕 170 年記念講演会</p> <p>4) 2020 年評議員会の開催日程について</p> <p>(1) 2020 年 3 月 19 日（木）午後 2 時～</p> <p>(2) 2020 年 5 月 28 日（木）午後 5 時～</p> <p>※理事会・評議員会と同日開催</p>
<p>2019年 7 月 25 日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>(2) 新外来棟竣工記念式典について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>(2) 第 136 回成医会総会プログラムについて</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 4 病院長会議報告</p> <p>(2) 臨床研修医の採用について</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p>	<p>4. その他</p> <p>1) 医師養成に向けた改革案について</p> <p>2) 学祖・高木兼寛先生生誕 170 年記念講演会（第 2 回）</p> <p>日時：2019 年 9 月 5 日（木）</p> <p>18 時～19 時 30 分（予定）</p> <p>場所：大学 1 号館講堂（3 階）</p> <p>（4 病院テレビ会議システム利用）</p> <p>演者：阿部志郎先生（阿部正和先生の弟様）</p> <p>3) 大学関連配布物</p> <p>(1) 東京慈恵会医科大学ガイドブック 2020</p> <p>(2) 2020 年度医学部医学科学生募集要項</p> <p>(3) 2020 年度医学部看護学科学学生募集要項</p> <p>(4) 2020 年度大学院医学研究科（博士課程）</p> <p>学生募集要項（一次募集）</p> <p>(5) 大学院ガイド（博士課程）2020 年度</p> <p>(6) 看護学専攻博士前期課程</p> <p>・博士後期課程大学院への誘い 2020 年度</p>
<p>2019年 9 月 26 日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 懲戒について</p> <p>(2) 新外来棟竣工記念式典のご案内について</p> <p>(3) 2020 年 4 月私立学校法改正について</p> <p>(4) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 2020 年度病院診療カレンダー（案）について</p> <p>(2) 台風 15 号における被災支援について</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 夏季常任理事会報告（8 月 9 日開催）</p> <p>2) 高木兼寛公生誕 170 年記念講演会、記念式典・祝賀会について</p> <p>3) 宮崎大学との懇談会について</p> <p>4) 第 136 回成医会について</p>

議 事 内 容

<p>2019年10月24日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 学則の改定について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 令和元年台風第19号災害義援金の実施について</p> <p>(2) 資産運用状況報告</p> <p>(3) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 2020年採用初期臨床研修医マッチング結果について</p> <p>(2) 医療安全推進週間について</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 2019年度上半期内部監査結果報告</p> <p>2) 第三病院リニューアルプロジェクト計画について</p> <p>3) 新外来棟竣工記念式典及び内覧会の開催について</p> <p>記念式典：11月27日（水）</p> <p>一般・教職員内覧会：11月28日（木）～11月30日（土）</p> <p>4) 2019年慈恵医大卒業生親睦・情報交換会について</p> <p>5) 講演会の開催について（コミュニケーションが医療を変える）</p>
<p>2019年11月28日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 新外来棟竣工記念式典について</p> <p>(2) 新外来棟への引っ越しおよび診療ブースの運用について</p> <p>(3) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>(4) 第三病院建て替え計画について</p> <p>(5) 懲戒について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 医療監視について</p> <p>(2) 診療情報共有改善に向けた取り組みについて</p> <p>(3) 平成30年度医療安全管理部活動報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 文部科学省主催 学校法人監事研修会の報告</p> <p>2) 教学監査実施報告</p> <p>3) 監査法人トーマツとの面談について</p>
<p>2019年12月26日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 設計事務所の選定について</p> <p>3) 規程の改定について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>(2) 新外来棟・N棟への移転について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 2020年度理事会開催日程</p> <p>2) 世田谷区医師会医学会抄録集について</p> <p>3) 学校法人慈恵大学職員雑誌について</p>

議 事 内 容

<p>2020年1月23日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 役員人事 ・第三看護専門学校長候補者の選任</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 職員管理職人事(2020年4月1日付)</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成30年度私立医科大学決算分析資料の概要について</p> <p>(2) 株式会社慈恵実業 第45期決算報告</p> <p>(3) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>(4) 新外来棟・N棟への移転について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 成医会例会案内</p>
<p>2020年2月27日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 産学連携講座の設置について</p> <p>3) 支持療法疼痛制御研究室の設置について</p> <p>4) 私立学校法改正に伴う寄附行為の改正について</p> <p>5) 懲戒について</p> <p>6) 職員管理職人事(2020年4月1日付)</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成2020年度予算(案)について</p> <p>(2) 学校法人慈恵大学2020年度事業計画(案)</p> <p>(3) 関連当事者との取引の調査依頼</p> <p>(4) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>(5) 新型コロナウイルス感染症に対する対応について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 外来棟の運用・検証について</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 評議員会の日程について</p> <p>(1) 2020年3月19日(木)午後2時～ 2020年度予算(案)、2020年度事業計画(案) 他</p> <p>(2) 2020年5月28日(木)午後5時～ ※理事会・評議員会と同日開催 2019年度決算、2019年度事業報告 他</p>

議 事 内 容

2020年3月26日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 2020年度予算(案)について
- 3) 学校法人慈恵大学2020年度事業計画(案)について
- 4) 私立学校法改正に伴う寄附行為の改定について
- 5) 2020年度基礎系講座定員について
- 6) 2020年度附属4病院診療部・中央診療部定員について

2. 報告事項

- 1) 共通報告
 - (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について
 - ・附属病院における感染症対策(Team COVID-19)
 - ・大学行事の開催状況
- 2) 法人関係報告
 - (1) 幹部職員一覧
 - (2) 西新橋キャンパス再整備計画について
- 3) 学事関係報告
 - (1) 学事報告
 - (2) 大学の使命について
- 4) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院(本院)の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 評議員会の日程について
日時: 2020年5月28日(木) 午後5時
定例理事会終了後
場所: 2号館3階B会議室
2019年度決算, 2019年度事業報告 他

11. 評議員会

評議員会の開催状況（2019年4月1日～2020年3月31日）

議 事 内 容	
<p>2019年5月30日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成30年度事業報告及び中期事業報告（H28～H30）</p> <p>2) 平成30年度決算</p> <p>3) 平成30年度監査報告</p> <p>4) 中央棟建築借入金の借換えに係る件</p>	<p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 平成30年度中に制定・改定となった規程類の件</p> <p>3) 西新橋キャンパス再整備について</p> <p>4) 今年度末（令和2年3月）及び次年度（令和2年5月）開催の理事会・評議員会の日程について</p> <p>3. その他</p> <p>1) 高木兼寛生誕170年記念事業</p> <p>① 高木兼寛先生生誕170年記念行事</p> <p>② 学祖・高木兼寛先生生誕170年記念講演会</p> <p>2) 懲戒について</p> <p>3) 大学役員退任者への感謝状授与</p>
<p>2020年3月19日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 学校法人慈恵大学2020年度事業計画案の件</p> <p>2) 2020年度予算案の件</p> <p>3) 私立学校法改正に伴う寄附行為の改正について</p>	<p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 病院報告</p> <p>3) その他</p> <p>(1) 次回評議員会の開催について</p> <p>3. その他</p>

12. 監査室

1. 内部監査

2019年度内部監査計画に基づき、以下の内部監査を計画通り実施した。

1) 公的研究費

- (1) 平成30年度分文部科学省関係
 - ① 科学研究費助成事業
 - ② 戦略的創造研究推進事業
 - ③ ひらめき☆ときめきサイエンス
 - ④ 間接経費
- (2) 平成30年度分AMED、厚生労働省関係
 - ① AMED委託研究開発費
 - ② 厚生労働科学研究費補助金
 - ③ 労災疾病臨床研究事業費補助金
- (3) 平成30年度分 経済産業省、総務省関係
 - ① 人工知能技術適用によるスマート社会の実現
 - ② 産業データ共有促進事業費補助金
 - ③ 戦略的イノベーション創造プログラム
 - ④ IoTサービス創出支援事業

2) 公的補助金

- (1) 令和元(2019)年度分私立大学等経常費補助金(一般補助)
- (2) 平成30年度分私立大学等経常費補助金(特別補助)
- (3) 臨床研修費等補助金(第三病院、柏病院)

3) 公的研究費に関するモニタリング(期中監査)

- (1) 2019年度分公的研究費の執行・管理
 - ① 研究進捗状況について研究代表者へのインタビュー
 - ② 物品検収業務の立ち会い
 - ③ 換金性の高い物品の現物確認
 - ④ 消耗品の現物確認
 - ⑤ 非常勤雇用者の勤務状況確認
 - ⑥ 出張の事実確認
 - ⑦ 旅費の重複受給の有無確認(2018年度分含む)
 - ⑧ 研究倫理に関する省令・倫理指針等の遵守状況
- (2) 2020年度科研費応募要件の遵守状況

4) 業務監査

- (1) 平成30年度分学内研究費監査
- (2) 監査法人トーマツの平成30年度監査覚書の指摘事項への対応確認
- (3) 教室会計の管理状況の検証(現金実査)
- (4) 教学監査(医学科、看護学科)
- (5) 入学者選抜の公正確保に関する自己点検(医学科)
- (6) 4病院災害時事業継続計画(BCP)整備状況監査

2. その他

- 1) 監事ならびに監査法人に2019年度内部監査結果を報告し、意見交換を行った。
- 2) 監事と共に監査法人から平成30年度決算の監査報告並びに平成30年度会計監査報告を受け、意見交換した。
- 3) 公益通報・相談窓口の対応
- 4) 研究適正化特別委員会の事務局担当(委員会を3回開催)
- 5) 学長アドバイザーのサポート業務(学長インタビューの支援等)

Ⅱ. 東京慈恵会医科大学

1. 教授、その他の人事（2019年4月～2020年3月）

1) 2020年3月31日付退任教授

氏名	旧所属	現在
矢永勝彦	外科学	名誉教授
丸毛啓史	整形外科学	特命教授
堀誠治	感染制御科	特命教授
谷諭	脳神経外科学	客員教授
岡尚省	内科学（神経内科）	客員教授
伊介昭弘	歯科	客員教授
川村哲也	大学直属	客員教授
清田浩	泌尿器科学	客員教授
新美茂樹	産婦人科学	
小原平	英語研究室	
田尻久雄	寄付講座 先進内視鏡治療研究講座	名誉教授

2) 新任教授

氏名	所属	就任年月日	経歴	備考
斎藤三郎	寄付講座環境アレルギー学講座	2019.4.1	昭和57年 本学卒	前分子免疫学研究部教授より
Alan M.Hauk	英語研究室	2019.4.1	昭和58年 プリンシピア大学	東邦大学 専任准教授より
志賀剛	臨床薬理学	2019.4.1	昭和63年 大分医科大学卒	東京女子医科大学病院 臨床研究支援センター臨床試験管理室室長より
加藤陽子	小児科学	2019.4.1	昭和60年 本学卒	小児科学 准教授より
川目裕	小児科学	2019.4.1	昭和61年 本学卒	東北大学 東北メディカル・メガバンク機構人材育成部門遺伝子診療支援・遺伝カウンセリング分野教授より
小井戸薫雄	内科学（消化器・肝臓内科）	2019.4.1	昭和62年 本学卒	内科学（消化器・肝臓内科） 准教授より
布村明彦	精神医学	2019.4.1	昭和61年 旭川医科大学卒	精神医学 准教授より
近藤一郎	麻酔科学	2019.4.1	平成4年 本学卒	麻酔科学 准教授より
飯田誠	耳鼻咽喉科学	2019.6.1	平成3年 本学卒	耳鼻咽喉科学 特任教授より
瀧浪將典	大学直属	2019.6.1	昭和62年 本学卒	大学直属 准教授より
鈴木正彦	内科学（神経内科）	2019.10.1	平成2年 本学卒	内科学（神経内科） 准教授より
村上秀友	内科学（神経内科）	2019.10.1	平成11年 昭和大卒	内科学（神経内科） 准教授より
平本淳	内科学（総合診療内科）	2019.10.1	平成1年 本学卒	内科学（総合診療内科） 准教授より
高野浩邦	産婦人科学	2019.11.1	昭和63年 本学卒	産婦人科学 准教授より
佐村修	産婦人科学	2019.11.1	平成1年 広島大卒	産婦人科学 准教授より
渡邊朗	眼科学	2019.11.1	平成2年 本学卒	眼科学 准教授より
塚田弘樹	感染制御科	2019.11.1	昭和60年 新潟大卒	感染制御科 特任教授より

氏名	所属	就任年月日	経歴	備考
荒屋 潤	内科学 (呼吸器内科)	2020.2.1	平成6年 富士医科薬科 大卒	内科学(呼吸器内科) 准教授より
桜井 康良	麻酔科学	2020.2.1	平成1年 千葉大卒	麻酔科学 准教授より

3) 客員教授

氏名	所属	就任年月日	備考
鈴木 直樹	大学 直属	2019.4.1	早稲田大学国際情報通信研究センター教授 在任中
本間 定	大学 直属	2019.4.1	日本がん免疫学会理事在任中
鈴木 正章	大学 直属	2019.4.1	千葉西総合病院病理部長在任中
大野 岩男	大学 直属	2019.4.1	社会保険診療報酬支払基金東京支部主任 審査委員在任中
加地 正伸	大学 直属	2019.4.1	日本宇宙航空環境医学会理事長在任中
佐々木 敬	大学 直属	2019.4.1	(公財) 佐々木研究所理事長(代表理事) 在任中
磯西 成治	大学 直属	2019.4.1	日本ヒト細胞学会理事在任中
落合 和徳	大学 直属	2019.4.1	新百合ヶ丘総合病院常勤顧問在任中
景山 茂	大学 直属	2019.4.1	キャノン診療所所長在任中
清水 光行	内科学 (循環器内科)	2019.4.1	天宣会循環器・睡眠呼吸クリニック院長 在任中
辻 守哉	熱帯医学	2019.4.1	米国ロックフェラー大学教授在任中
石橋 健一	内科学(糖尿病・ 代謝・内分泌内科)	2019.4.1	日本国際医学協会理事長在任中
相澤 孝夫	大学 直属	2019.4.1	社会医療法人社団慈泉会理事長 相澤病院最高経営責任者在任中
小曾根 基裕	精神医学	2019.4.1	久留米大学神経精神医学講座准教授在任中
蓮村 哲	内科学 (消化器・肝臓内科)	2019.7.1	衆議院医務室在任中
笠井 健司	内科学 (腎臓・高血圧内科)	2019.7.1	富士市立中央病院派遣中
小澤 一史	解剖学	2019.11.1	日本医科大学大学院医学研究科教授在任中

4) 特任教授

氏名	所属	就任年月日	備考
大槻 穰治	内科学 (総合診療内科)	2019.4.1	特任期間：2019年4月1日～ 2022年3月31日
杉本 健一	臨床検査医学	2019.4.1	特任期間：2019年4月1日～ 2022年3月31日
長谷川 譲	脳神経外科	2019.4.1	特任期間：2019年4月1日～ 2021年3月31日
芝田 貴裕	内科学 (循環器内科)	2019.8.1	特任期間：2019年8月1日～ 2020年3月31日
櫻井 尚子	看護学専攻	2019.4.1	特任期間：2019年4月1日～ 2020年3月31日
内田 満	看護学科 (健康科学)	2019.4.1	特任期間：2019年4月1日～ 2020年3月31日
佐藤 紀子	看護学科 (基礎看護学)	2019.4.1	特任期間：2019年4月1日～ 2020年3月31日
深井 喜代子	看護学科 (基礎看護学)	2019.4.1	特任期間：2019年4月1日～ 2020年3月31日

5) 臨床専任教授

氏名	所属	就任年月日	備考
宇都宮 一 典	大 学 直 属	2019. 4. 1	任命期間：2019年 4 月 1 日～ 2022年 3 月31日
池 上 雅 博	大 学 直 属	2019. 4. 1	任命期間：2019年 4 月 1 日～ 2022年 3 月31日
關 根 広	大 学 直 属	2019. 4. 1	任命期間：2019年 4 月 1 日～ 2022年 3 月31日
黒 田 徹	大 学 直 属	2019. 4. 1	任命期間：2019年 4 月 1 日～ 2022年 3 月31日

6) 叙位・叙勲

(西岡清一郎 監 事 2019年11月 3 日 瑞宝重光章 他で申請)

7) 訃報

堀口 正晴	名 誉 教 授	2019年 7 月21日	逝去
小嶋 聡一	客 員 教 授	2019年 8 月19日	逝去
酒井 糾	北里大学名誉教授	2019年 9 月10日	逝去
磯田 和雄	埼玉医科大学名誉教授	2019年12月 2 日	逝去
日野原 正	獨協医科大学名誉教授	2019年12月21日	逝去
中村 紀夫	名 誉 教 授	2020年 1 月27日	逝去
曾爾 彊	名古屋市立大学名誉教授	2020年 3 月14日	逝去

2. 教職員数

1) 教員数 2019年5月1日現在

① 医学科

有給	1,246名	無給	1,685名
(内訳) 本学を本務とする者	1,188名	(内訳) 本学を本務とする者	339名
日本クラブ診療所派遣中	3名	関連病院派遣中	692名
留学中	25名	留学中	66名
休職中	30名	休職中	188名
		上記以外(名誉教授・客員教授・ 講師(非常勤))	400名

② 看護学科

有給	38名	無給	(名誉教授・客員教授・ 講師(非常勤))	64名
----	-----	----	-------------------------	-----

2) 初期臨床研修医数(2019年4月1日現在)

1年	本院	23名	2年	本院	37名
	歯科	3名		歯科	3名
	葛飾医療センター	12名		葛飾医療センター	10名
	第三病院	21名		第三病院	19名
	柏病院	24名		柏病院	13名
	合計	83名		合計	82名
				総合計	165名

3) 職員数(看護師を含む)(2019年5月1日現在)

大学	*	247名
本院	**	1,667名
葛飾医療センター		600名
第三病院	***	780名
柏病院	***	955名
計		4,249名
常勤職員のみ(長期非稼働者を除く)		
*	法人事務局、医学科国領校、看護学科、慈恵看護専門学校を含む。	
**	晴海トリートメントクリニックを含む。	
***	それぞれ看護専門学校を含む。	

4) 看護師数(2019年5月1日現在)

	正看	准看	その他*	計
法人	2名	0名	0名	2名
大学	1名	0名	0名	1名
本院	1,085名	0名	27名	1,112名
葛飾医療センター	417名	1名	20名	438名
第三病院	513名	1名	17名	531名
柏病院	648名	0名	31名	679名
計	2,666名	2名	95名	2,763名

* 事務員(看護部所属)、看護補助員、診療補助員、保育士

3. 教 育

1) 医学部医学科学生数など（2019年5月1日現在）

(1) 学生数および各学年担当教学委員

学年	定員	人員	内 訳		学年担当教学委員	学生保健指導委員会
			男	女		
1	110	113	66	47	野呂幾久子 教授	委員長 岡本 愛光 教授 副委員長 竹田 宏 講師
2	110	111	63	48	南沢 享 教授	【委員】 横山啓太郎 教授 (晴海トリトンクリニック)
3	110	112	73	39	嘉糠 洋陸 教授	秋山 政晴 講師 (小児科学)
4	110	108	65	43	岡本 愛光 教授	中澤 靖 准教授 (感染制御部)
5	110	118	84	34	武田 聡 教授	長谷部恵子 看護師 (第三・感染制御室)
6	110	109	66	43	大木 隆生 教授	加藤順一郎 助教 (1年担当・内科)
計	660	671	417	254		館野 歩 准教授 (1年担当・精神)
						川井 真 准教授 (2年担当・内科)
						的場圭一郎 講師 (3年担当・内科)
						皆川 俊介 助教 (4年担当・内科)
						富田 陽一 助教 (5年担当・内科)
						松尾 七重 講師 (6年担当・内科)
						宮田 久嗣 教授 (2～6年担当・精神)

(国領校：113名 西新橋校：558名)

(2) 教学委員長 学生部長 大学事務部長

・教学委員長	竹森 重 教授
・副教学委員長	横尾 隆 教授
”	野呂幾久子 教授
・学生部長	繁田 雅弘 教授
・副学生部長	嘉糠 洋陸 教授
”	横井 勝弥 教授
・大学事務部長	相曾好司郎

2) 医学部看護学科学生数など（2019年5月1日現在）

(1) 学生数および学年担当委員など

学年	定員	人員	内 訳		学年担当学生委員等
			男	女	
1	60	60	1	59	委 員 内田 満 教授 (保健指導担当)
2	60	59	0	59	” 細坂 泰子 教授 (1年担当)
3	60	61	1	60	” 望月 留加 准教授 (2年担当)
4	60	58	0	58	” 山下真裕子 准教授 (3年担当)
計	240	238	2	236	” 中島 叔恵 准教授 (4年担当)

(2) 教学委員長・学生部長・学事課

・教学委員長	田中 幸子 教授
・学生部長	小谷野康子 教授
・学事課	井出 晴夫 主事

3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）（2019年5月1日現在）

学年	定員	人員	内訳		大学院委員会				
			男	女	委員長：松藤 千弥 学長				
1	66	40	31	9	副委員長：大橋 十也 教授				
2	66	42	34	8	委員：岡部 正隆 教授 近藤 一博 教授				
3	66	39	29	10	南沢 享 教授 吉田 清嗣 教授				
4	66	42	29	13	岡野(J)洋尚 教授 横尾 隆 教授				
計	264	163	123	40	桑野 和善 教授 矢永 勝彦 教授 小島 博己 教授				

4) 大学院学生数（看護学専攻博士前期課程）（2019年5月1日現在）

学年	定員	人員	内訳		看護学専攻大学院委員会			
			男	女	委員長：中村 美鈴 専攻長			
1	10	8	1	7	委員：田中 幸子 教授 高橋 衣 教授			
2	10	15	3	12	北 素子 教授 櫻井 尚子 教授			
計	20	23	4	19	梶井 文子 教授			

5) 大学院学生数（看護学専攻博士後期課程）（2019年5月1日現在）

学年	定員	人員	内訳		看護学専攻大学院委員会			
			男	女	委員長：中村 美鈴 専攻長			
1	10	3	1	2	委員：田中 幸子 教授 梶井 文子 教授			
計	10	3	1	2	北 素子 教授 櫻井 尚子 教授			

*看護学専攻博士後期課程は2019年4月1日設置により、在學生は1年のみ。

6) 大学および大学院など

(1) 医学科

I. 教学関係

1. 教学委員会

2019年度医学科教学委員会は西新橋校選出委員16名および国領校選出委員2名の計18名で運営され、毎月2回定例で開催された。

2019年度の各教学委員の役割分担は以下の通りである。

竹森重（教学委員長）、横尾隆（副教学委員長）、野呂幾久子（副教学委員長、1学年担当）、繁田雅弘（学生部長、学生部委員長）、嘉糠洋陸（副学生部長、学生部副委員長、3学年担当）、横井勝弥（副学生部長、学生部副委員長）、岡部正隆（カリキュラム委員長）、石橋由朗（試験委員長）、宮田久嗣（学生支援委員長）、靱山俊彦（教育資源委員長）、常喜達裕（臨床実習教育委員長）、南沢享（2学年担当、学術情報センター長）、岡本愛光（学生保健指導委員長、4学年担当）、武田聡（FD・SD委員長、5学年担当）、大木隆生（6学年担当）、鈴木英明（東京都地域枠担当）、中村真理子（教育センターIR部門、教育プログラム評価委員長・教員評価検討委員長）、柳澤裕之（教育担当副学長）。

2. 2020年度医学科の進級、2019年度卒業者

1年：進級	109人	留年	4人	
2年： "	106人	"	3人	退学 2人
3年： "	111人	"	1人	
4年： "	108人			
5年： "	118人			
6年：卒業	109人			

以上の結果、2020年度の学生数は1年114人、2年生112人、3年107人、4年111人、5年108人、6年118人、合計670人。

3. Post-CC OSCEの実施について

医学科卒業時における臨床技能・態度を評価するため、診療参加型臨床実習後の客観的臨床能力試験（Post-CC OSCE）を2019年9月20日（金）・21日（土）の両日に実施し、医学科6年生109名が受験した。本試験は卒前卒後の医師養成をシームレスに進めることを目的としており、次年度からは全国の医学部で本実施が予定されている。このため、本学での試験の様子を文部科学省医学教育課の課長はじめ12名の職員が見学した。

また、試験に先立ち、評価者トレーニングのためのワークショップ（FD）を2019年7月20日（土）に開催し、101名が受講した。

4. 医学科学学生教学検討会議

教学委員会と学生会による懇談会は、学生の教学関係の委員会に参画することを明確に規定し、本年度より「医学科学学生教学検討会議」に改組し、2019年7月11日（木）と2019年12月17日（火）に開催した。学生会からは、講義・実習や試験の内容や進め方をはじめ、その他にも学内の施設・設備関係等に至るまで多岐にわたり要望が出され、教学委員会を中心として検討していくこととした。また、社会一般の意見を広く反映させるため「あけぼの会」の方々にも参加いただき、本学の歴史に関する授業の重要性や情報リテラシーでの学習内容について意見をいただいた。

5. FD「医学教育者のためのワークショップ」

2019年度に開催されたFDは以下の通りである。なお、国内での新型コロナウイルス感染拡大に伴い、臨床実習指導医養成ワークショップ（2020年2月29日（土））、アウトカム基盤型教育検討ワークショップ（2020年3月5日（木））は中止となった。

・スタートアップ研修

日 時：2019年4月16日（火）

場 所：西新橋校

テーマ：スタートアップ研修

修了受領者（27名、実行委員12名）

・Post-CC OSCE評価者トレーニング

日 時：2019年7月20日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：Post-CC OSCE評価者トレーニング

修了受領者（63名、実行委員27名）

・OSCE評価者トレーニング

日 時：2019年8月3日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：共用試験OSCE評価者トレーニング

修了受領者（54名、実行委員11名）

・臨床実習前医療面接実習教員養成ワークショップ

日 時：2019年11月9日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：臨床実習前医療面接実習教員養成ワークショップ

修了受領者（18名、実行委員5名）

・初年次教育に関するワークショップ

日 時：2019年11月30日（土）

場 所：国領校

テーマ：初年次教育に関するワークショップ

修了受領者（23名、実行委員9名）

- ・臨床実習現場におけるEBM指導のための教員教養ワークショップ

日 時：2020年1月18日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：臨床実習現場におけるEBMの指導

修了受領者（14名、実行委員2名）

6. その他の報告事項

1) 入学式

2019年度医学科・看護学科入学式を2019年4月11日（木）に2号館講堂にて挙行了た。

2) 京都府立医科大学との定期戦

第58回京都府立医大・慈恵医大定期戦の開催に伴い、2019年4月29日（月・祝）、両校の学長および教員による教学に関する懇談会を開催（於：京王プラザホテル）し、①臨床実習の長期化（72週化）に伴う病院見学やクラブ活動のあり方について、②学生のアンプロフェッショナルな行動について、③試験問題作成のスキルアップに向けた方策について、④今後の医師臨床研修および専門医研修についてなど、充実した意見交換が行われた。

3) 鹿児島大学との学術交流シンポジウム開催

鹿児島大学との連携協定に基づく学術交流第1回合同シンポジウム「臨床・基礎の壁を超えた先端医学の基盤と応用を目指して」を2019年7月5日（金）に2号館講堂（西新橋校）にて開催した。

4) オープンキャンパス

医学科オープンキャンパスを2019年8月14日（水）・15日（木）に開催した。両日とも、2号館講堂では、①学長からの歓迎メッセージ、②本学の医学教育、③卒業生のキャリアパス、④本学の入試が求めるもの、⑤学生が語る入試準備と大学生活について説明があり、続いて大学1号館にて、聴診体験、模擬授業、研究パネル展示、クラブ活動紹介DVDの上映、外国人SPとの英語での患者・医師間の模擬診療面接を企画し、大変好評であった。

参加者数

1日目：1,100名（前年比+95名）

2日目： 770名（前年比+86名）

合 計：1,870名（前年比+181名）

5) 東京理科大学との合同シンポジウム開催

「第5回東京慈恵会医科大学・東京理科大学合同シンポジウム」を2019年10月5日（土）に2号館講堂にて開催し、学内外から約70名の参加が得られ、活発な発表・討議が行われた。

6) 学祖墓参

2019年10月12日（土）に予定していた学祖高木兼寛先生の墓参は、台風19号の影響により中止となったが、今年は学祖生誕170周年の節目の年であるため、規模を縮小して再度企画し、2019年11月16日（土）に実施した。

7) 4大学学生教育交流会

本学と昭和大学、東邦大学、東京医科大学の4校が持ち回りで年2回の開催が続けられている。2019年度は、①臨床実習の拡充を中心にカリキュラム全般に関する事、②入学者選抜について、③Post-CC OSCEに関する事、④高大接続について、⑤学生のアンプロフェッショナルな行動について、⑥学生支援（留年時の対応等）についての意見交換を行った。今後も継続して本交流会を開催する予定である。2019年度の開催日および当番校は以下の通りである。

第42回 2019年6月5日（水） 東京医科大学

第43回 2019年11月28日（木） 東邦大学

8) 上智大学・東京慈恵会医科大学ジョイントシンポジウム開催

第12回上智大学・慈恵医大ジョイントシンポジウムを2019年12月4日（水）に大学1号館講堂（3階）にて開催した。今回のテーマは「医療におけるスピリチュアルケアの現状」で、

上智大学の曄道学長、本学の松藤学長・大橋副学長をはじめ126名（国領校テレビ会議参加者23名を含む）の参加が得られ、充実した討議が行われた。

9) 宮崎大学との包括連携協定の締結

本学と国立大学法人宮崎大学は2019年3月3日付で包括連携協定を締結し、教育・研究の推進に向けた協力体制を確立した。2020年度から診療参加型臨床実習生の相互受け入れを開始するほか、鹿児島大学も含めた3校での合同シンポジウムの開催についても計画している。

10) 卒業式

第95回医学科・第25回看護学科卒業式を2020年3月7日（土）に2号館講堂にて挙行了。但し、国内での新型コロナウイルス感染拡大に伴い、参加者の縮減や時間短縮など規模を縮小して開催し、参列者の健康チェックの徹底を図った。

11) 国際交流協定の締結

本学医学科の海外臨床実習協定校として、本年度は香港大学、クイーンズランド大学（豪州）、メイヨー医科大学（米国）およびウィーン大学（オーストリア）の4校と協定を締結した。これにより、医学科協定校は合計14校となった。

12) 新型コロナウイルス感染症への対応について

本学医学科・看護学科は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から2020年3月3日時点において概ねすべての学事（授業・実習等）と学生の課外活動を中止とした。また、会議、集会、教職員・学生の海外渡航、海外からの実習生の受け入れの多くを中止・延期とした。

II. 入学試験

1. 入学試験は、2020年2月5日（水）に五反田TOCビルで一次試験を、2月15日（土）・16日（日）・17日（月）に本学西新橋校舎で二次試験を実施し、2月22日（土）午後3時に合格発表を行った。志願者数は1,963名、入学者数は110名である。

入学者の内訳は下記の通りである。

- ① 男子 71名、女子 39名
- ② 現役 56名、1浪 37名、2浪 10名、その他 7名
- ③ 地域別入学者数

東京および関東地方	93名
中部・近畿地方	8名
中国地方	1名
四国地方	1名
九州地方	4名
その他（外国等）	3名

III. 国家試験

1. 医師国家試験

第114回医師国家試験が2020年2月8日（土）、9日（日）の2日間にわたって施行され、結果が2020年3月16日（月）に発表された。本学は新卒受験者109名のうち104名が合格、既卒受験者は3名のうち昨春卒業の2名が合格となり、総受験者112名・合格者106名・合格率94.6%であった。なお、全国の医科大学80校の合格率は92.1%であった。

本学の合格率は、私立医科大学では14位、国公私立を含む全医科大学では33位である。

IV. 退任記念講義・パーティー

1. 西新橋校 退任記念講義・パーティー

2020年3月末日をもって定年により退任される矢永 勝彦教授（外科学講座・消化器外科分野担当）ならびに丸毛 啓史教授（整形外科講座）の退任記念講義を2020年1月31日（金）に西新橋校大学1号館講堂（3階）にて開催した。

演題名 矢永 勝彦 教授 「Academic Surgeonの育成を目指して」

丸毛 啓史 教授 「大学生活の道のり－塞翁が馬（その2）」

また、同日付で定年により退任される堀 誠治教授（感染制御科）、谷 諭教授（脳神経外科学）、

岡 尚省教授（内科学・神経内科）、伊介 昭弘教授（歯科）、川村 哲也教授（大学直属/臨床研修センター）、清田 浩教授（泌尿器科学）、新美 茂樹教授（産婦人科学）、小原 平教授（国領校・英語研究室）の紹介が行われ、松藤学長、穎川同窓会長、浅川医学科保護者会長、学生会代表から記念品が贈呈された。

退任記念講義終了後、退任される教授を囲んで退任記念パーティーを「東京プリンスホテル プロビデンスホールにて開催した。会場には、教職員、同窓、学生など多くの参加があり、盛大なうちに会は終了した。

2. 医学科国領校最終講義

2020年3月末日をもって定年により退任される 小原 平教授（国領校・英語研究室）による退任記念講義を2020年1月18日（土）に西新橋校大学1号館6階講堂にて開催した。

演題名 小原 平教授 「中世の書簡－マーガレットとサーバントの役割－」

講義終了後には、松藤学長、穎川同窓会長、浅川医学科保護者会長および学生代表者から記念品が贈呈された。

(2) 看護学科

I. 教学関係

1. 教学委員会

看護学科教学委員会は、看護学科教学委員長1名、看護学科教学委員原則4名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。

教学委員は以下のとおりである（2019年度は委員5名で構成）。

2019年4月～2020年3月

教学委員長 田中 幸子

教学委員 中村 美鈴、高橋 衣、小谷野康子、梶井 文子、嶋澤 順子

2. 教学関連の主な事項

- ① 2019年度は、1年生60名、2年生59名、3年生61名、4年生58名で新学期を迎えた。
- ② 2019年度オリエンテーションは、4月4日から12日にかけて実施した。カリキュラムや学生生活上の注意などの説明の他、キャリア支援に関するシンポジウム、健康診断やカルト教団、飲酒に関する注意喚起も並行して行われた。また、医学科新入生と合同で、スタートアップ研修や救急蘇生実習を行った。
- ③ 4月5日、学生が自身の知識獲得状況を確認し、今後の学修課題を明確にすることを目的として、2～4年生を対象に科目横断総合試験を実施した。
- ④ 5月11日、看護学科4年生と医学科5年生による、医療倫理に関する共修演習を実施した。
- ⑤ 7月6日、全学年の保護者を対象に、学生に関する情報交換会を開催した。同日に第1回看護学科保護者会総会が開催された。
- ⑥ 7月10日、学生、教学委員、学生委員、カリキュラム委員会合同FD・SD会議を開催した。
- ⑦ 次の期間に定期試験を実施した。
前期 6月29日、7月13日、8月19日～8月21日、9月9日～9月13日
後期 12月16日、1月27日～2月4日
- ⑧ 8月24日、27期生の「看護への思いを新たにする式」を挙行了した。
- ⑨ 英国キングスコレッジロンドンと慈恵間で行われる交換留学について、9月23日～10月11日に4年生2名がセントトーマス病院で3週間、KCLの2年生2名が第三病院、本院で4週間臨地実習を行った。
- ⑩ 10月28日、解剖諸霊位供養法会が行われ、4年生が参加した。
- ⑪ 11月9日、4年生の看護研究発表会を開催した。
- ⑫ 11月16日、学祖高木兼寛先生の墓参に、学生代表が参加した。
- ⑬ 12月17日、吉田絵里子氏による講演会「LGBTから多様性を学ぼう」を開催した。
- ⑭ 3月7日、医学科と合同による卒業式が西新橋キャンパスで行われ、25期生57名、24期生1

名の計58名が卒業し、慈大賞、同窓会賞、日本私立看護系大学協会賞、保護者会賞がそれぞれ贈られた。保護者会は2019年度からの新設賞で、4年間に渡りeポートフォリオを有効活用し、主体的に学修を進めた最優秀学生に対して贈呈された。

尚、例年実施している講師会、米国オレゴン州ポートランドの看護研修、シンガポール国立大学研修、卒前トレーニングは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止された。

II. 入学試験

1. 2020年度入学試験は、2020年2月10日に一次試験（筆記試験）を、2月13日に二次試験（面接）を実施した。志願者は402名、入学者は60名であった。入学者の内訳は次のとおりである。

- ① 女子 57名、男子 3名
- ② 現役 53名、1浪 7名
- ③ 地域別（高校所在地別）入学者数
 - 茨城県 1名
 - 群馬県 1名
 - 埼玉県 8名
 - 千葉県 3名
 - 東京都 36名
 - 神奈川県 9名
 - 大阪府 1名
 - 宮崎県 1名

2. 2019年度オープンキャンパスは、7月20日、21日の2日間開催し、参加者はそれぞれ390名（昨年比－74名）、556名（昨年比－8名）、計946名であり、昨年度より82名減少した。この他、11月2日ファブール祭に合わせて、大学説明会を実施した。参加人数は186名（前年比－30）であった。

3. 受験生の確保を目的として、学外で開催された大学進学ガイダンス等に、教員・学事課職員が参加した。

III. 国家試験

第109回看護師国家試験は2020年2月16日に、第106回保健師国家試験は2月13日に実施され、その結果が3月19日に発表された。結果は下記のとおりである。

看護師 58名受験（既卒0名）、58名合格 合格率 100.0%（全国平均89.2%）
保健師 20名受験（既卒1名）、20名合格 合格率 100.0%（全国平均91.5%）

IV. 学生生活アドバイザー

1、2年生を対象とし、比較的若手の教員が5～6名の学生を担当し、前期、後期にそれぞれ交流活動を行う他、適宜活動を自由に行った。学習や生活上の悩みなど、問題を早期に把握する手段として有益であった。

V. 進路指導関係

昨年度より指導対象学年を3年生からにするなど、早期の取組を行った。

2020年3月卒業生58名の進路の内訳は、次のとおりである。

本学附属病院への就職 33名
進学 6名
保健師として就職 3名
他病院 16名

VI. その他

1. 看護学科、大学院が、附属病院、地域住民、地方自治体、地方の保健医療福祉機関と連携し、地域住民の健康と生きる力を看護の力で支える活動を組織的に展開することを目的とし、地域連携看護学実践研究センター（JANPセンター）を開設して2年目を迎えた。みんなの活動、みんなのまなび場、みんなの保健室の3部門に分かれ、さまざまな活動を実施した。

(3) 大学院

I. 医学研究科医学系専攻博士課程

大学院の授業・研究・制度等について、改善と充実化を図るため、大学院委員会において種々の検討を重ね、2019年度は次の事項を実施した。

1. 研究助成制度の運営

研究の充実化と活性化を堅持することを目的として、各種研究助成制度を運営している。2019年度の採択件数は次のとおりである。

- 1) 大学院研究助成金
・2019年度採択件数：29件
- 2) 医学研究科研究推進費
・2019年度採択件数：新規2件、継続2件
- 3) 萌芽的共同研究推進費
・2019年度採択件数：新規5件

2. がんプロフェッショナル事業「関東がん専門医療人養成拠点」の継続

筑波大学を代表校とする文部科学省がんプロフェッショナル事業「関東がん専門医療人養成拠点」に連携12大学のひとつとして加わり、①がんゲノム医療人養成、②小児・AYA・希少がん専門医療人養成、③包括的ライフステージサポート医療人養成の3コースを2018年に設け、2019年度は17名が新規で受講登録をした。

3. 国立がん研究センターとの連携大学院の充実化

2020年1月16日に「第1回連携大学院生による研究発表会」を国立がん研究センター第1会議室で開催し、院生14名、教職員26名が参加した。また、連携大学院制度の開始以降、初めて連携大学院生が課程修了（学位取得）した他、連携大学院教授の学位論文審査委員会審査委員への任用も行われた。

4. 入学試験について

2019年度の大学院医学研究科医学系専攻博士課程入試を2回実施し、一次募集は2019年9月28日に、二次募集は2020年1月25日に実施した。その結果、43名（うち社会人19名）が合格、その他に転入志願者1名が合格した。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、東京大学、京都大学、千葉大学、群馬大学、東京医科歯科大学、日本医科大学、国立成育医療研究センター、ブリティッシュコロンビア大学、ハーバード大学、国立国際医療研究センターなど国内外の様々な国公立大学、研究所で広く研究を行っている。

5. その他

- ・過去の採点状況を参考に、学位論文審査の評価基準を改定した。また、審査結果報告および総合最終評価を2020年度の学位取得者よりフィードバックすることとした。
- ・大学院医学研究科医学系専攻博士課程公式ホームページのリニューアルを行い、関係者専用ページとしてパスワードを付与したコンテンツ（①執筆依頼等②公開審査情報③規則・各種マニュアル・リンク等）を新設した。

II. 医学研究科看護学専攻博士前期課程・後期課程

2019年度は、看護学科、看護学専攻博士前期課程・後期課程と看護の一貫教育を実現するため、学科・大学院一体化ワーキンググループを設置し、慈恵マインドを持った次世代人材を育成する循環型システムの機能構築を図った。

1. 大学院教員へFaculty Developmentの実施

2019年9月14日に兵庫医療大学から今野 理恵教授を招聘し、「質的研究におけるシステマティックレビューの方法」をテーマとした講演会を開催し、教員26名が受講した。

2. 研究助成制度について

学生に対する教育研究助成は大学院研究助成制度と研究指導費からの助成を活用している。2019年度の大学院研究助成制度採択者は9名であった。

3. がんプロフェッショナル事業「関東がん専門医療人養成拠点」の受講状況
2019年度にがん看護学分野の学生3名が「包括的ライフステージサポート医療人養成 コース」を修了した。
4. 静岡がんセンターと専門性強化へ連携
看護学教育、看護研究並びに医療、公衆衛生に関する教育研究の連携について、静岡がんセンターと協定を締結した。
5. 入学試験について
 - ・看護学専攻博士前期課程
入学説明会を2019年7月2日に実施し、23名が参加した。
入学試験出願期間：2019年8月1日から8月31日
出願資格認定試験：2019年9月8日に、口頭試問、課題レポートおよび書類審査を実施し、出願者1名が合格した。
入 学 試 験：2019年9月15日に専門科目および外国語（英語）、面接を実施した。13名の応募があり、10名が合格した。
 - ・看護学専攻博士後期課程
入学説明会を2019年7月2日に実施し、6名が参加した。
入学試験出願期間：2019年8月1日から8月31日
入 学 試 験：2019年9月8日に専門科目および外国語（英語）、面接を実施した。6名の応募があり、3名が合格した。
6. 修了生について
 - ・2016年度入学生2名と2018年度入学生1名の修了式を2019年9月21日（土）に挙行了。
 - ・2017年度入学生1名と2018年度入学生9名の修了式を2020年3月21日（土）に挙行了。
7. 教育課程の評価と改善
学生による授業評価は、講義終了後に科目責任者と履修生が講義内容について話し合いを持つ方式と、修了生を対象に自由記載方式のアンケートを実施している。それらの結果に基づき、科目ごとの評価を行い、授業改善につなげている。
8. 高度実践看護師教育課程（専門看護師）
専門看護師教育課程を受講した4名が専門看護師認定試験を受験した。合格者は急性・重症患者看護専門看護師1名、がん看護専門看護師2名の合計3名であった。
9. 看護学専攻博士後期課程
2019年度より看護学専攻博士後期課程を設置し、入学者は3名であった。

7) 慈恵看護専門学校の状況

看護専門学校学生数（2019年5月1日現在）

	学生総定員数	1学年定員数	1年生	2年生	3年生	計
	人	人	人	人	人	人
慈恵看護専門学校	300	100	98	108	108	314
慈恵第三看護専門学校	150	50	46	53	42	141
慈恵柏看護専門学校	240	80	82	82	77	241
計	690	230	226	243	227	696

(1) 慈恵看護専門学校

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

- ① 慈恵看護専門学校運営委員会は校長、副校長、教務主任、事務長の4名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。

- ② カリキュラム運営委員会は副校長、教務主任とカリキュラム委員7人で構成され月2回開催されている。
- ③ その他の会議は、教職員会議は定例月1回開催、教員会議が隔週で開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- ① 2019年度1年生(70期生)98名、2年生(69期生)104名、3年生(68期生)104名、合計314名で新学期をむかえた。
- ② 2019年度オリエンテーションは4月9日から4月27日にかけて、学校生活を円滑に送ることができるようガイダンスが行われた。この間に上級生との交流する機会も持った。オリエンテーションの一環として1年生を対象に防犯対策講習、防災訓練を実施した。
- ③ 授業・実習評価アンケート
学生による授業・実習評価アンケートを基礎分野、専門基礎分野科目、専門分野科目、統合分野科目の講義及び臨地実習科目で実施し、結果について講師へ報告した。
- ④ 終講試験
同時出題方式(本試験・再試験・追試験)の試験出題依頼を行い実施した。
- ⑤ 2019年10月24～25日、3年生の学外セミナーを実施した。「ケアの本質」について話し合い、看護についての学びを深めた。
- ⑥ 2019年11月25日東京都看護協会主催看護学生看護研究学会に3年生1名が口演発表、1名が誌上発表をした。
- ⑦ 2020年3月14日に68期生の卒業式が挙行政され、95名が卒業した。

II. 入学試験

1. 2020年度入学試験は次のとおり実施した。

推薦・大学卒選考〔一次〕2019年10月23日(水)〔二次〕2019年11月2日(土)
一般選考〔一次〕2020年1月15日(水)〔二次〕2020年1月18日(土)
志願者数は214名(推薦63名・大学卒30名・一般121名)で、昨年度より21名減少した。

2. オープンキャンパスは、2019年7月20日(土)・8月10日(土)の2回実施し、参加者数は496名(内訳は7月201名、8月295名)であった。

III. 国家試験

第109回看護師国家試験は、2020年2月16日(日)に実施され、その結果が3月19日(木)に発表された。68期生95名が受験し、94名が合格、1名が不合格であった。

(2) 慈恵第三看護専門学校

I. 教学関係

1. 会議

下記の会議を置き学校運営にあたっている。

学校運営会議は学校長、副校長、参与、教務主任、実習調整者、学生相談係、各学年主責任者、事務長で構成するものを今年度は年間に2回開催し、また学校長、副校長、教務主任、事務長で構成するものを6回開催した。その他の会議・委員会は、教員会議、教職員会議、卒業認定会議、単位認定会議、入学試験判定会議、カリキュラム運営会議、臨床実習指導者会議等である。

2. 教学関連の主な事項

- ① 4月5日(金)3校合同入学式を西新橋で挙行政した。併せて当日入学生の保護者会を開催した。2019年度1年生(30期生)46名、2年生(29期生)53名、3年生(28期生)42名計141名で新学期を迎えた。
- ② 5月29日(水)～31日(金)、2泊3日の日程で平山キャンプ場にて教育キャンプを予定していたが、直前になり学生にインフルエンザが流行したため、今年度は中止とした。
- ③ 保護者会について、1年生対象を5月18日(土)、2年生対象を10月19日(土)、3年生対象を6月15日(土)に開催した。

- ④ 7月20日(土)、7月21日(日)、8月24日(土)、10月5日(土)の計4回、オープンキャンパスを開催した。(7月は学校祭同時開催)参加総数は、受験生および保護者を含め653名であった。また、オープンキャンパスに参加できない者を対象とし、事務員が対応する個別見学会を年間11回開催し、受験生および保護者を含め26名が参加した。
- ⑤ 7月31日(水)講師会を開催した。今年度は日本赤十字看護大学の吉田みつ子教授をお招きし、「実習指導を通して伝える看護」をテーマにご講演いただいた。学内へ案内したところ、各看護専門学校、医学部看護学科、看護部から多数の参加をいただいた。
- ⑥ 11月9日(土)、理事長同席のもと1年生46名の戴帽式を挙行了した。
- ⑦ 2020年3月14日(土)に予定した2校合同卒業式は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、感染防止のため参列者の制限や式次第の変更など縮減し、さらに会場を各校へ移したうえで挙行了した。なお、理事長からの祝辞は事前に撮影した動画によるビデオレター形式で行った。
28期生36名が卒業し、優等賞と同窓会より恵和会賞が授与された。

II. 入学試験

2020年度入学試験から、従来実施してきた公募推薦制度を取りやめた。

推薦選考(指定校)および大学卒選考を2019年10月21日(月)・10月26日(土)、一般選考を2020年1月5日(日)・1月7日(火)に実施した。

志願者数は推薦選考32名(内男子1名)、大学卒選考10名(内男子2名)、一般選考80名(内男子3名)、入学者は52名(内男子4名)であった。

III. 国家試験

第109回看護師国家試験は2020年2月16日(日)に実施され、28期生36名が受験し全員が合格した。なお、全国の看護師国家試験合格率は89.2%であった。

(3) 柏看護専門学校

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

- 1) 学校運営会議は、毎月1回開催されている。
- 2) 教職員会議は、毎月1回開催されている。
- 3) 教員会議は、毎月2回開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- 1) 4月5日(金)、3校合同入学式を挙行了した(33期生:入学者82名)。
- 2) 2019年度は1年生(33期生)82名、2年生(32期生)82名、3年生(31期生)77名の計241名で新学期を迎えた。
- 3) 4月2日(火)に、講師会を実施した。本校の教育計画の周知と日頃の教育に関する意見交換の場として活用している。
- 4) 4月8日(月)、2019年度始めにあたり、全学生を対象に始業対面式を実施した。
教職員紹介、学年のクラス編成の説明及び校長より教育方針の表明を行ない、3年間の学習計画導入として行なっている。
- 5) 6月22日(土)に慈恵の看護専門学校3校の学生を対象に恵和会の特別講演が行われた。
- 6) 人間関係の基礎倫理を学び体験を通して深められるように1年次の4月(1泊2日)と2年次の9月(2泊3日)に宿泊研修を実施した。
- 7) 保護者の連携の充実を図るために国家試験に向けた学習支援の方針・理解と協力依頼を目的として、4月20日(土)に3年生の保護者を対象とした保護者会を開催、模擬試験の成績下位の保護者を中心とした三者面談を3回開催した。(4/20〔土〕、7/13〔土〕、12/14〔土〕)
また、2年生の保護者を対象とした保護者会を10月26日(土)に開催した。
- 8) 11月16日(土)、1年生(33期生)の戴帽式を挙行了した(戴帽生82名)

9) 2020年3月14日(土)、本校講堂で卒業式を挙行了。31期生71名が卒業生し、優等賞、恵和会賞がそれぞれ本校卒業生1名に贈られた。また、千葉県より千葉県知事賞、千葉県看護協会より看護協会賞がそれぞれ本校卒業生1名に贈られた。

II. 入学試験

2020年度入学試験は、推薦入試を2019年10月11日(金)、10月19日(土)、一般入試を2020年1月10日(金)、1月14日(火)に実施した。志願者数は、推薦54名(内男子4名)、一般111名(内男子13名)、入学者は84名(内男子5名)であった。

III. 国家試験

第109回看護師国家試験は2020年2月16日(日)に実施され、31期生71名が受験し、71名が合格した(合格率100.0%)

なお、全国の看護師国家試験合格率は89.2%であった。

8) 卒後臨床研修

1. 臨床研修

1) 2019年度臨床研修医として、医科80名(本学卒52名、他学卒28名)、歯科3名の合計83名が採用され、2019年4月1日より研修を開始した。

附属4病院の採用数の内訳は以下の通りである。

本院	26名	内訳：本学卒9名、他学卒17名(歯科3名を含む) 定員：一般40名、小児2名、産科2名、歯科3名(計47名)
葛飾医療センター	12名	内訳：本学卒10名、他学卒2名 定員：一般13名
第三病院	21名	内訳：本学卒16名、他学卒5名 定員：一般22名、小児2名、産科2名(計26名)
柏病院	24名	内訳：本学卒17名、他学卒7名 定員：一般26名、小児2名、産科2名、総合2名(計32名)

2) 2020年度臨床研修医(医科)の採用試験を2019年8月3日(土)、8月17日(土)に実施した。2020年度の募集定員は次の通り。本院：41名(一般37名、小児2名、産科2名)、葛飾医療センター：11名、第三病院：24名(一般20名、小児2名、産科2名)、柏病院：28名(一般22名、小児2名、産科2名、総合2名)。

2018年度(平成30年度)採用試験より、より優秀な臨床研修医を採用するため、応募書類にCBT成績表の提出、採用試験として医療面接(OSCE)を導入するなど厳格な採用試験を導入した。2020年度採用についても優秀な研修医確保のため厳格な採用試験を実施した。結果として4機関合計の定数104名に対し採用数は88名(前年度プラス8名)となった。

3) 2020年度臨床研修医(歯科)の採用試験を8月24日(土)に本院にて実施した。定員3名のところ、7名のマッチング登録があり、採用試験により3名を選抜し採用した。

4) 2020年度採用予定者の大学における卒業試験および医師・歯科医師国家試験の結果により、臨床研修医採用数は、医科88名(本学卒55名、他学卒33名)、歯科3名となった。

附属4病院別の採用数は以下の通りである。

本院	40名	内訳：本学卒13名、他学卒27名(歯科3名を含む) 定員：一般37名、小児2名、産科2名、歯科3名(計44名)
葛飾医療センター	11名	内訳：本学卒10名、他学卒1名 定員：一般11名
第三病院	19名	内訳：本学卒18名、他学卒1名 定員：一般20名、小児2名、産科2名(計24名)
柏病院	21名	内訳：本学卒14名、他学卒7名 定員：一般22名、小児2名、産科2名、総合2名(計28名)

- 5) 第16回研修指導医講習会を2019年8月9日(金)、10日(土)の2日間にわたって開催し、47名が受講を修了した。なお、本講習会は、厚生労働省の開催指針に基づき開催し、修了者には厚生労働大臣名および附属病院長名による修了証を授与した。
- 6) 他大学医学科生向けに病院説明会を2回開催し参加者は計72名(前年比プラス20名)であった。本年度より臨床研修医採用のホームページをリニューアルし広報の充実を図った。
第1回説明会 2019年6月1日(土)
第2回説明会 2019年7月6日(土)
- 7) 今年度のCPCを5月から11月にかけて計6回開催した。

開催回	開催日	担当科	臨床診断名
第756回	5月13日(月)	循環器内科	心アミロイドーシス、多発性骨髄腫
第757回	6月10日(月)	泌尿器科	腎盂腎癌
第758回	7月8日(月)	神経内科	多臓器塞栓
第759回	9月9日(月)	外科	髄膜癌腫症
第760回	10月7日(月)	感染症科	非結核性抗酸菌症、慢性呼吸不全、低アルブミン血症
第761回	11月11日(月)	呼吸器内科	肺癌・肺炎

2. 専門修得コース(レジデント)

- 1) 2019年度は、レジデント144名[本学初期臨床研修修了者73名、他施設初期臨床研修修了者71名(うち本学卒24名)]を採用し、各科にて専門修得コースの研修を開始した。
- 2) 2019年度中に専門習得コースを修了した者は142名(リサーチレジデント4名含む)であった。そのうち、休職(産休・育休)等の理由により、年度途中で修了認定されたものは16名であった。
- 3) 2018年度まで、専攻医(レジデント)の応募者数増加を目的として、メディカル・プリンシプル社が主催する「レジナビフェア」に出展していたが、それに代わり、本学卒の臨床研修医採用に重点を置いた新たな活動を以下の通り開催した。
開催日:2019年10月6日(日) 場所:ホテルオークラ東京
目的:2019年卒業生親睦・情報交換会 参加者数:130名(研修医60名)
- 4) 専攻医(レジデント)採用のホームページをリニューアルした。
- 5) 2020年度レジデントの第1回採用試験は2019年10月19日(土)、第2回採用試験を11月30日(土)に実施した。今年度の採用試験から、従来の小論文、面接に加えてWEB適性検査(TAL)を導入し、医師としての適性・人格評価を取り入れた。2020年度専攻医の採用者は146名(前年度プラス2名)となり、内訳は本学初期臨床研修修了者68名、他施設初期臨床研修修了者78名(うち本学卒35名)であった。本学卒採用が82名(前年度プラス21名)と大幅に増加した。
- 6) 平成29年度より実施している「レジデント期間中の診療部長評価」を、2019年度も継続実施した。評価結果は、レジデント修了後の正規採用時の判断資料として用いている。評価の低いレジデントがいる診療部には、病院長と診療部長で面接を行い採用の可否を判断した。評価項目は、おもに人間性や診療態度を重点としている。

9) 生涯学習センター

- 1) 登録者数：2020年3月現在165名、内港区医師会31名、中央区医師会6名である。
- 2) 利用者数：2019年度は316名である。
- 3) 月例セミナーが下記のとおり開催された。
 - ① 第250回・平成31年（2019年）4月13日（土）

外来でみる足の疾患	窪田 誠（整形外科）
外来でみる股関節の疾患	藤井 英紀（整形外科）
 - ② 第251回・2019年6月8日（土）

前立腺癌の病理	鷹橋 治幸（病院病理部）
前立腺癌の臨床	木村 高弘（泌尿器科）
 - ③ 第252回・2019年11月9日（土）

パーキンソン病の“気づき”から診断・治療まで	大本 周作（神経内科）
高齢者に最適な心臓手術とは？	國原 孝（心臓外科）
 - ④ 第253回・2020年2月8日（土）

貧血の診かた	島田 貴（腫瘍・血液内科）
肝臓病検査の現在と未来	政木 隆博（臨床検査医学）
- 4) 第40回慈恵医大夏季セミナー 東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム
2019年8月1日（木）午後7時より行われ、参加者は239名であった。
 1. AI時代の内視鏡診断治療 炭山 和毅（内視鏡医学講座）
 2. 大腸癌手術～安全性と術後のQOL向上を目指して～ 衛藤 謙（外科学講座）

4. 研究

1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会

- (1) 教育研究助成委員会は、本学の教育と研究の向上を図るため、これらに係る学内教育研究費の予算化および科学研究費補助金等公的研究費のほか各種財団等からの補助・助成について審議し、決定事項を教授会議に提案、報告している。また、研究倫理推進センターの指示に従い、文部科学省「公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、適正な研究活動の管理と運用の徹底についての実務を担っている。
 - ① 2019年度の委員会は、委員長：靄山俊彦、委員：高田耕司、吉田清嗣、岩楯公晴、吉村道博、松浦知和、佐藤紀子及び谷口郁夫専務理事で構成された。
 - ② 2019年度文部科学省科学研究費助成事業（科研費）の採択件数及び総額は、合計233件（転出、延長、廃止課題は除く）、総額356,122千円（間接経費含む）であった。
また、厚生労働科学研究費補助金について採択後大学が経理事務を行った研究課題（研究代表者及び配分金の有る研究分担者）数は、合計20件、総額にして46,662千円（間接経費含む）であった。
国立研究開発法人日本医療研究開発機構研究費の件数については、合計47件、総額にして587,326千円（間接経費含む）であった。
その他各種民間財団等から公募があり大学を通じて応募、あるいは研究者個人が直接応募して報告を受けた助成金等は、33件（応募件数158件）、金額は56,215千円であった。
 - ③ 2019年度科学研究費助成事業（科研費）に採択された研究者に対し学内説明会を開催した。
・科学研究費助成事業使用説明会（6月7日、6月20日、21日西新橋、6月14日第三病院・国領校・看護学科、6月17日柏病院）
 - ④ 公的研究費の適正な申請・使用に係るFDおよび科研費応募説明会（合同開催）を開催した。
テレビ会議システム開催：9月18日：（大学1号館講堂、第三・国領校・看護学科、葛飾、柏病院）、ビデオ開催（9月18日開催分の録画内容を使用）：9月27日（大学1号館講堂）、10月8日（大学1号館講堂）。
 - ⑤ 研究倫理教育の一環として、公的研究費の申請・使用に係るFD（受講者総数662名）及び公的研究に関するSD（受講者数121名）を開催した。
 - ⑥ 2019年度研究経費関係予算の立案および慈恵大学特別研究設備費、慈恵大学一般研究設備費等の研究機器選定、女性研究者キャリア支援研究費の支給対象者の選定を行った。
 - ⑦ 公募研究の学内選考を行った。
 - ⑧ 2019年度「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」を2019年10月16日に文部科学省に提出した。
「研究活動における不正行為への対応に関するガイドライン」に基づく取組状況に係るチェックリストを2019年9月25日に文部科学省に提出した。
 - ⑨ 研究費使用ガイド（第8版）を作成し、本学ホームページにも公開した。
- (2) 大型プロジェクト対策委員会は、全学の研究体制の整備拡充の推進と研究活動の活性化のため、本学がとるべき適切かつ最善な方策（総合医科学研究センター各研究施設の充実、大型研究設備設置、大型研究プロジェクトへ申請選定等）を審議している。
 - ① 2019年度の委員会は、委員長：靄山俊彦教授、委員：丸毛啓史教授、桑野和善教授、井田博幸教授、吉田清嗣教授、嘉糠洋陸教授、加藤總夫教授、谷口郁夫専務理事で構成された。
 - ② 2019年度は（公財）武田科学振興財団による「2019年度特定研究助成」の申請を当委員会では審査し、学内選考を経て申請者を決定した。
- (3) 発明委員会は、本学が関係する発明と特許について審議している。
 - ① 2019年度の委員会は、委員長：村山雄一教授、委員：岡部教授、嘉糠教授、桑野教授、丸毛教授、井田教授、松浦教授、横尾教授、炭山教授、加藤教授、玉利教授の各教授と谷口

専務理事で構成された。

- ② 2019年度に知的財産ポリシー制定と発明規程の改定、本学の発明は原則大学が承継することとなった。今年度は19件の発明の届出があり、全て大学が承継した。2019年度新たに獲得した知的財産権等は8件である。内訳は海外特許6件、国内意匠権1件、国内実用新案1件である。

2) 総合医科学研究センター

昭和40年(1965)以来、着々と整備され、研究成果を挙げてきた共同利用研究施設は、平成7年(1995)に現在の総合医科学研究センター(以下センター)に改組された。

その後、センターはいくつかの研究所の併設、新しい部ならびに施設の設立など、時代の要求に合わせて変遷を遂げた。平成26年(2014)にセンターは本学の研究を推進するために大きく改組され、これで組織的にも、また場所的にも混在していた様々な機能が研究支援部門と研究部、研究所の3つに明確に分かれ、西新橋キャンパスでは大学一号館にほぼ集約された。また国領キャンパス、柏キャンパスの教職員に研究の場を提供するため2つの研究所を有している。現在4つの研究支援施設、10の研究部、2つの研究所よりなる。総合医科学研究センターの運用状況について、外部評価が行われ、外部評価結果をもとに各部門が3ヵ年の到達目標を設定し目標達成に向け研究を推進している。また、より学内の講座等への研究サポートを充実するため基盤研究施設の再編を行った。

■支援部門

- 1) 基盤研究施設では基礎、臨床講座の教員などが登録して共用機器を使用したり、研究スペースを使用したりしている。また試料の形態観察、生化学的分析、細胞生物学的解析、ゲノム解析を中心とした受託サービスを行い、学内施設の研究を支援している。
- 2) 実験動物研究施設では、小動物、大動物の飼育に対応するとともに、本邦でも数台しかない小動物用9テスラーMRI装置、小動物用CT、エコー、発光・蛍光イメージングシステムなどを有し最新の画像的評価を可能にしている。
- 3) アイソトープ実験研究施設は引き続き学内の研究をバックアップし、かつアイソトープを用いる研究が安全に行われるよう万全の体制で管理されており、安心して効率のよい正確な実験を行うことができるように配慮されている。
- 4) GMP対応細胞・ベクター産生施設はGMP準拠の細胞治療、遺伝子治療用の細胞、ベクターの産生が出来る施設であり、基礎研究より得られたシーズを臨床応用するための、トランスレーショナルリサーチを支えている。今後は新外来棟に新設され、2020年の夏に稼働予定のCPF(細胞調製施設)に、その機能を移行する予定である。

■研究部門

- 1) 遺伝子治療研究部では遺伝性疾患の遺伝子治療法の基礎実験を行うとともに、患者を対象とした臨床応用を目指している。
- 2) 悪性腫瘍治療研究部は樹状細胞などを用いた癌の免疫療法の基礎ならびに臨床研究を行っており、脳腫瘍の一部で著名な効果を上げている。
- 3) 分子遺伝学研究部では免疫アレルギー疾患のゲノム情報や質量解析情報等を用いて、疾患に関連する遺伝子群、パスウェイを同定し、それらの機能解析を通して、疾患メカニズムの解明を行っており、現在、複数の臨床の診療科と共同研究を行なっている。
- 4) 医用エンジニアリング研究部は医療に用いられる次世代の工学技術を研究しており、現在はナノサイズのデバイスを用いたターゲティング画像診断・薬物治療の研究を行っている。
- 5) 神経科学研究部では、脳幹を中心とする神経伝達の分子メカニズムの解明とともに疼痛のメカニズムを解明するなど、本学の神経科学研究の中心的存在となっている。現在、先端医学推進拠点群の1つとして痛み脳科学センターを設立し痛みに対する学内横断的な研究の中核となっている。

- 6) 臨床疫学研究部では、臨床現場で働く医師の研究能力開発を目指しており、リサーチマインドを持った総合診療医の養成で重要な役割を担っている。
- 7) 分子疫学研究部は臨床疫学と分子生物学手法を融合した研究を行っている。
- 8) 再生医学研究部は神経系の外傷や変性疾患に対する新規治療法の開発を目標にした研究を行っており、遺伝子改変による霊長類モデル動物の作成や体性幹細胞・iPS細胞などを利用した疾患の病態研究、臓器再建技術の開発に力を入れている。
- 9) 超音波応用研究開発部は、超音波を含む画像診断における人工知能を用いた診断支援の研究などを行っていると同時に学内の人工知能研究の牽引役となっている。
- 10) 先端医療情報技術研究部は近年発展がめざましい、ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) を医療に用いることを目的に、ICT技術の基礎研究から臨床応用までを幅広く取り扱う研究部である。本研究部では、情報通信網と接続するウェアラブルデバイスなどの開発を手掛けるほか、人々の健康管理、救急現場、病院間ネットワーク、慢性期医療としてのリハビリテーションと介護など、幅広い分野でICT医療を実践するための研究開発を行っている。

■研究所

- 1) 国領キャンパス内にある、高次元医用画像工学研究所は種々の先端医療システムを開発し、人体動作の四次元解析や医用画像に関する研究開発を行った。X線、CT、MRI、超音波などの二次元、三次元、あるいは四次元画像解析を行い、医学教育、外科手術、遠隔医療などに貢献しており、第三病院外科、整形外科、耳鼻科と共同で、新たな手術法の開発も行った。
- 2) 柏キャンパス内にある臨床医学研究所は、患者中心の医療が附属病院で実践できるよう、臨床医学の研究を支援し、推進することを目的に設置された。柏病院の医師に研究の場を提供するとともに記憶・学習や情動といった高次脳機能に関する研究が行われ、東京大学、東京理科大学、癌センターなどの近隣施設との共同研究の発展も目指している。また、JSTの戦略的創造研究推進事業CREST、AMEDなどに採択され、研究活動を更に充実することができた。

■リトリート

総合医科学研究センターの研究者などの情報交換や交流を目的に、夏季リトリートを9月28日(土)～29日(日)に富士フィルム和光純薬工業湯河原研修所において開催した。

夏季リトリートでは24課題の発表が行われた。

5. 診 療

1) 病院概況

- (1) 本 院 (院 長：井田博幸
副 院 長：山本裕康・小島博己・瀧浪将典・中野 匡・安保雅博・小澤かおり
事務部長：横山秀彦)

(1) 患者数

- ① 外来1日平均患者数：2,740名 (対前年度比-53名)
- ② 入院1日平均患者数： 890名 (対前年度比±0名)

(2) 病床利用状況

病床利用率は84.4% (稼働床：4月～12月1,050床、1月～3月1,070床、昨年比-0.4p)、平均在院日数は、12.4日 (昨年比-0.1日) であった。

(3) 紹介率・逆紹介率

紹介率は年間平均で医療法74.7% (昨年比+2.8p)、保険法74.2% (昨年比+2.1p) であった。逆紹介率は医療法50.1% (昨年比-0.2p)、保険法51.3% (昨年比+0.3p) であった。

(4) 保険関係承認・届出関係

- ① 後発医薬品使用体制加算2 (2019年6月1日) ※変更
後発医薬品使用体制加算3 (2019年4月1日) ※変更
- ② 小児入院医療管理料2 (2019年4月1日) ※変更
- ③ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘 (亜全摘) 術 (両葉)、内視鏡下副甲状腺 (上皮小体) 腺腫過形成手術 (2019年4月1日) ※新規
- ④ 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術 (2019年4月1日) ※新規
- ⑤ 急性期看護補助体制加算 (25対1・看護補助者5割以上) (2019年5月1日) ※変更
急性期看護補助体制加算 (50対1) (2019年10月1日) ※変更
- ⑥ 神経学的検査 (2019年5月1日) ※変更
- ⑦ 認知療法・認知行動療法1 (2019年5月1日) ※新規
- ⑧ 地域歯科診療支援病院歯科初診料 (2019年6月1日) ※新規
- ⑨ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 (便失禁) (2019年6月1日) ※新規
- ⑩ 看護職員夜間配置加算12対1配置加算1 (2019年7月1日) ※変更
看護職員夜間配置加算16対1配置加算1 (2020年1月1日) ※変更
- ⑪ 骨髄微小残存病変量測定 (2019年7月1日) ※新規
- ⑫ 特定集中治療室管理料1 (2019年8月1日) ※変更
- ⑬ 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術 (2019年8月1日) ※新規
- ⑭ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの) (2019年10月1日) ※新規
- ⑮ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 (2019年11月1日) ※新規
- ⑯ 緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの)) (2019年12月1日) ※新規
- ⑰ 自己生体組織接着剤作成術 (2019年12月1日) ※新規
- ⑱ 自己クリオプレシピレート作製術 (用手法) (2019年12月1日) ※新規
- ⑲ 国際標準検査管理加算 (2020年1月1日) ※新規
- ⑳ 療養環境加算 (2020年1月1日) ※変更
- ㉑ 重症者等療養環境特別加算 (2020年1月1日) ※新規
- ㉒ 無菌治療室管理加算1・2 (2020年1月1日) ※新規
- ㉓ 薬剤管理指導料 (2020年1月1日) ※変更
- ㉔ 検体検査管理加算 (I)・(IV) (2020年1月1日) ※変更

- | | | |
|-----|--|-----------------|
| ②⑤ | 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト | (2020年1月1日) ※変更 |
| ②⑥ | 補聴器適合検査 | (2020年1月1日) ※変更 |
| ②⑦ | CT撮影及びMRI撮影 | (2020年1月1日) ※変更 |
| ②⑧ | 冠動脈CT撮影加算 | (2020年1月1日) ※変更 |
| ②⑨ | 心臓MRI撮影加算 | (2020年1月1日) ※変更 |
| ③⑩ | 外来化学療法加算1 | (2020年1月1日) ※変更 |
| ③⑪ | 無菌製剤処理料 | (2020年1月1日) ※変更 |
| ③⑫ | 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) | (2020年1月1日) ※変更 |
| ③⑬ | 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) | (2020年1月1日) ※変更 |
| ③⑭ | 運動器リハビリテーション料 (I) | (2020年1月1日) ※変更 |
| ③⑮ | 呼吸器リハビリテーション料 (I) | (2020年1月1日) ※変更 |
| ③⑯ | 障害児(者)リハビリテーション料 | (2020年1月1日) ※変更 |
| ③⑰ | がん患者リハビリテーション料 | (2020年1月1日) ※変更 |
| ③⑱ | 集団コミュニケーション療法料 | (2020年1月1日) ※変更 |
| ③⑲ | 特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1) | (2020年2月1日) ※変更 |
| ④① | 急性期看護補助体制加算(50対1) | (2020年2月1日) ※変更 |
| ④② | 看護職員夜間配置加算16対1配置加算1 | (2020年2月1日) ※変更 |
| ④③ | 病棟薬剤業務実施加算1・2 | (2020年2月1日) ※変更 |
| ④④ | 入退院支援加算 | (2020年2月1日) ※変更 |
| ④⑤ | 新生児特定集中治療室管理料1 | (2020年2月1日) ※変更 |
| ④⑥ | 新生児治療回復室入院医療管理料 | (2020年2月1日) ※変更 |
| ④⑦ | 小児入院医療管理料2 | (2020年2月1日) ※変更 |
| (5) | 先進医療 | |
| | 新規申請・承認(申請1件、承認1件) | |
| | ・胃上皮性病変に対するプローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡の診断能に関する多施設前向き研究(内視鏡部) | |
| (6) | 臨床研究・保険適用外診療 | |
| | ・承認件数:新規申請154件、変更申請(期間延長など)133件 | |
| (7) | 指導・監査 | |
| ① | 医療法第25条第1項による立入検査(東京都) | (2019年11月5日) |
| ② | 医療法第25条第3項による特定機能病院立入検査(関東信越厚生局) | (2019年11月5日) |
| ③ | 精神病院等実地指導(東京都) | (2019年11月5日) |
| ④ | 医療法第19条の2第2に基づく医療安全監査委員会を次の通り開催した。
第1回:2019年9月12日(木)
第2回:2020年3月2日(月) | |
| (8) | 医療安全 | |
| ① | 職員個人の安全確保に対する意識向上への取り組み
安全確保のために、個人の意識を高め基本的な安全推進活動を習慣化させることが重要と考え、各種委員会、研修会、部署別研修会などにおいて、チェックバック、名前の確認、ハンドオフ、指さし声だし確認などの基本的な安全確認行為の実演を必須とし、習慣化につなげる取り組みを行った。 | |
| ② | 診療情報の共有強化に向けた取り組み
・診療情報の非共有による事故を防ぐため、画像診断報告書や病理診断報告書の患者への原則公布を普及すると共に、1患者に対し、3か月以内に未読のレポートがある場合、電子カルテの患者画面に一覧で表示されるようシステムの改修を行った。また、医師事務支援室の対応に関する質問に対し確認をおこなうなど連携を強化した。
・緊急入院患者の申し送りを徹底する目的で「ハンドオフシート」のシステム改修を行っ | |

た。システム改修によって、入院申込画面から円滑にハンドオフシート記載画面へ切り替わる仕組みにし、現場がより活用しやすいよう環境整備を行った。また、作成したハンドオフシートを印刷し、紙媒体で申し送りするよう運用も変更した。

③ Team STEPPSの活用に向けた取り組み

Team STEPPS エssenシャルコースを年間3回（年間参加者176名）開催し、概念の浸透を強化するとともに、Team STEPPSアドバンストコースを年間3回（年間参加者133名）開催し、実践への連結強化をはかった。

④ 安全文化の醸成を目指した研修会開催

職員対象のセーフティマネジメント基礎研修会を年間15回（感染対策ベーシックレクチャー合同研修含む）、4病院合同セーフティマネジメントシンポジウムを年間1回行い、医療安全に関する総合的な知識の普及をはかった。また、職種や経験別に、管理者のための医療安全・感染対策研修会、初期臨床研修医対象研修会、レジデント対象研修会、新規採用教職員・転入職員対象研修会、委託・派遣職員対象研修会などを行った。

⑤ セーフティマネージャーを主体とした活動

医療安全推進活動の主体をセーフティマネージャー（SM）と位置づけ、SMが主体となり、院内全部署を一年間かけてラウンドすることで安全な医療体制の構築に努めた。またSMを中心に転倒転落・薬剤・中心静脈挿入・その他のワーキンググループを作り、それぞれに特化した集中的な安全推進活動を行った。

⑥ 個別対応の強化を目指した活動

個々の医療事故イベント防止を目指して、それぞれのイベントに特化した以下の研修会を行った。医薬品安全使用セミナーを10回開催、またインスリンの安全使用・医療用麻薬の安全管理に関する講習会を各病棟にて開催した。その他、褥瘡、栄養管理、脳卒中などについて、それぞれの担当部署と共同したセミナーを開催した。

⑦ 他病院との連携強化に向けた取り組み

慈恵医大附属4病院間では定期的な4病院セーフティマネジメント会議を開催し、問題点の共有を図るとともに、相互ラウンドによる相互チェックを行った。慈恵医大附属4病院以外では、都内の私大病院間の連携強化を目的とした都内私大病院安全連絡会議（COMPASS）を、また全国私大病院間での医療安全連絡会議への参加及び連携強化を目的とした相互ラウンドを、がん研究会有明病院及び大阪医科大学附属病院と行った。

⑧ 特定機能病院承認要件の院内周知

特定機能病院の承認要件について全教職員への周知を各種委員会・会議、研修会にて行った。

(9) 感染対策

① 多剤耐性菌対策の強化

MBL対策を強化実施しており、病棟ICT活動を中心とした標準予防策実施の強化、抗菌薬適正使用の推進、環境整備の強化について引き続き取り組みを行った。

② 新興感染症、インフルエンザ、麻疹など持ち込み感染症対策の強化

・2019年12月に確認されたCOVID-19の流行に伴い、外来・病棟の体制整備を行った。外来、入院患者の受け入れを行い、感染症協力指定医療機関としての役割を果たした。

③ 現場主体的感染対策を推進し強固な感染対策システムを構築する

・感染対策講習会開催回数：101回、のべ受講者人数：7,859人
・全病棟における病棟ICTカンファレンス2回/年継続実施
・小児ICT活動の活性化

④ 学術活動を強化し我が国の感染対策をリードする

・私立医科大学感染対策協議会事務局・推進会議事務局として総会、運営委員会、各専門職部会等の運営について中心となり活動を行った。

1) 2019年8月17日 日本大学医学部附属板橋病院にて総会開催

2) 運営会議1回/年開催

3) 大阪医科大学附属病院と相互ラウンド実施

4) 改善支援1校に対し実施

・感染防止対策加算病院との連携、支援

感染防止対策加算Ⅱ病院と年3回(3月開催予定であった4回目はCOVID-19流行拡大のため中止)のカンファレンスを開催するとともに、感染防止対策加算Ⅰ病院(東京済生会中央病院、東急病院)と相互ラウンドを実施した。

(10) 患者支援・医療連携センター

- ① 連携登録医制度の登録医拡大を図った。新規登録医件数58件、合計572件。
(2020年3月末時点)
- ② 新外来棟開院に伴い、外来棟1階1Jに移転した。またグリーンカウンターを改組し、入退院支援室を設置した。
(2020年1月)
- ③ 「2人主治医制」による紹介、逆紹介推進に向けリーフレットの配付、ホームページ掲載による広報、周知を継続し、地域の医療機関との連携促進を図った。
- ④ 治療と就労の両立支援制度の運用を促進した。
- ⑤ 診療のご案内2019を発行した。
(2019年7月)
- ⑥ 患者支援・医療連携センターだより「つなぐ つながる」を発行した。
・No.18(2019年7月)、No.19(2020年1月)
- ⑦ 附属病院広報委員会の協力のもと医療情報誌「頼れるドクター」に当院紹介記事掲載し、新外来棟、母子医療センターリニューアルの広報を行った。
(2019年12月25日)
- ⑧ 区中央部糖尿病医療連携検討会の事務局を患者支援・医療連携センターが担当した。
・総会、作業部会(2回)を開催した。市民公開講座、医療従事者対象研修会は2020年2月29日に予定していたが、新型コロナウイルス感染の影響により中止とした。
・市民向け広報紙を作成、発行した。
(2019年7月～2020年2月)
- ⑨ 第40回慈恵医大夏季セミナー・東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラムを開催した。
・2019年8月1日(土)、大学1号館講堂(3階)・2号館講堂、参加者239人
生涯学習センターと共同で、慈恵医大夏季セミナーの企画を拡大し、講演会と懇親会の構成で開催した。懇親会では診療機器、医療連携ブースの企画展示を行った。
- ⑩ 「働く人の健康支援研究会」を開催した。
・第11回:2019年9月20日、参加者182人、企業におけるアレルギー対策を考える
・第12回:2020年2月21日、健診“再試”の二次検査
※第12回は新型コロナウイルス感染発生のため中止とした。
- ⑪ 地域包括ケア研修会を開催した。(港区、港区医師会との共催)
・第1回:2019年7月19日、リハビリテーション～退院前評価－医療と地域の意見交換～大学1号館講堂(3階)、参加者123人
※第2回、第3回は本学の対応はなし。
- ⑫ 子ども虐待対応チーム(CAPS)主催研修会を開催した。
・「各科における虐待対応、CAPSチームの運用について」
(2020年2月20日、新型コロナウイルス感染発生のため中止とした。)
- ⑬ 国際医療支援に関する以下の項目を実施した。
・医療通訳端末(ME L O N)について、iOS版の実証実験を9月から12月に実施し、2020年4月から導入することとした。
・医療渡航支援事業者の鴻野国際医療株式会社と新たに業務提携契約を締結した。
(2019年11月1日)
- ⑭ メディカルノート株式会社と生命保険等の契約者向けの医療機関紹介サービスへの業務協力について合意書を取り交わした。運用開始は2020年6月の予定である。
(2020年3月)

(11) 治験センター

- ① 治験の実施:前年度からの継続73件、新規承認24件(前年比+11件)、終了21件(±0件)であった。うち、医師主導治験は5件(+2件)であった。
- ② 臨床試験への実施支援:1件
臨床試験におけるCRC(Clinical Research Coordinator:臨床研究コーディネーター)の支援内容は、治験と同じく被験者対応、スケジュール管理や、データ収集と文書管理等であった。その他、CRCがモニタリング担当者としてその業務を行った。:2試験
- ③ 臨床研究支援センターおよび倫理委員会事務局、CRB事務局との連携
倫理委員会事務局業務、CRB事務局等の支援を目的に、CRCおよび治験事務局スタッフが臨床研究支援センターと連携して、倫理委員会事務局、CRB事務局業務に支援・協力した。

(12) 地域がん診療連携拠点病院(腫瘍センター事務局)

腫瘍センター事務局として地域がん診療連携拠点病院の指定要件整備と機能強化を推進した。「生活のしやすさに関する質問票」を用いた苦痛のスクリーニング実施、緩和医療の提供を行っている他施設との連携を強化し、内外部の対象患者への対応について更なる改善が施された。その他、院内がん登録3,051件、がん相談1,413件、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会2回開催、市民公開講座1回開催、腫瘍センターセミナー2回開催、腫瘍センターサロン交流会(がん患者とその家族の語らいの場(含むミニ講座))53回開催の実績を残した。5大がん+前立腺がんのクリティカルパスの運用実績は28件であった。

(13) 患者サービス

- ① 入院患者向け移動水族館を実施した。(2019年10月31日)
- ② 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第58号から第62号を発刊した。
- ③ 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第55号から第57号を発刊した。
- ④ 2019年度「みんなの健康教室」を以下の日程で開催した。
※NHK放送博物館と共催(患者支援・医療連携センター担当)
年間テーマ「未病、予防のための体の知識」
・第1回 2019年5月18日(土)(36名参加)
・第2回 2019年7月20日(土)(39名参加)
・第3回 2019年9月21日(土)(65名参加)
・第4回 2019年11月2日(土)(29名参加)
・第5回 2020年1月11日(土)(35名参加)
・第6回 2020年3月14日(土)(中止)
※第6回は新型コロナウイルス感染発生のため中止とした。

(14) 診療体制の整備

- ① 2020年1月4日に新病院を開院した。
- ② 病院救急車輛の運用は、小児科を中心とした患者搬送を7件(要請15件)行った。

(15) 工事関係

- ① E棟7階デイルーム改修及び新外来棟との連絡通路増設 (2019年11月7日)
- ② 新外来棟中央検査部等の先行使用開始 (2019年11月7日)
- ③ 新外来棟・N棟放射線関連機器(新設)の使用開始 (2019年11月22日)
- ④ 新外来棟・N棟の使用開始 (2019年11月28日)
- ⑤ E棟7階デイルーム改修及び新外来棟との連絡通路増設 (2019年12月5日)
- ⑥ 新外来棟・N棟放射線関連機器(移設)の使用開始 (2019年12月18日)
- ⑦ 中央棟4階-新外来棟間の連絡通路増設 (2019年12月23日)
- ⑧ 中央棟4階-新外来棟間の連絡通路増設 (2020年1月10日)
- ⑨ F棟1階用途変更及び新外来棟6階細胞加工施設新設工事 (2020年2月13日)
- ⑩ 中央棟5階アイソトープ病棟の改修工事 (2020年2月18日)

- ⑪ E棟1階クリーニング店移設 (2020年2月26日)
- ⑫ 新外来棟地下1階第1照射室の使用開始 (2020年3月4日)
- ⑬ E棟1階クリーニング店移設 (2020年3月19日)
- ⑭ 中央棟5階アイソトープ病棟の改修工事 (2020年3月26日)
- (16) 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。
2019年5月29日(水)、5月30日(木) 献血者88名(申込者数108名)
- (17) 「東京慈恵会医科大学附属病院年報」の発刊
2018年度版を2019年11月に発刊した。
- (18) 臨床研修
2019年度臨床研修採用者は、医科23名(内訳:本学卒9名、他学卒14名)、歯科3名の計26名であった。
- (19) 研修会・講習会
- ① がんに関わる医師に対する緩和ケア研修会(年度2回)
- ・第22回緩和ケア研修会 2019年10月6日(日) 於:1号館6階実習室
修了者:医師19名(本学13名)
 - ・第23回緩和ケア研修会 2020年1月25日(土) 於:1号館6階実習室
修了者:医師44名(本学43名)
- ② 慈恵ICLSコース, 慈恵BLSコース
- ・慈恵ICLSコースを5回開催した。
 - 日時:2019年6月22日(土) 午後1時30分~午後6時 葛飾 参加22名
 - 日時:2019年7月6日(土) 午後1時30分~午後6時 本院 参加24名
 - 日時:2019年9月14日(土) 午後1時30分~午後6時 第三 参加23名
 - 日時:2019年11月9日(土) 午後1時30分~午後6時 柏 参加23名
 - 日時:2020年2月8日(土) 午後1時30分~午後6時 本院 参加23名
 - ・ICLS指導者ワークショップ(インストラクター更新要件)を2回開催した。
 - 日時:2019年7月5日(金) 午後6時~午後10時 本院 参加10名
 - 日時:2019年7月6日(土) 午前8時~午後0時
 - 日時:2020年2月7日(金) 午後6時~午後10時 本院 参加10名
 - 日時:2020年2月8日(土) 午前8時~午後0時
 - ・慈恵BLSコースを年間2回開催した。
 - 日時:2019年7月20日(土) 午後3時~午後5時 参加15名
 - 日時:2019年10月19日(土) 午後3時~午後5時 参加13名
 - ・PBLコース(小児心肺蘇生コース)を3回開催した。
 - 日時:2019年7月20日(土) 午後1時~午後3時 第三 参加6名
 - 日時:2019年9月21日(土) 午後1時~午後3時 葛飾 参加6名
 - 日時:2019年11月9日(土) 午後1時~午後3時 葛飾 参加16名
 - ・JAMPコース(緊急気道管理コース)を4回開催した。
 - 日時:2019年6月15日(土) 午後1時~午後7時 柏 参加17名
 - 日時:2019年8月3日(土) 午後1時~午後7時 本院 参加19名
 - 日時:2019年10月5日(土) 午後1時~午後7時 第三 参加10名
 - 日時:2019年12月7日(土) 午後1時~午後7時 葛飾 参加17名
 - ・心肺蘇生に関する家族参加型市民公開講座を4回開催した。
 - 日時:2019年4月6日(土) 午後1時~午後2時 参加5名
 - 日時:2019年6月8日(土) 午後1時~午後2時 参加5名
 - 日時:2019年8月10日(土) 午後1時~午後2時30分 参加43名
 - 日時:2020年2月15日(土) 午後1時~午後2時 参加9名

- ③ 保険診療に関する講習会
- ・第1回2019年4月26日(金)「保険診療の基礎講習会」 2号館講堂
 - ・第2回2019年5月27日(月)「診療録の書き方講習会」 大学1号館講堂
 - ・第3回2019年7月16日(火)「外科系アドバンスコース講習会」 大学1号館講堂
 - ・第4回2019年9月11日(水)「内科系アドバンスコース講習会」 2号館講堂
 - ・第5回2019年10月21日(月)「指導の立場から」 大学1号館講堂
 - ・第6回2019年12月16日(月)「保険診療の理解のために」 2号館講堂
 - ・第7回2019年12月17日(火)「査定の傾向と対策、PET算定要件、診療録監査実施報告」 1号館講堂
 - ・第8回2019年2月10日(月)「保険診療のウソ?ホント?」 大学1号館講堂

(20) 慈恵医大晴海トリートメントクリニック(所長:横山啓太郎)

- ① 外来1日平均患者数77人(対前年比±0人)
- ② 健診1日平均健診者数23人(対前年比+1人)

(21) 港区立がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」(施設長:岩田真)

- ① 開設2年目、年間来館者数1,999人 対前年度比 109%
- ② 年間がん相談件数総数306件(面談187件 電話119件) 対前年度比125%
- ③ 生活の質向上セミナー(看護師)を年間10回開催した。 参加者 79人
- ④ 栄養セミナーを年間10回開催した。 参加者 215人
- ⑤ リハビリテーションセミナーを年間11回開催した。 参加者 80人
- ⑥ アピランスセミナーを年間1回開催した。 参加者 16人
- ⑦ 両立支援セミナーを年間5回開催した。 参加者 78人
- ⑧ 医師による緩和ケア区民講演会を年間4回開催した。 参加者 92人
- ⑨ 訪問看護ステーションや介護事業所向けのがん在宅緩和ケアに関する研修会を年間4回開催した。 参加者 71人
- ⑩ がん予防に関する啓発事業として以下の事業を行った。
 - ・高輪地区の3大学(北里大学、東海大学、明治学院大学)を対象にした施設見学会 参加者 11人
 - ・港区内公立小学校養護教諭対象のがん教育講習会 参加者 21人
 - ・港区内公立小学校高学年の児童と保護者対象のがん教育イベント 参加者 14組31人
- ⑪ その他の事業を年間4回開催した(笑いヨガ1回、ボイストレーニング1回、ういケアみなと落語会1回、リラクセスエクササイズ1回、) 参加者 60人
- ⑫ がん対策みなと2019年10月5日(土)に出展した。
- ⑬ 第136回成医会総会2019年10月10日(木)~11日(金)にてポスター発表を行った。

(2) 葛飾医療センター(院長:吉田和彦、
副院長:児島章、根本昌実、飯田誠、
事務部長:伊藤敬夫、
看護部長:玉上淳子)

- (1) 患者数・病床利用状況
 - ・1日平均患者数は外来1,192名(前年度比+20名)、入院324名(前年度比-8名)であった。
 - ・病床利用率は稼働床367床に対して88.3%(前年度90.8%)、平均在院日数は10.9日(前年度11.3日)であった。
- (2) 患者紹介率
 - ・患者紹介率は医療法76.3%(前年度75.6%)、保険法70.0%(前年度69.6%)であった。
- (3) 諸官庁への届出・報告等
 - 1) 指定変更申請(関東信越厚生局)
 - ① 病床数変更に係る保険医療機関指定変更申請書 (2019年5月27日)
 - ② 標榜科変更に係る保険医療機関指定変更申請書 (2019年12月21日)

2) 施設基準届出 (関東信越厚生局)

【新規】

- ① 羊膜移植術 (2019年6月1日)

【変更】

- ① 病理診断管理加算1 (2019年4月1日)
② 麻酔管理料 (I) (II) (2019年5月1日)
③ 急性期看護補助体制加算 (25対1) (2019年5月1日)
④ 看護職員夜間配置加算 (12対1 配置加算) (2019年6月1日)
⑤ 重症者等療養環境特別加算 (2019年6月1日)
⑥ 療養環境加算 (2019年6月1日)
⑦ 麻酔管理料 (I) (II) (2019年6月1日)
⑧ 急性期看護補助体制加算 (50対1) (2019年7月1日)
⑨ 特定集中治療室管理料 (2019年8月1日)
⑩ 麻酔管理料 (I) (II) (2019年8月1日)
⑪ 看護職員夜間配置加算 (16対1 配置加算) (2019年9月24日)
⑫ 急性期看護補助体制加算 (25対1) (2019年9月1日)
⑬ 麻酔管理料 (I) (II) (2019年9月1日)
⑭ 看護職員夜間配置加算 (12対1 配置加算) (2019年10月1日)
⑮ 麻酔管理料 (I) (II) (2019年10月1日)
⑯ 画像診断管理加算 (2019年10月1日)
⑰ 神経学的検査 (2019年11月1日)
⑱ 麻酔管理料 (I) (II) (2019年11月1日)
⑲ 麻酔管理料 (I) (II) (2020年2月1日)
⑳ 保険医療機関間の連携による病理診断 (2020年3月25日)
㉑ 麻酔管理料 (I) (II) (2020年3月25日)

【辞退】

- ① 糖尿病合併症管理料 (2019年9月1日)
② 網膜再建術 (2019年9月1日)
③ 保険医療機関間の連携による病理診断 (2019年9月1日)

3) 報告関係 (関東信越厚生局)

- ① 2019年7月24日、施設基準の届出状況等の報告書を提出した。
② 2019年9月24日、消費税率の変更に伴い「特別の療養環境の提供の実施報告書」を提出した。
③ 2019年9月24日、消費税率の変更に伴い「初診・再診の実施報告書」を提出した。
④ 2019年9月24日、消費税率の変更に伴い「180日を超える入院の実施報告書」を提出した。
⑤ 2019年10月26日、医薬品取引価格の「妥結率に係る報告書」を提出した。

4) その他

- ① 2019年4月18日、4床の増床を行うために東京都福祉保健局へ病院開設許可事項一部変更届を提出し、4月23日付で許可となった。
② 2019年5月7日、4床増床の使用許可を得るために東京都福祉保健局へ病院開設許可事項一部変更使用許可申請書を提出、5月15日付で許可となった。
③ 2019年10月7日、東京都福祉保健局へ地域医療指数 (体制評価指数) の確認に係る「救急医療等の参加状況」について届出を行った。
④ 2019年11月14日、関東信越厚生局へ地域医療指数の確認に係る「施設基準の届出状況等に係る報告書」の届出を行った。
⑤ 2020年1月6日、診療科名称の変更に伴い、東京都福祉保健局に病院開設許可事項一部変更届を提出した。

- ⑥ 2020年1月24日、関東信越厚生局へ「酸素の購入価格に関する届出書」の届出を行った。
 - ⑦ 2020年1月28日、集中治療室の器材室を増設するため、東京都福祉保健局に病院開設許可事項一部変更届を提出し、2月3日付で許可となった。
- (4) 患者サービス
- ① 診療科ごとの初診担当医の配置や病棟担当医との応援体制などの対策を講じ、待ち時間の短縮化を図った。また、中待合への呼び込み徹底や、診察進行状況の情報提供などにより、待ち時間を感じさせない工夫を実施した。
 - ② 病院玄関前のバス停サインを行先ごとに色分けし、乗車位置と並び列を明確にした。
 - ③ 外来ブロックにおいて、インターコミュニケーションシステム（相互通信機器）を活用し、看護師と事務員の連携によるトリアージナースの運用を拡大した。また、待合スペースでの看護師のタイムリーな声掛けにより、患者に安心感を与え満足度の向上を図った。
 - ④ 外来・入院患者を対象とした「患者満足度調査」を実施した（2019年11月）。
- (5) 地域医療連携
- ① 2019年11月9日、「第10回 医療連携フォーラム2019」を当医療センター講堂にて開催した。
 - ② 一般社団法人脳卒中地域医療連携パス協会に継続加入し、脳卒中患者のパスを運用した。
 - ③ 葛飾医療連携センターニュースを4回発刊した。
- (6) 工事関係
- ① 本館7～9階病棟内ビルマルチエアコンの整備工事が完了した。 (2019年8月31日)
 - ② 本館4階 集中治療室増床に伴う関連改修工事が完了した。 (2020年2月10日)
 - ③ 院内監視カメラシステムの更新工事が完了した。 (2020年3月19日)
 - ④ 手術室・集中治療室・救急室の監視カメラシステムおよび術野記録用システムサーバーの更新工事が完了した。 (2020年3月30日)
- (7) 指導・監査
- ① 2019年12月7日、関東信越厚生局による施設基準に係る適時調査が実施された。2020年2月14日付で結果通知があったが、返還金等の生じる指摘事項はなかった。
 - ② 2019年12月17日、医療法第25条第1項の規定に基づく放射線部門の立入検査が東京都福祉保健局により実施された。2020年1月29日付で結果が通知され、特に指摘事項はなかった。
- (8) 防火・防災
- ① 2019年6月20日、7階病棟において第1回自衛消防訓練を実施した。
 - ② 2019年9月6日、首都直下地震を想定した政府訓練にDMATを派遣した。
 - ③ 2019年9月18～19日、消防法に基づく防火対象物定期点検を実施した。
 - ④ 2020年2月20日、8階病棟において第2回自衛消防訓練を実施した。
- (9) 医療安全・感染対策
- <研修関係>
- ① 2019年4月3日、1年目臨床研修医を対象に医療安全研修オリエンテーションを実施した。
 - ② 2019年4月25日、5月22日、6月13日、7月29日、8月9日、9月30日、10月17日、11月13日、12月19日、2020年1月17日、医療安全（STEP1）・感染対策基礎（Aコース）研修会を開催した。（6月以降はDVD研修会）
上記以外に昼時間において、医療安全（STEP1）研修会を4回開催した。感染対策（Aコース）を18回、感染対策（Bコース）を24回開催した。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2月20日以降の研修会を中止し、DVD貸出による研修受講確認を実施した。
 - ③ 2019年6月12日、第1回薬剤安全セミナー「薬剤アレルギーについて～アレルギー薬剤の投与ゼロを目指して～」を実施した。
 - ④ 2019年7月2日、第1回感染対策セミナー「当院における入院患者への積極的監視培養効果と課題について」を開催した。

- ⑤ 2019年7月15日、11月16日、2020年2月15日、葛飾医療センターTeam STEPPSエッセンシャルコースを開催した。
- ⑥ 2019年7月25日、9月25日、11月14日、12月25日、2020年1月16日、2月13日、医療安全基礎研修(STEP2)を開催した。
- ⑦ 2019年8月3日、感染対策部署別講習会「4機関栄養部新人研修」を開催した。
- ⑧ 2019年8月14日、17日、31日、2020年1月22日、25日CV安全講習会を開催した。
- ⑨ 2019年10月8日、18日、2020年11月8日、虐待・DVケースに関する勉強会をFAST(Family Support Team)協力のもと開催した。
- ⑩ 2019年10月29日、リハビリテーション科に対してBLS研修会を開催した。
- ⑪ 2019年11月7日、4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム「医療コンフリクトマネジメント～対話を科学する」を山梨大学附属病院 荒神裕之先生を講師に招き開催した。
- ⑫ 2019年11月18日、2020年2月4日、MRI安全研修会を放射線部の協力のもと開催した。
- ⑬ 2019年11月25日、葛飾医療センターシンポジウム「各部署におけるTeam STEPPSの取り組み報告会」を開催した。
- ⑭ 2019年12月4日、転倒・転落防止対策研修会「高齢者の転倒予防～多角的視点から考える～」を開催した。
- ⑮ 2020年1月28日、第2回感染対策セミナー「今さら聞けない「糖尿病看護の基礎の基礎」編」を開催した。
- ⑯ 救急部、管理課の協力のもと、葛飾医療センターBLS研修会を6回開催した。
- ⑰ 臨床工学部等の協力のもと、医療機器安全講習会を14回開催した。内容は、人工呼吸器の適正使用(基礎編・応用編)、生体情報モニターの使用法、除細動器、チェストドレーンバック、超音波ネブライザー等である。

<院内安全ラウンド及び相互ラウンド関係>

- ① 2019年7月30日、4病院合同医療安全・感染対策相互ラウンドで第三病院のラウンドを実施した。
- ② 2019年10月24日、4病院合同医療安全・感染対策相互ラウンドで各附属病院からのラウンドを受入れた。
- ③ 2019年11月1日～14日、医療安全推進週間中に病院幹部による各病棟、外来、中央診療部門、入退院医療連携センター等の医療安全ラウンドを実施した。
- ④ 2019年12月5日、4病院合同医療安全・感染対策相互ラウンドで柏病院のラウンドを実施した。
- ⑤ 2019年12月23日、私立医科大学医療安全・感染対策相互ラウンドで日本医科大学千葉北総病院が来院し、病棟、外来、中央診療部門等をラウンドした。
- ⑥ 2020年1月23日、私立医科大学医療安全・感染対策相互ラウンドで順天堂大学医学部附属越谷病院を訪問した。
- ⑦ 2020年2月4日、看護補助員に対してBLS講習会を開催した。
- ⑧ 2020年2月17日、私立医科大学医療安全・感染対策相互ラウンドで日本医科大学千葉北総病院を訪問した。
- ⑨ 2020年2月26日、私立医科大学医療安全・感染対策相互ラウンドで順天堂大学医学部附属越谷病院が来院し、病棟、中央診療部門等のラウンドを受けた。
- ⑩ 上記以外に、5月以降毎月(8月、11月を除く)セーフティマネジャーとともに院内安全ラウンドを実施した。

<その他>

- ① 術前合同カンファレンスを20症例開催した。
- ② 新治療実施検討部会を11症例実施し、病院運営会議に上申した。

- ③ 2019年6月29日、8月14日、8月17日、8月31日、2020年1月22日、25日CVC認定試験を実施した。(今年度合格者数28名)
- (10) 成医会葛飾支部例会開催
- ① 2019年6月15日、第121回成医会葛飾支部例会(メディカルカンファレンス、特別講演)を開催した。
 - ② 2019年12月14日、第122回成医会葛飾支部例会(ポスター及び口頭発表、特別講演)を開催した。
- (11) 葛飾医療センター公開セミナー開催
- ① 2019年6月8日、「いびき?無呼吸?それって何がアブナイの?」「良い睡眠と悪い睡眠、よく眠れないとどうなるの?」をテーマに第52回 葛飾医療センター公開セミナーを開催した。(参加人数125名)
 - ② 2019年9月14日、「もっと知ってほしい「肺がん」のこと 肺がんにならないために、肺がんになったときに」をテーマに第53回 葛飾医療センター公開セミナーを開催した。(参加人数69名)
 - ③ 2020年2月8日、「ご存知ですか?「心不全」健康寿命を延ばしましょう!」をテーマに第54回 葛飾医療センター公開セミナーを開催した。(参加人数139名)
- (12) 症例検討会(CPC)開催
- ① 2019年12月18日、「腹壁浸潤を伴った局所進行S状結腸癌の一例」をテーマに第59回症例検討会を開催した。
 - ② 2020年2月28日、「慢性血栓閉塞性肺高血圧患者の肺炎を併発し死亡した一例」をテーマに第60回 症例検討会を開催した。
- (13) 病院運営
- ① 2019年5月1日、虐待防止対応チーム(APT)のチーム名称を家族支援チームFAST(Family Support Team)へ変更した。
 - ② 2019年5月27日、「葛飾TF2025」のキックオフミーティングを開催し、「外来・病棟(働き方改革)WG」、「医療連携WG」、「集中治療室WG」、「クリニカルパスWG」と共に活動を開始した。
 - ③ 2019年6月1日、病床数を369床に変更した。
 - ④ 2019年6月25日、「診療報酬・レセプトについて」をテーマに第1回の保険診療講習会を開催した。
 - ⑤ 2019年7月16日、葛飾医療センター納涼会を「テクノプラザかつしか」で開催した。
 - ⑥ 2019年9月2日、教職員を対象とした病児・病後児保育を開始した。
 - ⑦ 2019年10月17日、2020年度臨床研修医のマッチング結果について、定員11名に対し11名のマッチングとなった。(マッチング率 100.0%)
 - ⑧ 2019年10月29日~11月1日、葛飾医療センター職員文化祭を開催した。
 - ⑨ 2019年12月17日、葛飾医療センター忘年会を「テクノプラザかつしか」で開催した。
 - ⑩ 2020年1月1日、総合内科、神経内科、耳鼻咽喉科の名称を総合診療部、脳神経内科、耳鼻咽喉・頭頸部外科に変更した。
 - ⑪ 2020年1月27日、院外処方箋の様式を変更した。(検査値記載)
 - ⑫ 2020年2月13日、当センター講堂において区東北部の医療者を対象として、東京都主催による「東京オリンピック・パラリンピックに向けた災害セミナー」が開催された。
 - ⑬ 2020年2月27日、新型コロナウイルス感染症対策として、「Team COVID-19 葛飾」を発足させ、院内体制と対象患者の診療に係る運用等について全体説明会を開催した。併せて、毎朝の院長ミーティング終了後には、感染対策室メンバーと情報共有するためのミーティングを開始した。
 - ⑭ 2020年3月17日、臨床研修医修了式を挙行了した。

- (3) 第三病院 (院長：中村 敬、
副院長：古田 希、岡本友好、芝田貴裕、平本 淳、
事務部長：峰 隆志、
看護部長：五味美春)
- (1) 患者数・病床利用状況
2019年度 1 日平均患者数 入院472名(前年比+ 6 名)、外来1,309名(前年比-18名)であった。
紹介率 医療法67.2% (昨年度65.6%)・保険法67.9% (昨年度65.8%)、逆紹介率 保険法
46.5%
平均在院日数13.3日 (前年度13.3日)、病床利用率 許可床81.2% (前年度80.3%)、稼働床
81.9% (前年度81.1%)
- (2) 医療連携
2019年 5 月16日 第36回第三病院医療連携フォーラム
「認知症～地域とともに～」
「地域で暮らす認知症者の家族介護の困り事に対する支援課題」
医学部看護学科 梶井文子
2019年10月31日 第37回第三病院医療連携フォーラム
「アレルギー疾患への取り組みと医療連携」
「アレルギーの取り組みと医療連携」小児科 勝沼 俊雄
「鼻呼吸の重要性ーアレルギー性鼻炎の立場からー」
耳鼻咽喉科 小森 学
- (3) 公開健康セミナー
2019年 6 月22日 第88回公開健康セミナー「皮膚に良くない日常生活の悪習慣 ～日焼け
と乾燥～」
2019年11月30日 第89回公開健康セミナー「大規模災害に備える」
2020年 1 月11日 第90回公開健康セミナー「糖尿病と高血圧」
- (4) こまえ市民大学医療講座
2019年 7 月20日 「緩和ケアとそれにつわる話」
2019年 8 月31日 「上手な救急病院の受診の仕方」
- (5) 狛江市老人クラブ連合会健康セミナー
2019年 5 月22日 「今日から始める誤嚥性肺炎予防」～おいしく食事を食べ続けるために～
- (6) 第三病院院内コンサート (入院患者向け)
2019年 7 月13日 院内コンサート「看護学科学生有志」
2019年 8 月30日 院内コンサート「慈恵第三看護専門学校生」
2019年11月16日 院内コンサート「看護学科学生有志」
2019年12月21日 慈恵ゴスペルクリスマスコンサート「学校法人慈恵大学教職員関係者学
生含」
- (7) 諸官庁への届出・報告等 (関東信越厚生局東京事務所)
2019年 4 月26日 向精神薬多剤投与の状況報告
2019年 6 月29日 特掲診療料の施設基準「緑内障手術 (水晶体再建術併用眼内ドレーン挿
入術)」新規届出
2019年 7 月31日 特掲診療料の施設基準「骨移植術 (軟骨移植術を含む。)(同種骨移植 (非
生体) (同種骨移植 (特殊なものに限る。))」新規届出
2019年 7 月31日 施設基準の届出状況等の報告 (定例報告)
2019年 7 月31日 向精神薬多剤投与の状況報告
2019年 9 月30日 保険外併用療養費にかかる実施 (変更) 報告
2019年10月31日 特掲診療料の施設基準「骨髄微小残存病変量測定」新規届出
2019年10月31日 特掲診療料の施設基準「病理診断管理加算 2」新規届出

- 2019年10月31日 初診料及び外来診療料に係る報告
 2019年10月31日 向精神薬多剤投与の状況報告
 2019年11月29日 医薬品価格の妥結率に係る報告
 2020年1月1日 標榜診療科名の変更届出（脳神経内科）
 2020年1月30日 向精神薬多剤投与の状況報告
 2020年2月15日 酸素の購入価格に関する届出
 2020年3月31日 地域歯科診療支援病院歯科初診料の報告
 2020年3月31日 特掲診療料の施設基準「保険医療機関間の連携による病理診断」新規届出
- (8) 工事関係
- 1) 第三病院
- 高額施設計画 建物設備営繕費—
 2020年3月31日完了 本館1階～4階渡り廊下外壁防水補修工事
- 高額施設計画 建物—
 2019年8月7日完了 電子カルテシステム更新に伴う付帯工事
 2020年2月28日完了 4号館自動火災報知設備更新工事
 2020年3月31日完了 本館手術棟非常発電機用燃料補給配管増設工事
- 一般経常予算—
 2019年11月14日完了 本館屋上塔屋看板及び柵補修塗装工事
 2020年3月23日完了 別館1C病棟系統及び5号館病院病理部系統空調機熱交換器交換工事
- 2) 国領校
- 高額施設計画 建物設備営繕費—
 2020年3月31日完了 国領校本館消防水槽用埋設配管漏水修理工事
 2020年3月31日完了 国領校グラウンド東南側防球ネット補修工事
- 3) 看護学科
- 高額施設計画 建物設備営繕費—
 2020年3月27日完了 看護学科防火設備定期点検指摘事項是正工事
 2020年3月31日完了 看護学科棟屋上・北側外壁防水改修工事
- 4) 看護専門学校
- 高額施設計画 建物設備営繕費—
 2020年3月12日完了 看護専門学校冷温水発生機整備工事
 2020年3月31日完了 看護専門学校屋上外壁防水改修工事
- 高額施設計画 建物—
 2020年3月24日完了 看護専門学校自動火災報知設備更新工事
 2020年3月31日完了 看護専門学校ファンコイルユニット更新工事
- (9) 行政監査・実地検査
- 2020年1月24日 医療法第25条に基づく精神科実地指導
 2020年1月24日 医療法第25条に基づく放射線使用施設の立入検査
 2020年2月18日 狛江消防署による消防査察 病院全館
- (10) 行事関係
- 2019年4月2,3,4日 2019年度研修医オリエンテーション
 2019年4月5日 2019年度研修医歓迎会
 2019年7月5日 第三病院納涼会
 2019年10月25日 救急医療業務功労者（2名）表彰
 2019年12月6日 第三病院忘年会及び成医会第三支部懇親会
 2020年3月27日 救急医療業務功労者（1団体、2名）、チーム医療業務功労者（3名）、ベストホスピタリティ（1団体、2名）を表彰

(11) 特記事項

—診療部長の交代—

- 2019年4月1日 山田恭輔診療部長（産婦人科）
2019年4月1日 加畑好章診療部長（眼科）
2019年4月1日 豊田圭子診療部長（放射線科）
2019年4月1日 原田徹診療部長（病院病理部）
2019年4月1日 加藤陽子診療部長（輸血部）

—第三病院リニューアル事業—

- 2019年5月31日 新第三病院建設プロジェクト委員会（2019年5月～）計10回
2019年7月22日 設計事務所選定支援事業者 株式会社プラスPM契約
2019年9月22日 第三病院リニューアル基本構想認可
2019年10月11日 栗原理事長が狛江市長と調布市長それぞれ面談し、リニューアル事業の協力要請
2019年10月30日 教職員対象基本構想説明会開催（栗原理事長出席）
2019年12月1日 株式会社 山下設計契約（基本計画・基本設計業務）
2020年1月22日 慈恵・山下設計・狛江市・調布市による協議開始（2/18、3/23の計3回）
2020年2月14日 他施設訪問（加賀市医療センター2020年2月14日、がん研有明病院2020年2月18日）
2020年3月15日 第1回新第三病院建設プロジェクト統括委員会実施

—その他—

- 2019年7月23日 日本赤十字社による献血実施
2020年2月21日 エトワール狛江看護師寮解約に伴い、リージア狛江看護師寮の新規契約開始

(12) 成医会

- 2019年7月5日 第125回成医会第三支部例会
◎特別講演 歯科 伊介 昭弘 教授
『病院口腔外科、その現状と未来』
2019年12月6日 第126回成医会第三支部例会
◎特別講演 内科学講座 神経内科 岡 尚省 教授
『あゆみー神経内科学とともにー』

(13) 医療安全

- 2019年4月4日 研修医オリエンテーション（医療安全基礎）
2019年4月5日 中途採用・異動者への基礎講習会 4月～毎月開催 年間計11回
（3月のみ新型コロナウイルス問題により中止）
2019年5月9日 医療機器安全講習会 5月～2月まで毎月開催 計21回
2019年5月16日 人工呼吸器安全管理講習会（医師対象） 他9月・11月・1月 計4回
2019年5月20日 人工呼吸器安全管理講習会（看護師・コメディカル対象） 他6月・9月・11月・1月・2月、計6回
2019年5月22日 BLS（一時救命処置）・AED講習会 5月～2月まで毎月開催 年間計11回
2019年5月23日 褥瘡セミナー 他6月・7月・9月・12月・1月 計6回
2019年5月27日 認知症に関する研修会 他6月・7月・8月・9月・10月・11月・12月 計13回
2019年5月27日 DNAR講習会 他10月 計3回
2019年6月11日 医薬品安全管理セミナー 他6月・9月・10月 計4回
2019年6月14日 CVCカテーテル挿入講習会 他1月・2月 計3回
2019年6月15日 緊急気道管理コース（JAMP）講習会

2019年6月22日 慈恵ICLS（二次心肺蘇生）コース講習会
 2019年6月27日 Team STEPPSエッセンシャルコース 他7月・2月 計3回
 2019年7月1日 院内における転倒・転落防止対策セミナー（基礎編）
 2019年7月22日 PICC講習会 他8月 計2回
 2019年7月30日 東京慈恵会医科大学附属4病院医療安全相互ラウンド・4病院セーフティ
 マネジメント会議（於：第三病院）
 2019年9月2日 輸血療法研修会 他8月 2月 計3回
 2019年9月3日 地域医療連携加算相互ラウンド（於：調布東山病院）
 2019年9月17日 地域医療連携加算相互ラウンド（多摩川病院より）
 2019年9月24日 患者クレーム対応研修 他2月 計2回
 2019年10月2日 医療安全基礎研修会 10月より毎月4回 計19回 新型コロナウイルス対
 策で5回分中止
 2019年10月4日 Team STEPPアドバンストコース 他11月・1月 計3回
 2019年10月10日 血液製剤適正使用に関する研修会
 2019年10月16日 虐待・DV症例講習会 10月計4回
 2019年10月23日 医療安全・感染対策合同講習会
 2019年10月24日 東京慈恵会医科大学附属4病院医療安全相互ラウンド・4病院セーフティ
 マネジメント会議（於：葛飾医療センター）
 2019年10月28日 第1回研修医裁判傍聴
 2019年11月1日 医療安全推進週間（11月1日～11月14日）
 2019年11月7日 4病院合同シンポジウム
 2019年11月18日 第2回研修医裁判傍聴
 2019年12月3日 地域医療連携加算相互ラウンド（於：多摩川病院）
 2019年12月5日 東京慈恵会医科大学附属4病院医療安全相互ラウンド・4病院セーフティ
 マネジメント会議（於：柏病院）
 2019年12月10日 4病院合同シンポジウムDVD講習会 12月計4回
 2019年12月17日 私立医科大学協会加盟大学附属病院医療安全相互ラウンド（於：東京女
 子医科大学八千代医療センター）
 2020年1月21日 地域医療連携加算相互ラウンド（調布東山病院より）
 2020年2月20日 5S活動研修
 ※下記は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として中止した行事
 2020年2月27日中止 東京慈恵会医科大学附属4病院医療安全相互ラウンド・4病院セー
 フティマネジメント会議（於：附属病院） → 中止
 2020年3月17日中止 私立医科大学協会加盟大学附属病院医療安全相互ラウンド（日本大
 学病院より） → 中止

(14) 感染対策

2019年4月2日 新採用研修医講習会
 2019年4月4日 新入職看護師講習会
 2019年4月5日 中途採用者向け感染・医療安全基礎研修 毎月1回開催し、年間11回開催
 2019年5月22日 感染症・感染管理講習会 毎月2～3回開催し、年間29回開催 延べ1,094
 名が出席
 2019年5月26日 DOTS会議 毎月1回開催し、年間11回開催
 2019年6月5日 感染防止対策地域連携1－2カンファレンス 6月・9月・12月・3月
 計4回
 2019年6月12日 Webカンファレンス（ゾフルーザ） 計3回
 2019年7月17日 認定看護師オープン講座 7月（2回）・11月に計3回
 2019年9月27日 部署別講習会（外科SSIフィードバック）

- 2019年10月21日 感染症・感染管理講習会 医療安全研修会 合同特別講習会
 2019年11月11日 看護補助員講習会 11月・12月に計2回
 2019年11月30日 1年目看護師教育研修会
 2020年2月3日 コロナウイルス感染症緊急講習会 2月に計2回
 2020年2月7日 部署別講習会（手術部看護師） 計2回
 2020年2月27日 コロナウイルス感染症対策講習会（師長室）
 2020年3月16日 コロナウイルス感染症対策講習会（職員管理当直）
- (15) 救急・防災関係
- 2019年4月1日 2019年度の救急隊指導医として救急部大谷圭他 計12名の医師が委任を受ける
 2019年6月19日 消火・避難訓練 4A病棟（第1回目）
 2019年7月17日 狛江救急業務連絡協議会
 2019年7月31日 新規DMAT隊員養成研修に1名受講し、DMAT隊員が1名増員となる（8月3日まで）
 2019年9月7日 内閣府主導の2019年度大規模地震時医療活動訓練に参加し、会議室1に災害対策本部を設置し訓練を行った。
 2019年9月11日 自衛消防訓練審査会出場 ユニディ屋上にて（3人操法・優秀賞）
 2019年11月6日 新規DMAT隊員養成研修に2名受講し、DMAT隊員が2名増員となる（11月9日まで）
 2019年11月13日 狛江消防署依頼の救命救急士2名再教育実習受入れ（12月12日まで）
 2019年12月15日 狛江市・調布市災害時医療救護所設置訓練
 2020年1月17日 狛江消防署依頼の救命救急士2名再教育実習受入れ（2月17日まで）
 2020年2月6日 4病院合同災害対策訓練
 2020年2月18日 狛江消防署消防査察（立入検査）
 2020年2月21日 消火・避難訓練 リハビリ訓練室（第2回目）
 2020年2月26日 消防署意見交換会（新型コロナウイルスの影響により少人数での実施）
 2020年3月14日 東京都東京2020大会に向けたマスギャザリング災害対策セミナー
- (16) その他研修
- 2019年4月2日 臨床研修医オリエンテーション院長講話
 2019年4月19日 防犯対策講習会
 2019年5月13日 第1回メンタルヘルス研修会（新人向け）
 2019年5月20日 第2回メンタルヘルス研修会（新人向け）
 2019年9月7日 認知症サポーターフォローアップ講座
 2019年9月7日 慈恵結びの会（看護学科・認知症疾患医療センター・狛江市共催）
 2019年9月24日 教職員研修①（アンガーマネジメント研修）
 2019年11月10日 緩和ケア研修会
 2019年11月13日 認知症研究会
 2019年11月19日 喫煙対策DVD研修会 計4回実施
 2019年11月21日 第18回緩和ケアチームオープンカンファレンス
 2019年11月30日 認知症サポーターフォローアップ講座
 2019年11月30日 慈恵結びの会（看護学科・認知症疾患医療センター・狛江市共催）
 2019年12月5日 ハラスメント対策研修会 計4回実施
 2019年12月16日 教職員研修②（ヒューマンエラー対策研修）
 2020年2月1日 認知症サポーターフォローアップ講座
 2020年2月1日 慈恵結びの会
 2020年2月5日 認知症研究会
 2020年2月8日 緩和ケア研修会

2020年2月19日 教職員研修③（医療現場における5S活動研修）
2020年2月20日 第19回緩和ケアチームオープンカンファレンス
2020年2月27日 がん早期診断研修会

(4) 柏病院（院長：秋葉直志、
副院長：貞岡俊一、吉田 博、長谷川譲、西脇嘉一、
事務部長：相馬陽一）

(1) 患者数・病床稼働率・患者紹介率等

- ① 一日平均外来患者数：1,492名（前年度比－5名）
- ② 一日平均入院患者数：579名（前年度比－3名）
- ③ 病床利用率：稼働床650床（2020年1月～664床）に対して88.7%（前年度稼働床650床に対して89.6%）
- ④ 平均在院日数：13.0日（前年度13.9日）
- ⑤ 患者紹介率：医療法84.2%、保険法84.1%
- ⑥ 逆紹介率：66.4%

(2) 保険関係承認・届出関係

1) 施設基準に係る届出（新規及び加算内容の変更等）

- ① 2019年4月1日付
 - ・再届 救命救急入院料2（継続して算定する場合の再届）
- ② 2019年7月1日付
 - ・変更 放射線治療専任加算（機器の変更）
 - ・変更 外来放射線治療加算（機器の変更）
 - ・新規 画像誘導放射線治療（IGRT）（新規）
 - ・新規 体外照射呼吸性移動対策加算（新規）
 - ・新規 定位放射線治療（機器の変更）
 - ・新規 定位放射線治療呼吸性移動対策加算（新規）
- ③ 2019年10月1日付
 - ・再届 特定集中治療室管理料4（継続して算定する場合の再届）
- ④ 2020年3月1日付
 - ・変更 総合入院体制加算2（加算3から加算2へ変更）
 - ・変更 医師事務作業補助体制加算1（40対1）（加算2から加算1へ変更）
 - ・新規 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）（新規）
- ⑤ 変更 麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）（麻酔科標榜医の変更）
 - ・2019年4月1日付 5月1日付 6月1日付 7月1日付 8月1日付 10月1日付
 - ・2019年12月1日付
 - ・2020年1月1日付 2月1日付

2) 先進医療届出

眼科「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」について、2019年8月1日付で関東信越厚生局より承認を受け、先進医療として診療を開始した。

(3) 診療体制

- ① 肥満患者に対する腹腔鏡下胃縮小術の運用開始に向け、関係者によるミーティング等、準備を開始した。
- ② 患者との診療情報共有への取り組みとして、2020年1月1日より内視鏡ならびに病理細胞診における患者用検査結果レポートの患者への交付を開始した。
- ③ 診療科名及び組織図について、2020年1月1日付で神経内科を脳神経内科、耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉・頭頸部外科、乳腺・内分泌外科を乳腺・甲状腺・内分泌外科に変更した。

- ④ 臨床倫理事例への対応力強化のため、「慈恵医大臨床倫理を学ぶ会」柏病院勉強会を開催した。
第1回 2019年10月1日、第2回 2019年11月19日、第3回 2019年12月17日
- ⑤ COVID-19（新型コロナウイルス感染症対策として、2020年1月24日より時診療部会議、関係部署によるミーティングを実施、またCOVID-19の院内組織図を制定、COVID-19緊急対策本部を設置して週1回の会議を開催、対策全般について検討を行った。CLOMO MDによる一斉配信の整備、専門外来等の診療体制、来訪者対応、教職員の健康管理、各部署BCPの確認、行政との連携、講習会・行事の対応他。
- (4) 患者サービス関連
- ① 2019年10月5日（土）に菊池南里氏のピアノ演奏による、フロアコンサートを開催した。
- ② 患者満足度調査（外来分）2019年11月11日～16日に外来患者を対象に実施した。
（入院分）2019年11月12日～21日に入院患者を対象に実施した。
- (5) 成医会柏支部例会
第60回 2019年7月6日、第61回 2019年12月7日に開催した。
- (6) 症例検討会（CPC）
第45回 2019年6月19日『縦隔への放射線治療経過中に咯血死した1例』
第46回 2019年11月20日『肺腫瘍塞栓症を生じた乳房外Paget病の1例』
- (7) 指導・監査
2020年1月20日、柏市保健所による医療機関立入検査（医療監視）が行われ、指導・改善事項はなかった。
- (8) 先進医療
実施件数：早期胃癌に対する腹腔鏡下センチネルリンパ節5件
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術14件（申請のための確保症例数含む）
- (9) 個人情報保護関連
2019年12月18日 テレビ会議システムを利用した4機関同研修会を開催した。
講演テーマ：「医療現場における個人情報保護の取り扱い」
講師：メディカルリスクマネジメント室 主任研究員（看護師） 本山和子氏
- (10) 地域がん診療連携拠点病院
2019年度の患者数および講演会等の開催回数は次のとおりである。
外来患者延べ患者数：75,830名、入院患者実患者数：4,341名、地域がん登録件数：2,421名
緩和ケアチーム介入件数：215件、公開講座：1回（9月21日）、がん・緩和ケア交流会（患者交流会）：11回、がん講演会：5回（5月25日、7月27日、9月28日、11月30日、1月25日）
年2回の市民公開講座で地域の住民を対象に、肝臓がん並びに婦人科がんについて医療知識を高める場を提供。（がん講演会では医師による病気の基礎知識、治療法などの講演、看護師による講演を行い医療情報の提供を行った。婦人科がんの市民公開講座は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い開催を中止した。）
- (11) 地域医療支援病院（医療連携）
東葛北部二次医療圏内の医師会、歯科医師会、行政機関（市役所、保健所、消防署）、近隣連携医療施設から外部委員を選出したうえ、地域医療支援病院運営委員会を以下の日程で開催し、地域医療に係る検討及び意見交換をおこなった。
第1回 開催日：2019年7月29日（月）
第2回 開催日：2019年12月19日（木）
- (12) 東葛北部地域難病相談支援センター事業
千葉県難病相談支援センター事業実施要綱に基づき県からの委託事業として平成17年度より受託開始し、必須とされる7事業を運営している。日々の相談業務の他、難病患者・家族・関係機関を対象とした講演会を年2回開催しており、2019年度は下記の通り開催した。
第1回「難病患者さんの嚥下障害への対応～作って食べよう！えん下食～」(参加者19名)
第2回「難病を抱えるみなさんが職業生活を送る上で知って頂きたいこと」(参加者16名)

(13) 救命救急センター

救急科と全診療科が連携し、救急患者の積極的な受け入れ体制の強化を継続し、応需不可案件については毎朝医師と看護師で検討会を実施した。救急室の救急受入コールはトリアージナースが1次・2次救急を担当し、3次救急は救急医師が対応した。

① 救急患者数推移

1次救急4,616名（前年度比－30名）

2次救急3,087名（前年度比＋139名）

3次救急1,031名（前年度比－9名）

② 救急隊受入搬送件数

5,151名（前年度比＋186名）

(14) 医療安全管理・感染対策

1) 医療安全管理

インシデント・アクシデント報告件数は2,128件で、Team STEPPSへの参加者数は86名であった。その他柏病院で開催した医療安全・感染対策のための教育研修およびピアレビューの実施状況については、以下の通りである。なお、COVID-19感染防止のため2月以降予定されていた教育研修については、すべて中止としている。

1. Team STEPPSエッセンシャルコース：5回

2. 医療機器安全セミナー：14回

3. MR安全講習会（放射線部）：5回

4. 輸血安全講習会：2回

5. 医療安全推進週間 2019年11月1日～14日

外部講師による講演 「医療コンフリクトマネジメント～対話を科学する」

6. 医療安全対策地域連携加算ラウンド（訪問のみ） 2020年2月12日

相手施設：北柏リハビリ総合病院

2) 感染対策

1. 新人教育：2回

2. 感染対策セミナー

① 毎月開催（計15回）感染対策セミナーベーシック 767名参加

② 各診療科における研修会（計22回）延べ214名参加

3. 感染対策地域連携カンファレンス：4回

4. 私立医科大学病院感染対策協議会総会（2019年8月17日 会場：日本大学板橋病院）

5. 亀田総合病院相互ラウンド（柏病院受け入れ：2019年7月9日）

3) 医療安全・感染対策共催

1. セーフティマネジメント基礎研修会（DVD放映を含む）：8回

2. 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム：1回

3. 医療安全・感染対策セミナー：1回

4. 附属4病院合同医療安全・感染対策相互ラウンド（柏病院受け入れ：2019年12月5日）

5. 私立医科大学附属病院相互ラウンド

2019年11月18日（訪問）、2019年12月16日（受け入れ）

相手施設：埼玉医科大学国際医療センター

6. 委託業者・派遣職員教育：2回

(15) 防火・防災

① DMAT関連

・2019年6月13日から15日に開催された日本DMAT養成研修に看護師1名が受講し、2チーム体制を維持できる組織の拡大と充実を図った。

・2019年7月11日に開催された複数の傷病者が発生した場合を想定した関係機関強化訓練に1チーム5名を派遣した。

- ・2019年9月7日に開催された令和元年度大規模地震時医療活動訓練にインストラクターとして医師1名、看護師1名と各所属のDMAT隊員が参加し当院にて机上訓練を実施した。
- ・2019年9月9日から9月12日に台風15号通過後の千葉県内停電・断水による災害時医療対応のために院内に調整本部を設置し、DMAT隊員を派遣及び被災地区からの転送受入の調整を行った。
- ・2019年10月12日から10月13日に台風19号通過に伴い災害時医療対応のため院内に東葛北部地域活動拠点本部を設置し、地域内の関係機関との連携を行い被害状況の確認を行った。
- ・2019年9月15日に開催された令和元年度多数傷病者事故救急・救助訓練に医師1名を派遣した。

② 防災訓練の実施

- ・2019年6月30日に会議室G・1階エントランスホール・外来待合にて2019年度柏病院大規模災害訓練を実施した。
- ・2019年10月8日に3C・CCU病棟にて2019年度第1回消防避難訓練を実施した。
- ・2020年2月4日にD1C会議室・屋外にて2019年度第2回消防避難訓練を実施した。

③ その他

- ・2019年9月2日に柏市自衛消防隊競技会に参加した。

(16) 工事関係

- ① B棟外壁補修工事 (2019年1月完了)
- ② 病棟2床室6室の4床室化改修工事 (2018年5月完了)
- ③ 病棟個室11室改装工事 (2018年7月完了)
- ④ C棟5～7階職員トイレ改修工事 (2018年9月完了)

(17) 初期臨床研修医関連

2020年度研修医は医師国家試験の結果、21名（基本プログラム18名、小児科医育成プログラム0名、産科医育成プログラム1名、内科重点育成プログラム2名）を採用した。よって、柏病院の研修医は2019年度研修医24名と合わせて計45名となった。

(18) 行事・その他

- ① 2019年7月、柏市地球温暖化対策条例に基づく削減計画実施状況報告書により、温室効果ガス排出量は基準年度の9,534t-CO₂に対し、2018年度9,281t-CO₂で、2.65%削減を報告した。
- ② 2019年6月25日（火）に新入教職員歓迎会を開催した。
- ③ 2019年7月30日（火）に納涼盆踊り大会を開催した。
- ④ 2019年12月27日（金）に病院忘年会を開催した。

(5) 総合健診・予防医学センター

センター長 宇都宮一典
 新橋健診センター センター長 加藤 智弘
 晴海健診センター センター長 横山啓太郎

1) 2019年度実績（新橋健診センター）

年間受診者 18,027名

(内訳)

* 人間ドック	7,313名
* 入社健診	1,139名
* 定期健診	6,688名
* 特殊検診	2,245名
* 予防接種	381名
* その他	261名

(6) 病床数および外来患者数

(1) 病床数（使用床）

(2019年4月1日現在)

	本院	葛飾	第三	柏	合計
個室	287	45	77	72	481
2人室	4	8	52	54	118
3人室以上	759	312	446	524	2,041
合計	1,050	365	575	650	2,640
比率（内科系：外科系）	42:58	39:61	51:49	39:61	

(2) 病床数（届出床）

(2019年4月1日現在)

	本院	葛飾	第三	柏	合計
個室	293	45	77	72	487
2人室	4	8	52	54	118
3人室以上	778	312	452	538	2,080
合計	1,075	365	581	664	2,685
比率（内科系：外科系）	42:58	39:61	51:49	39:61	

(3) 2019年度診療実績

(2019年度)

	本院	葛飾	第三	柏	晴海トリトン	健診センター	合計
一日平均外来患者数	2,740	1,192	1,309	1,492	77	56	6,866
一日平均入院患者数	890	324	472	579			2,265
利用率（稼働床）	84.4	88.3	81.9	88.7			85.4
予算達成率	100.5	101.5	99.5	102.8	100.2	99.4	101.0
紹介率 医療法	74.7	76.3	67.2	84.2	6.3		
〃 保険法	74.2	70.0	67.9	84.1	1.4		

2) 派遣・関連病院関係

(1) 大学協力病院（5病院）

(2019年4月1日現在)

	病院名	院長	副院長	常勤医数 (慈恵関係者)	病床数
1	国立病院機構 西埼玉中央病院	小村 伸朗 (昭60)	橋本 浩一 (平4)	49 (30)	325
2	富士市立中央病院	柏木 秀幸 (昭53)	笠井 健司 (昭56) 諸岡 暁 (昭56) 後藤 博一 (昭56)	100 (71)	520
3	厚木市立病院	長谷川 節 (昭60)	増淵 正隆 (昭59・他学) 藤原千江子 (平2・他学) 鷺塚 朋子 (看護)	68 (65)	347
4	町田市民病院	金崎 章 (昭56)	櫻本千恵子 (昭59・他学) 和泉 元喜 (平4) 古屋 優 (平4・他学)	86 (38)	447
5	東急病院	徳留 悟朗 (昭56)		28 (22)	135

※大学協力病院の指定要件は次の通りである。

- 1) 院長または副院長等の主要ポストが得られること
- 2) 人事などに大学の意向が反映されること

(2) 教室等関連病院 (○印：大学協力病院 △印：専門修得コース関連病院) 2019年4月現在

<p>※内科学講座 (共通)</p> <p>○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 神奈川リハビリテーション病院 康心会汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 JCHOさいたま北部医療センター JCHO桜ヶ丘病院 国立病院機構東京医療センター 東京通信病院 新宿健診プラザ</p>	<p>国立がん研究センター中央病院</p> <p>※糖尿病・代謝・内分泌内科</p> <p>衣笠病院 川口市立医療センター 町立津南病院 野村病院</p> <p>※呼吸器内科</p> <p>国立国際医療研究センター 国立病院機構東京病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 国立がん研究センター中央病院 神奈川県立循環器呼吸器病センター さいたま赤十字病院 太田総合病院 太田睡眠障害センター 国立病院機構相模原病院 がん研究会有明病院</p> <p>△厚木市立病院</p> <p>※精神医学</p> <p>○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 栃木県精神保健福祉センター パナソニック東京健康管理センター 北辰病院 横手興生病院 湘南病院 成増厚生病院 成田病院 総武病院 東条病院 放射線医学総合研究所 西熊谷病院 国立成育医療研究センター 常心会川室記念病院 栃木県立岡本台病院 豊後荘病院 久喜すずのき病院 高田西城病院 那須高原病院 両毛病院 河津浜病院 よしの病院 光生会平川病院 小金井病院 大多喜病院 土浦厚生病院 八千代病院 大澤台病院 根岸病院 清川遠寿病院 △東京都立小児総合医療センター 佐々木研究所附属杏雲堂病院</p> <p>※小児科</p> <p>○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○国立病院機構西埼玉中央病院 ○町田市民病院 神奈川リハビリテーション病院</p>	<p>康心会汐見台病院 国立病院機構国立病院機構相模原病院 埼玉県立小児医療センター 都立北療育医療センター 東京都立小児総合医療センター 国立成育医療研究センター 神奈川県立こども医療センター 総合母子保健センター愛育病院</p> <p>※皮膚科</p> <p>○厚木市立病院 東京警察病院 N T T 東日本関東病院 東京通信病院 国立国際医療研究センター病院 △虎の門病院 自治医科大学附属さいたま医療センター</p> <p>※外科</p> <p>○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 JCHO桜ヶ丘病院 がん研有明病院 埼玉慈恵病院 川口市立医療センター 総合高津中央病院 春日部中央総合病院 守谷慶友病院 総合医療センター成田病院 金町中央病院 麻生総合病院 佐々木病院 安田病院 益子病院 川村病院 熊谷外科 葛西昌医会病院 国際医療福祉大学附属病院 AOI国際病院 総合東京病院 新百合ヶ丘総合病院 東京都立小児総合医療センター 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 三島中央病院 本川越病院 △仙台循環器病センター 佐久総合病院佐久医療センター 伊藤病院 国立がん研究センター中央病院 △埼玉医科大学病院 (小児外科) △立川総合病院</p> <p>※脳神経外科</p> <p>○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 彩の国東大宮メディカルセンター 秋葉病院</p>
<p>※総合診療部</p> <p>△東京都立多摩総合医療センター △川崎市立井田病院 △群馬大学医学部附属病院 △厚木市立病院</p>	<p>※消化器・肝臓内科</p> <p>○東急病院 パナソニック東京健康管理センター がん研有明病院 △国立がん研究センター中央病院</p> <p>※神経内科</p> <p>東京都健康長寿医療センター 浜松市リハビリテーション病院 △東京都立神経病院 △虎の門病院 △横浜労災病院 △国立精神・神経医療研究センター病院 △国立循環器病研究センター病院 △杏林大学医学部付属病院</p> <p>※腎臓・高血圧内科</p> <p>○東急病院 益子病院 川口市立医療センター 養生会かしま病院 足利赤十字病院 さいたま赤十字病院 日本鋼管病院 国立病院機構千葉東病院 聖路加国際病院</p> <p>※リウマチ・膠原病内科</p> <p>なし</p> <p>※循環器内科</p> <p>○東急病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 湘南病院 大洗海岸病院 町立津南病院 古川橋病院 横須賀市立うわまち病院 太田総合病院 京都桂病院</p> <p>※腫瘍・血液内科</p> <p>川口市立医療センター がん研有明病院 都立駒込病院</p>	

麻生総合病院 宇都宮第一病院 大森赤十字病院 明徳会佐藤第一病院 札幌禎心会病院 日本赤十字医療センター 脳神経外科東横浜病院 国立病院機構横浜医療センター 川崎幸病院 国立国際医療研究センター国府台病院	医療法人恵愛会 恵愛病院 川口市立医療センター 国立がん研究センター東病院	東京都リハビリテーション病院 健貢会総合東京病院 牧リハビリテーション病院 京都大原記念病院 清水病院 国際医療福祉大学市川病院 第三北品川病院 梶原病院 国際医療福祉大学三田病院 河北リハビリテーション病院 西広島リハビリテーション病院 九段坂病院 国立障害者リハビリテーションセンター病院 武蔵野赤十字病院 東京リハビリテーション世田谷
※整形外科	※麻酔科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○東急病院 川口市立医療センター 康心会汐見台病院 国保旭中央病院 △ニューハート・ワタナベ国際病院	
○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 総合病院聖隷浜松病院 国立病院機構宇都宮病院 豊島病院 横浜市スポーツ医科学センター △聖隷浜松病院	※泌尿器科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 JCHOさいたま北部医療センター J R 東京総合病院 東京都リハビリテーション病院 立正佼成会附属佼成病院 国立成育医療研究センター 太田総合病院 練馬光が丘病院 九段坂病院 亀田総合病院 太田記念病院 東京都広尾病院 都立広尾病院 東京北医療センター	※放射線科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 康心会汐見台病院 日本赤十字社医療センター 那須赤十字病院 J R 東京総合病院 星総合病院 荏原病院 東京歯科大学市川総合病院 東京労災病院 立川総合病院 国立がん研究センター中央病院 佐々木研究所附属杏雲堂病院 水戸医療センター
※形成外科	※眼科 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 東京労災病院	※内視鏡科 益子病院 松島クリニック 川村病院 医療法人社団青空会大町病院
○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 JCHO東京新宿メディカルセンター 都立駒込病院 埼玉県立小児医療センター がん研有明病院 埼玉成恵会病院 聖路加国際病院 横浜総合病院 千葉西総合病院	※耳鼻咽喉科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 がん研有明病院 聖路加国際病院 大森赤十字病院 太田総合病院 東京共済病院 JCHO東京新宿メディカルセンター 東京歯科大学市川総合病院 豊島病院 同愛記念病院 国立がん研究センター東病院 国保旭中央病院 東京臨海病院 佐久総合病院 佐久総合病院佐久医療センター 太田記念病院	※病理学 ○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 立正佼成会附属佼成病院 △筑波メディカルセンター病院 △新百合ヶ丘総合病院 △都立大塚病院 △国際医療福祉大学三田病院 △静岡県立静岡がんセンター △新潟大学医歯学総合病院 △東京医科大学病院
※心臓外科		※救急医学 なし
○富士市立中央病院 ○町田市民病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 埼玉県立小児医療センター 佐久総合病院 国立病院機構埼玉病院 明理会中央総合病院 榊原記念病院 心臓血管研究所付属病院	※リハビリテーション科 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 東京通信病院 東京都立墨東病院 とちぎリハビリテーションセンター	※歯科 ○町田市民病院 JCHOさいたま北部医療センター
※産婦人科		※感染制御部 △国立国際医療センター △横浜市立市民病院
○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 康心会汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療研究センター こころとからだの元氣プラザ 谷津保健病院 オータクリニック フォームズ病院 東千葉メディカルセンター 恵愛生殖医療医院		※法医学 東京都監察医務院

(3) 特殊派遣機関（7 機関）

(2019年4月1日現在)

病 院 名	科 名	病 院 名	科 名
日 本 航 空 インターナショナル	内 科	衆 議 院 診 療 所	内 科
	精 神 医 学		皮 膚 科
	整 形 外 科		眼 科
	放 射 線 医 学		耳 鼻 咽 喉 科
	眼 科	出 版 健 康 保 険 組 合 診 療 所	内 科
	耳 鼻 咽 喉 科		眼 科
全 日 空	内 科	東 京 国 税 局 診 療 所	内 科
	整 形 外 科		精 神 医 学
	眼 科		外 科
	耳 鼻 咽 喉 科	国 土 交 通 省 航 空 局	内 科
	内 視 鏡 科		
航 空 医 学 研 究 セ ン タ ー	内 科		
	精 神 医 学		
	眼 科		
	耳 鼻 咽 喉 科		

(4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）

(2019年4月1日現在)

病 院 名	科 名
英 国 ロ ン ド ン 日 本 人 ク ラ ブ	内 科
	小 児 科

6. 学術情報センター

学術情報センター長	南沢 享 (細胞生理学講座)	(平成28年4月から)
学術情報センター図書館国領分館長	三崎 和志 (医学科)	(平成31年4月から)
学術情報センター標本館委員会委員長	橋本 尚詞 (解剖学講座)	(平成20年4月から)
学術情報センター国際交流センター長	芦田 ルリ (国際交流センター)	(平成29年4月から)

1) 2019年度統計 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(1) 図書館

① 蔵書冊数	262,000冊
② 現在受入雑誌数	650種 (和561種、洋89種)
③ 電子ジャーナル提供数	8,487種
④ 館外貸出冊数	7,600冊
⑤ 入館者数	88,162人
⑥ 他学との文献相互貸借数	貸出1,497件 借受2,249件
⑦ 複写サービス	39,119枚 (代行複写、国領・葛飾・第三・柏へのFAX送信、相互貸借 (他館))
⑧ 情報検索サービス	108,588件 (代行とセルフサービスの合計)

(2) 国領分館

① 蔵書冊数	92,646冊
② 現在受入雑誌数	224種 (和182種、洋42種)
③ 館外貸出冊数	6,818冊 (視聴覚資料含む)
④ 複写サービス	360件 (西新橋・葛飾・柏へのFAX送信相互貸借 (他館))

(3) 標本館

① 所蔵標本数	マクロ標本	1,824点
	顕微鏡標本	2,549点
② 所蔵視聴覚資料	ビデオ・プログラム	1,917セット
	スライド・プログラム	601セット
	16mmフィルム	37セット
	コンピュータ・ソフトウェア	76セット
	語学プログラム	206セット
	その他	79セット
③ 見学者数		676名 (学内148名、学外528名)

(4) 史料室

① 所蔵史料	3,162点
② 見学者数	59名 (学内15名、学外44名)

(5) 写真室

① 撮影・スライド作成	135件 (5,341枚)
② ビデオ編集	72件 (502.5時間)
③ カラープリント出力 (ポスター作成含む)	628件 (11,693枚)
④ 35mm スライドのデジタル化	1件 (700枚)

(6) 国際交流センター

① 海外選択実習

派遣 協定校

医学生 22名 (男子15名、女子7名)

(英国7、米国6、ドイツ、台湾、シンガポール各3、タイ、韓国 各1)

看護学生 2名 (女子2名) (英国2)

受入 医学生 69名 (男子33名、女子36名)

(英国20、オーストラリア13、台湾10、ニュージーランド9、ドイツ8、米国2、他7)

(救急科、小児科、麻酔科各8、産婦人科6、消化器外科、皮膚科各5、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科各4、形成外科、血管外科、耳鼻咽喉科、消化器・肝臓内科、小児外科、放射線科各3、眼科、腎臓・高血圧内科、泌尿器科各2、他3)

看護学生 2名 (女子2名) (英国2)

② International Cafe (海外からの選択実習生と本学学生、教職員との交流会)

開催：41回

③ 医学科学生の英語医療面接実習

開催：1年生 2回、4・5年生 6回

④ 看護学科学生の英語医療面接実習

開催：3年生 2回

2) 主な事項

(1) 教育・研究年報に関すること

① 『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2018 (第38号)』、『Research Activities 2018』の編集

両年報の編集作業を担当した (両年報とも12月1日発行)。

(2) 図書館システムの管理に関すること

① 図書館システムの運用

図書館システムのネットワーク機能を利用して分院所属の教職員からの複写申込を受け付けてきたが、2019年4月から、西新橋教職員もインターネットでの複写申込の対象とした。

(3) 図書・雑誌等の情報管理、情報サービスに関すること

① ネットワークを介した情報提供

電子ジャーナルと医学関連データベースをネットワーク経由で利用できる環境を維持した。データベースに新規データが追加された際に電子メールにて通知するAutoAlertサービスを引き続き実施している。また、新聞 (全国紙) 4紙から医療および大学関係の記事の見出しを学内に電子メールで配信するサービス (平成16年12月開始) も継続した。

② リモートアクセスサービスの提供

大学ネットワーク上で利用可能となっている電子ジャーナルおよびデータベースを学外 (自宅や派遣先) からアクセスするためのサービスである「リモートアクセスサービス」 (平成21年度開始) の利用者登録とサポート作業を行った。2019年度の新規登録者は331名であった。

③ 医学部学生および大学院生の演習の担当

医学科1年生の「情報検索演習」、2年生の「医学総論」、3年生「医学統計学Ⅱ演習」、看護学科1年生の「総合演習」、3年生の「研究方法論:文献検索実習」での情報検索演習、看護学科1年生の図書館オリエンテーション、大学院医学研究科看護学専攻1年生への演習を担当した。

(4) 利用者支援・指導に関すること

① 教職員等を対象とした情報検索演習

教育センターによる附属4病院の在職看護師を対象とした「エデュケーションナース研修」(9月9日)、日本看護協会の資格認定制度である認定看護管理者教育課程ファーストレベル(10月5日)と東京慈恵会による学外の看護教育関係者を対象とした「教務主任養成講習会」(6月18日)で情報検索演習を担当した。

教職員を対象としたデータベース講習会を3回実施し、延べ51名の参加があった。研修医シミュレーション研修の情報検索演習を担当した(11月16日)。

② 医学論文書きかた講習会の開催

Jikeikai Medical Journal編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催による以下の講習会の開催を担当した(開催時間は、いずれも18時~19時30分)。これらの講習会は大学院共通カリキュラムの必須科目「医学研究概論」の授業を兼ねている。

・「差が出る研究テーマ選択の考え方~臨床研究法施行をうけて~」(5月14日)(参加68名)

江田誉先生(平成14年卒,千葉大学大学院医学研究院整形外科学客員教授,ファイザー株式会社社骨粗鬆症エリア推進チーム担当部長)

・「質の高い論文は質の高い研究計画から生まれる」(5月16日)(参加64名)

西川正子教授(臨床研究支援センター)

・「Treatable Signs and Symptoms of Japanese Medical Writing」(5月28日)(参加65名)

岡崎真雄教授(学術情報センター医学英語研究室)

・「Understanding aspects of formal academic writing」(5月30日)(参加53名)

小原平教授、ジョン・スーリア講師(英語研究室)

(5) 総合展示に関すること

① 総合展示の開催

1月20日~31日に、大学1号館ロビー、高木2号館地下1階ロビーにて開催した。

「日本人晒浄頭蓋骨の下顎窩の解剖学的研究、ならびにそれを応用した顎関節症治療時の顎関節腔穿刺時の頭蓋窩損傷の偶発症についての検討」
(伊介昭弘教授 歯科(歯科口腔外科))

(6) 画像データ等コンピュータ・サービスに関すること

① 教材・研究資料の作成支援

学生・教職員、同窓生を対象として、静止画・動画の撮影、画像データのデジタル編集、ポスター作成、ビデオ編集、35mmスライドのデジタル化の各サービスを実施した。

(7) 学術リポジトリに関すること

① 学術リポジトリの運用

本学発行物(『東京慈恵会医科大学雑誌』、『Jikeikai Medical Journal』、『教育・研究年報』、『英文研究年報 Research Activities』)の掲載記事、本学の歴史に関する出版物、本学教員学術論文(学外発行誌掲載含む)の学術リポジトリへの登録によるインターネット公開を担当した。また、学事課との協力により、学位論文要旨、主論文をリポジトリに登録したほか、学位論文の学術リポジトリ公開を定めた学位規則施行後(平成25年4月1日以降)に本学にて授与された学位論文の情報を公開した。2019年度の学術リポジトリへの登録件数は326件、閲覧26,206件であった。

② 学位論文に関する著作権調査

編集室(図書館内)にて、学位論文に係る著作権処理の問合せへの対応を担当した。2019年度は問合せに応じ113件の調査を行った。

(8) 広報活動支援に関すること

① 広報活動支援業務

学内行事および広報用の写真撮影、画像データの保管・提供を担当した。

(9) 国際交流センターに関すること

海外での学習、発表等に対する奨学金や助成金の支給に関する業務を担当した。

- ・宮本幸夫を応援する会による海外派遣助成 前期 2名30万円 後期 1名10万円
国際交流センター運営委員会にて選考した候補者を教授会議に報告の上、学長により決定された。
- ・学外研究員 平成29年度選考者 1名153万円、平成30年度選考者 1名366万円、2019年度選考者 1名366万円
2019年度学外研究員について、国際交流センター運営委員会にて選考した候補者と選考過程を学長に報告し、学長により決定された。
- ・慈恵医師会海外選択実習奨学金 13名206万円
希望者から国際交流センター運営委員会が選考し、教学委員会に推薦した。教学委員会は支給者を決定し、教授会議に報告した。
- ・独立行政法人日本学生支援機構 2019年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）
6名56万円（派遣） 9名72万円（受入）
協定校での選択実習希望学生から国際交流センター運営委員会が選考し、独立行政法人日本学生支援機構に申請の上、支給した（協定派遣）。また、協定校からの選択実習生から国際交流センター運営委員会が選考し、独立行政法人日本学生支援機構に申請の上、支給した（協定受入）。

(10) その他学術情報センター業務に関すること

① Turnitin Feedback Studioの利用

剽窃・盗用防止の意識を高めることを目的として、平成28年度に大学にて導入されたオリジナルライティングの教育支援ツールTurnitin Feedback Studioに関して、医学科・看護学科の授業における利用のサポート、学内教員の利用登録を担当した。2019年度は14名の新規登録者があり、利用登録者は累計で77名となった。

② 抄録・引用文献データベースScopusの導入

2019年8月に、大学にて抄録・引用文献データベースScopusが導入された。研究支援課と協力して、利用支援、活用促進を図ることとなり、西新橋キャンパス（11月25日）、葛飾医療センター（12月3日）、国領校・第三病院（12月5日）、柏病院（12月9日）で利用説明会を開催した。さらに葛飾医療センター内科医局会内でScopusと臨床支援ツールUpToDateの説明を担当した（2月18日）。

③ 図書館環境整備について

図書館環境整備の一環として、2019年度前半に、西新橋図書館の入退館ゲートの交換、図書館入口へのLED照明の取付け、図書館2階女子トイレの改修、図書館入口防犯カメラ設置の各工事が実施された。

④ 図書館内飲食ルールの変更

図書館内は飲食禁止であったが、図書館利用規則を改定し（2019年7月10日/25日）、密閉できる容器に入った飲み物の飲用を許可することとなった。

⑤ 医学科試験期間の土曜・日曜・祝日の図書館の開館時間の変更

医学科学生会からの希望を考慮し、試験期間（8月、11～1月）、土曜日の開館時間の延長、日曜日の開館時間の変更、祝日の開館に対応した。

⑥ 史料室展示ケース内の展示物のカビ対応

展示物18点（礼服、色紙、賞状、勲章、書幅ほか）にカビが発生したため、燻蒸、クリーニング・修復の措置をとることとした。なお、学内に湿度管理された保管場所の用意ができるまで、展示物は外部倉庫を借用して保管する。

⑦ 西新橋再整備計画「西新橋再整備計画WG」への参加

平成26年度から継続して西新橋再整備計画WGに参加した。なお、図書館・標本館・写真室が配置する高木会館の減築・耐震補強工事が2019年1月に開始され、2019年9月

に終了した。

- ⑧ 「東京慈恵会医科大学130年史（平成23年度発行）」関連の業務
掲載内容に関する問合せへの対応、130年記念事業寄付者へ送付確認作業を担当した。
- ⑨ 新型コロナウイルス感染拡大防止のための図書館休館
図書館（西新橋本館・国領分館）の2020年3月30日～31日の開館時間短縮、4月1日から一定期間の休館を決定し、休館時の至急の図書・雑誌貸出、複写への対応を確認した。

7. 教育センター

教育センターは、本学医学・看護学の卒前ならびに卒後教育の支援組織として、教育を推進する。これらの活動を通して、東京慈恵会医科大学の発展に寄与し、国民のための医療者教育の向上に貢献することを目的とする。卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動について、教育センターは支援する。教育センター長、部門組織は次の通り。

教育センター長 福島 統 教授

- (1) 医師キャリアサポート部門
 - ① 医学教育研究室
 - ② 教育開発室
- (2) 看護キャリアサポート部門
- (3) シミュレーション教育部門
- (4) 地域医療支援部門
- (5) 教育 I R 部門
- (6) アドミッション部門

1) 公開講座

(1) 大学主催公開講座

教育センターが大学主催（大学および4附属病院が企画・実施）の公開講座を取り纏めた。2019年度は全機関で25回開催した。本公開講座は一般市民および地域医療者を対象とし、大学の社会貢献と広報活動の充実に関する事業としている。公開講座の継続的な推進を図るため、各機関による主体的な運営形態としている。

2019年度の開催内容は下記のとおり。

- ・附属病院：計11回（みんなの健康教室（6回）、心肺蘇生PUSHコース（4回）、市民公開講座（1回））
- ・慈恵医大葛飾医療センター公開セミナー：3回
- ・慈恵医大第三病院：計3回（公開健康セミナー（3回）、市民公開講座（0回））
- ・柏病院市民公開講座：2回
- ・大学：計6回（ひらめき☆ときめきサイエンス1回、公開講座2回、看護学科のみんなの保健室（3回））

新型コロナ拡大予防により、大学主催のみんなの保健室1回、附属病院のみんなの健康教室1回、第三病院の市民公開講座1回、柏の市民公開講座1回は延期・中止となった。

2) 教育に関する公的補助金にかかる事業

- A. 平成28年度文部科学省大学教育再生戦略推進費「課題解決型高度医療人材養成プログラム」
山口大学を代表校とし、本学が連携5大学のひとつとして、取組「慢性の痛みに関する教育プログラムの構築」事業の推進を行った。本学の事業責任者は上園晶一教授（麻酔科学講座）が担当。事業期間は平成28年度～32年度。
- B. 平成29年度大学教育再生戦略推進費「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」
筑波大学を代表校とし本学が連携13大学のひとつとして、事業「関東がん専門医療人養成拠点」を申請し、採択を受けた。本学の事業責任者は矢野真吾教授（腫瘍・血液内科）が担当。事業期間は平成29年度～33年度。
- C. 平成30年度課題解決型高度医療人材養成プログラム「精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成」
筑波大学を代表校とし茨城県立医療大学・東京慈恵会医科大学が連携大学として、事業「精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成」を申請し、採択を受けた。本学の事業責任者は繁田雅弘教授（精神医学講座）が担当する。事業期間は平成30年度～34年度。

- D. 経常費補助金私立大学改革総合支援事業タイプ2
 地域と大学との連携に対するタイプ3補助金申請を行い、採択には至らなかった。この申請では、調布市大学プラットフォームを構築し、調布市、調布市商工会、調布市文化コミュニティ振興財団、ルーテル学院大学、白百合女子大学、明治大学、桐朋学園芸術短期大学、電気通信大学、東京外国語大学が参画した。
- E. 経常費補助金「情報の公表」
 教育情報の公表について、関係部署からデータ提供の協力を得て、令和元年9月に本学ホームページに掲載し、教育情報の公表を行った。
- 3) 看護学教育プログラム
 看護キャリアサポート部門の研修担当者（奈良京子）と臨床4機関の研修担当者の協力のもと、以下の教育プログラムを実施した。
- (1) エデュケーションナース研修
 ・開催趣旨：新人看護師やプリセプターに対して意図的に適切な指導を行うために必要な知識・技術・態度を修得し、教育担当者としての役割を担う看護師の育成をねらいとした。
 ・開催期間：2019年7月31日（水）～11月19日（火）の内20日間、受講者数：48名
- (2) 基礎教育と臨床の交流研修
 ・開催趣旨：臨床および教育の看護管理者が一堂に集まり、各々の立場から本学の看護の現状と課題について情報交換を行い、【目指す慈恵の看護】を共有し、連携強化を目指した。
 ・開催期間：2020年1月25日（土）～1月26日（日）1泊2日、受講者数：20名
- (3) E L N E C - J コアカリキュラム看護師教育プログラム
 ・開催趣旨：「質の高いエンド・オブ・ライフケアを提供する」という重要な役割を果たすための基本的な知識を養い、コミュニケーションスキルを高めることをねらいとした。
 ・開催期間：2019年12月8日（日）・12月15日（日）2日間、受講者数：29名
- (4) 認定看護管理者教育課程 ファーストレベル（2019年度開講）
 ・開催趣旨：看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。
 ・開催期間：2019年10月5日（土）～12月14日（土）の内20日間
 受講者数：37名（学内24名、学外13名）
- 4) シミュレーション教育支援
 シミュレーション教育施設委員会（委員長：福島統教授）が中心となり、シミュレータ機器の選定、購入などの機器整備を行い各機関のシミュレーション教育施設の充実を図るとともに、シミュレーション教育施設の管理運営を行った。
 各機関の利用状況は、西新橋校395件、国領校76件、葛飾医療センター190件、柏病院193件、合計854件の利用であった。
- 5) ICT活用教育支援
 (1) eラーニング
 卒前・卒後教育教材の作成とeラーニングのサーバ等のシステムを管理し、利用支援を行うとともに、教材作成を支援した。eラーニングの実績は年間93コース482回であった。内訳は次の通り。
 ・医学科学生 13コース、72回（3年次症候学演習、4年次基本的臨床技能実習など）
 ・看護学科学生 63コース、217回（2年次情報科学、3・4年次在宅看護学実習など）
 ・看護専門学校学生 1コース 1回（災害看護）
 ・大学院博士課程 1コース、16回（疫学臨床研究、生物統計学など）
 ・卒後教育（研修医、看護師、地域医療者など）15コース、176回（鏡視下手術トレーニングなど）

(2) コンピュータ試験の支援

医学教育研究室木村直史教授を責任者として、医学科5年生「総括試験」、医学科2年生「総合試験」、など医学科で12回、看護学科科目横断試験で1回、計13回のコンピュータ試験実施の支援を行った。

(3) クリッカーを活用した授業等の支援

クリッカーの運用・管理、利用者への支援を行った。学生、大学院の授業で計67回利用された。

6) 教育IR部門

学生の学修成果を指標として検証し、本学の医学教育の恒常的な改善を図るための活動を目的とする教育プログラム評価委員会へ卒業時アンケート等の資料提供を行った。

7) 地域医療者教育プログラム

(1) プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム

地域医療を行っている医師を対象に「プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム」を松島 雅人教授（臨床疫学研究部・教育センター）を責任者として実施した。

平成29年度生・受講生8名、平成30年度生・受講16名、令和元年度生・受講9名を受講生として、講義（eラーニング）を6コース、ワークショップを5回実施した。

8) 市民ボランティア「あけぼの会」の活動

平成24年度より、学生、医師、看護師等への本学らしい医療者教育の拡充を目的に、一般市民ボランティア「あけぼの会」を組織し活動を開始した。この組織は、現在、医学科・看護学科の授業（演習、実習）で実践している市民参加型コミュニケーション教育や、医療面接教育への支援を主としている。

2020年3月31日現在の会員数は33名で、2019年度の活動は次の通りである。

(1) 例会（SP勉強会含む）

第1回例会 2019年4月6日（土） 9：30～12：00（SP、例会）

第2回例会 2019年6月15日（土） 9：30～12：00（SP、例会）

第3回例会 2019年8月31日（土） 9：30～12：00（SP、例会）

第4回例会 2019年11月16日（土） 9：30～12：00（SP、例会）

(2) 授業への参加

医学総論Ⅳ演習 （西新橋校）医学科4年 4月5日（金）14：00～17：00

基本的臨床技能実習（西新橋校）医学科4年 5月10日（金）13：40～17：00

基本的臨床技能実習（西新橋校）医学科4年 5月24日（金）13：40～17：00

医療総論演習 （国領校キャンパス）

医学科・看護学科1年 5月28日（火）13：00～14：30

基本的臨床技能実習（西新橋校）医学科4年 5月31日（金）13：40～17：00

基本的臨床技能実習（西新橋校）医学科4年 6月7日（金）13：40～17：00

基本的臨床技能実習（西新橋校）医学科4年 6月14日（金）13：40～17：00

医学総論Ⅲ演習 （西新橋校）医学科2年 6月19日（水）13：00～14：30

医学総論Ⅲ演習 （西新橋校）医学科3年 7月11日（木）13：40～16：10

形成的 （西新橋校）医学科5年 7月12日（金）13：40～16：10

PCC-OSE （西新橋校）6年 9月21日（土）7：30～20：30

医学総論Ⅲ演習 （西新橋校）医学科3年 11月8日（金）13：00～16：10

医療総論Ⅰ演習 （国領校キャンパス）

医学科1年 12月 4日（水）13：00～14：30

(3) FDへの協力

PCC-OSE FD 7月20日（土）9：00～15：00

(4) PCC-OSEの為の練習会

9月6日（金）14：00～16：30

9月14日（土）10：00～14：30

9) テレビ会議システムの利用支援

4機関合同の教育・研修活動の支援として、テレビ会議運営委員会を主管し、4機関を接続したテレビ会議システムの使用を支援し、年間19回のテレビ会議システムの利用支援を行った。利用内容は4病院合同セーフティーマネジメント、成医会などであった。

10) アウトリーチ活動

アウトリーチ活動推進委員会（委員長：南沢享教授）が主体となり、大学の社会貢献の一環として、教育研究成果の中高校への還元を目的に次の活動を行った。

(1) ひらめきときめきサイエンス

・「クスリになる音楽！ 音楽の効果を科学する」中島 淑恵准教授（看護学科老年看護学）
2019年7月20日（土）国領キャンパス医学科校舎講堂、中学生8名、高校生2名

(2) オープンキャンパスにおけるアウトリーチ活動（2回）

教育・研究および学生のポスター展示、学生クラブ紹介ビデオの上映を行うとともに次の講義を行った。

・8月14日（水）16：10－16：40

「受験生のための疲労・ストレス対策講座」近藤一博教授（ウイルス学講座）

・8月15日（木）16：10－16：40

「心臓突然死から一人でも多くの方を救命するために！」武田 聡教授（救急医学講座）

(3) 港区教育委員会との連携

a) 御成門小学校との活動

9月10日 4年生理科授業（2クラス）川村将仁講師（薬理学講座）

9月12日 6年生理科授業（2クラス）南沢 享教授（細胞生物学講座）

1月30日 5年生理科授業（2クラス）楠原淳子助教（産婦人科学講座）

2月20日 6年生がん教育授業（2クラス）藤本麗子主査、保木本あづさ看護師

11) 教育質的転換プロジェクト

医学科・看護学科及び大学院における教育の質的転換に向けたプロジェクトを令和年度学内公募し、大学院看護学専攻内田満教授による「看護学教育における国際化に向けた質的転換プロジェクト」が選定された。

8. 臨床研究支援センター

臨床研究支援センターは、本学における臨床研究を支援することにより臨床研究の推進と質の確保を図ることを目的に、2014年4月に開設された。本センターは、以下の各機能を有し、臨床研究の計画、実施から研究結果の報告までを支援する。

臨床研究支援センターの機能

- (1) 臨床研究の教育
- (2) 臨床研究（統計解析等）の相談・支援
- (3) 臨床研究実施支援
- (4) モニタリング
- (5) 事務局

1. 2019年度報告

- ・2019年4月から臨床研究支援センター長は景山茂教授から敷島敬悟教授に交代した。
臨床研究支援センター センター長：敷島敬悟
副センター長：保野慎治
- ・臨床研究支援センターは治験センターと合同ミーティングを定期的を開催し、一体的な運営を図り上記(1)から(5)の役割を果たしている。2019年度 開催回数：22回
更に2020年度以降、臨床研究支援体制の基盤を強化し、学内における臨床研究を活性化させる目的で臨床研究支援体制整備ワーキングを開催し定期的に検討を行っている。
- ・附属病院の電子カルテの導入に伴い、4機関のSS-MIX（Standardized Structured Medical Information eXchange）標準化ストレージを利用した疾患レジストリシステムが構築され、2講座（内科学（呼吸器内科）、内科学（腎臓高血圧内科））が利用を開始した。
- ・附属病院で実施されている臨床研究法に基づく特定臨床研究に対して、病院長から任命され、適切に実施されていることの確認調査を3件の研究に対して実施し、調査結果を病院長に報告した。

2. 各機能の報告

(1) 臨床研究の教育

- ① 大学院共通カリキュラムの選択科目に「臨床試験の方法論」コース（9コマ 1単位）を新設し、臨床研究支援センターの専任教員（4名）がオムニバス形式で開催した。
更に2020年度から、臨床薬理学で実施される大学院の選択カリキュラムに臨床研究支援センターの教員が兼務し、臨床薬理学の所属する大学院生に対して教育研究活動を行えるようカリキュラムが改組された。
- ② 臨床試験セミナーを中心に、研究者等に対し、臨床研究の科学性および倫理性に関する教育研修を以下のとおり実施した。

開催日	タイトル	講師	参加者
2019年4月18日	臨床研究のすすめ方	保野 慎治	127名
2019年12月20日	臨床研究入門	志賀 剛	32名
2020年1月30日	PMDAにおける医薬品等の承認審査と相談	平田 雅一	15名

(2) 臨床研究（統計解析等）の相談・支援

2019年度の臨床研究に関する新規の相談・支援40課題であり、相談・支援の内訳は以下の通りである。

研究計画書の立案	23件
研究計画書の作成	19件
登録・割付	4件
統計解析の相談	20件
統計解析の実施	5件
論文作成の支援	1件
AMED研究費申請書作成	10件

(3) 臨床研究実施支援

治験以外の研究者主導の臨床研究について、当センターを兼務している治験センターのCRCが支援を行っている。2019年度は1課題の支援を実施した。

(4) モニタリング

平成27年10月から「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では、侵襲を伴う介入研究においてモニタリングが義務付けられ、研究責任者がそのモニタリング担当者を指名する。倫理委員会および附属病院で承認された研究のモニタリング担当者に対し、臨床研究支援センター兼務の治験センターCRCが、症例登録があり依頼のあった2課題のモニタリングを実施した。

(5) 事務局

① CRB事務局

- ・臨床研究法に基づく認定臨床研究審査委員会（以下、CRB）を本学で設置することになり2018年11月6日付けで関東信越厚生局から認可を受けた。
- ・2019年度 CRBを11回開催し、審査した件数は以下のとおりである。
新規：5件（うち1件模擬審査）、変更：23件、疾病等報告：1件、定期報告：2件
- ・学内で実施される臨床研究法に基づく特定臨床研究を適切かつ効率的に管理するとともに申請から実施までの一連の状況を把握するため、電子申請システムを導入し稼働させた。
更に既に実施されている全ての特定臨床研究に対しても、電子申請システムへデータ移行が完了し、電子申請システムで一元管理することが可能となった。
- ・厚生労働省による模擬審査事業が開始され、認可された58施設のCRBを対象に模擬審査が行われた。本学のCRBも模擬審査を受審した。

② 倫理委員会事務局

- ・2019年度は第1倫理委員会（ヒトゲノム遺伝子解析研究審査会含む）および第2倫理委員会ともに11回開催した。
新規審査件数：470件 変更審査件数：725件
- ・倫理委員会事務局業務の一部をCROに委託していたが、臨床研究支援センターの事務員補充により内制化した。
- ・人を対象とする医学系研究に関する倫理指針下で実施される研究の研究期間の上限を2年から5年に変更した。
- ・他施設が主幹施設となり本学が参加する場合の手続きについて、既存の慈恵版の研究計画書作成を廃止し、簡素化した書類「多施設共同臨床研究への参加に関する計画書」を作成し、本書の提出を義務付け、研究者への利便性を図った。

③ 認定再生医療等委員会事務局

- ・2019年4月より改正された再生医療等法の省令が適用されるため、当委員会を再編成し、2019年3月に関東信越厚生局に認定事項変更申請が受理された。
2019年度は、認定再生医療等委員会を7回開催し、緊急審査会を2回開催した。

新規申請審査件数：1件、疾病等報告件数：3件、定期報告：4件

- ・既に実施されている研究のうち再生医療等の安全性の確保等に関する法律下で実施する移行申請を審査した。 変更審査件数：4件
- ・委員並びに事務局担当者への教育の一貫として「再生医療等安全性確保法施行5年後の見直しに係る検討の中間整理（厚生科学審議会再生医療等評価部会 令和元年12月25日）」をテーマに研修会を開催した。（2019年3月2日）

講師：山口照英 先生（厚生科学審議会再生医療等評価部会 部会長）

9. その他

1) 成医会

(1) 第136回成医会総会は、2019年10月10日（木）、11日（金）の2日間にわたって開催された。

① 特別講演

井田 博幸 教授（小児科学講座）

「ライソゾーム病の診断・治療の進歩」

糸山 俊彦 教授（薬理学講座）

「大脳基底核シナプス伝達の解析」

② 宿題報告

馬目 佳信 教授（基盤研究施設）

「甲状腺乳頭がんを認識するモノクローナル抗体の性質と応用」

中村 敬 教授（精神医学講座）

「うつ病の精神療法」

谷 諭 教授（脳神経外科学講座）

「脊椎脊髄センター創設と将来」

近藤 一郎 教授（麻酔科学講座）

「術後鎮痛に関連する周術期合併症」

③ 学外研究員の成果報告

宇田川友克 助教（耳鼻咽喉学講座）

「内耳蝸牛に隠された高度な細胞増殖能はprogenitor cell除去後に現れる」

④ シンポジウム

「新病院・新外来棟オープンに向けて」

司会 矢永 勝彦（消化器外科）

浅野 晃司（大学）

1. 西新橋再整備計画の概要

浅野 晃司（大学）

2. これからの消化器疾患の診療のあり方 ～消化器センター開設に向けて～

猿田 雅之（消化器・肝臓内科）

3. 東京オリンピック・パラリンピックを新病院・新外来棟にどのように生かすか

安保 雅博（リハビリテーション医学講座）

4. 新病院・新外来棟におけるがん医療

矢野 真吾（腫瘍・血液内科）

5. 総合周産期医療に向けて

小林 正久（小児科学講座）

6. 新病院・新外来棟における看護の役割

山下 正和（看護部）

7. 若手へのメッセージ：A I時代の医師の働き方

：内視鏡診断支援用A I開発の経験から

炭山 和毅（内視鏡医学講座）

8. 総合討論

⑤ パネルディスカッション

「臨床研究法の現状と展望」

司会 糸山 俊彦（薬理学講座）

堀 誠治（感染制御科）

1. 私立医科大学協会研究倫理委員会の調査による現状

糸山 俊彦（薬理学講座）

2. 臨床研究法の概要と課題

千田 実（臨床研究支援センター）

3. 臨床研究法施行後の臨床研究を取り巻く昨今の状況

保野 慎治（臨床研究支援センター）

4. 臨床研究法が目指すもの

志賀 剛（臨床薬理学講座）

5. 臨床研究法をふまえた臨床研究 ～慈恵医大の場合～

堀 誠治（感染制御科）

6. 総合討論

- (2) 第1265回成医会例会は、2020年2月4日（火）に行われ「微生物創薬に携わって半世紀」が講演のテーマとして選ばれた。司会は颯川晋教授（成医会運営委員長）が務め、北里大学特別栄誉教授である大村智氏が講演を行った。
- (3) 第137回成医会総会については、2020年10月8日（木）、9日（金）の2日間にわたって開催の予定。

2) 各種行事

- (1) 2019年4月11日（木）、2019年度医学科および看護学科入学式を挙行了。
- (2) 2019年6月4日（火）、学祖・高木兼寛先生生誕170年記念講演会（演者 小平奈緒選手、結城匡啓教授）を開催した。
- (3) 2019年8月7日（水）～9日（金）、宮崎県穆佐小学校学童2名、教諭2名の本学招待旅行が行われた。本行事は、昭和50年より開始され、今回で45回目となる。
- (4) 2019年9月5日（木）、学祖・高木兼寛先生生誕170年記念講演会（演者 阿部志郎先生）を開催した。
- (5) 2019年10月5日（土）、同窓会支部長会議・学術連絡会議が開催された。
- (6) 2019年10月19日（土）、卒業50周年を迎えた卒業生（昭44年）をお招きし、懇談の集いを開催した。
- (7) 2019年10月28日（月）、第115回解剖諸霊位供養法会を増上寺において執り行った。
- (8) 2019年11月16日（土）、学祖高木兼寛先生の墓参を行った。
- (9) 2019年11月27日（水）、附属病院新外来棟竣工記念式典を開催した。
- (10) 2020年1月4日（金）、新年挨拶交歓会を、テレビ会議システムを使用し、全機関にて開催した。
- (11) 2020年1月31日（金）、2020年3月末日をもって定年を迎えた矢永勝彦教授、丸毛啓史教授、堀誠治教授、谷諭教授、岡尚省教授、伊介昭弘教授、川村哲也教授、清田浩教授、新美茂樹教授、小原平教授の退任記念パーティーが行われた。
- (12) 2020年2月25日（火）、感謝状伝達式を行い、献体者遺族に対して文部科学大臣からの感謝状を手渡した。
- (13) 2020年3月7日（土）、第95回医学科、第25回看護学科卒業式を挙行了。

3) 印刷物等の発行

(1) 法人誌「The JIKEI」

慈恵大学の“今”を伝えることをコンセプトに全面カラー版誌面構成にリニューアルし、4年目を迎えた。今年度も同窓、医学部父兄、記念事業募金寄付者、医療連携機関、教職員などに送付し、本学の活動をPRした。

1) 第33号 特集「院内から地域社会へ 新しい看護医療のカタチ」

他国に類を見ないスピードで少子高齢化する日本。厚労省の保健医療政策として地域包括ケアシステムの構築が推進されている。本学でも国領キャンパスに「地域住民の健康と生きる力を看護の力で支える」ことを目的にした地域連携看護学実践研究センター(JANPセンター)を2018年4月に設立し、2019年3月から本格的に活動を開始した。同センター

の設立趣旨や背景、また今後の展望など、関係諸氏らによる座談会を行い、2019年8月に発刊した。

- 2) 第34号 例年2月に発刊している冬号については、2020年1月にリニューアルオープンした新外来棟・母子医療センターを特集とする特別企画号としたため、発刊時期を2020年5月に延期した。
- (2) 慈恵ニュース
 - 1) リニューアルされた創刊200号から前号に対して内外から寄せられた評価結果を基に再検証を行った。職員向け学内広報誌「慈恵ニュース」の本来の役割や編集方針を再確認し、企画内容について一部見直しを図った。第204号は「教職員みんなが誇れる大学病院へ」を特集記事とし、2019年7月に発刊した。
 - 2) 2019年6月に「春季労使協議会結果」、2019年7月に「学校法人慈恵大学 中期目標・中期計画・2019年度事業計画」を号外として教職員に配布した。
- (3) 大学ガイドブック
2019年5月に受験生向けの学校案内「大学ガイドブック2020」を発行した。本学の医学教育の特色である「診療参加型臨床実習」や「国際交流」の紹介、新カリキュラム概要やサークル活動をはじめとするキャンパスライフについて幅広く掲載した。
- (4) 大学入試ポスター
2019年5月にオープンキャンパス並びに入試日程に関わる「大学入試ポスター」を医学科、看護学科別に発行し、高等学校、予備校、同窓会長、支部長、学術連絡委員などに送付した。
- (5) 大学公報
学事、教職員人事、公示、行事、東京慈恵会公報などを取りまとめ、毎月定期的に発行した。
- (6) 大学案内
2019年4月に大学案内の別冊を発行した。
- (7) 大学公式ホームページ
 - 1) 2019年4月、認知症疾患医療センターページを創設した。
 - 2) 2019年8月、慈恵医大、静岡がんセンター調印式を掲載した。
 - 3) 2019年8月、看護専門学校情報公開ページを新設した。
 - 4) 2019年9月、本学のコンプライアンスに向けた取り組みページを更新した。
 - 5) 2019年10月、学祖生誕170周年記念特設サイトを設置した。
 - 6) 2019年10月、新外来棟・N棟開院の動画を公開した。
 - 7) 2019年12月、新外来棟・母子医療センター開設に伴う附属病院ホームページを更新した。
 - 8) 2020年1月、地域連携看護学実践研究センターページを新設した。

大学公式ホームページへの総閲覧数は対前年比+22万回の1,540万件、総訪問者数は前年度比19万7千人増の319万人に増加した。ホームページ新規作成及び更新依頼は558件であった。依頼部署や関連委員会と連携して掲載内容の充実を図るとともに、本学の特色ある取り組みをステークホルダーである患者、医療機関、学生、受験生などに対し、最新情報を遅滞なく掲載するよう努めた。

長年の懸案事項であった附属病院ホームページのリニューアルを行い、2019年12月28日に公開を行った。新サイトの主な特徴は①デザインの全面刷新(スマートフォン・タブレットなどのデバイスに対応) ②コンテンツの全面見直し(先進的な医療情報を発信する新コンテンツや慈恵の医療を分かりやすく表現したブランド訴求コンテンツの追加) ③新機能の導入(病状・病名から最適な外来を案内する検索機能追加)となっている。サイトリニューアルによって、コンテンツの内容をビジュアル的な表現にしたことで、ブランド構築と各ステークホルダーとのコミュニケーション強化が図られた、HPリニューアルの効果が一過性ではなく、永続的なものになるよう今後も必要な情報を速やかに届けることが出来るサイトの開発運営を行う必要がある。

(8) イン트라ネット

「理事長・学長室」、「行事予定」、「大学公示」、「理事会・教授会議抄録」、「事業計画・事業報告書」、「教職員アンケート」、「学内使用の各種書式」等の更新業務を担当した。

今年度は、「理事長・学長室」からの情報発信を積極的に掲載し、教職員に周知した。また、トップページのアイコンの配列を見直し、重要かつ周知が必要なものを上位に掲載すると共に、what's newへの掲載と更新頻度を高め、最新情報を入手しやすくするよう努めた。広報課のページを整理し、ホームページメンテナンスやオールユーザーメールの送信依頼時に必要な事項やホームページアクセス数を掲載した。西新橋キャンパス再整備計画の周知を目的に専用ページを更新した。

(9) オールユーザーメール

セミナー、シンポジウム、講演会、研修会等の開催通知のほか、教職員のテレビ、ラジオ、講演会等への出演や新聞、雑誌等への掲載情報を中心に712件配信した。

〔付〕 1. 学校法人 慈恵大学 中期事業計画（2019年～2021年度）・2020年度事業計画

2020年度事業計画 目次

目標関連マップ	123
I. はじめに	124
II. 主要な事業計画	
1. 教育	
1-1 医学科	125
1-2 看護学科	126
1-3 医学研究科医学系専攻博士課程	127
1-4 医学研究科看護学専攻博士前期課程・後期課程	128
1-5 看護専門学校	129
2. 研究	130
1) 先進的且つ特色のある研究の推進	
2) 透明性・公正性・中立性の高い研究の推進	
3) 外部競争的資金の活用と獲得推進	
4) 戦略的研究推進体制の構築	
5) 学内・学外の研究連携推進	
3. 医療	
3-1 附属病院（本院）	132
1) 医療の質の向上	
2) 医療安全・感染対策の推進	
3) 地域医療連携の推進	
4) 収支構造の確立	
5) その他の取組み（特色ある取組みなど）	
3-2 葛飾医療センター	134
1) 医療の質の向上	
2) 医療安全・感染対策の推進	
3) 地域医療連携の推進	
4) 収支構造の確立	
5) その他の取組み（特色ある取組みなど）	
3-3 第三病院	136
1) 医療の質の向上	
2) 医療安全・感染対策の推進	
3) 地域医療連携の推進	
4) 収支構造の確立	
5) その他の取組み（特色ある取組みなど）	

3-4 柏病院	138
1) 医療の質の向上	
2) 医療安全・感染対策の推進	
3) 地域医療連携の推進	
4) 収支構造の確立	
5) その他の取組み（特色ある取組みなど）	
4. 管理・運営	140
1) 人的資源管理	
2) 財務の安定化	
3) 社会的な信頼向上	
4) 広報戦略	
5) 情報管理システム	
6) 施設設備	
7) 事業方針	
Ⅲ. 中期事業計画主要指標	3年間の目標値及び実績値
	142～144
	(初年度、第2年度、第3年度)

学校法人 慈恵大学 目標関連マップ



I. はじめに

学校法人慈恵大学の2020年度事業計画が策定された。今年度は、2019年度から2021年度の中期計画における中間の年となる。

この度、私立学校法が改正され、(1) 役員の職務及び責任の明確化等に関する規定の整備、(2) 情報公開の充実、(3) 中期的な計画の作成、(4) 破綻処理手続きの円滑化が、改正事項として挙げられているので、これを念頭において、計画を策定した。また、外部評価による改善事項には、大学自己点検・評価委員会を中心とした内部質保証の体制を確立して対応していくこととした。

大学全体の問題として、働き方改革への対応の具体案を検討し、大学、附属病院での勤務時間の管理と適正化を図る必要がある。労働時間管理の問題は、附属病院の管理・運営、教育・研究の在り方、大学全体の活動と収支に大きな影響が出るので、慎重かつ適切な対応が必要となる。すでに、出退勤管理に関しては対応策が出されており、2020年度中に運用を開始する予定である。

私立学校法の改正によって、学校法人のガバナンスがより一層厳しく問われており、監事の役割が大きくなる。法令順守、教学監査、研究不正及び研究費不正等に対する監視機能強化などが求められる。また、法人運営に対する評議員会の役割が重視されており、法人としてのガバナンスの向上に取り組む。

大学の大きな事業である西新橋キャンパス再整備計画は、2020年1月4日、新外来棟とN棟の一斉オープンを迎え一段落したが、今後、本格稼働する中で出てくる諸問題に適切に対応していくことが必要となる。また、第三病院と国領校舎の建て替えが具体的になりつつある。地域に密着した病院の基本構想とともに、教養教育の在り方を考えたカリキュラム改革と連動して国領校舎の建て替え案を検討する。国領校舎の建て替えは、看護教育の近未来像を視野に入れて、校舎の規模、教学に求められる機能に配慮した校舎案が提案されることが期待される。これらの事業計画の詳細は、大学のマスタープラン懇談会で検討されることになる。

教育では、機関別大学認証評価や教育分野別評価に対応した内部質保証体制の確立に取り組むとともに、中央教育審議会の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン答申」、「教学マネジメント指針」を参考に、本学らしい未来の教育の在り方を描いていかなければならない。医学科、看護学科ともに、Society 5.0を踏まえたカリキュラム改革が検討される中で、カリキュラムの改革には学生の参加が推奨されており、学生が自ら学ぶ力を涵養することを促すことを目指す。

医学科では2020年度から医療系大学間共用試験実施評価機構によって診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-Clinical Clerkship OSCE, Post-CC OSCE)が正式実施されるが、Post-CC OSCEには全国に先駆けて取り組んできたので、十分対応が可能であるものと考えられる。

大学院医学研究科医学系専攻博士課程では、質の高い論文発表が求められており、そのための支援策も考えられている。2019年4月から、看護学専攻博士後期課程が開講されたので、看護学専攻博士前期課程との連携を密にした上で、応募者の獲得と研究の振興に向けた取り組みが必要となる。

戦略的研究推進体制を構築するために、研究アドミニストレーション部門を再構築し、研究の推進と外部の競争的研究費獲得の改善に取り組むことになる。学内外の研究の連携を図り、研究を推進する。

看護専門学校は、質の高い受験生の獲得と高い国家試験合格率を目指し、慈恵に継承されている看護の精神を背景とした看護の実践者を育成する。そのための入学試験の在り方を継続して検討する。

各附属病院は、本学附属病院の柱である医療安全を第一として、それぞれの病院の特色化と連携を図ることによって、附属4病院が適切な医療サービスの提供と、医師、看護師育成の役割を担えるようにする。それぞれの病院における医療連携を推進して患者獲得を目指す。また、新興感染症へ適切に対応できるように体制を整えておく。オリンピック・パラリンピックを控えて、増加する外国人患者に適切に対応できるように早急に準備しなくてはならない。

学校法人 慈恵大学
理事長 栗原 敏

II. 主要な事業計画

1-1. 教育 医学科	2020年度主要事業計画
<p>中期事業計画（2019年度～2021年度）</p>	
<p>1) ディプロマポリシー（diploma policy（DP））の確立</p>	
<p>建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」を基盤とし、豊かな人間性と倫理的・科学的判断能力を養い、全人的な医学・医療を多様な領域で実践できる医師を育成できるよう、社会のニーズを踏まえた、医科大学としての使命を明文化する。明文化された大学の使命に基づいて、学修成果が明らかになるようにディプロマポリシーの表現を見直す。</p> <p>また、DP、卒業時コンピテンス・コンピテンシーの周知と理解を図り、広い関係者からの意見を聴取する。</p>	<p>(1) 本学の使命に基づき、学修成果が明らかになるようにDP（ディプロマポリシー）を見直す。</p> <p>① 到達目標、医学科達成指針、卒業時コンピテンス・コンピテンシーと大学の使命、DP（ディプロマポリシー）との整合性について検討する。</p> <p>② DP(ディプロマポリシー)の周知と理解を図り、広く意見を聴取する。</p>
<p>2) カリキュラムポリシー（curriculum policy（CP））に沿った教育改善</p>	
<p>学修成果を達成するための教学体制、多様化する学生支援体制を再整備し、教学関連委員会体制を再構築する。アウトカム基盤型カリキュラムの構築と統合教育を実践するためにカリキュラムポリシーを見直す。卒業時コンピテンス・コンピテンシーに向かって、各ユニットのマイルストーンを設定し、それに整合性を持つ評価を実施する。また、カリキュラム評価として卒業生調査を実施し、その分析結果を教育改善につなげる。</p> <p>さらには臨床実習とその評価の質的向上を目的として、人文科学・社会科学・基礎医学・EBM（Evidence-based Medicine）を臨床実習の中で実践できるための方策検討、学外施設での臨床実習の推進、国際化（海外協定校）の拡充、臨床現場での真正の評価・ポートフォリオ評価・Post-CC OSCEの改善を図る。</p> <p>教養教育の充実を図る目的にて高学年における教養教育を検討する。</p>	<p>(1) 教学関係委員会常置委員会の体制を検証する。</p> <p>(2) カリキュラムポリシーについてSociety 5.0を踏まえて検討する。</p> <p>(3) 学修成果と整合性を持つ評価について検討する。</p> <p>(4) 臨床実習における学生のEBM（Evidence-based Medicine）実践の向上を継続的に検討する。</p> <p>(5) 2019年度に導入した学生用電子カルテ記載システムの運用を検討する。</p> <p>(6) 学外地域医療臨床実習の診療科・施設について継続的に検討する。</p> <p>(7) 海外施設との教育協定を拡大して協定校間のみでの交換留学を目指す。</p> <p>(8) 共用試験機構により2020年度から正式実施されるPost-CC OSCEに従来と同様に対応する。</p> <p>(9) 2019年度に実施した卒業生カリキュラム評価アンケートの分析結果を基にしてカリキュラム改善に向けた検討を行う。</p>
<p>3) アドミッションポリシー（admission policy（AP））に沿った入学者選抜</p>	
<p>医学科の入学者選抜は社会から注目され、より一層の厳密さが求められることになる。また、文部科学省による高大接続改革の入試改革も具体化・実施される。本学においては英語の外部試験結果の提出によるデータ収集・分析や国内外先進大学での医学科入学者選抜に関する様々な調査（データ収集・分析）を行い、大学の使命、DP、CPを踏まえてAPを見直し、入試方法を改善する。</p>	<p>(1) 大学の使命について幅広く議論し、使命に基づいたDPに向かうAPの見直しを行う。</p> <p>(2) 入試方法の改善を検討する。</p> <p>① 試験日程を考える。</p> <p>② 本学独自の二次試験の在り方を考える。</p> <p>③ 英語外部試験導入への対応について考える。</p> <p>④ 入試会場を検討する。</p>
<p>4) 教育の質保証</p>	
<p>教育の質保証を図るため、学生と卒業生の実績に関するデータ管理システムを向上させ、教育プログラム評価委員会と教育IR（Institutional Research）が協働し分析を行い、教育プログラム評価を充実させる。プログラム評価結果は教学関連委員会に発信し、教育の質向上につなげる。</p> <p>学生の教育資源として、学生の学修情報の一元化や情報システムの活用を推進できるようICT環境の構築や西新橋校の自習施設の整備を検討する。また、国領校の教育内容や機能を再検証し、再整備計画を立案する。</p> <p>教職員に対してはFD（Faculty Development）・SD（Staff Development）の充実を図り、人材を育成し、各委員会では自己点検評価機能を向上させ、教育の質保証を担保する。</p>	<p>(1) 教員からのフィードバックを系統的、継続的に収集して分析する。</p> <p>(2) 教育IR（Institutional Research）でのデータ管理を推進する。</p> <p>(3) 学生の学修に関する情報を一元的に利用できるプラットフォームをワーキンググループで検討する。</p> <p>(4) 情報システムを活用して学事課事務業務を効率化する。</p> <p>(5) 学生の自己学習・グループ学習に対応するための施設、備品、Wi-Fi環境などを整備する。</p> <p>(6) 学術情報センターによるレポート作成支援を計画する。</p> <p>(7) 国領校の建物耐震化計画をもとに耐震化を実施する。</p> <p>(8) FD・SD委員会で検討し、FD・SDを企画し、実施する。</p> <p>(9) 各委員会におけるPDCAサイクル機能を確認する。</p>
<p>5) 社会連携・社会貢献</p>	
<p>医学科は、地域と連携したカリキュラムが充実していることが特徴のひとつである。地域の教育力を活かした学外実習として、福祉体験実習・地域子育て支援体験実習・重症心身障害児療育体験実習・在宅ケア実習・高齢者福祉体験実習・家庭医実習を行っている。それらの地域の多職種指導者（医師・看護師・保育士・介護士など）のFDを実施するとともに、カリキュラムに対する意見を聴取してカリキュラム改善につなげる。</p> <p>また、教育病院への出張FDや指導者との意見交換により、更なる臨床実習の質向上を図る。</p> <p>また、市民参加教育の推進、大学間連携の充実を図るとともに、社会貢献として、小中高校と連携した出張授業・模擬講義などを推進する。</p>	<p>(1) 教育病院の臨床実習指導医を含めたFDの実施と、拡大臨床実習会議を開催し、意見交換を実施する。</p> <p>(2) 学外実習指導者FD、意見交換会を企画して実施する。</p> <p>(3) 市民ボランティアの協力による学生教育に関連する活動をさらに充実させる。</p> <p>(4) 大学間協定を締結している大学などとの連携教育活動を実施する。</p> <p>(5) 港区教育委員会と連携し小中学校への出張授業を行う。</p> <p>(6) アウトリーチ活動推進委員会を中心にオープンキャンパスなどで中高生への公開講義を企画し実施する。</p> <p>(7) 学生の学習に有効な標本を修復し、標本館にて解説を添えて展示する。</p> <p>(8) 学祖の遺品、本学の歴史に関する図・写真を、史料室にて展示する。</p> <p>(9) 教育病院の臨床実習指導医、附属病院登録医に図書館の利用を提供する。</p>

1-2. 教育 看護学科	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
1) ディプロマポリシー（diploma policy（DP））の確立	
<p>情報化・国際化の急速な進展の中で、予測困難な時代を迎えており、学び続け活躍し続ける人材を育成することが大学に期待されている。その土台となるべき普遍的に必要な能力および、これからの社会で特に必要となる能力を修得するための看護学科ディプロマポリシーを点検する。</p>	<p>DPに位置づけたすべての科目について学生の授業評価、および教員の授業振り返りによって双方向の授業評価を行いホームページ上で公開し、同時に教学委員会、カリキュラム委員会でDPの保証を確認するためにDPのモニタリングを行い、教育内容の点検・改善を図る。</p>
2) カリキュラムポリシー（curriculum policy（CP））に沿った教育改善	
<p>社会的ニーズに応ずることのできる優れた看護実践者を育成するために、課題解決能力・地域医療連携能力の育成を重視した2017年度改正カリキュラムと、更にその強化を図った2019年度改正カリキュラムについて、効果的な、実効性のある運用を推進する。また、8つのディプロマポリシーの達成度を評価するため、学生・卒業生を含めた評価システムを検討し、確立する。本年度発足した地域連携看護学実践研究センターを利用し、効果的な教育を展開する。</p> <p>また、国際的視野を強化する国際交流プログラムの充実を図るとともに、学生が主体的学修能力・倫理的姿勢・教養に裏付けられた品格を涵養できるよう支援する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 2017年度カリキュラムおよび2019年度カリキュラムの評価と新科目の設定カリキュラム委員会モニタリングチームと各領域が、継続的に共通科目、領域担当科目について責任を持って授業実施、評価、改善を行う。 (2) 学生カリキュラム委員を選出し、教員との拡大カリキュラム委員会を設置して、教育内容の評価改善を教員とともに行う。 (3) King's College Londonと新しいMoAの締結を行う。国立台湾大学との大学間協定に基づき、学生交流を開始する。4つの国際交流プログラムに関する早い時期からの学生への周知方法を確立する。 (4) 学生の自治活動や各学年クラス委員会の活動等における義務や責任を果たせるよう、主体的な学修と活動を支援する。
3) アドミッションポリシー（admission policy（AP））に沿った入学者選抜	
<p>看護学科のディプロマポリシーに対応し、高大接続改革に基づき時勢に則したアドミッションポリシーを再設定する。アドミッションポリシーを満たし、卒業、学内外で看護専門職として発展的に活躍できる資質の高い学生を確保するため、大学入試改革を見据え、入学試験の在り方を検討し、改善する。特に英語外部試験の併用および指定校推薦制度の導入を実行する。</p> <p>また、入試広報の充実・強化を図り、受験倍率の確保に努める。</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) ディプロマポリシーに基づいて作成したアドミッションポリシーが真にDPに即しているか、学生募集や入試方法を振り返り検証する。 (2) 修正したアドミッションポリシーに基づく試験科目設定の見直しを行い、さらに、一次試験・二次試験の方法、合格者決定方法を検討、決定する。決定した方法を推進するための実施マニュアルを策定し、入学試験を正確かつ安全に実施する。また、2021年度入学試験から導入する英語外部試験、指定校推薦制度推進のための体制を確定し、実行する。 (3) 受験生・入学生・保護者からの意見を情報収集するためにアンケートや座談会、面談を計画し、実施する。また、受験生応援サイト、大学ホームページにおける情報内容を点検し、修正、あるいは追加情報発信する。発信内容を慎重に検討し、安全かつ効果的な情報を発信できるようにする。オープンキャンパスやファブール祭など代表的な大学行事において、効果的な情報発信を行う。
4) 教育の質保証	
<p>本年設立された看護学教育評価機構による2021年度分野別評価受審に向け、看護学教育IR（Institutional Research）の確立やFDの組織的・効果的運用による客観的現状把握や教員の能力開発を行い、内部から看護学組織の活性化を図ると同時に、同窓会看護学科支部や保護者会との連携体制を構築し、外部からの組織力強化を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 大学自己点検・評価看護学科委員会および看護学科IR委員会が協同し、看護学教育分野別評価のための看護学教育評価ハンドブックを参考に、過去5年間の情報の収集・分析を開始する。また、評価観点項目について担当部署、取り組み状況、根拠資料、改善策の詳細な検討を行い、今後の学科としての方向性を見据えた改革を明確化し、推進する。 (2) 看護学教育評価ハンドブックに掲載すべき本学に関するより詳細な情報について、今年度から情報収集を開始する。 (3) 学生生活全般の支援としてアドバイザーの活用と学生委員会と教学委員会学年担当との連携を継続する。 (4) 看護師・保健師国家試験の高い合格率を維持する。 (5) 学生・教学委員・学生委員・カリキュラム委員・合同SD・FD会議を開催し、学生の主体的な学修を支援する。 (6) 学生委員会と教学委員会が連携し、学修において合理的な配慮が必要な学生への支援体制を検討する。 (7) カリキュラム委員会と教学委員会が連携して、Society5.0に向けた人材育成に関する教育内容を検討する。
5) 社会連携・社会貢献	
<p>看護の力で地域住民の健康と生きる力を支える、地域連携看護学実践研究センターの活動を計画的に推進する。</p>	<p>地域連携看護学実践研究センターを中心として、以下の活動を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ニーズリソースマッチング調査を基盤とした活動計画の立案と実施。 (2) 3部門の効果的な活動の推進。 (3) 調布市大学プラットフォーム事業への参画の推進。 (4) 国領キャンパス再整備に伴い、JANPセンターの物理的環境を整える準備。

1-3. 教育 医学研究科医学系専攻博士課程	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
1) ディプロマポリシー（diploma policy（DP））の確立	
大学の使命、CP、AP、社会のニーズを踏まえDPの点検、見直しを行う。また、DPに沿った厳格な学位審査が行われるか検証する。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 大学の使命、CP、AP、社会のニーズを踏まえDPの点検、見直しを継続して行う。 (2) DPに沿った厳格な学位審査が行われるか検証する。
2) カリキュラムポリシー（curriculum policy（CP））に沿った教育改善	
医学研究者・教育者として必要な倫理観、判断力、指導力を養うためのプログラムをさらに充実させる。また、大学院教育を充実させるために、教育・研究における他施設との連携事業を大学院カリキュラムへ反映させる。今後留学生を含め国際的研究者の育成推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 若手教員を対象とした研究倫理に関する講習会を継続し、e-ラーニングプログラムの受講導入およびFDの実施について検討する。 (2) 国立がん研究センターとの「大学院生研究発表会」を継続して開催する。
3) アドミッションポリシー（admission policy（AP））に沿った入学者選抜	
質の高い入学者を選抜するために、社会人入学の推進や国際化への対応を強化し入試方法の改善を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 試験内容の見直しを継続して検討する。
4) 教育の質保証	
大学院教育の質保証を目的として、調査・アンケート・IR(Institutional Research)の実施組織の機能強化を図り、大学院教育のPDCAサイクル機能を強化するための体制を構築する。具体的には、調査・アンケート・IRの実施組織の機能強化など。また、学位審査の公平性・透明性を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 大学院IR（Institutional Research）の一環として卒業時アンケートを実施する。 (2) 卒後アンケートを参考に学位論文審査の改善を検討する。
5) 社会連携・社会貢献	
他機関との連携による大学院教育の充実を図る。大学院として近隣地域との連携を推進するために、医学・看護が一体となり、社会貢献の在り方を検討する。リカレント教育を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 新たなAI技術開発とビッグデータ利活用が期待できる人材養成を含めた取り組みについて検討する。

<p>1-4. 教育 医学研究科看護学専攻博士前期課程・後期課程</p> <p>中期事業計画（2019年度～2021年度）</p>	<p>2020年度主要事業計画</p>
<p>1) ディプロマポリシー（diploma policy（DP））の確立</p>	
<p>博士後期課程が完成年度を迎える3年後を目標に、博士前期課程から博士後期課程の5年間の一貫した安定的持続可能な運営を図り、ディプロマポリシーを目指した教育課程を意識した教育システムをつくる。</p> <p>博士前期DP5（国際的視野から看護を考える能力）と博士後期DP3（国際的・学際的に協働し活躍する能力）を涵養するために、組織的な仕組みを創設するとともに、TA（Teaching Assistant）・RA（Research Assistant）制度を設置する。</p>	<p>(1) 博士前期DP5（国際的視野から看護を考える能力）、博士後期DP3（国際的・学際的に協働し活躍する能力）を涵養するために「教育質転換プロジェクト」の取り組みを踏まえ、国際共同研究助成金の申請や国際学会発表、英文投稿の支援体制を整備する。</p> <p>(2) TA（Teaching Assistant）・RA（Research Assistant）制度の確立・施行と、制度活用度の評価を行う。</p>
<p>2) カリキュラムポリシー（curriculum policy（CP））に沿った教育改善</p>	
<p>看護学科と看護学専攻との一体的な運営を図り、お互いが相乗効果を発揮し、慈恵マインドを持った次世代人材を育成することが可能な循環型システムが機能する教育を目指す。</p> <p>また、高度実践看護師教育課程の充実化、拡充を検討する。</p> <p>さらに、がんプロフェッショナル養成プランを推進する。</p>	<p>(1) 看護学科と看護学専攻を一体的につなぐTVシステムやWi-Fi環境を実際の授業で活用し、評価を行う。</p> <p>(2) 看護学科学生と看護学専攻学生との交流を推進するために、看護研究発表会や看護学専攻研究計画発表会、研究成果発表会、双方のゼミ参加など具体的な機会を設ける。</p> <p>(3) 授業評価を行い、適宜、教育内容ならびに方法を改善する。</p> <p>(4) 在宅看護学・急性重症患者看護学の専門看護師教育課程の完成年度に当たり評価を行う。</p>
<p>3) アドミッションポリシー（admission policy（AP））に沿った入学者選抜</p>	
<p>入学試験の更なる透明性を確保し、学内外に看護学専攻を広報し、安定した入学者の確保を維持する。</p>	<p>(1) 入試委員会を中心に博士後期課程入学試験のシステム整備の評価を行う。</p> <p>(2) アドミッションポリシーに沿った指標項目の評価を行う。</p> <p>(3) 看護学科学生および保護者、卒業生へ看護学専攻に関する広報を行い、評価する。</p> <p>(4) 本学附属病院看護職へ看護学専攻に関する広報を行い、評価する。</p> <p>(5) 看護系学会にて本学看護学専攻博士前期課程・博士後期課程を広報する。</p> <p>(6) 受験生向けのホームページ開設に向けた調査・検討を行う。</p>
<p>4) 教育の質保証</p>	
<p>博士後期課程完成年度の監査に備えた教育の質保証を行う。</p> <p>自己点検評価を確実に積み重ねて行う。学位論文の学術誌への論文掲載を支援して教育の質保証につなげる。</p> <p>さらに、博士前期課程における高度実践看護師教育課程者の専門看護師（CNS：Certified Nurse Specialist）取得を支援する。</p>	<p>(1) 外部評価に備えて、継続的に自己点検評価委員会は自己点検評価を行い、適宜、改善をする。</p> <p>(2) FD委員会を中心に授業の学生評価および教員評価を行い大学院委員会で検討し教育課程の改善に取り組むPDCAサイクルを継続的に実施し、内部質保証の仕組みの体制を整備する。</p> <p>(3) 学生・修了生の教育評価に関するアンケート調査を蓄積・分析し、適宜、改善する。</p> <p>(4) 修士論文が学会発表とその後の学術誌への論文掲載につながるよう支援体制を検討する。学事課は、学会発表および論文掲載状況を指導教員からの情報で把握し、蓄積の方法を検討する。</p> <p>(5) 博士前期課程および博士後期課程の学生の学位取得、特に後期課程は完成年度に向けて取得できるよう支援する。</p> <p>(6) がん看護専門看護師、急性・重症患者専門看護師、在宅看護専門看護師の資格取得を支援する。</p> <p>(7) 精神看護専門看護師教育課程と小児専門看護師教育課程の設置申請を支援する。</p> <p>(8) 職業実践力育成プログラム（BP）認定制度の申請を検討する。</p> <p>(9) ラーニングコモンズのニーズ把握と、適宜、課題の解決法を検討する。</p>
<p>5) 社会連携・社会貢献</p>	
<p>学内外の看護職と連携して看護実践を支える看護研究を推進する。</p>	<p>(1) 公開ゼミ・公開授業・講演会・セミナーなどを行い、その評価を行う。</p> <p>(2) 臨床の研究支援を継続的に行い、対象施設に出張するなどニーズに即して支援を拡大する。</p> <p>(3) ういケアみなと（港区立がん在宅緩和ケア支援センター）に対して、ボランティア・がんに関する早期教育、人材育成などについて支援する。</p>

1-5. 教育 看護専門学校	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
1) 教育理念に基づく教育課程編成と教育の改善	
<p>「つねに人びとの幸を願いそのために献身する」という慈恵の精神のもと開始された看護師教育機関として、社会に貢献できる看護実践者を育てることを使命としている。看護の大学化が進む中でも、ナイチンゲール看護に根差した看護教育が確実に継続され実践できるようにすること、また、人生100年時代の到来の中、超高齢社会で求められる医療と一人ひとりの生活に密着した地域包括ケアを支える看護を提供できる看護師を育成するための教育課程を編成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 改正カリキュラムに関する方針を理解し、カリキュラム編成委員会を発足、改訂作業スケジュールを策定し、各委員会から提出された修正案を検討する。 (2) 慈恵の独自性を明確化する。 (3) 看護を学ばせる場を検討し、実習場所の確保に努める。
2) 教育の質保証	
<p>社会に貢献するとともに、慈恵で必要とされる人材を輩出するため、学生・教員による教育評価を実践し、問題を改善するとともに課題を明確にしてより効果的な教育方法などの開発につなげる。また、学生の看護実践力を養うためには、臨地実習における臨床指導者との連携強化を継続していくことが必要不可欠である。</p> <p>教育理念にある看護師育成のためには、教育にあたる人材育成も重要である。教員としてその職にあたる現任教員者の教育実践力向上に向けて自ら研鑽に取り組めるよう研修機会を創出するなど環境作りを推進する。また、慈恵の看護基礎教育の継続に係わる教員の確保に向け、臨床看護師が教育に興味関心が持てる機会を作るなど、教育の場の理解を求め人材開発に向けて関係者と連携する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義、実習の授業アンケート結果を担当者にフィードバックし、授業改善に努める。 (2) 単位未履修者を可能な限り低減し、所定年次で卒業できるようにする。 (3) 国家試験合格100%に向け、受験対策を充実させる。 (4) 希望の就職、進学先に進めるよう支援する。 (5) 学生個々の状況に応じた進路選択を支援する。 (6) 看護基礎教育に関心が持てる臨床看護師を推薦し、教員研修受講につなげる。 (7) 教員自身が自己研鑽するとともに、研修機会を作る。
3) アドミッションポリシー（admission policy（AP））に基づく質の高い意欲ある入学生の確保	
<p>慈恵の看護教育において大切にしてきた専門職として必要な知識・技術に加えて品位・礼儀・辞讓・温かな態度で相手を尊重した看護を実践できる看護師を育成する。この態度を身につけ実践でき、時代の要請に沿った人材を確保するためにアドミッションポリシーを明確化する。アドミッションポリシーを理解した上で、看護を慈恵で学ぶことを希望する志願者、またそれに合致した入学生を選抜し、学生確保につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) アドミッションポリシーを明文化し、広報の仕方について検討する。 (2) 高校指定校のうち選択された学校との連携を強化する。 (3) オープンキャンパス・学校見学会・業者主催による説明会の機会の他、見学相談希望者は積極的に受け入れて対応する。 (4) ホームページ掲載内容を検討し、アクセスしやすい、必要な情報入手ができるネット環境となるよう関係部門と検討する。
4) 地域・社会貢献	
<p>慈恵の3看護専門学校が立地する地域の特性を踏まえ、地域住民と交流する機会をつくり、地域社会の活動に貢献することにより、地域全般に関する学生の理解を深めるとともに、学校の教育活動に対する地域住民、社会の理解協力が得られるようにする。</p> <p>病院や地域の防災訓練活動に参加し、学生が安全意識と防災に関する知識や実践力を高められるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地域で実践されている事業に関する情報を捉え、学生が参加する機会をつくる。 (2) 病院主催の大規模災害訓練、医療安全関連活動に参加する。 (3) 学校で地震災害訓練を実施し、災害時の行動について学ぶ機会をつくる。

2. 研究	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
1) 先進的且つ特色のある研究の推進	
<p>本学にとって特色ある研究領域を識別し、重点的に推進していくことで、本学の強みを活かし、「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神に裏付けられた研究を推進し、その研究成果を社会に発信していくことで、病める人の心の痛みの理解、病める人の側に立つ全人的で高度な医療を提供するという慈恵ブランド構築につながる研究を推進する。最先端研究は、基礎的シーズが人にトランスレートされる研究と日本医療研究開発機構（AMED）などの資金を得て人へのトランスレートを利用して研究を推進する。</p>	<p>(1) 先進的研究の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 慈恵式レジリエンス評価・強化システム本試験の実施。 ② ヒトのストレスレジリエンスを反映した新規疲労・ストレスモデル動物の作製。 ③ 慈恵式レジリエンス強化料理メニューの作成。 <p>(2) 特色ある研究の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 質の高い臨床研究を推進するための基盤整備を行う。 ② 医療機器の承認を目指した臨床研究・治験を進める。 ③ 産学連携講座設立のための基盤を整備する。 ④ 大学発ベンチャー企業設立のための基盤を整備する。
2) 透明性・公正性・中立性の高い研究の推進	
<p>研究倫理推進センターおよび教育研究助成委員会を中心として、研究者としての高い倫理観を涵養するために必要な体制整備と対策を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究費適正化推進計画の立案と実施 ・研究費適正化推進計画と実態の分析 ・研究不正防止に係わる倫理教育 ・研究費不正に係わる倫理教育 	<p>(1) 研究倫理推進センター、教育研究助成委員会の活動の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「研究倫理教育 FD」を通じて研究に関わりのある教職員等に対し研究倫理教育を行う。 ② 「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく体制整備と自己評価チェック項目を着実に遂行し、研究不正の再発防止を徹底する。 ③ 「研究活動における不正行為への対応に関するガイドライン」に基づく取組状況に係わるチェック項目を着実に遂行し、研究不正の再発防止を徹底する。 ④ 剽窃・盗用チェックツールの案内、説明会を実施する。
3) 外部競争的資金の活用と獲得推進	
<p>新規および継続的な研究成果を発展させ、それぞれの研究層に応じた競争的資金の獲得を目指す。そのために、学内研究費の効果を分析し有効に活用することで新規研究課題への展開を促進する。また、URA（University Research Administrator）部門による外部研究費に係わる情報提供、マッチング、研究計画調書作成支援活動を行い本学における外部競争的資金の獲得を推進する。</p>	<p>(1) 外部競争的資金の活用</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究奨励費、戦略的重点配分研究費をはじめとする学内研究費の審査体制を見直し、効率よく外部競争的研究資金が獲得出来る体制を再整備する。 ② 女性研究者キャリア支援研究費の管理・運営体制を見直し女性研究者が継続的に研究が行える支援体制再整備する。 <p>(2) 外部競争的資金の獲得推進</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究アドミニストレーション部門がAMED等の競争的研究費の獲得状況を評価・検証し、外部競争的資金の獲得につなげる。 ② 研究アドミニストレーション部門が国の研究推進政策を分析し、外部競争的資金の獲得につなげる。 ③ 研究アドミニストレーション部門を中心に研究費獲得のための支援を行う。
4) 戦略的研究推進体制の構築	
<p>総合医科学研究センター研究部門において各研究部で行われる特色ある研究を支援する。事務部門を再編し、より効果的かつ合理的な支援体制の構築を目指して、臨床研究支援センター（事務部門）、研究支援課（URA部門含む）の在り方を見直し、研究支援から研究推進を目指すより強力な体制を構築する。</p>	<p>(1) 研究アドミニストレーション部門の再構築 プレアワード、産学官連携・共同研究の推進における研究アドミニストレーション部門の役割を再構築し、新たな戦略的研究推進対策を策定し実践する。</p> <p>(2) 総合医科学研究センターの活性化</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 2018年度～2020年度の総合医科学研究センター各部門における運営計画を着実に実施し、設定した目標を達成する。 ② 外来棟に新設するCPF（セル・プロセッシング・ファシリティ）を円滑に運用開始し、再生医療等の充実を図る。 <p>(3) 事務組織再編 学事課、研究支援課、臨床研究支援センター、治験管理室の事務部門を集約し、研究者支援、研究推進体制の充実を図る。</p> <p>(4) 学術情報センター</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医学論文書き方講習会を開催する。 ② 論文数の集計により本学の研究活動の特徴を分析する。 ③ 論文執筆・学会発表の支援として、データベースの利用説明会の開催、投稿誌選択のための調査、写真撮影、ポスター印刷を実施する。 ④ 研究評価、研究推進のための引用データベース活用法の説明会を開催する。

2. 研究	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
5) 学内・学外の研究連携推進	
<p>総合医科学研究センター各部署（研究所・研究部）の活動を点検・評価することで現状を分析し、より機能的な組織に再編する。総合医科学研究センター研究部門の主導で、学内の各講座と連携した特色ある研究を推進する。また、URA部門が学内・学外の共同研究・受託研究を全般的に支援することで研究の連携強化を図る。</p>	<p>(1) 学内研究連携推進 2018年度～2020年度の総合医科学研究センターの目標の達成度を評価し、学内共同研究を企画推進した成果を検証する。</p> <p>(2) 学外研究連携推進 研究アドミニストレーション部門を中心に、産学官連携支援を推進する。</p>

3-1. 医療 附属病院（本院）	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
1) 医療の質の向上	
<p>特定機能病院として、高度かつ先進的な医療を安全・安心に提供するという社会的責務を果たすために、患者を中心とした専門職間の円滑な協働と教職員の品格・資質の向上を図る。新たな診断・治療・医療技術の導入やICTの活用、当院の診療機能を最大限活用して様々な疾患に柔軟に対応することができるよう、ゆるやかなセンター化構想を含めて、従来の形にとらわれない診療体制を構築する。</p> <p>また、国際化の進展や周辺地域の環境変化に対応すべく、来院者のニーズにきめ細かく対応することができる医療提供の体制、施設整備を進める。</p> <p>新橋健診センターでは、医療資源を最大限活用した事業の展開に向け、人間ドックや健診項目の充実と予防医療を支える人材の育成により、質の高い施設運営を行う。</p>	<p>(1) 診療機能</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 特定機能病院としての機能を充実させるため、新承認要件を中心に体制整備を進め、診療情報共有改善を推進しながら安定運営を図る。 ② 常に最新情報を収集し、患者ニーズに対応した先進医療、再生医療などの新規申請・実施を推進する。 ③ 診療科の独自性を保ちつつ、診療エリア構成を活かした診療を推進する。 ④ がんゲノム医療を推進する。 ⑤ クリニカルパスの整備を推進し、入院医療の標準化と質の向上を推進する。 ⑥ 医師事務支援室の業務を拡充し、医師の働き方の改善と医療の質の向上につなげる。 <p>(2) 医療提供サービス</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教職員の品格・資質の向上を図るとともに、専門職間の協働を基本としたチーム医療を実践し、患者さん指向の医療を提供する。 ② 手術件数のほか当院の特色を示す診療情報を評価するシステムを構築し、定期的に臨床指標の実績公表など情報公開を推進する。 ③ 患者が納得し、満足度を高めるため、インフォームド・コンセントの徹底を図る。 ④ 国際化のニーズに応じた患者の受入れ体制を整備する。 <p>(3) 教育・研修</p> <ol style="list-style-type: none"> ① CPCによる症例検討や鏡視下手術トレーニングなどの技術認定を推進する。 ② 認定看護師や専門看護師等を充足させる。 ③ 医療安全、保険診療および個人情報等の研修にe-ラーニングを導入する。 ④ 患者対応のスキルアップを図り、患者満足度を向上させる。 <p>(4) 医療施設</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ICT技術を活用した医療の効率化を推進する。 ② 施設・設備の効率的な維持管理と計画的な整備、機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。 <p>(5) 新橋健診センター</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 予約しやすい仕組みなど健診者サービスの充実を図る。 ② 大学病院の健診センターとして、カプセル内視鏡検査やPET検査といった特色ある健診を推進する。 ③ 外国人健診者の受入れを推進する。
2) 医療安全・感染対策の推進	
<p>(1) 医療安全</p> <p>特定機能病院として、医療安全の視点で求められている条件を満たすことができるように、現場への情報提供、周知を図る。また、患者安全の担保ができる体制の構築を支援する。</p> <p>(2) 感染対策</p> <p>薬剤耐性菌など懸案となる諸問題に対して大学病院のモデルとなるような感染対策を確立する。</p>	<p>(1) 医療安全</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 診療情報共有改善に向けた具体策の実施について答申書に記載されている6項目に対する対策のPDCAサイクルを回し、検査結果未読率を減少させる。 ② 医師の専任化に伴い、附属4病院間で相互に情報を共有し、連携して有事に対応する。 ③ TeamSTEPSを活用し、コミュニケーションエラーをなくすためにエッセンシャルコース、アドバンストコースを継続的に実施する。 <p>(2) 感染対策</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 病棟ICTミーティングの継続実施により、現場主体の耐性菌対策・抗菌薬適正使用、医療関連感染症対策を強化する。 ② 抗菌薬適正使用支援ラウンドの継続実施で抗菌薬適正使用を推進し患者予後の改善に寄与する。 ③ 新外来棟の機能を活用して持ち込み感染症対策を強化する。 ④ 附属4病院統一教職員抗体価管理システムの円滑な運用により職業感染対策のレベルアップを図る。 ⑤ 新興・再興感染症（COVID-19など）への対応策を立案・実践する。 <p>(3) 医療安全・感染対策 共通</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 多様な職種、勤務形態の状況に応じた研修の企画および出席状況の把握やe-ラーニングの活用により、研修会の未受講者をゼロにする。

3-1. 医療 附属病院（本院） 中期事業計画（2019年度～2021年度）	2020年度主要事業計画
3) 地域医療連携の推進	
<p>地域における医療連携強化に向けた協力関係（アライアンス）の構築と前方、後方連携体制の枠組み（プラットフォーム）を整備し、紹介患者の増加と逆紹介の向上を図る。</p> <p>具体的には、前方連携として登録医制度により紹介元医療機関を拡大する。また2人主治医制の確立と登録医の利点向上を図り、附属4病院間の連携強化のために、地域連携システムの活用による医療情報共有ネットワークを構築する。後方連携は、急性期を脱した患者受入れのための非急性期医療機関（後方支援病院）との連携を強化・拡大する。</p> <p>さらに、地域医療構想が具現化していく中で、地域における各病床機能との円滑な連携体制により、患者にとって良好な医療環境を作る。</p>	<p>(1) 前方連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 登録医制度の拡大を図る。 ② 地域連携システムの活用による医療情報の共有体制の構築に向け、web予約利用数の増加を図る。 ③ 地域医療機関ニーズに合わせた院内情報提供機会を充実させる。 <p>(2) 後方連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域の医療・介護事業者の開拓と連携強化に向け、訪問や交流機会へ積極的に参画する。 ② 病院間連携の強化に向け、相互利益に資する情報共有と患者受入れの仕組みを構築する。 <p>(3) 4病院間連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各附属病院から本院への受入れを推進する。 ② 連携強化策としての病院救急車両の活用を図る。
4) 収支構造の確立	
<p>大学の長期資金計画に基づく収益を達成するために、予算管理を行い、収支構造の安定化に努める。</p> <p>具体的には、医療・診療報酬政策の動向に対応した収支構造を確立するために、病院機能を効果的に活用する。月次の収益や診療科目別目標達成状況などの病院経営情報を把握し、医療経費などの見直しや削減に努め、運営の効率化と収益の最大化を図る。</p>	<p>(1) 医業収支目標の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各診療部の目標値を予算に反映させ、診療部長面談において検証を行い、経営意識の醸成と目標達成を図る。 ② 病棟構成と診療機能を活用し、診療報酬制度の中で、最大限の効果が得られる施設基準、病床稼働により運営する。 ③ 保険診療指導管理委員会において、診療行為の適正な請求を検証する。 (晴海トリトンクリニック) ④ 晴海トリトンスクエアに入居する企業からの健診業務受託に向けて取り組む。 ⑤ 中央区の各種区民健診に引き続き参画し、区民への認知度を高める。 (新橋健診センター) ⑥ 健診者の増加を図り、健診収支目標を達成する。 <p>(2) 医療経費の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コストマネジメント・プロジェクトでの計画を実行し、医療材料物流の効率の運用と経費削減活動の強化を図る。 ② 医薬品の適正使用ならびに後発医薬品の採用を促進する。 ③ 共同購入の推進、購入価格の見直し、不動産在庫の削減、配置在庫の適正化に努める。 ④ 省エネおよび委託費の適正化に努める。
5) その他の取組み（特色のある取組みなど）	
<p>附属病院では、「患者さんにとってわかりやすく優しい病院」を目指し、2020年1月の外来棟・N棟の開院により診療機能の充実を図ると同時に安定的な運用を実現する。そのためにも効率的かつ質の高い医療を提供できる効率的な組織づくりを行う。救急医療体制の強化と、大規模災害時に十分に機能する災害拠点病院として社会的責務を果たす。</p> <p>港区立がん在宅緩和ケア支援センターでは、地域に親しまれる施設として、がん患者（がんを患っていた人を含む）、家族や区民の方が住み慣れた環境で安心して過ごすことができるよう、疑問や不安に応え、確かな情報を伝えることができるように、質の高い事業を展開する。</p>	<p>(1) 病院機能の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 外来棟・N棟における運用の安定稼働とE棟の整備を進める。 ② 総合周産期母子医療センターの指定を目指す。 ③ 救急受入れ時の円滑な院外、院内連携を機能させる。 ④ 健康増進施設を誘致する。 ⑤ 事業継続計画を改定し、多様な事象に備える。 ⑥ 自治体および医師会、地域医療機関と連携し、災害時医療の強化に貢献する。 ⑦ 病院機能評価の更新受審に向けて遅滞なく準備を進める。 <p>(2) 医師等の働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組」を踏まえ、適切な現状把握と改善に取り組む。 <p>(3) 港区立がん在宅緩和ケア支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域の医療・福祉関連施設への訪問・広報を拡充し、利用者ニーズに適合した事業の展開により利用者の増加につなげる。 ② 子どもやAYA世代（15歳～39歳）を対象とした、がん教育・がん予防などの啓発事業に継続的に取り組む。

3-2. 医療 葛飾医療センター	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
1) 医療の質の向上	
<p>総合診療体制を強化し、かつ、プライマリーケア・ユニット（救急部・総合内科・小児科）の機能を充実させ、断らない救急医療を推進する。その上で、施設設備の拡充により強化された診療重点機能を中心として、更に質の高い医療を提供する。</p> <p>患者ニーズの的確な把握に努め、ニーズに適応したサービスの提供と向上を推進する。また、地域包括ケアシステム構築に向け、退院調整と在宅療養支援および地域看看連携の強化を図る。</p> <p>チーム医療を実践するための人材を育成しチームのメンバー間で情報の共有を図り、患者に対する最善な治療方法の検討を行い、職種間での協力体制を強化する。</p> <p>病院施設・設備の効率的な維持管理と安全かつ計画的な整備を図る。また、医療機器・備品の効率的な管理および購入計画を策定することにより、病院の資源を有効活用し経営の安定化を図る。</p>	<p>(1) 診療機能</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 総合診療体制の強化策を継続検討する。また、近隣医療機関からの救急・紹介患者は、原則としてすべて受け入れる体制を継続する。 ② 集中治療室増床に伴う円滑運用を構築し、効率的な稼働を推進する。 ③ がん治療の重点化として、手術・化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療を推進し、がん診療連携拠点病院の申請に向け継続検討する。 <p>(2) 医療提供サービス</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 患者満足度調査を実施して患者ニーズを的確に把握し、サービスの向上を推進する。 ② 外来診療待ち時間調査を実施し、待ち時間短縮および待ち時間を感じさせない対策について検討・立案し実施する。 ③ 退院支援者と医療スタッフがともにアドバンス・ケア・プランニング（ACP）についての理解を深め、院内において実践する。 <p>(3) 教育・研修</p> <p>チーム医療を推進するための人材育成を推進する。</p> <p>(4) 医療施設</p> <p>施設・設備の効率的な維持管理、機器・備品の効率的な管理および計画的な購入を実施する。</p>
2) 医療安全・感染対策の推進	
<p>(1) 医療安全</p> <p>大学病院として医療安全の視点で求められている条件を満たすことができるよう、現場への情報提供、周知を図る。また、患者安全の担保ができる体制の構築を支援する。</p> <p>(2) 感染対策</p> <p>薬剤耐性菌など懸念される諸問題に対して附属4病院と連携を図りながら、適時適切な感染対策を確立する。</p>	<p>(1) 医療安全</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 診療情報共有改善ワーキングを中心とし、関係各科と協働し、検査結果の未読を解消する。 ② 附属4病院会議により安全情報の共有を行うとともに、相互ラウンドによる評価を継続する。 ③ 各部署のTeamSTEPS活動目標の設定と実践により、チーム医療の強化を推進する。 ④ 患者の状態悪化に迅速に対応できる仕組みの構築と運用を支援する。 ⑤ 研修の企画、開催方法を検討し、研修受講率100%を目指す。 <p>(2) 感染対策</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各部署の諸問題に適応した部署別講習会、お互いの気付きの発信により、現場主体の耐性菌対策・抗菌薬適正使用、医療関連感染症対策を強化する。 ② 抗菌薬適正使用支援ラウンドの継続実施で抗菌薬適正使用を推進し患者予後の改善に寄与する。 ③ 周術期抗菌薬の適正使用を推進し、総AUD（antimicrobial use density）の低減を図る。 ④ 当院・地域病院との相互ラウンド、アウトブレイク時の有事支援など、地域連携の更なる強化を推進する。 ⑤ 委託会社社員、中途採用者を含めた教職員抗体価管理システムを構築する。
3) 地域医療連携の推進	
<p>前方連携として、地域における医療連携および医療提供体制を強化し、連携登録医制度の拡充などにより紹介患者の増加を図る。また、地域医療における病病・病診連携体制および情報公開を推進し、患者および地域への医療サービスの向上を図る。</p> <p>後方連携としては、後方支援病院（回復期リハビリテーション、慢性期、後方支援施設など）とのネットワークの拡充を図り、退院支援および逆紹介の適正化を推進する。</p>	<p>(1) 前方連携</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医療機関訪問ならびに新規開業医療機関への連携に係わる積極的介入、広報活動などを推進し、連携登録医制度の拡充を図る。 ② 紹介元医療機関からの要望確認ならびに信頼関係構築に向け、医療機関アンケートの実施および医師返書率の向上を図る。 <p>(2) 後方連携</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医療機関、介護施設、福祉施設などとの連携強化に向け、訪問および情報収集を推進する。 ② 協力病院とのリアルタイム空床状況システムを構築し運用を開始する。

3-2. 医療 葛飾医療センター	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
4) 収支構造の確立	
<p>医療収支目標の達成に向け、病院収入と経費動向の分析などから経営状況をタイムリーに把握し、増収・増益に向けた戦略を策定・実施する。特に、経費の執行状況と収支バランスの把握によってコスト管理を徹底し、医療経費の適正化に努める。</p>	<p>(1) 医療収支目標の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 病院運営会議にて収支状況についての分析を定期的に行い、診療部会議にタイムリーに報告し増収と経費節減に向けた施策について検討・実施する。 ② 診療報酬請求の精度を高め、現行の低査定率を維持するとともに、請求漏れを防止する。 ③ 患者圏の調査・分析などからマーケティング活動を実践する。 <p>(2) 医療経費の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① SPD委託会社の附属4病院統一化に伴うベンチマークおよび材料の廃棄削減などにより、医療経費の縮減に努める。 ② 附属4病院共同購入システムを活用し、値引き率の高い材料への切り替えを促進する。 ③ 医薬品の適正使用ならびに廃棄の削減、後発医薬品の採用を促進する。
5) その他の取組み（特色のある取組みなど）	
<p>コンプライアンスおよびガバナンスの強化策として、2017年2月(2016年度)に受審した病院機能評価について、5年後となる次回受審予定(2021年度)の再受審に向けて継続的に改善に取り組む。東京都災害拠点病院として、大規模災害時にも十分に機能する医療機能を確保し、地域への支援および連携体制の強化や被災地への支援体制(DMAT)の機能維持に努める。</p> <p>環境保護を目的とした地球温暖化対策などを遵守し、エネルギーの適正管理に努める。具体的には、当医療センターリニューアルの際に新たに導入されたESCO(Energy Service Company)事業を検証し、毎年策定している節電行動計画に基づいた取組みなどを強化・実行する。</p>	<p>(1) コンプライアンス・ガバナンス強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 次回の病院機能評価受審に向けた取り組みを継続し、改善事項などについて確認・検証していく。 <p>(2) 災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 区や地域との防災訓練に参加し、地域支援・連携体制を強化する。 ② DMAT機能維持訓練(研修)へ積極的に参加する。 ③ 水害対策マニュアルを改定し、水害対策を強化する。 <p>(3) エネルギーの消費削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 東京都温室効果ガス排出総量削減率(東京都削減目標)について、2020年度は排出基準量に対し-25%削減(東京都条例)を達成する。 ② 夏季のピーク電力調整カットの基準値をクリアし、光熱費の節減を図る。

3-3. 医療 第三病院	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
1) 医療の質の向上	
<p>地域中核病院として、提供する医療の質・提供主体の組織の質・組織構成員全員の質を総合的に向上させるべく、医療を適切かつ円滑に行う。そのためにはチーム医療を推進することが不可欠であり、診療部門と支援部門を含めた、すべての部門横断的な連携を行う。その上で、北多摩南部医療圏や地域包括ケアシステムなど地域との連携を強化し、幅広い世代の地域住民の様々なニーズに応じていくよう継続的に取り組む。また、医療人教育、地域への健康情報発信などシームレスな地域医療を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 救急診療体制を点検し、救急患者増患策を講じる。特に休日夜間帯の強化を図る。 (2) 安全かつ効率的に手術室を運用し、年間手術件数6,000件の達成ならびに緊急手術の対応を整備する。手術時間の設定や予定時間内等の調整、改善を行い、60%以上の稼働率を維持する。 (3) 「東京都がん診療連携拠点病院」の要件が改定されたため、適切に対応する。また、「地域がん診療連携拠点病院」認定を視野に北多摩南部医療圏における拠点病院との連携・相乗効果を創出する。 (4) 狛江市による認知症初期集中支援チームをサポートする。 (5) ホームページの充実等により相談体制を強化することで医療提供サービスを充実させる。 (6) 院内外の講演会、勉強会実施を院内外へ広報し、総合診療専門医採用に向けた活動を活発化させることで、総合医療研修センター機能を充実させる。 (7) 2025年1月新第三病院リニューアルオープン(予定)までの期間、既存建物・設備の維持、安定運用に向け計画的な整備・修繕を行う。
2) 医療安全・感染対策の推進	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 医療安全 医療安全と感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。医療現場のチームワークとノンテクニカルスキルの強化を図るべくTeamSTEPPSの考え方を理解したスタッフの育成、現場での推進・定着を図り、医療の質と安全を高める活動を強化する。医療安全教育の充実を図るべく現場での問題を共有し積極的予防活動につなげるための意識変革を行う。 (2) 感染対策 感染対策の基本技術向上を図りながら感染の予防と提言、アウトブレイクに対する迅速かつ適切な対応を行い、患者が安心して治療に専念できる療養環境と、職員が安全に働くことができる職場環境の提供に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) TeamSTEPPS研修の継続とそのスキルの現場での周知・浸透 (2) 全教職員の必須研修、選択研修の各1回以上の出席により医療安全に関する意識の向上を図る。 (3) ヒヤリ・ハット、インシデント報告の意義を理解し積極的に報告できる風土を育成する。 (4) 患者情報の共有により適正な治療が提供できるようにすることと同時に患者も医療に参画できるようにする。 (5) 適切な手指衛生の実施（指数15以上）、防護具の使用など基本的な感染対策技術の向上を図る。 (6) 感染対策に関する知識・技術の向上と感染症情報の共有を図るため研修会の未受講者数0を維持する。
3) 地域医療連携の推進	
<p>新規開業医療機関や紹介件数変動医療機関に対し医療機関訪問を実施することや、地域連携システムを活用することにより医療連携の拡充と強化を図る。また、後方連携においては、急性期を過ぎた入院患者のニーズに応じて転院できるよう後方医療機関の拡大を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 機能拡張する地域連携システムの活用および医療機関への訪問、文書での啓発を行い、紹介率の向上を図る。予約枠の洗い出しを実施し利用件数の拡充を図る。 (2) 後方連携においては、近隣医療機関訪問を実施し拡充を図る。
4) 収支構造の確立	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 病院運営会議を中心に各種委員会を通じ、医療収入予算を達成する。年1回院長面談を各診療部長と実施して、予実管理の情報を各診療科と共有していく。一方、経費においては、管理会計情報などにより病院経営状況を定期的に把握し、人件費・医療経費の見直しに努める。特に薬品費の増加傾向に歯止めがかからないため効率よい運用を目指し、今後も関係部署間において情報共有を図る。 (2) 病院運営の効率化を推進するとともに安定した病院財政基盤を構築するため増収・経費削減策を講じていく。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 2020年度に設定した医療収入、医療収支予算を達成する。 (2) DPCデータやデータウェアハウスなどから得られた情報を分析し、増収につなげる。 (3) 医薬品の適正使用、廃棄薬品の削減、ならびに後発医薬品の採用を促進するなど、医療経費（医療経費率33.0%）の適正化を図る。

3-3. 医療 第三病院	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
5) その他の取組み（特色のある取組みなど）	
<p>「共感と思いやりに基づく医療（Empathy Based Medicine）」を浸透させ、大学の理念・基本指針を実現し、社会貢献、地域貢献に努める。また、新病院建設に取り組む。単なる建替え事業ではなく、病院所在地域の街づくりの一翼となり、地域の発展に貢献する一大事業とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 共感と思いやりに基づく医療(Empathy Based Medicine)の推進のために、外部講師を招いて教職員研修年2回以上、院長メッセージとして行動目標を院内報、イントラネット、メールで各4回配信周知、医師転入時に行動目標の書面を配付など、より一層、教職員への浸透に努める。 (2) ハラスメント研修および禁煙対策研修の計画的実施を通して、教職員一人ひとりの意識および対応力の向上に努める。 (3) 新病院建設プロジェクト委員会を中心に、各ワーキンググループと設計事務所が協働し主体的に活動して、基本計画を固める。基本計画策定後には基本設計構築に向けて取り組む。これらの取り組みを通じて、今から病院の活性化を図る。 (4) 災害に対応したBCP・災害対策マニュアルの更新、各種災害時対応訓練を通じた実践力の向上等、災害拠点病院としての機能強化を図る。 (5) 近隣の競技会場で東京オリンピック・パラリンピックが開催されるため、診療体制・災害対策等、有事に向けた準備を行う。

3-4. 医療 柏病院	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
1) 医療の質の向上	
<p>患者中心の医療を推進するため、大学病院ならびに地域基幹病院としての多種多様な機能（災害拠点病院、地域難病相談・支援センター、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、エイズ治療拠点病院など）を更に充実し、急性期医療の推進と地域医療に貢献する。</p> <p>あわせて、患者中心の医療を展開するために、個々の医療者だけでなく、医療チームとしての診療技能を向上させ、また、医療施設や診療機器の整備・拡充を進めていく。</p>	<p>(1) 診療機能</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 中央手術室の稼働率を維持しながら、緊急手術の受入体制を整備する。手術室ストップの低減対策、外来手術センター利用促進、土曜日手術の実施を推進する。 ② ICUの効率的運用(適正稼働)対策と集中治療体制の更なる整備を図る。(臨床工学技士、薬剤師の常駐など) ③ 救急患者応需率の維持と、三次救急の受入れを増加させる。 ④ 病床の効率的な稼働を推進するため、各科ベッドコントロール担当医師を含めた(緊急招集対応)管理チームを設置する。 ⑤ 一般病棟での重症患者の対応力を向上する。 ⑥ 産科診療体制の推進について病院全体での対応を検討する。 ⑦ チーム医療に有効であり、患者参画を促すクリニカルパスを作成し活用する。 ⑧ 診療情報共有改善を推進するため、診療科と検査部門の連携強化および患者参画促進等の対策を実施する。 ⑨ 大学病院として、先進医療をはじめ、新たな診断・治療・医療技術の実施体制を整備する。また、治験と臨床研究を適切に実施するため、審査・実施体制の整備と院内周知を徹底する。 <p>(2) 医療提供サービス</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 患者サービスを向上させるため、アメニティの改善、外来待ち時間の短縮と有効活用、分散会計の導入などを検討、実施する。 ② 広報を充実し、病院機能情報をわかりやすく提供するため、ホームページの改善、地域医療機関への情報提供を実施する。 <p>(3) 教育・研修</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医療安全をはじめとする研修内容の充実と各部門で実施している各種勉強会を病院としてサポートする。 ② 医療者として、患者視点での接遇マナーを実践し、言葉使いや身だしなみを整えるため、指導や相互チェックを行う。 ③ 個人情報や診療情報の取扱いに関する問題点や危険性を周知し、事故や漏洩を防止する。 ④ 適正な保険診療を実施するため、講習会などを開催し、あわせて実践的な教育を実施する。 <p>(4) 医療施設</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 血管撮影室・手術室・診療情報室改修工事計画を進める。
2) 医療安全・感染対策の推進	
<p>(1) 医療安全 医療安全管理体制を強化し、患者本位の安全で安心な医療の提供を推進する。</p> <p>(2) 感染対策 薬剤耐性菌対策を推進してアウトブレイクを防止するとともに、急性期医療にともなう医療関連感染の予防により、安全な医療の提供に貢献する。</p>	<p>(1) 医療安全</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関連部門、部署との協働により、診療情報の共有について推進を図り、患者への不利益を防止する。 <ol style="list-style-type: none"> a. 患者への説明を推進するために、検査結果(画像診断・病理・内視鏡)の交付を実施する。 b. 検査結果未読リストの活用により、未読件数を減少させ、重要な情報が患者自身に届くようにしていく。 ② チーム医療の強化と質の向上を推進する。 <ol style="list-style-type: none"> a. 患者本位の「説明と同意」の質を向上させる。 b. TeamSTEPPSエッセンシャルコースの継続と、セーフティマネジャーに対するアドバンスコースを企画・実践する。 c. 侵襲性のある医療行為時のブリーフィング、タイムアウト実践事例を増加する。 d. 教職員一人一人が、患者安全行動を実践できるよう、研修の企画・実践を行う。 e. RRS、CCOの推進による患者の急変兆候の早期発見と早期介入、およびスタットコール事例を減少させる。 <p>(2) 感染対策</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研修会の開催、ICTラウンド、リンクナース活動運営などにより、基本的な感染対策の教育、評価を行う。 ② 抗菌薬適正使用支援チームとして積極的な介入を行い、広域抗菌薬の使用量を減少させる。 ③ 医療関連感染サーベイランスを継続し、評価、改善策を実践する。 ④ 血液体液曝露事例を分析し改善策を実施する。

3-4. 医療 柏病院	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
3) 地域医療連携の推進	
<p>当院の置かれた地理的環境および医療情勢から、地域の医療機関、行政などとの連携強化は不可欠で、病院経営の根幹として位置づけ全教職員で取り組む。</p>	<p>(1) 前方連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域医療支援病院運営委員会を定期的に開催し、地域での情報共有を図る。 ② ホームページや広報誌などを用いて、当院の診療機能についての積極的な情報提供を推進する。 ③ web予約の拡大やFAX予約の簡便化を図り、他医療機関に対するサービスを向上させる。 <p>(2) 後方連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 病院訪問をより積極的に行い、後方支援病院の新規獲得を促進する。特に地域医療連携パスを推進するとともに、診療科ごとの優先後方支援病院（転院先）の確保強化を図る。 ② 顔の見える連携を行い、逆紹介しやすい環境を強化し、2人主治医制を推進する。 ③ 地域包括ケアシステムを推進するため、積極的に地域の会議に出席し、近隣の医師会、行政との連携を強化する。 ④ 緩和ケアパス・がん地域連携パスを活用し、地域での連携を推進する。 <p>(3) 活動内容報告・検討会 部署全体で定期的に活動内容をサマリーにまとめ、改善点を協議する。</p>
4) 収支構造の確立	
<p>「経営基盤の構築」と「持続的成長」に向けた病院経営体制を強化する。そのための病院経営分析・マネジメント機能の向上を図り、様々な手法により分析を行い「経営改善・経営戦略」を進める。また、医療経費率・人件費率の適正化を図る。</p>	<p>(1) 医療収支</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療収支目標の達成 <ul style="list-style-type: none"> a. 各診療科の患者数・収益状況などを適時把握、分析し、病院として迅速なサポートを行う。 b. 医事分析ソフト(ヒラソル)を活用した原価計算を行い、医療収支・費用対効果についての理解を進める。 c. DPCデータを活用し、疾病構造や診療内容の分析を行うとともに、DPCに対応したクリニカルパスの作成を推進する。 d. 看護職員夜間配置加算や急性期看護補助体制加算の取得に向け、適正人員の把握と重点配置を検討する。 e. 保険請求査定率と保留レセプトを低減する。 ② 医療経費の適正化 <ul style="list-style-type: none"> a. 薬品や材料の使用状況と医療収入を適時確認し、無駄の排除とともに確実な保険請求につなげる。 b. 共同購入の推進、購入価格の見直し、不動産在庫の削減、配置在庫の適正化を行う。 c. 経費率の検証を行い適正化を図る。
5) その他の取組み（特色のある取組みなど）	
<p>病院を取りまく環境変化に対応するため①開院後30年以上経過した施設設備の改修・整備、②求められる診療機能に対応した診療体制の構築、③労働生産性の向上を継続的に実施していく。その実現のためのプロジェクトを組織し対策を立案する。</p> <p>また、働き方改革を実現し、労働環境の改善をはじめ、教職員の満足度向上を図る。</p>	<p>(1) プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第二次将来構想検討委員会で課題となった、HCUの増設、増床計画、各科病床配分などの中長期的な整備計画を立案する。 ② 医療収入増加対策および法令遵守のため、施設基準の検証を行う。併せて適時調査の対応準備を実施する。 ③ 外来患者の対応プロセスおよび診療行為の実施プロセスを再検証し、電子カルテ運用マニュアルの策定を行う。併せて、医師の業務負担の軽減を実現する。 <p>(2) 災害対策・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地震、火災、豪雨、停電等の災害対策について検討する。 ② BCP（事業継続計画）の改定を行う。 ③ DMAT（災害派遣医療チーム）体制の整備を行う。 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医師事務支援業務を積極的に拡大する。 ② 院内美化を推進する。30年以上経過した建物の改修や患者スペースと教職員の環境を整備する。

4. 管理・運営	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
1) 人的資源管理	
<p>(1) 慈恵大学の事業が円滑かつ効率的に運営されるためには将来計画を含めた人材の確保が必要不可欠となる。中長期的な展望を視野に入れた計画的な採用を行い、良質な人材を確保する。また、将来の事業計画や機能変更にもなう要員確保ならびに適正人員配置を計画的に行う。あわせて、研修制度を強化し、持続的な発展を担う人材の育成を行う。</p> <p>(2) 過去の労働生産性向上活動における各部門の成果、改善手法を広く共有、自部署の活動に活かす取り組みや部署を超えた連携強化を図る取り組みを推進することで、大学全体の労働生産性向上に貢献する。</p> <p>(3) ハラスメント対策を構築し職場環境の整備を行う。</p> <p>(4) 福利厚生充実を図るために教職員の健康維持・増進、施設整備および互助会事業の充実を図り、教職員のモチベーションの向上につなげる。</p> <p>(5) 法人と既に各附属病院で取り組んでいるワーキンググループと連携しながら、「職員の健康」と「医療の質」の二つの重要なテーマを「経営」という基盤のもとでいかに成り立たせることができるかを、それぞれの職場の実状にあわせて働き方改革を推進していく。</p>	<p>(1) 中長期的な展望を視野に入れた計画的な採用を行い、良質な人材を確保する。また、外来棟、母子医療センターオープン後の適正人数を検証し、定数の見直しも行っていく。あわせて、研修制度を強化し、さらなるレベルアップを図り本学の運営・発展に貢献できる人材を育成していく。</p> <p>(2) 労働生産性向上活動においては、これまでの成功事例を広く共有できる手段を構築し、部署を超えた連携強化を図る取り組みを推進する。また改善指標を時間軸だけでなく他の指標も検討していき、大学全体の労働生産性向上に貢献する。</p> <p>(3) ハラスメント対策の強化を図るとともに、各種のハラスメント研修を実施し職場環境の整備および職場風土の改善を行う。</p> <p>(4) 教職員の健康増進を図る目的にて、産業医と連携し、産業保健機能の強化と体制の整備を行い、労働者に対する健康相談・健康管理の充実を図る。</p> <p>(5) 働き方改革の推進については、法人と各附属病院と連携を図りながら、現状調査・分析結果などの情報を共有し、有給休暇取得推進や労働時間管理の徹底を推進しつつ、職場の実状にあわせた働き方を推進していく。</p> <p>(6) 女性教員キャリア推進室（仮称）を設置し、教員（医師、研究者）のライフステージに合った支援制度（育児支援、復職支援、介護支援等）を構築し、教員のサポート体制の充実を図る。</p>
2) 財務の安定化	
<p>西新橋地区、第三病院、国領校舎など本学の主要建物の建替えが続き、例年以上に資金管理が重要となる時期を迎えている。各部署と連携し中長期資金計画を策定するとともに、目標利益の達成に向けた予算管理を強化する。</p> <p>また、物品購入経費、メンテナンス経費の削減を図り、経費抑制活動を推進する。</p>	<p>(1) 計画的な財務管理</p> <p>① 前年度決算と将来の設備投資計画を踏まえ長期資金計画の見直しを行う。</p> <p>② 前年度決算を予算と執行額の乖離を中心に点検し、次年度予算の精度を向上させる。</p> <p>(2) 経費抑制活動の推進</p> <p>前年に引き続き、高額診療機器の附属4病院価格交渉の一本化・一括購入、医療材料の附属4病院共同購入および標準化の推進、診療機器保守契約の包括契約などにより医療経費を抑制する。</p>
3) 社会的な信頼向上	
<p>(1) 法人運営を適正に行うため、監事機能の充実が求められている。監事への情報提供、および業務支援を監査室が担当し連携を強化することで監査体制の充実を図り、社会的な信頼を確保する。</p> <p>(2) 学校法人のガバナンス体制を検証し、管理運営方針や姿勢を主体的にチェックすることにより、組織の健全な成長と強化発展につなげる。</p> <p>(3) より高度な防災機能の構築に向けて、学内外との連携・防災意識の強化などを更に推進し、社会のニーズに応えられる、防災に強い組織を構築する。</p>	<p>(1) コンプライアンスの徹底</p> <p>① 監査室による監事活動支援の拡充。 （→法改正に伴う監事機能の拡大に対応するとともに、教学監査等必要な領域に活動を拡大する。）</p> <p>② 新規モニタリング等実施による効率的な内部監査の実施。</p> <p>③ 研究不正および研究費不正等の監視機能の強化。</p> <p>(2) ガバナンス関連</p> <p>寄附行為ならびに関連規程類の検証を行い、法人運営の効率化と改善を図る。</p> <p>(3) 災害対応体制整備</p> <p>引き続き、N棟ならびに外来棟に適應する災害対策・災害対策訓練・マニュアル類の整備と周知を図る。</p>

4. 管理・運営	2020年度主要事業計画
中期事業計画（2019年度～2021年度）	
4) 広報戦略	
<p>本学の事業計画、先進的医療および研究内容などをステイクホルダーにあわせ、戦略的な情報発信を展開する。社会貢献・研究成果・医療貢献に係わる本学の情報を学内外に積極的に発信することにより、ステイクホルダーからの良好な評価獲得や共感形成を行うとともに、社会的な知名度を更に高めていく。</p>	<p>(1) 本学の事業計画、先進的医療および研究内容などをステイクホルダーにあわせ、戦略的な情報発信を展開する。</p> <p>① 西新橋キャンパス再整備計画(外来棟・母子医療センター開院)プロモーションに係る戦略的広報を推進する。</p> <p>② 附属病院(分院)・大学ホームページをリニューアルサポートする。</p> <p>③ 創立140周年(学祖没後100年(2020年))に向け、慈恵ブランド再構築につながる広報の強化を図る。</p> <p>(2) 広報活動ならびに広報リスクマネジメントの強化を図るため、広報組織の編成、広報活動規程・危機管理広報規程を改訂する。</p> <p>(3) 学術リポジトリを通して、本学の研究成果を公開し、研究活動の認知度を向上する。</p> <p>(4) 教育・研究年報や英文研究年報の発行により、本学の教育・研究業績を公表する。</p> <p>(5) 本学の歴史に関する情報をインターネットや院内掲示で公開する。</p> <p>(6) 史料室所蔵資料のデジタル化を進め、オンラインによる史料室案内の作成を計画する。</p>
5) 情報管理システム	
<p>日々発生する書類および用紙保管している書類について、ペーパーレス(電子)化を行い、保存手順の簡素化を図る。あわせて関連部署と原本保存管理規程の見直しを行い、保存スペースの削減を図るとともに電子化後の書類データを一元管理し、保存性の強化とともにデータの共有化を推進する。</p> <p>また、病院情報システムの安定稼働や災害時のデータ安全対策を主眼として、バックアップシステムを構築する。具体的には外部のデータセンターにバックアップデータの送信・蓄積を行い、重篤なシステム障害や災害などにより院内保管データの参照が不能となった場合にバックアップデータをもとに業務継続が可能となる仕組みを構築する。あわせてシステム稼働状況の可視化を行い、安定稼働を実現する。</p>	<p>(1) ITの有効活用推進(ペーパーレス、電子ファイルの共有)</p> <p>① 3分院へデジタルペーパーシステム導入を行う。本院では運用範囲(電子化文書)拡大を行う。</p> <p>② 葛飾・柏へのタイムスタンプシステム導入を行い、保管書類の廃棄を推進する。</p> <p>③ 共有サーバの利用部署増加に伴いストレージ増設を行う。</p> <p>(2) 情報システム安定稼働施策(災害時のデータ安全対策等)</p> <p>① 3分院へBCPソリューション(オンラインバックアップおよび災害時診療web参照)を導入する。本院では災害医療合同訓練での運用訓練を継続する。</p> <p>② 各部門システムに稼働状況監視機能の導入を計画する。</p>
6) 施設設備	
<p>(1) 西新橋再整備計画 記念事業「本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備」を実施する。具体的には新外来棟ならびに北棟(N棟)の使用開始とローリング計画に基づく既存棟の改修工事を行う。</p> <p>(2) 大学全体の施設整備計画 各附属病院・大学・法人の将来の施設設備事業について、4病院長会議やマスタープラン懇談会および関連部署などと連携しながら計画する。</p>	<p>(1) 西新橋再整備計画 西新橋キャンパス全体を視野に入れた建築計画を策定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央棟・E棟その他の改修計画を遅滞なく進める。 ・ABC棟の利用計画、改修計画を策定する。 ・新大学本館(仮称)建築を含む建築計画を作成する。 <p>(2) マスタープラン懇談会を通じて国領キャンパスのローリング計画および新橋ABC棟の活用・新大学本館(仮称)建築を含めた将来構想を計画する。</p> <p>(3) 高木2号館の史料室の保存管理状態を調べる。</p>
7) 事業方針	
<p>(1) マスタープラン 大学の将来構想を実現するために、教育・研究・医療分野の各視点から中長期計画についてマスタープラン懇談会で計画する。また、第三病院リニューアルおよび国領校舎の建築計画にともなう基本構想および基本計画などを具体化する。</p> <p>(2) 事業計画 各機関・部署などで設定した本年度から3年間にわたる中期事業計画について、中間評価ならびにKPI(Key Performance Indicator)の達成状況などを随時確認しながら、大学全体の中期事業計画が確実に達成されるよう主管課を中心に支援していく。</p>	<p>(1) マスタープラン 国領キャンパス全体の現時点におけるローリング計画(案)を設計事務所の支援を得ながら策定する。</p> <p>(2) 事業計画 2022年度以降に作成する事業計画は、原則5年以上(現在3年で作成)を義務付けている。 本学の将来構想と事業計画ならびにBSCと整合性を取りながらどのように策定していくのか手順書(案)を作成する。</p>

Ⅲ. 中期事業計画主要指標 3年間の目標値および実績値 (初年度、第2年度、第3年度)

教育に関する目標指標	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
連携大学数	学事課	目標値	27	28	29	1-1.5)
		実績値	29			
医学科志願者数	学事課	目標値	2,100	2,100	2,100	1-1.3)
		実績値	1,963			
看護学科志願者数	学事課	目標値	500	500	500	1-2.3)
		実績値	402			
医師国家試験合格率(医学科総計)	学事課	目標値	100.0	100.0	100.0	1-1.4)
		実績値	94.6			
医師国家試験合格率(医学科新卒)	学事課	目標値	100.0	100.0	100.0	1-1.4)
		実績値	95.4			
看護師国家試験合格率(看護学科)	学事課	目標値	100.0	100.0	100.0	1-2.4)
		実績値	100.0			
保健師国家試験合格率(看護学科)	学事課	目標値	100.0	100.0	100.0	1-2.4)
		実績値	100.0			
慈恵看護専門学校志願者数	看護専門学校	目標値	280名以上	280名以上	280名以上	1-5.3)
		実績値	214名			
第三看護専門学校志願者数	看護専門学校	目標値	150名以上	150名以上	150名以上	1-5.3)
		実績値	134名			
柏看護専門学校志願者数	看護専門学校	目標値	180名以上	180名以上	180名以上	1-5.3)
		実績値	166名			
看護師国家試験合格率(慈恵看護専門学校)	看護専門学校	目標値	100.0	100.0	100.0	1-5.3)
		実績値	98.9			
看護師国家試験合格率(第三看護専門学校)	看護専門学校	目標値	100.0	100.0	100.0	1-5.3)
		実績値	100.0			
看護師国家試験合格率(柏看護専門学校)	看護専門学校	目標値	100.0	100.0	100.0	1-5.3)
		実績値	100.0			
附属4病院への就職者率(慈恵看護専門学校)	看護専門学校	目標値	90.0	90.0	90.0	1-5.3)
		実績値	94.7			
附属4病院への就職者率(第三看護専門学校)	看護専門学校	目標値	90.0	90.0	90.0	1-5.3)
		実績値	88.9			
附属4病院への就職者率(柏看護専門学校)	看護専門学校	目標値	90.0	90.0	90.0	1-5.3)
		実績値	97.2			
大学院生数	学事課	目標値	153	153	153	1.3)
		実績値	161			
学位授与数	学事課	目標値	60	60	60	1.4)
		実績値	82			
レジデント応募者数	教員・医師人事室	目標値	160	180	180	1.3)
		実績値	154			
レジデント採用数	教員・医師人事室	目標値	150	150	150	1.3)
		実績値	146			
医師臨床研修マッチングにおける定員充足率	教員・医師人事室	目標値	70.0	80.0	90.0	1.3)
		実績値	85.0			
e-ラーニング実施数	教育センター	目標値	420	425	425	1.2)
		実績値	482			

教育に関する目標指標	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
シミュレーション教育施設利用数	教育センター	目標値	895	895	900	1.2)
		実績値	854			
公開講座開催数（一般市民および地域医療者を対象）	教育センター	目標値	25	25	25	1.5)
		実績値	25			
オープンキャンパス、見学会等参加者総数（慈恵看護専門学校）	看護専門学校	目標値	1,000名以上	1,000名以上	1,000名以上	1-5.3)
		実績値	910名			
オープンキャンパス、見学会等参加者総数（第三看護専門学校）	看護専門学校	目標値	500名以上	500名以上	500名以上	1-5.3)
		実績値	606名			
オープンキャンパス、見学会等参加者総数（柏看護専門学校）	看護専門学校	目標値	850名以上	850名以上	850名以上	1-5.3)
		実績値	1,134名			
研究に関する目標指標	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
文部科学省科学研究費補助金採択件数	研究推進課	目標値	170	175	180	2.3)
		実績値	184			
文部科学省科学研究費補助金採択率	研究推進課	目標値	20.0	23.0	25.0	2.3)
		実績値	27.0			
論文発表数	学術情報センター	目標値	1,447稿	1,447稿	1,447稿	2.4)
		実績値	1,501稿			
日本医療研究開発機構研究費（AMED）代表採択件数	研究推進課	目標値	9	10	11	2.1)
		実績値	10			
産学官連携による受託研究・共同研究数	研究推進課	目標値	50	55	60	2.5)
		実績値	64			
大型プロジェクト研究事業件数	研究推進課	目標値	1	1	2	2.2)
		実績値	0			
医療に関する目標指標（附属病院（本院））	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
紹介率（保険法）	附属病院（本院）	目標値	72.0	73.0	75.0	3-1.3)
		実績値	74.2			
逆紹介率（保険法）	附属病院（本院）	目標値	52.0	53.0	55.0	3-1.3)
		実績値	51.3			
手術件数	附属病院（本院）	目標値	14,300	14,500	14,700	3-1.1)
		実績値	14,847			
救急搬送数	附属病院（本院）	目標値	7,300	7,350	7,400	3-1.1)
		実績値	6,411			
医療に関する目標指標（葛飾医療センター）	主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
紹介率（保険法）	葛飾医療センター	目標値	70.0	71.0	72.0	3-2.3)
		実績値	70.0			
逆紹介率（保険法）	葛飾医療センター	目標値	30.0	31.0	32.0	3-2.3)
		実績値	30.5			
手術件数	葛飾医療センター	目標値	4,900	4,950	5,000	3-2.1)
		実績値	5,475			
救急搬送数	葛飾医療センター	目標値	3,500	3,550	3,600	3-2.1)
		実績値	3,199			

医療に関する目標指標（第三病院）		主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
紹介率（保険法）	第三病院	目標値		65.0	65.0	65.0	3-3.3)
		実績値		67.9			
逆紹介率（保険法）	第三病院	目標値		40.0	40.0	40.0	3-3.3)
		実績値		46.5			
手術件数	第三病院	目標値		6,000	6,000	6,000	3-3.1)
		実績値		5,804			
救急搬送数	第三病院	目標値		3,600	3,600	3,800	3-3.1)
		実績値		3,900			
医療に関する目標指標（柏病院）		主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
紹介率（保険法）	柏病院	目標値		76.0	76.5	77.0	3-4.3)
		実績値		84.1			
逆紹介率（保険法）	柏病院	目標値		58.5	59.0	59.5	3-4.3)
		実績値		66.4			
手術件数	柏病院	目標値		8,000	8,000	8,000	3-4.1)
		実績値		8,646			
救急搬送数	柏病院	目標値		4,900	4,900	4,900	3-4.1)
		実績値		5,151			
3次救急搬送件数	柏病院	目標値		1,000	1,050	1,100	3-4.1)
		実績値		1,031			
管理・運営に関する目標指標		主体部署		初年度	第2年度	第3年度	関連事業計画No.
教職員アンケートにおける満足度	人事課	目標値		50.0	52.0	55.0	4.1)
		実績値		45.3			
教員・医師の退職者数	教員・医師人事室	目標値		130	130	130	4.1)
		実績値		136			
看護要員確保率	ナース就職支援室 (人事課)	目標値		100.0	100.0	100.0	4.1)
		実績値		100.0			
看護師離職率（附属4病院）	人事課	目標値		12.5	11.5	10.5	4.1)
		実績値		13.7			
経常費補助金の獲得額	研究推進課	目標値		34.7億	34.7億	34.7億	4.2)
		実績値		33.1億			
収支差額予算達成率	経理課	目標値		100.0	100.0	100.0	4.2)
		実績値		158.8			